# ふさのくに観光道路委託 埋蔵文化財調査報告書

一東庄町今郡カチ内遺跡・羽計清水西遺跡橘 古 墳 群 ・ 松 ヶ 根 東 ノ 内 遺 跡 ―

平成25年3月

千葉県黒土整備部公益財団法人千葉県教育振興財団

# ふさのくに観光道路委託 埋蔵文化財調査報告書

- 東庄町今郡カチ内遺跡・羽計清水西遺跡 たちばなこふんぐん まつ が ね ひがしの うち 橘 古 墳 群 ・ 松 ケ 根 東 ノ 内 遺 跡 ―







1・2:1号墳 高杯(盤) 3:1号墳 耳環 4:10号住居跡 鉈尾

# 序 文

公益団財法人千葉県教育振興財団(文化財センター)は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第700集として、ふさの くに観光道路改良事業に伴って実施した東庄町今郡カチ内遺跡橘古 墳群・松ヶ根東ノ内遺跡・羽計清水西遺跡の発掘調査報告書を刊行 する運びとなりました。

この調査では、古墳や奈良・平安時代の集落及び蹈鞴製鉄跡など、 この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。この報 告書が、学術資料として、また文化財の保護・普及のための資料と して広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際しご指導、ご協力いただきました地元の方々 をはじめとする関係者の皆様や関係機関、発掘調査から整理までご 苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成25年3月

公益財団法人千葉県教育振興財団 理 事 長 渡 邉 清 秋

## 凡例

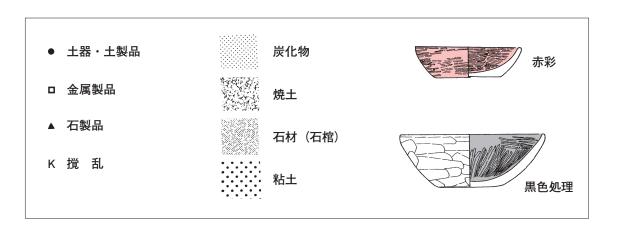
- 1 本書は、千葉県県土整備部によるふさのくに観光道路委託の道路改良事業に伴う埋蔵文化財の発掘調 査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、東庄町今郡546-4ほかに所在する今郡カチ内遺跡・橘古墳群・松ヶ根東ノ内 遺跡・羽計清水西遺跡(遺跡コード 349-002・349-008・349-009・349-006)である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県教育庁教育振興部文化財課の指導のもと、千葉県県土 整備部の委託を受け、公益財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本文の執筆・編集は、調査研究部長関口達彦、調査2課長橋本勝雄の指導のもと、主任上席文化財主 事石倉亮治が実施した。
- 6 発掘調査から報告書の作成に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、千葉県香取土木事務所、 東庄町教育委員会のご協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、次のとおりである。

第1回 東庄町役場発行 1/2,500東庄町地形図第2図 国土地理院発行 1/25,000地形図(小南)

8 本書で使用した航空写真は、次のとおりである。

図版1 今郡カチ内遺跡他航空写真 1/10,000 京葉測量株式会社撮影 (平成23年1月撮影)

- 9 本書で使用した図面の方位はすべて座標北であり、測量値は日本測地系に基づく。
- 10 遺物の色調は、農林水産省(助日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』(日本色研事業格式会社発行(1988)) 掲載の用語に基づく。



# 目 次

第1章	はじめに		1				
第1頁	節 調査の経緯と経過	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	1				
]	1 調査の経緯		1				
6	2 調査の経過		1				
第2頁	節 遺跡の位置と歴史的環境	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	3				
第2章 遺跡の調査と概要							
第1頁	節 調査の方法		7				
第2頁	節 遺跡の概要	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	7				
第3章 今郡カチ内遺跡							
第4章	羽計清水西遺跡	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	113				
第5章	橘古墳群・松ヶ根東ノ内遺跡	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	115				
第6章	まとめ	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •					
第1節 今郡カチ内遺跡の年代							
第2頁			119				
報告書持	少録	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	卷末				
	•						
	表目	]次					
第1表	土坑一覧表88	第4表	今郡カチ内遺跡出土銭貨計測表 111				
第2表	今郡カチ内遺跡出土土器諸元表 101	第5表	今郡カチ内遺跡出土石製品・軽石				
第3表	今郡カチ内遺跡出土金属製品		土製品計測表 112				
	鉄滓計測表 111	第6表	今郡カチ内遺跡出土土器の編年 118				
	<del>  14</del>   <del>  1</del>   1   1   1   1   1   1   1   1   1	口炉					
挿図目次							
第1図	周辺遺跡 4	第10図	1号(SI001)・2号(SI002)住居跡 …15				
第2図	遺跡位置図5	第11図	3 号住居跡 (SI003)・出土遺物 (1) …16				
第3図	調査グリッドの呼称 7	第12図	3 号住居跡出土遺物 (2)17				
第4図	基本層序 8	第13図	3号住居跡出土遺物 (3)18				
第5図	今郡カチ内遺跡上層・下層確認調査 9	第14図	4号(SI004)・5号(SI005)住居跡 …19				
第6図	今郡カチ内遺跡遺構位置図10	第15図	6 号住居跡 (SI006)・出土遺物21				
第7図	1号(SM001)·2号墳(SM002) ······11	第16図	7 号住居跡 (SI007)・出土遺物 (1) …22				
第8図	1 号墳埋葬施設12	第17図	7号住居跡・出土遺物(2)24				
第9図	1号・2号墳出土遺物13	第18図	8 号住居跡(SI008)······24				

第19図	8号住居跡出土遺物25	第55図	36号住居跡出土遺物 (2)70
第20図	9 号住居跡 (SI009)・出土遺物26	第56図	37号住居跡 (SI038)70
第21図	10号住居跡(SI010)27	第57図	37号住居跡出土遺物71
第22図	10号住居跡出土遺物28	第58図	38号住居跡 (SI039) · 出土遺物 (1) …72
第23図	11号住居跡 (SI011) · 出土遺物 · · · · · · 30	第59図	38号住居跡出土遺物(2)73
第24図	12号住居跡 (SI012) · 出土遺物 · · · · · · 31	第60図	39号住居跡(SI040) ······75
第25図	13号(SI013)・14号(SI014)住居跡 …33	第61図	39号住居跡出土遺物 (1)76
第26図	13号・14号住居跡出土遺物34	第62図	39号住居跡出土遺物(2)77
第27図	15号住居跡 (SI015) · 出土遺物 · · · · · · 34	第63図	40号住居跡 (SI041) · 出土遺物 · · · · · · 79
第28図	16号住居跡 (SI016)・出土遺物36	第64図	竪穴遺構(SX001)81
第29図	17号住居跡 (SI017)・出土遺物37	第65図	竪穴遺構出土遺物82
第30図	18号住居跡(SI018)· 出土遺物38	第66図	方形周溝状遺構 (SM003) · 土坑墓
第31図	19号住居跡(SI019)(1)40		(SK025) · 方形土坑状遺構 (SX002) …83
第32図	19号住居跡 (2)・出土遺物 (1)41	第67図	1号 (SK008)·2号 (SK009)·3号
第33図	19号住居跡出土遺物(2)42		(SK011) · 4 号 (SK014) · 5 号 (SK015)
第34図	19号住居跡出土遺物 (3)43		6号 (SK016)・7号 (SK017)・8号
第35図	20号住居跡 (SI020)·出土遺物47		(SK018) · 9号 (SK019) 土坑 ·······85
第36図	21号住居跡 (SI021) · 出土遺物 · · · · · · 48	第68図	10号(SK029)·11号(SK030)·12号
第37図	22号住居跡 (SI022) · 出土遺物 · · · · · · 49		(SK023)·13号 (SK024)·14号 (SK027)
第38図	23号住居跡 (SI023) · 出土遺物 (1) …50		15号(SK028)土坑······86
第39図	23号住居跡出土遺物(2)51	第69図	16号土坑(SK026)・出土遺物86
第40図	24号住居跡 (SI024)・出土遺物52	第70図	17号(SK003)・18号(SK005)・19号
第41図	25号住居跡 (SI025)・出土遺物 (1) …54		(SK007)·20号 (SK006)·21号 (SK002)
第42図	25号住居跡出土遺物(2)55		土坑・17号・20号土坑出土遺物87
第43図	26号住居跡 (SI026)・出土遺物56	第71図	1 号溝状遺構 (SD001)・出土遺物87
第44図	27号住居跡 (SI027)・出土遺物58	第72図	22号(SK001)·23号(SH002)
第45図	28号住居跡 (SI028)・出土遺物59		24号(SK004)土坑······89
第46図	29号(SI029)住居跡・出土遺物61	第73図	2号 (SD002)·3号 (SD003)·4号
第47図	30号(SI030)住居跡・出土遺物61		(SD004) 溝状遺構 ·····90
第48図	31号住居跡 (SI031) · 出土遺物 · · · · · · 63	第74図	2号・4号溝状遺構出土遺物90
第49図	32号住居跡(SI032) ·····63	第75図	5号(SD005)・6号(SD006)溝状遺構
第50図	33号(SI033)·34号(SI034)住居跡		91
	33号住居跡出土遺物64	第76図	5 号溝状遺構出土遺物(1)91
第51図	34号住居跡出土遺物 (1)65	第77図	5 号溝状遺構出土遺物 (2)92
第52図	34号住居跡出土遺物(2)66	第78図	6 号溝状遺構出土遺物92
第53図	35号住居跡 (SI035)67	第79図	7 号溝状遺構 (SD007)・出土遺物94
第54図	36号住居跡(SI037) · 出土遺物(1) …68	第80図	8 号溝状遺構(SD008)・出土遺物(1)

	94	第85図	14号溝状遺構 (SD014) · 出土遺物99
第81図	8号溝状遺構出土遺物(2)95	第86図	遺構外出土遺物 100
第82図	9号(SD009)·10号(SD010)·11号	第87図	羽計清水西遺跡 土坑墓・古墳外周溝
	(SD011)·12号 (SD012)·13号 (SD013)		溝状遺構····· 114
	溝状遺構・11号溝状遺構出土遺物(1)	第88図	橘古墳群上層・下層確認調査 115
	96	第89図	松ヶ根東ノ内遺跡上層・下層確認調査
第83図	11号溝状遺構出土遺物 (2)97		116
第84図	12号溝状遺構出土遺物99		
	図版	目次	
図版(巻	巻頭) 今郡カチ内遺跡出土	図版17	11号・12号・13号・14号溝状遺構
	暗文土器・耳環・鉈尾巻頭		竪穴遺構・方形土坑状遺構
図版 1	遺跡周辺航空写真	図版18	羽計清水西遺跡 溝状遺構・古墳
図版 2	今郡カチ内遺跡(古墳)全景		外周溝・土坑墓
	今郡カチ内遺跡(集落)全景	図版19	橘古墳群・松ヶ根東ノ内遺跡
図版3	今郡カチ内遺跡基本層序・1号墳	図版20	1号墳・3号住居跡出土遺物(土器)
図版4	2号墳・方形周溝状遺構・1号	図版21	3号・7号・8号住居跡出土遺物
	2号・3号住居跡		(土器)
図版5	3号・4号・5号・6号・7号住	図版22	8号・9号・10号・11号住居跡出土
	居跡		遺物(土器)
図版 6	8 号・9 号・10号・11号住居跡	図版23	11号・12号・13-14号・15号・16号
図版7	12号・13号・14号・15号・16号		17号・18号住居跡出土遺物(土器)
	17号住居跡	図版24	18号・19号住居跡出土遺物(土器)
図版8	17号・18号・19号住居跡	図版25	19号・20号・21号・23号住居跡出土
図版 9	20号・21号・22号・23号住居跡		遺物(土器)
図版10	24号・25号・26号・27号住居跡	図版26	20号・21号・23号・25号住居跡出土
図版11	27号・28号・29号・30号住居跡		遺物(土器)
図版12	31号・32号・33号・34号・35号	図版27	25号・26号・27号・28号・29号
	36号住居跡		30号住居跡出土遺物(土器)
図版13	37号・38号・39号・40号住居跡	図版28	24号・31号・36号・37号住居跡出土
図版14	土坑墓・10号・11号・12号・13号		遺物(土器)
	14号・15号土坑	図版29	38号・39号住居跡出土遺物(土器)
図版15	16号・17号・18号・20号・21号	図版30	39号・40号・竪穴遺構出土遺物
	22号土坑		(土器)
図版16	1号・4号・5号・6号・7号	図版31	竪穴遺構・16号・17号土坑・4号
	8号・9号・10号溝状遺構		5号・6号・7号・8号溝状遺構

(土器)

- 図版32 8号・11号・14号溝状遺構・トレンチ 18・23出土遺物(土器)
- 図版33 1号墳・3号・6号・7号・10号 12号・15号住居跡出土遺物 (金属製品)
- 図版34 17号・18号・19号・21号・23号・25号 26号・28号・29号・31号・33号-34号 36号住居跡出土遺物 (金属製品)
- 図版35 20号土坑 · 7号 · 8号 · 14号溝状遺構 特殊遺構・4C・5Cグリッド・トレンチ 図版40 製鉄関連出土遺物(4)軽石状遺物 13・15・17・22出土遺物 (金属製品)

- 図版36 1号墳·3号·21号·33号-34号·38号 住居跡・遺構外・1号・5号・11号 12号溝状遺構出土遺物(石製品)
- 図版37 製鉄関連出土遺物(1)鉄滓 (挿図掲載分及び写真のみ)
- 図版38 製鉄関連出土遺物(2)鉄滓(写真のみ) 軽石状遺物 (挿図掲載分) 左上:鉄滓, その他:軽石状遺物
- 図版39 製鉄関連出土遺物(3)軽石状遺物 (挿図掲載分及び写真のみ)
- 貝 (写真のみ)

## 第1章 はじめに

### 第1節 調査の経緯と経過

### 1 調査の経緯

今郡カチ内遺跡・橘古墳群・松ヶ根東ノ内遺跡・羽計清水西遺跡の調査は、千葉県印旛土木事務所によるふさのくに観光道路(下総橘東城線)改良工事に伴う埋蔵文化財調査として現地の調査は平成9年度・12年度・20年度・21年度・22年度及び23年度に実施された。

ふさのくに観光道路は、香取郡東庄町を横断する主要幹線道路で、香取土木事務所は道路の改良工事を 行うにあたり該当する工事区間内に所在する埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて千葉県教育委員会と協 議を行い現状保存が困難な包蔵地について記録保存の措置を講じることとなり、公益財団法人千葉県教育 振興財団(旧財団法人千葉県文化財センター)が発掘調査を実施することとなった。

### 2 調査の経過

ふさのくに観光道路(下総橘東城線)に関わる埋蔵文化財の発掘調査は、平成9年度から開始され12年度・20年度・21年度・22年度及び23年度の6か年にわたり実施され、今回報告する今郡カチ内遺跡他の整理作業は平成23年8月1日~3月23日まで実施された。発掘調査及び整理作業の期間及び組織と担当は以下のとおりである。

### (1) 羽計清水西遺跡

平成9年度

調査期間:平成9年4月1日~平成9年5月30日

組 織:調査部長 西山太郎 東部調査事務所長 石田廣美 担当 主任技師 荒木清一

整理期間:平成9年9月1日~平成9年12月26日

組 織:調査部長 沼沢 豊 東部調査事務所長 折原 繁 担当 上席研究員 遠藤治雄

作業内容:水洗・注記

平成12年度

調査期間:平成12年9月1日~平成12年9月29日

組 織:調査部長 沼沢 豊 東部調査事務所長 折原 繁 担当 上席研究員 遠藤治雄

整理期間:平成12年10月1日~平成12年11月30日

組 織:調査部長 沼沢 豊 東部調査事務所長 折原 繁 担当 上席研究員 遠藤治雄

作業内容:記録整理~報告書刊行

平成23年度

調査期間:平成24年2月10日~平成24年3月1日

組 織:調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄 担当 主席研究員 石倉亮治

整理期間:平成24年3月2日~平成24年3月23日

平成24年度

整理期間:平成24年9月1日~平成24年10月31日

組 織:調査研究部長 関口達彦 調査2課長 橋本勝雄 担当 主任上席文化財主事 石倉亮治

作業内容:記録整理~報告書刊行

(2) 橘古墳群

平成20年度

調査期間:平成21年2月2日~平成21年2月13日

組 織:調査研究部長 大原正義 北部調査事務所長 豊田佳伸 担当 上席研究員 鈴木弘幸 平成24年度

整理期間:平成24年9月1日~平成24年10月31日

組 織:調査研究部長 関口達彦 調査2課長 橋本勝雄 担当 主任上席文化財主事 石倉亮治

作業内容:記録整理~報告書刊行

(3) 松ヶ根東ノ内遺跡

平成21年度

調査期間:平成21年9月1日~平成21年9月24日

組 織:調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄 担当 研究員 黒沢 崇

平成24年度

整理期間:平成24年9月1日~平成24年10月31日

組 織:調査研究部長 関口達彦 調査2課長 橋本勝雄 担当 主任上席文化財主事 石倉亮治

作業内容:記録整理~報告書刊行

(4) 今郡カチ内遺跡

平成21年度

調査期間:平成21年9月25日~平成21年11月30日

組 織:調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄 担当 研究員 黒沢 崇

平成22年度

調査期間:平成22年10月1日~平成22年12月27日

組 織:調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄 担当 主席研究員 石倉亮治

平成23年度

調査期間:平成24年2月10日~平成24年3月1日

組 織:調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄 担当 主席研究員 石倉亮治

整理期間:平成23年8月1日~平成24年3月23日

組 織:調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所長 野口行雄 担当 主席研究員 石倉亮治

作業内容:水洗・注記・復元

平成24年度

整理期間:平成24年9月1日~平成24年10月31日

組 織:調査研究部長 関口達彦 調査2課長 橋本勝雄 担当 主任上席文化財主事 石倉亮治

作業内容:記録整理~報告書刊行

### 第2節 遺跡の位置と歴史的環境

今郡カチ内遺跡(1)・羽計清水西遺跡(2)・橘古墳群(3)・松ヶ根東ノ内遺跡(4)のある香取郡東庄町は、房総半島北東部、下総台地の東端に位置する。この地域は利根川に沿った低湿地とその南側の急峻に高まりを見せる段丘が特徴で、これらの遺跡は利根川左岸の標高52m前後の段丘上に所在する。

ちなみに段丘を下った利根川沿いの平野部、JR下総橘駅付近には石出の地名が残っており、このあたりが古代海上郡の石田郷とも考えられている。

周辺には縄文時代以降数多くの遺跡が所在するが、本節では今回調査の今郡カチ内遺跡他と同時代の主な遺跡について触れることとしたい。東庄町今郡周辺には利根川水系に属し、昭和40年代に羽計団地造成時に調査された羽計古墳群の婆里古墳(5)・扶喰古墳(6)があり、特に婆里古墳はくびれ部の箱式石棺を埋葬施設とする帆立貝式の前方後円墳である。羽計清水西遺跡は(助千葉県文化財センターにより平成9年度及び平成12年度に調査されており、二重周溝を持つ複数の円墳の存在が報告されている。羽計清水西遺跡の東には利根川を望む段丘の端に羽清水遺跡(7)の集落跡と石出古墳群(8)が所在する。今郡地区の西の端、東庄町笹川方面に広がる低湿地に面する段丘上には今郡カチ内遺跡と同様に鉄滓を出土した谷津長新田遺跡(9)が所在する。今郡地区の南にはやはり利根川水系に属し、当文化財センターにより昭和56年に調査された同時代の集落跡として今郡カチ内遺跡(10)の他、今郡フヂキ遺跡(11)、今泉禾生南遺跡(12)、桁沼川水系に属する今郡東ノ台遺跡(13)が所在する。今郡地区と低湿地を挟んだ南西の段丘上にある青馬地区には、桁沼川水系に属する青馬広畑遺跡(14)、昭和57年に(財)千葉県文化財センターより調査された佐原川水系に属する青馬前畑遺跡(15)小座ふちき遺跡(16)、椿海水系に属する青馬新西塚遺跡(17)の同時期の集落跡が所在する。

青馬地区の北西の低湿地に面した段丘の端には当センターにより昭和56年に調査された桁沼川水系に属する高部宮ノ前遺跡(18)の集落跡が所在する。高部宮ノ前遺跡では鍛冶跡も確認されており、今郡カチ内遺跡と性格が類似する。

青馬地区の南には椿海水系に属する栗野かち内遺跡 (19), 栗野駒崎遺跡 (20) の集落が所在する。栗野かち内遺跡は今郡かち内遺跡と同じ字名を持ち, 鉄滓を出土していることからも鍛冶関連の遺跡であることが窺われる。

東庄工業団地周辺には、佐原川素刑に属する宮本刑部遺跡(21)、椿海水系に属する小南三軒家遺跡(22)、 小南下宿遺跡(23)といった集落跡や西塚南古墳群(24)が所在する。なかでも宮本刑部遺跡と小南三軒 家遺跡では鉄滓を出土していることからやはり鍛冶関連の遺跡であることが窺われる。

東庄町の南東に隣接する銚子市では、豊里台団地造成に伴い調査された森戸川水系に属する牛込遺跡 (25) において製鉄遺構やそれに伴う鞴が検出されている。利根川に面した段丘の端には佐原川水系に属する後田々遺跡 (26) や森戸川水系に属する新切遺跡 (27) の集落跡が所在する。また、利根川下流右岸の段丘上には忍川水系の同時代の集落跡としては、小長町遺跡 (28) が所在する。この段丘の西端の海上町に接して、新川水系に属する松々谷浅間台遺跡 (29)、岩井儀明遺跡 (30)、松々谷本郷遺跡 (31) の集落跡が所在する。

今郡カチ内遺跡周辺の旧香取海と称された地域の一部を成すこれらの地域は、古風時代から奈良・平安時時代にかけて狭長で複雑な段丘上にさまざまな水系に属する古代集落が出現し、特に鍛冶工房の痕跡を示す資料を出土する遺跡の多いことが一つの特徴となっている。





第2図 遺跡位置図

註1) 本文中の()内番号は第1図周辺遺跡分布図番号と同じである。

### 参考文献

『羽計古墳群』 1972 東庄町教育委員会

『千葉県文化財センター年報No.7』 1981 (財)千葉県文化財センター

『千葉県文化財センター年報No.8』 1982 (財)千葉県文化財センター

『東庄町史(上巻)』1982 東庄町町史編纂委員会

『今郡東ノ台遺跡 宮本刑部遺跡』1982 東庄町教育委員会

『東総用水 高部宮ノ前遺跡・今郡カチ内遺跡・小座ふちき遺跡・青馬前畑遺跡』1984 財団法人 千葉 県文化財センター

『羽計清水西遺跡』2001 財団法人千葉県文化財センター

# 第2章 遺跡の調査と概要

### 第1節 調査の方法

今郡カチ内遺跡・羽計清水西遺跡・橘古墳群・松ヶ根東ノ内遺跡の 4遺跡は、路線の埋蔵文化財調査のため調査区が狭長となる。したがって、今回対象となった調査区全域を網羅する方眼グリッドの最大単位は20m×20mとし、その中をさらに100等分した2m×2mの小グリッドを最小単位の調査グリッドとして遺構の調査及び遺物取上げの際の基準とした。基準杭は日本測地系の基準点測量により設置し、おもな基準杭の測定値は次のとおりである。

30		33					
40			44				
50				55			
60					66		
70						77	
80							88
90							

10 11

20

第3図 調査グリッドの呼称

00 01 02 03 04 05 06 07 08 09

今郡カチ内遺跡の調査は、平成21年9月25日から11月30日までと、 平成22年10月1日から12月27日まで、平成24年2月10日から3月1日

までの3期間について行われた。平成21年度分の調査対象面積は6,070㎡,上層の確認調査は幅2のトレンチで1,318㎡,下層の確認調査は2m×2mのグリッドにより120㎡を行い,下層では遺物が検出されなかったため940㎡分の上層本調査のみ実施した平成22年度分は前年度の継続調査のため3,260㎡の上層本調査のみ実施した。平成23年度分は前年度調査に追加された拡幅部分について162㎡の上層本調査のみ実施された。羽計清水西遺跡は過去に平成9年度・平成12年度に調査された経緯があり、今回は隣接地の50㎡のみについて上層本調査が実施された。

橘古墳群の調査は、平成21年2月2日から2月13日まで実施され、調査対象面積は831㎡、上層の確認調査は幅2mのトレンチで200㎡、下層の確認調査は $2m \times 2m$ のグリッドにより16㎡を行い、いずれも遺構・遺物は検出されなかったため確認調査で終了した。

松ヶ根東ノ内遺跡の調査は、平成21年9月1日から9月24日まで実施され、調査対象面積は585㎡、上層の確認調査は幅2mのトレンチで146㎡、下層の確認調査は $2m \times 2m$ のグリッドにより12mを行い、いずれも遺構・遺物は検出されなかったため確認調査で終了した。

### 第2節 遺跡の概要

今回調査された今郡カチ内遺跡と羽計清水西遺跡は、町道を境に北側に羽計清水西遺跡、南側に今郡カチ内遺跡となっている。今郡カチ内遺跡は平成21年度調査で二重周溝をもつ古墳2基が検出され、そのうち1基からは埋葬施設の一部が検出された。二重周溝をもつ古墳2基は今郡カチ内遺跡の北端に位置しており、同様に二重周溝を持つ羽計清水西遺跡の古墳群とは一連のものと考えられる。さらに羽計清水西遺跡は昭和46年に調査された台地北端に位置する羽計古墳群の婆里古墳及び扶喰古墳とも至近距離にある。

また、平成22年度および平成23年度の調査では奈良・平安時代の住居跡40軒をはじめ多数の溝状遺構や土坑が検出され、畿内系暗文土器や蹈鞴製鉄関連遺構の検出が特徴となっている。

橘古墳群及び松ヶ根東ノ内遺跡は、調査区の幅が狭く、確認調査を実施ししたが遺構・遺物ともに検出されなかった。

# 第3章 今郡カチ内遺跡

今郡カチ内遺跡の調査は上層及び下層の確認調査の結果、下層については遺物の検出が無く、上層についてのみ本調査を実施した。第4図は今郡カチ内遺跡の下層の基本層序である。

現表土 (耕作土) は1 mほどの堆積で、Ⅲ層は既に削平 されており以下は次のとおりである。

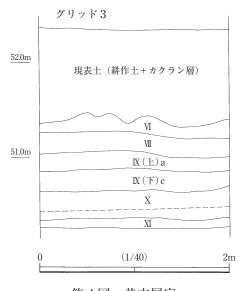
Ⅵ層は白色パミスを多量に含むAT層。

Ⅲ層は褐色褐色土層で赤色及び黒色のスコリアを含み、 ATの拡散も見られる。

Ka層は暗褐色土層で赤色及び黒色のスコリアを含む。 Kc層は暗褐色土層でKa層に比べて暗く,赤色及び黒色のスコリアを含む。

X層は茶褐色土層で赤色及び黒色のスコリアを含む。

今郡カチ内遺跡では、調査の結果検出された遺構の主



第4図 基本層序

体は古墳と奈良・平安時代に該当する竪穴住居跡である。なお、各遺構の概要のうち古墳・竪穴住居跡・ 溝状遺構・土坑墓及び土坑については、( ) 内にそれぞれの遺構の調査時の遺構番号をそれぞれ付記した。

### 1 古墳

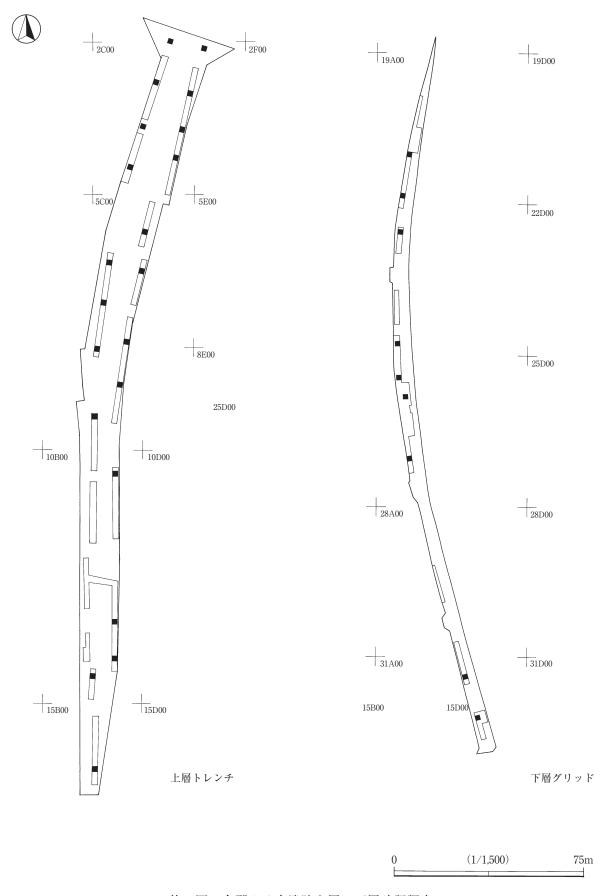
1号墳 (SM001) (第7~9図, 巻頭図版, 図版3·20·33·36·37, 第2·5表)

本遺跡の北端2D~3Dグリッド付近に位置し、二重の周溝をもつ古墳である。墳丘は既に削平されており東半分を民有地により未調査であるが、円墳である可能性が高い。内周溝と外周溝の間隔は3.0m~3.2mあり、外周径は32m、内周径は24m、外周溝の幅は2.8m~3.0m、深さ0.5m~0.6mで、内周溝の幅は0.8m~1.3m、深さ0.3mである。内周溝は幅・深さともに外周溝よりも規模は小さい。

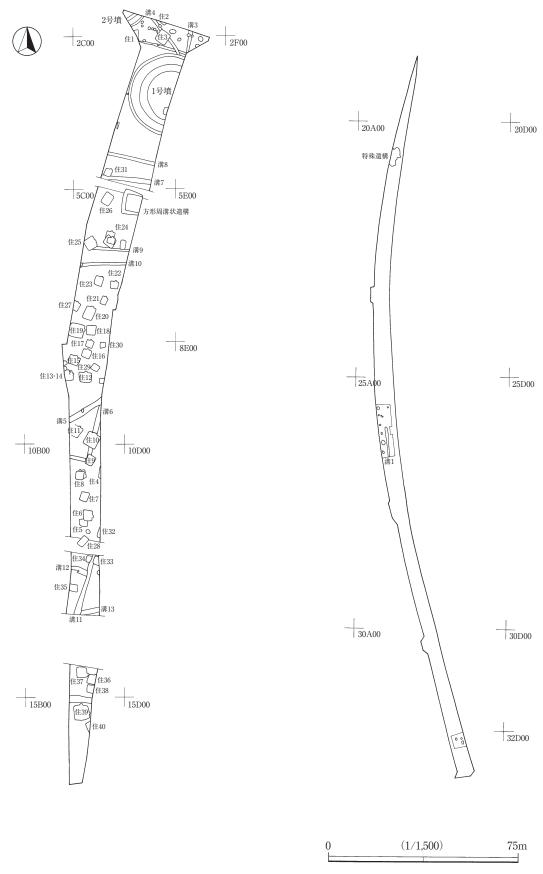
本古墳の内周溝の内側には内周溝に沿って埋葬施設が検出された。規模は短辺2.5m, 長辺は1.5mほどが検出された。埋葬施設は深さ0.7mの長方形の土坑の中央をさらに0.2mほどの深さで掘り込み, 短辺1.9 m, 長辺は0.9mほどが現存していた。覆土には多数の石材片が散乱していたことから板状の石材を組み合わせた石棺であったと推定される。

石棺内の覆土及び堀方内の土層は第8図のとおりであった。

出土遺物は多くは周溝内からの検出で、埋葬施設の調査が一部であったことからの出土遺物は限定的である。第9図1は平底の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリである。2は丸底の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデである。3は平底の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデである。4は丸底の土師器杯で、体部内面ミガキ・外面ヘラケズリ、外面口縁部付近ヨコナデである。5は須恵器蓋で、偏平な宝珠をもつ。調整は蓋内外面ロクロナデ、宝珠付近は回転ヘラケズリである。

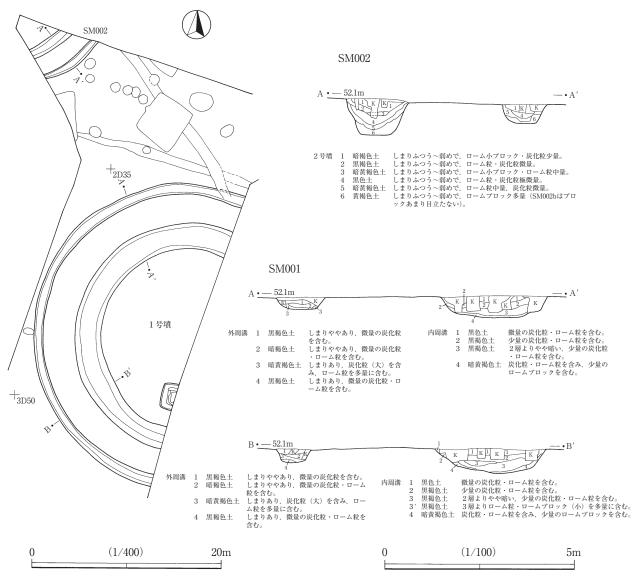


第5図 今郡カチ内遺跡上層・下層確認調査



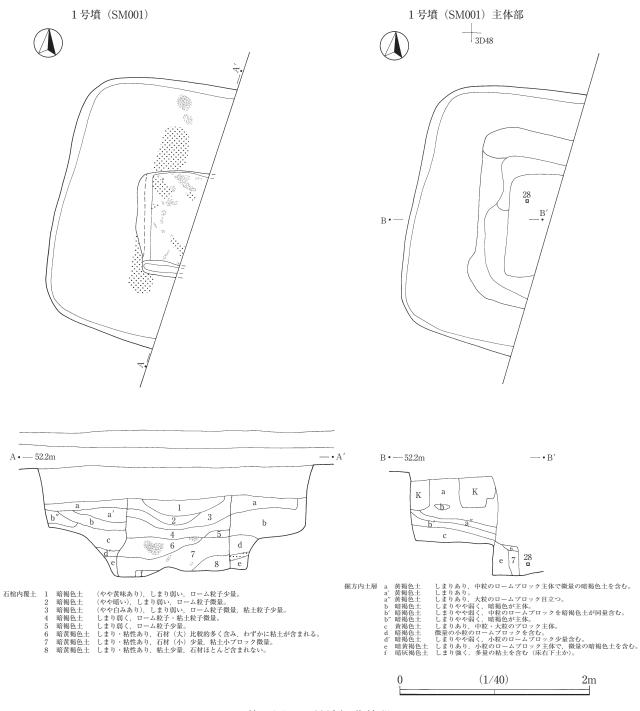
第6図 今郡カチ内遺跡遺構位置図

### 1号・2号墳 (SM001・002)



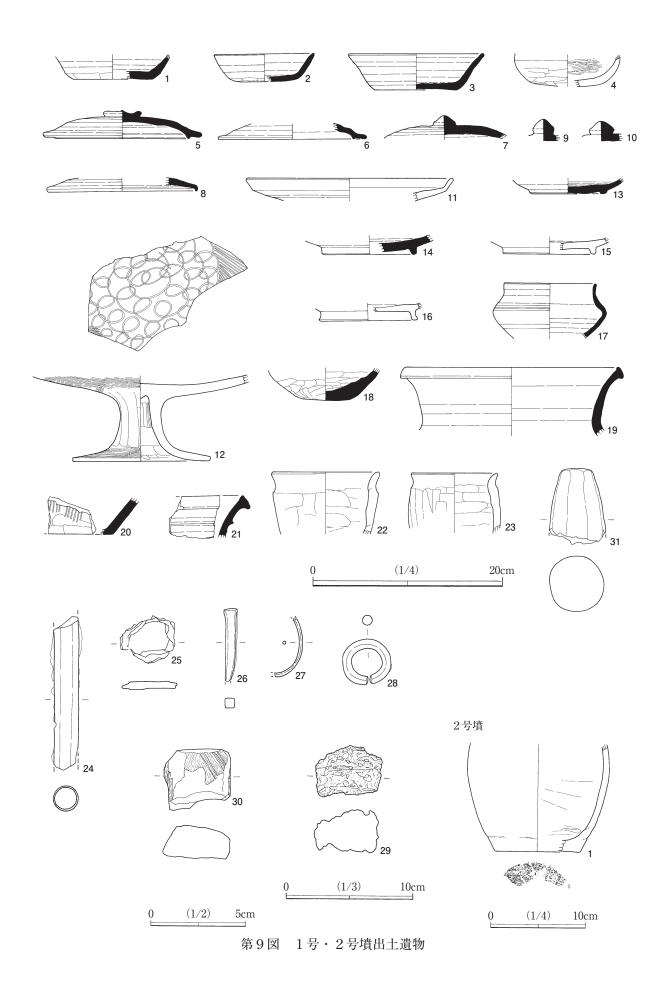
第7図 1号・2号墳

6は須恵器蓋片で、蓋上半部を欠損する。調整は内外面ロクロナデである。7は須恵器蓋で、蓋下半部を欠損する。宝珠は小さく尖頭タイプで、調整は蓋部内外面はロクロナデ、宝珠付近は回転ヘラケズリである。8は須恵器蓋で、蓋上半部を欠損する。調整は内外面ロクロナデ及び回転ヘラケズリである。9・10はともに須恵器蓋の尖頭タイプの宝珠である。11は土師器の盤で、口縁部付近のみの遺存である。調整は内面ナデ、外面ロクロナデである。12は土師器の高杯または高盤で、杯部内面には底面に螺旋状の暗文とその外側の1段の放射状の暗文が見られる。脚部は稜の明瞭な12面もの面取りをヘラケズリにより作り出し、裾部には直線上の暗文が施されている。このタイプの暗文を有する高杯または高盤は畿内産土師器の特徴で、今郡地区周辺においては類例を見ない。畿内では杯・皿類を中心に飛鳥 I (7世紀第1四半期)から出現し平城京 IV (8世紀中葉763年前後)で杯類から暗文が消滅していく中で、皿や高杯の底部内面に同様の暗文が依然見られる。関東地方では印西市木下別所廃寺出土遺物の中に、1段の放射状暗文と螺



第8図 1号墳埋葬施設

旋案文を有する平城京Ⅲ (8世紀中葉749年前後)並行期の土師器の高杯がある。脚部を多面に面取りする高杯も伴出しており、1号墳周溝内出土の高杯または高盤ときわめて近似している。13・14は須恵器の高台で、15・16は土師器の高台である。17は須恵器の鉢で、底部付近を欠損する。調整は口縁部外面回転へラケズリ、胴部内外面はロクロナデである。18は須恵器の壺または甕の底部付近で、調整は胴部内面へラナデ、外面へラケズリである。19は須恵器甕の口縁部である。20は須恵器甕の破片である。21は須恵器甕の口唇部片である。22・23は胴下部を欠損する土師器の小型甕で、調整はいずれも口縁部内外面ヨコナ



-13 -

デ. 胴部内面ヘラナデ. 外面ヘラケズリである。

24~29は金属製品である。24は材質は鉄で、中空の円筒状製品。表面は弱い稜線により面取りされている。25は材質は鉄で、何らかの製品の剥離したもの。26は断面が方形で頂部がやや折れる形状の鉄釘である。27はきわめて繊細な細いリング状の鉄製品である。28は埋葬施設内出土の銅製の耳環で、遺存状態は良好で赤胴色の地金が明瞭に観察できる。29は鉄滓である。

30は石製の砥石である。31は土製の支脚である。

### **2号墳(SM002**)(第7·9図, 図版4, 第2表)

本遺跡の最北端1Dグリッド付近に位置し、市道を挟んだ北側の、平成9年・12年に調査された羽計清水西遺跡の二条の溝状遺構(001号溝状遺構)は本古墳の一部であると考えられる。1号墳と同様二重の周溝をもつ古墳であるが、墳丘は既に削平されており大半は町道と民有地により未検出の状況である。内周溝と外周溝の間隔は2.5mあり、外周溝の幅は1.2m、深さ0.5mで、内周溝の幅は1.7m、深さ0.9mである。内周溝・外周溝の覆土はともに上部を攪乱されているが他の部分は自然堆積である。

出土遺物は胴部上半を欠損し、底部に木葉痕のある小型の土師器甕(第9図2号墳1)が周溝内から1 点のみ検出された。

### 2 竪穴住居跡

### 1号住居跡 (SI001) (第10図, 図版4)

本住居跡は、遺跡北端の1 D83グリッド付近に位置する。形状は方形と思われるが西側の多くが境界に掛かっており未調査のため不明である。規模は東壁が5.4m、北壁は2.2mほどが確認できた。床面は平坦だが北端で20cm、南端で10cmほどの壁高が計測され、壁溝はない。柱穴は1本のみ検出できた。住居跡の覆土はトレンチャーによる攪乱が著しい。1層は黒褐色土層で、ローム粒・微量の炭化粒を含んでいる。2層はしまりのある軟質の暗黄褐色土層で、ローム・ロームブロックを多量に含んでいる。

出土遺物は検出されなかった。

### 2号住居跡 (SI002) (第10図, 図版4)

本住居跡は、遺跡北端1D89グリッド付近に位置し、形状は方形と思われるが北側の大半が道路境界により未調査部分となっている。規模は住居跡の南東隅付近の3.3m×1.4mほどが検出された。床面は平坦で40cmほどの壁高が計測された。柱穴は未検出である。住居跡の覆土は若干のトレンチャーによる攪乱を受けているが堆積状況は確認することができる。

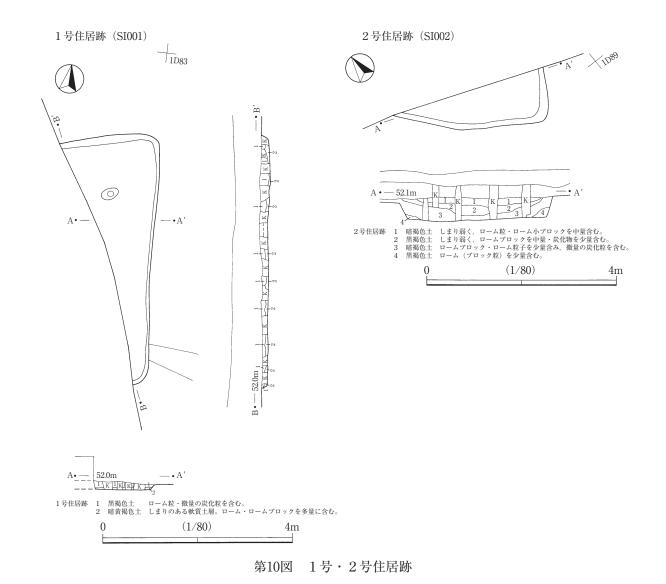
出土遺物は検出されなかった。

### **3号住居跡(SI003**)(第11~13図, 図版4・5・20・21・33・36・37, 第2・3・5表)

本住居跡は遺跡北端の1号墳と2号墳に挟まれた2D06グリッド付近に位置する。主軸の方位はN-55°-Wで,形状はほぼ方形である。規模は4.8m×4.4m,床面までの深さは50cmである。覆土はトレンチャーの攪乱を若干受けているものの廃絶後の自然堆積であることがわかる。

柱穴は検出されたものは5本で、それぞれ40cm~50cmほどの深さがあり、各主柱穴の間隔は東西方向で2m、南北方向で2.2mほどであるが、南東壁沿いの主柱穴の間には入口の梯子穴が存在する。

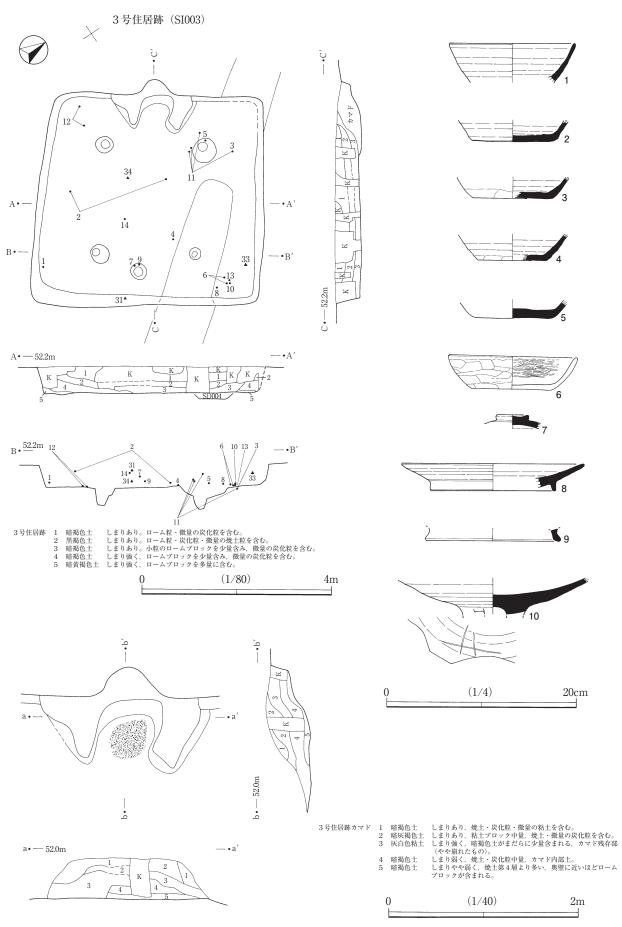
カマドは北西壁の中央に1基検出されたが、中央をトレンチャーにより攪乱されており、カマド天井部の一部は流出している。東側の袖部は流失が顕著で、遺存状態は悪い。焼土及び炭化粒を含む煙道部は焚



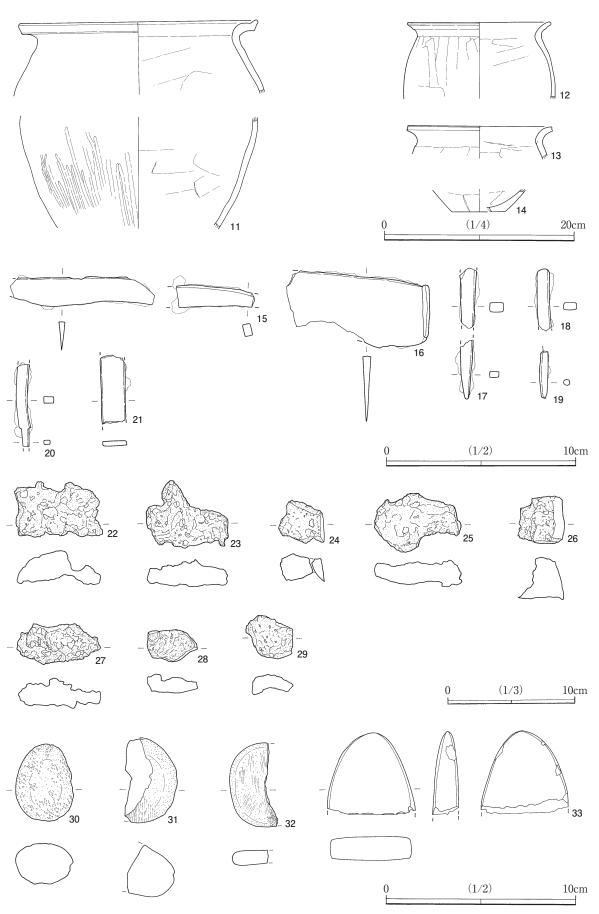
き口からカマドの最深部まで続きカマド奥壁に沿って立ち上がる。煙道部の煙出し部分は攪乱を受けており詳細は不明である。炉床部は焼成によりローム面が硬化し、焼土及び炭化粒の堆積がみられた。

出土遺物は、1は西壁の床面付近から出土した、底部付近を欠損する体部内外面ロクロナデの須恵器の杯。2は床面直上出土の須恵器杯。口縁部付近を欠損するが、平底で調整は体部内外面ロクロナデである。

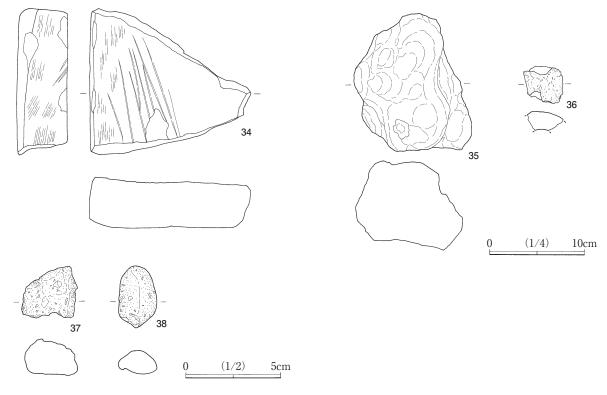
3は床面直上出土の須恵器杯。やはり口縁部付近を欠損するが、平底で調整は体部内外面ともロクロナデである。4は床面直上出土の須恵器杯。口縁部付近を欠損するが、2・3よりも小振りの平底で底部付近の体部には明瞭なヘラケズリの痕跡が見られ、底部はヘラケズリである。5は床面直上出土の須恵器杯で、平底で体部内外面とも剥離が激しく詳細は不明である。6は床面直上出土の土師器杯。底部は平底で、調整は体部内面は赤彩を施した後丁寧なミガキが見られ、外面は横位のヘラケズリで、底部はヘラケズリである。7は覆土中の出土で、須恵器蓋の摘み付近。8は床面直上出土の須恵器の高台付皿。調整は体部内外面ともロクロナデである。9は床面付近の覆土出土の須恵器の高台である。10は床面直上出土の須恵器の高杯で、杯部内面に線刻が見られる。調整は体部内面は摩滅しており、外面はロクロナデ及び回転へラケズリである。11は床面及び床面付近の覆土出土の土師器甕で、底部付近を欠損している。調整は胴部



第11図 3号住居跡・出土遺物(1)



第12図 3号住居跡・出土遺物(2)



第13図 3号住居跡・出土遺物(3)

内面へラナデ、外面縦位のミガキ、口縁部外面ヨコナデである。12は床面直上出土の土師器甕で、胴下半部を欠損する。調整は胴部内面へラナデ、外面へラケズリ、口縁部外面ヨコナデである。13は床面直上土師器甕で、口縁部付近のみの遺存である。14は覆土中出土の土師器甕の底部付近で、底部付近の胴部調整は内面へラナデ、外面へラケズリである。

15~21までは金属製品で、いずれも覆土から出土した。15は鉄製刀子である。16は鉄製鎌である。17~19は断面が方形の鉄釘である。20は鉄製品で、太さの異なる部分の断面はいずれも方形である。21は断面が比較的薄く平らな板状の鉄製品である。22~29は覆土中から出土の鉄滓である。30~32・37・38は軽石状遺物である。33は床面付近から出土の砥石で、34は砂岩製の砥石である。35は土製支脚である。36は土製の鞴の羽口片である。

### 4号住居跡 (SI004) (第14図, 図版5)

本住居跡は、遺跡中央の一西側境界の10C45グリッド付近にする。形状は $W-25^\circ-S$ 方向に主軸のある方形と思われるが本住居跡の大半が民有地に含まれるため詳細は不明である。規模は西側境界より5.6m×1.4mほどが検出された。床面は平坦20cmほどの壁高が計測された。柱穴は深さ20cmほどのものが1本のみ検出された。住居跡の覆土はトレンチャーによる攪乱のためその多くが観察不可能であった。

出土遺物のうち実測可能なものは無かった。

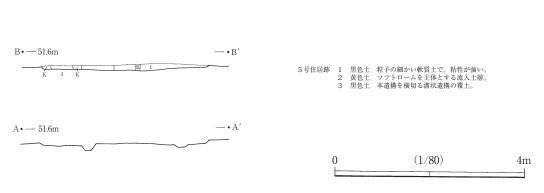
### 5号住居跡 (SI005) (第14図, 図版5)

本住居跡は、遺跡中央11C73グリッド付近に位置する。6 号住居跡によって北西壁の一部が切り取られている。形状はほぼ方形で、規模は3.4m×2.8mである。床面は平坦だが覆土はきわめて浅い。柱穴は検出されたものは4本で、それぞれ10cm~15cmほどと浅い。各主柱の間隔は東西方向で2m、南北方向で

# 4号住居跡 (SI004) A・-520m A--520m A--5

4号住居跡 1 暗黄褐色土 本遺構の覆土。

# 5 号住居跡 (SI005) 6 号住居跡 -・A' -・B' --B' --B'



第14図 4号・5号住居跡

1.8mとなっている。

出土遺物のうち実測可能なものは無かった。

### **6号住居跡(SI006**) (第15図、図版 5 · 33 · 37 · 38、第 2 · 3 · 5 表)

本住居跡は、遺跡中央11C34グリッド付近に位置する。西壁の一部が5号住居跡を切り取っている。形状は東西方向に主軸のある方形で、規模は $3.2m \times 4.0m$ である。床面は平坦で、北壁付近で40cm、南壁付近で30cmの壁高となっている。柱穴は検出されたものは5本で、それぞれ $10cm \sim 25cm$ ほどの深さがあり、各主柱穴の間隔は東西方向で $1.7m \sim 1.9m$ 、南北方向で $1.2m \sim 1.4m$ ほどであるが、西壁沿いの主柱穴の間には入口の梯子穴が存在する。

カマドは東壁の中央に1基検出された。袖部は既に流失しており本体部分のみ遺存していた。天井部の 焚き口付近は流失している。煙道部はカマド奥壁付近まで続くが煙出し部分は天井部の崩落により埋没し ている。カマド全体が押しつぶされており煙道部と燃焼部の境は明瞭でない。炉床部は強い焼成によりロ ーム面が硬化しており、焼土及び炭化物の堆積がみられる。また、天井部から炉床部に向けて掛口からの 流入土がみられた。

出土遺物はすべて製鉄関連の遺物である。1は北壁に近い床面直上出土の鉄製品。2は床面直上出土の 鉄釘である。3~9はいずれも覆土中から出土の軽石状遺物で、第15図5~9は外面に角を有する。

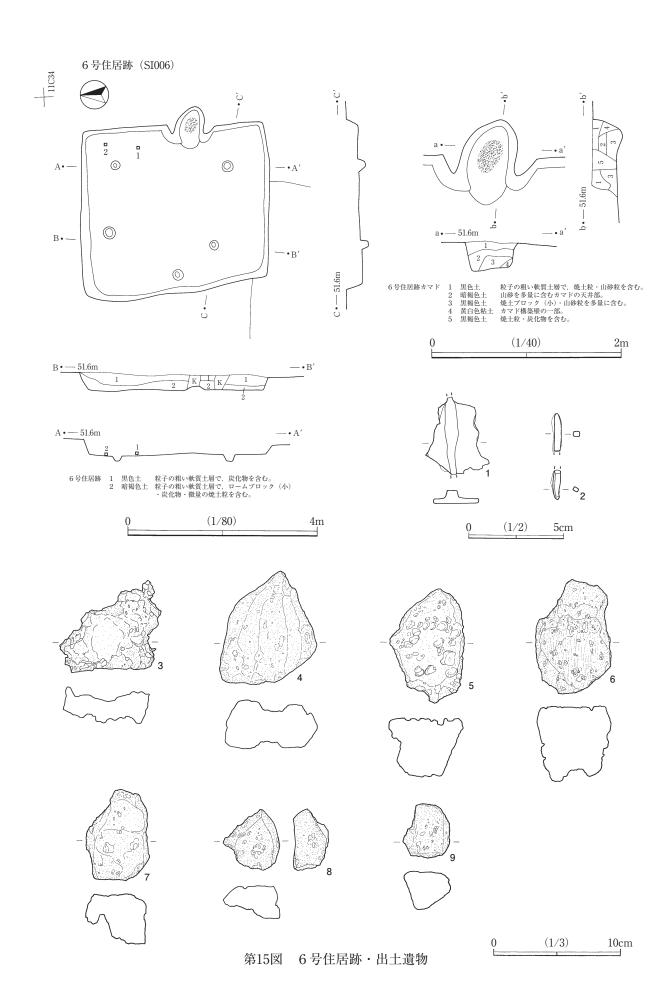
### **7号住居跡(SI006**)(第16·17図, 図版 5·21·33·37, 第2~3表)

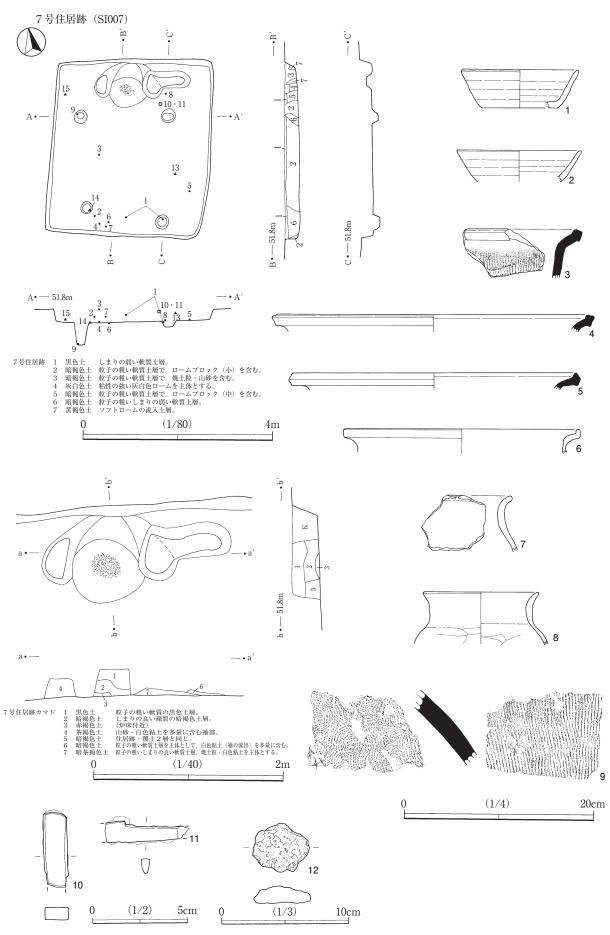
本遺構は、遺跡中央11C02グリッド付近に位置する。形状は方形で主軸の方位は $N-18^{\circ}-E$ である。規模は $3.8m \times 3.2m$ で、床面は平坦で壁高は50cmである。柱穴は4本検出され、浅いもので20cm、深いもので50cmとなっている。柱穴の間隔は東西方向で2m、南北方向も2mである。北壁の中央部分にはカマドが1基検出されたが、壁面から内側に突出した状況であった。また、カマドの脇には不定形の浅い土坑も付帯している。

カマドは東側の袖部が流失して原形をとどめていない。燃焼部及び煙道部は炉床部付近のみ確認できた。煙道部の立ち上がり部分は攪乱により確認できなかった。炉床部は焼成により堅く焼きしめられた痕跡がみられ、焼土の堆積がみられた。

出土遺物はいずれも小破片のもので、床面直上及び床面付近の覆土から出土した。1は土師器杯で、底部は平底で、調整は体部内外面ロクロナデである。2は土師器杯で、底部付近を欠損する。調整は体部内外面ロクロナデである。3は須恵器甕で、口縁部付近のみの遺存である。折り返しにより厚みを作り出した口唇部は稜線の明瞭な面取りが特徴となっている。調整は口縁部内外面ロクロナデ、胴部外面タタキメである。4は須恵器甕で、口唇部のみの遺存である。5も須恵器甕の口唇部。6は土師器甕の口縁部。7は土師器甕で、口縁部付近のみの遺存である。8はカマド脇の床面付近の覆土出土の土師器甕で、口縁部がやや高く伸び上がった形状である。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリである。9は柱穴の底部分から出土した須恵器甕の破片で、胴部内面には当て具による青海波文、外面は平行タタキメである。

10はカマドの脇から出土した断面が方形で厚みのある鉄製品で、11はカマドの脇から出土した鉄製の刀子ある。12は覆土中から出土の鉄滓である。13~15はいずれも床面直上及び床面付近の覆土出土の磨石である。





第16図 7号住居跡・出土遺物(1)

### **8号住居跡(SI008**) (第18·19図, 図版 6·21·22, 第 2 表)

本住居跡は、遺跡中央10C50グリッド付近に位置する。建て替えによるものと考えられる 2 軒分の住居が僅かに位置をずらす形で重なっている。形状はいずれも方形で、8号A住居跡は主軸の方位は南北方向で規模は $3.4\text{m} \times 3.2\text{m}$ 、8号B住居跡は主軸の方位は $N-35^\circ-W$ で規模は $3.2\text{m} \times 3.6\text{m}$ である。前者は壁高が西壁付近で30cm、後者は東壁付近で40cmと若干の差はあるものの床面に段差がないことから前後関係は明確でない。柱穴は $P1\sim P5$ は8号A住居跡の柱穴、 $P6\sim P11$ は8号B住居跡の柱穴と思われる。8号A住居跡の柱穴は深さが $10\text{cm}\sim 20\text{cm}$ 、8号B住居跡の柱穴の深さはいずれも10cm前後と8号A住居跡の柱穴の方がやや深くなっている。

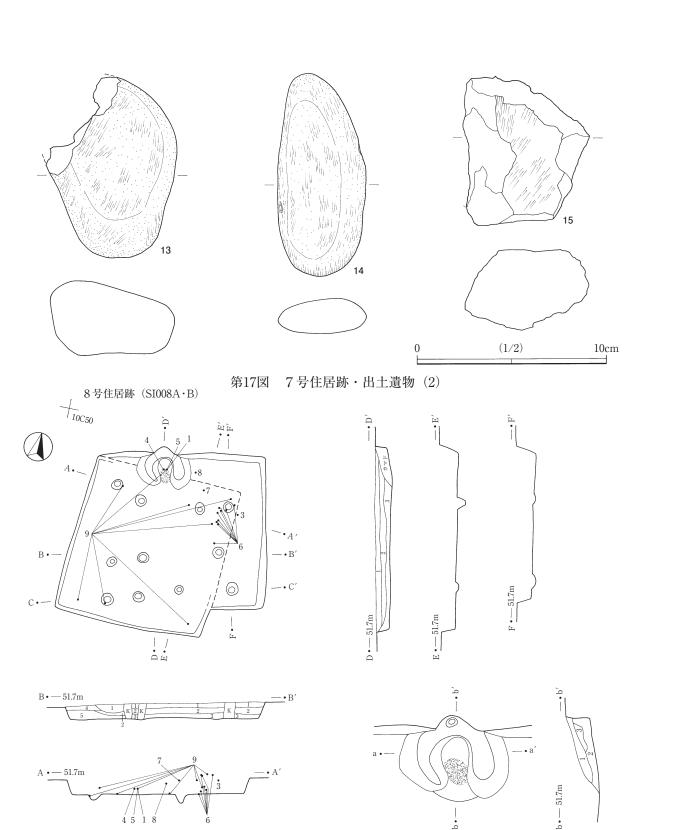
8号B住居跡の北壁中央にはカマドが1基検出されたが、他にカマドは無く、8号A住居跡のカマド位置としても不自然さは無かった。建て替えが行われた後も同じカマドを使用し続けた可能性も否定できない。天井部は押しつぶされてカマド内に崩落している。煙道部はカマドの奥壁に沿って立ち上がるが天井部の構築材と思われる山砂及び粘土が多量に流入している。また、煙道部内には焼成を受けて剥落した山砂及び粘土がみられた。炉床部は焼成によりローム面が硬化しており、焼土・炭化物の堆積がみられた。

出土遺物は、いずれも土師器である。1はカマド内出土の土師器杯で、やや深い椀状の体部を持つ。調整は体部内面は黒色処理及び丁寧なミガキ、外面はヘラケズリ後のミガキである。2は覆土から出土の杯で、調整は体部内面は黒色処理及びミガキ、外面はヘラケズリである。3は覆土の上部出土の杯で、調整は体部内面は黒色処理及びミガキ、外面はヘラケズリ後のミガキである。4はカマド内出土の杯で、調整は体部内面はナデ、外面はロクロナデ及び底部付近ヘラケズリである。5はカマド内出土の甕で、胴上半部を欠損する。調整は胴部内面はヘラナデ、外面はヘラケズリである。5はカマド内出土の甕で、胴上半部を欠損する。調整は胴部内面はヘラナデ、外面はヘラケズリである。6は床面直上及び覆土出土の小型甕。調整は口縁部内外面はヨコナデ、胴部内面ナデ、外面へラケズリである。7は覆土出土の小型甕の底部付近。調整は胴部内面ヘラナデ、外面はヘラケズリである。8は覆土出土の甕の底部付近。調整は胴部内面ヘラナデ、外面はヘラケズリである。9は床面直上及び覆土出土の甑。住居跡の広い範囲に拡散している。調整は内面ヘラナデ、外面はヘラケズリである。

### 9号住居跡 (SI009) (第20図, 図版6·22, 第2·5表)

本住居跡は、遺跡中央10 C 24 グリッド付近に位置している。形状は N - 50° - Wに主軸のある方形であるが西南壁に比べて東北壁が長いアンバランスな形状を呈している。規模は3.4m×4.0m。床面は平坦で、壁高は西南壁付近で30cm、東北壁付近で20cmとなっている。柱穴は4本の主柱穴と補助柱1本が検出された。主柱穴の間隔は東西方向で2 m~2.8m、南北方向で1.6m~1.7mで、深さは10cm~30cmとなっている。カマドは北西壁の中央に1 基検出された。山砂と粘土を主体とする天井部は押しつぶされカマド内に崩落している。燃焼部及び煙道部は多量の焼土粒と炭化物を含んでおり、煙道部の最深部は奥壁に沿って立ち上がるが煙出し部分は天井部の崩落土で覆われており確認できなかった。

出土遺物は、土師器甕と軽石状遺物である。1は床面に散乱した状態で出土した長胴型の土師器甕で、調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面はヘラナデ、外面ヘラケズリ及び胴下半部に縦位の繊細なミガキである。いわゆる常総型の甕で、底部には木葉痕が見られる。2も床面に散乱した状態で出土した土師器甕で、胴下半部のみの遺存である。胴部内面はヘラナデ、外面は丁寧なミガキとなっており、常総型の甕である。3はカマド内出土の土師器甕で、底部付近のみの遺存である。4は床面直上出土の土師器甕で、



第18図 8号住居跡

4m

C • — 51.7m

8 号住居跡 1 黒色土 粒子の粗い軟質土層。 2 暗褐色土 粒子の細かい軟質土層で,炭化物を含む。 3 暗茶褐色土 粒子の細かいしまりの良い軟質土層で,焼土粒・炭化物を多量に含む。 4 明茶褐色土 粒子の細かいしまりの良い軟質土層で,焼土粒・炭化物を多量に含む。 5 暗褐色土 粒子の細い軟質土層で,ロームブロック(小)を含む。

(1/80)

a • — 51.7m

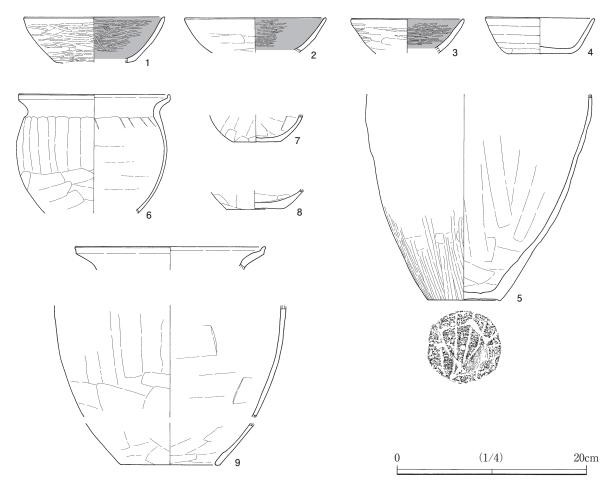
8号住居跡カマド

1 暗褐色土 2 黒褐色土 3 黄白色粘土 4 黄白色土

粒子の粗い軟質土層で、山砂を多量に含む(天井部)。 粒子の粗いポソポソの軟質土層で、炭化物・焼土を多量に含む。 カマド構築材(天井部)。 山砂・灰白色粘土を主体とする補部。

2m

(1/40)



第19図 8号住居跡·出土遺物

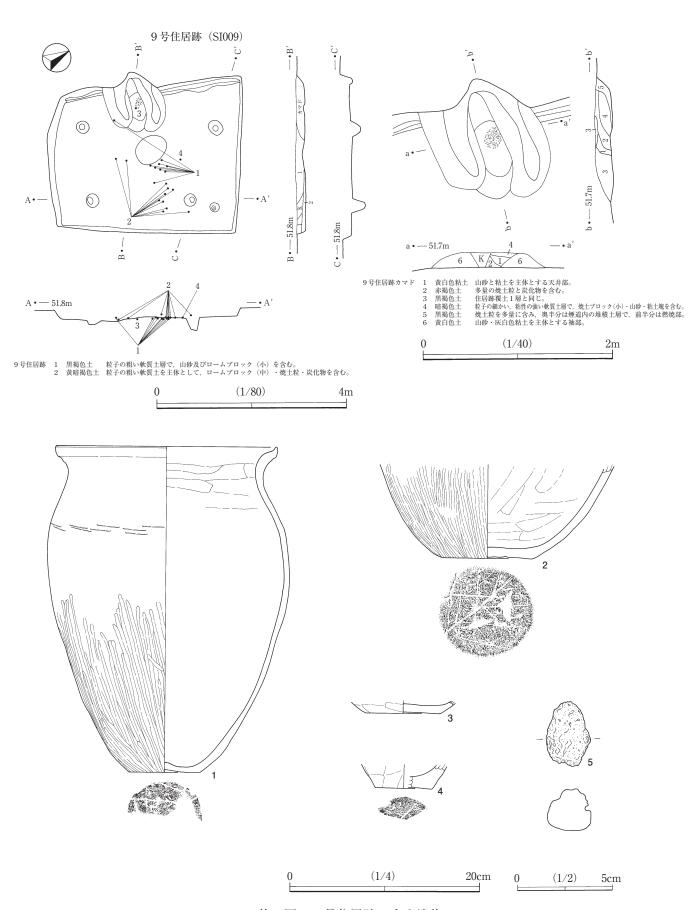
底部付近のみの遺存である。5は覆土から出土の軽石状遺物である。

10号住居跡(SI010)(第21·22図,図版 6·22·33·37,第 2·3 表)

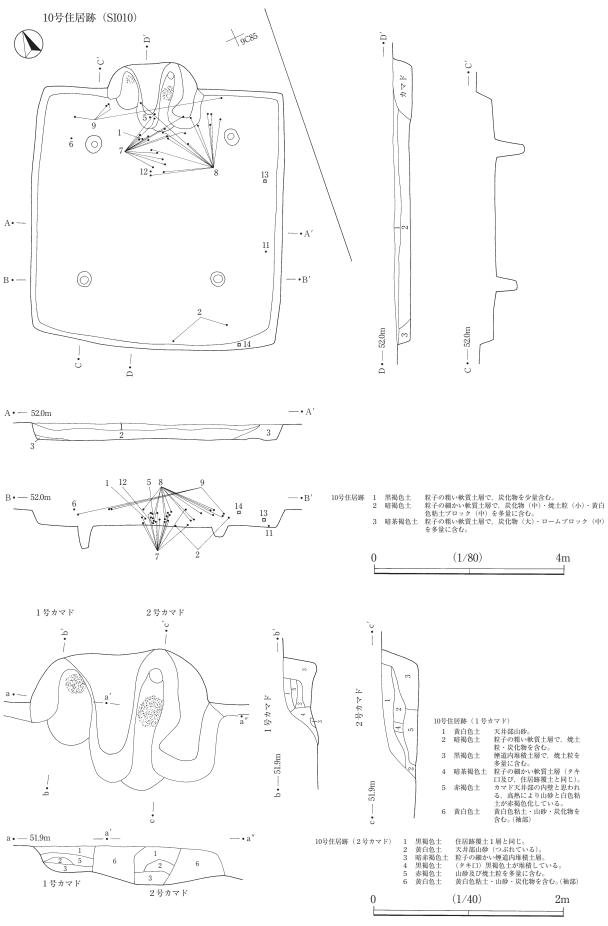
本住居跡は、遺跡中央9 C84グリッド付近の台地上に位置し、6 号溝状遺構を切り取る状況で構築されている。形状は  $N-29^\circ$  – E方向に主軸のある方形で、規模は $1.4m \times 5.2m$ である。 床面は平坦で、北壁付近で40cm、南壁付近で30cmほどの深さとなっている。柱穴は4本検出され、それぞれの間隔は東西方向で2.8m、南北方向も2.8mで、深さは $20cm \sim 60cm$ となっている。覆土の堆積状況は次のとおりである。 1 層は粒子の荒い軟質の黒褐色土層で、少量の炭化物を含んでいる。 2 層は粒子の細かい軟質の暗褐色土層で、炭化物・焼土粒・黄白色粘土ブロックを多量に含んでいる。 3 層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、炭化物・ロームブロックを多量に含んでいる。

カマドは、北壁のほぼ中央に2基検出された。両カマドの間の袖部は共用されており、同時に使用されていたものと考えられる。カマドの煙出し部分は南北に走るトレンチャーにより撹乱されているが、他の部分の遺存状態は良好である。1号カマドの天井部は上部の一部が削平されているが遺存状態は良好で、カマド内には山砂が主体の天井部の崩落土や焼土粒を多量に含む煙道部がみられる。カマドの焚き口付近からは多量の焼土が検出され、奥行きの短い煙道部の最深部付近に燃焼部がみられた。

2号カマドは山砂・白色粘土からなる天井部が押しつぶされカマド内に崩落している。煙道部内の堆積



第20図 9号住居跡・出土遺物



第21図 10号住居跡



第22図 10号住居跡・出土遺物

土層は多量の焼土流を含んでおり、焚き口付近には焼土及び炭化物が検出された。カマド天井部の内壁は 高熱により山砂及び白色粘土が赤褐色化している。

出土遺物はカマド付近に集中が見られる。1はカマド付近の床面から出土した丸底の土師器杯で、調整は体部内外面赤彩を施し、内面はナデ、外面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデである。2は床面直上及び覆土中出土の丸底の土師器杯で、調整は体部内面はナデ、外面はヘラケズリ、口縁部外面はヨコナデ、底部はヘラケズリである。3は東壁付近の床面直上出土の須恵器蓋である。4・6は覆土から出土の須恵器蓋である。5は左右のカマドに挟まれた中央の袖部付近から出土した須恵器蓋である。7はカマド付近の床面直上を中心に出土した土師器甕で、底部付近を欠損している。調整は口縁部内外面はヨコナデ、胴部内面はヘラナデ、外面は横位のヘラケズリ及び胴下半部に丁寧な縦位のミガキとなっており常総型の甕である。8はカマド付近の覆土中から出土した土師器甕で、調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面はヘラナデ、外面は横位のヘラケズリ及び胴下半部に繊細な縦位のミガキとなっており常総型の甕である。9及び11は底部欠損の土師器甕と甕の底部付近である。それぞれ東西の壁際から出土しているが、同一個体の可能性もある。口縁部は内外面ヨコナデ、胴部内面はヘラナデ、外面はヘラケズリ及び胴下半部に繊細な縦位のミガキが見られ常総型の甕である。10は覆土及び床面付近から出土の土師器小型甕で、調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面上半部縦位のミガキ、胴下半部ヘラケズリである。12はカマド付近の床面直上出土の土師器甕の底部である。

13は先端が丸くすぼまる形状の銅製の鉈尾で、西壁際の床面付近の覆土中から出土した。14は覆土中から出土した鉄板状のものに鉄釘が貫通している鉄製品であるが、用途は不明である。15・16はカマド付近の覆土中から出土した鉄滓である。

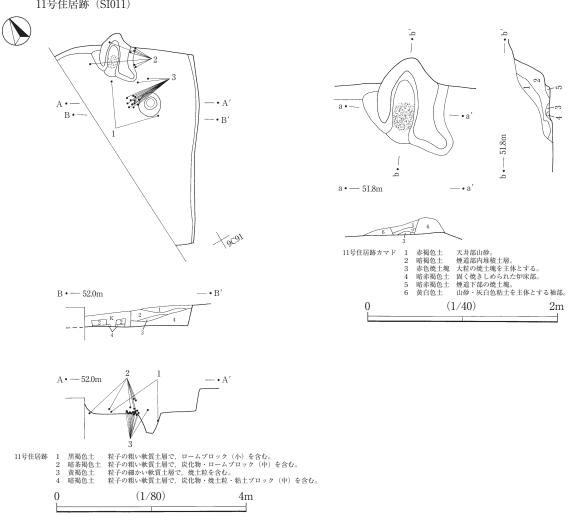
### 11号住居跡(SI011)(第23図,図版 6 · 22 · 23 · 37,第 2 表)

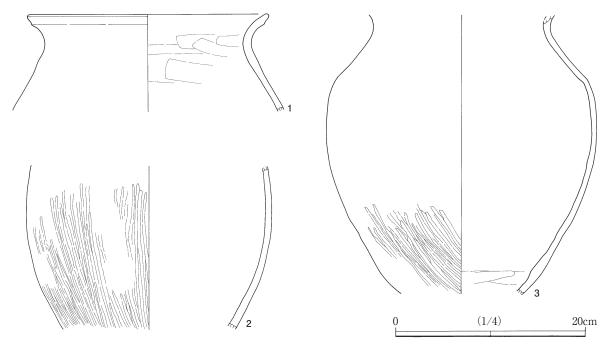
本住居跡は、遺跡中央9 C 80グリッド付近に位置している。北角から南角にかけて袈裟懸け状に境界線が走っており、西半分は調査範囲外となっている。形状はN-35°-E 方向に主軸のある方形で、規模は4.2m×3.0mである。 床面は平坦で、東壁付近で40cmの壁高となっている。柱穴はカマド脇に1本のみ検出された。深さは約40cmである。 覆土の堆積状況は次のとおりである。 1層は粒子の粗い軟質の黒褐色土層で、小粒のロームブロックを含んでいる。 2層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、炭化物・小粒のロームブロックを含んでいる。 3層は粒子の細かい軟質の黄褐色土層で、焼土粒を含んでいる。 4層は粒子の粗い軟質の暗褐色土層で、炭化物・焼土粒・粘土ブロックを含んでいる。

カマドは北壁の中央に1基検出されたが、天井部はカマド前面の焚き口付近が大きく流出している。天井部に比べ袖部の遺存状態は良好である。焼土粒・炭化物を含む煙道部はカマド奥壁に沿って立ち上がるが、煙出し部分は天井部の流入土で確認できなかった。煙道部の中央下部には堅く焼きしめられた炉床部がみられた。

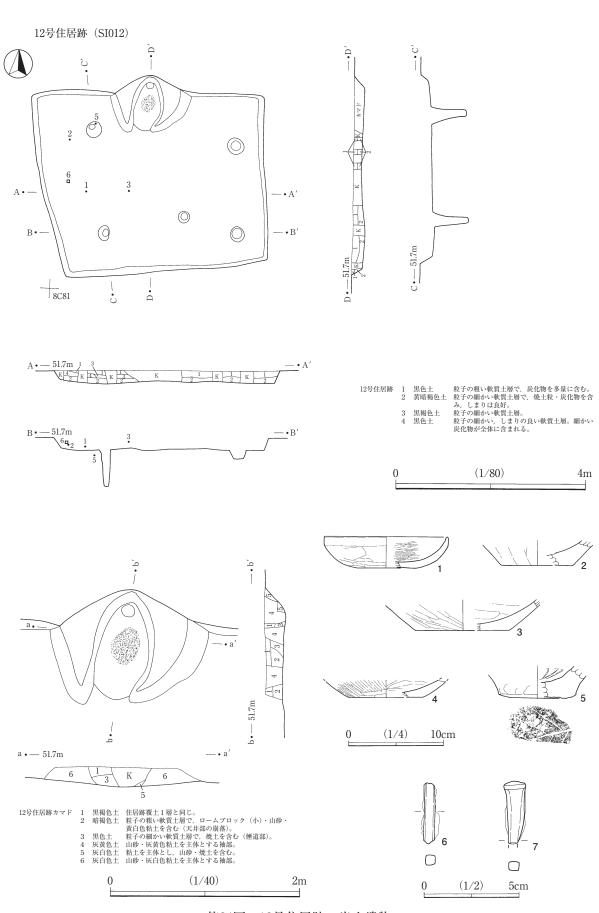
出土遺物はすべてカマド付近からの出土である。1 は床面直上出土の土師器甕で、胴下半部を欠損する。 口縁部は『く』字状に外反する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面はヘラナデ、外面ヘラケズリ後 のナデである。2 はカマドの周辺に散在する土師器甕で、胴上半部及び底部付近を欠損する。調整は胴部 内面ナデ、外面は縦位の丁寧なミガキである。3 はカマドの全面の床面直上出土の土師器甕で、口唇部付 近と底部付近を欠損する。口縁部内外面はヨコナデ、胴部内面ヘラナデで器面剥離が著しく、外面はナデ 及び胴下半部は丁寧な縦位のミガキとなっており常総型の甕である。

## 11号住居跡 (SI011)





第23図 11号住居跡・出土遺物



第24図 12号住居跡・出土遺物

### **12号住居跡(SI012**)(第24図,図版7·23·33,第2·3表)

本住居跡は、遺跡中央8 C71グリッド付近に位置している。形状は主軸がN-Sすなわち南北方向で北西角がやや張り出した方形である。規模は4.0m×5.0mで、床面は中央部分が若干盛り上がり気味で、北壁付近で20cm、南壁付近で30cmの壁高となっている。柱穴は主柱穴が4本、補助的な柱穴が1本検出されており、深さはそれぞれ20cm~80cmとなっており、主柱穴の間隔は東西方向で2.8m~3.0m、南北方向で1.8m~2.1mとなっている。覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の粗い軟質の黒色土層で、多量の炭化物を含んでいる。2層は粒子の細かいしまりの良い軟質の黄暗褐色土層で、焼土粒・炭化物を含んでいる。3層は粒子の細かい軟質の黒褐色土層。4層は粒子の細かいしまりの良い軟質の黒色土層。

カマドは北壁のほぼ中央に1基検出されたが、天井部は削平され、カマド中央に攪乱を受けている。山砂・灰白色粘土を主体とする袖部の遺存状態は良好である。煙道部の煙出し部分は焼土粒および炭化粒の 集積痕から確認できたが、崩落した天井部により煙道部の大半が押しつぶされており確認できなかった。

出土遺物はすべて小破片である。1は西壁付近の覆土出土の土師器杯である。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面はミガキ、外面はヘラケズリである。2は西壁付近の覆土出土の土師器甕で、底部付近のみの遺存である。3は覆土出土の土師器甕の底部付近である。4は床面付近の覆土中から出土した土師器甕の底部で、胴部外面には丁寧なミガキが見られる。5は床面直上出土の手捏ね土器の底部付近で、調整は外面は粗いヘラケズリである。

6は西壁付近の覆土中から出土の鉄釘である。7は覆土中から出土の鉄釘である。

# 13号住居跡 (SI013) · 14号住居跡 (SI014) (第25 · 26図, 図版7 · 23, 第2表)

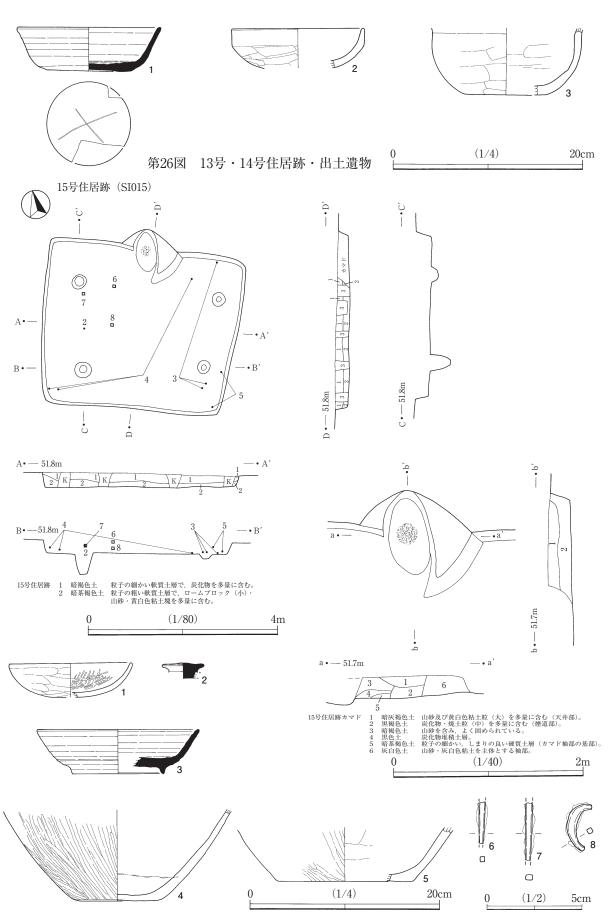
本住居跡は、遺跡中央8 C 81 グリッド付近に位置し、14号住居跡と重複している。平成22年度の調査では境界付近に住居跡の角が2 軒分確認されたため、それぞれに独立した遺構番号を付与した。平成23年度の調査で調査区が拡張されたため精査したところ、2 軒の住居跡が微妙な位置関係にあることが判明した。形状は13号住居跡は南壁が大きく湾曲しているがほぼ方形と思われる。主軸の方位はN - 76° - Eで、規模は東壁は3.7m、南壁は3.6m分が検出された。14号住居跡の主軸は同様にN - 76° - Eであるが、規模は計測不可である。壁高は北壁・東壁・南壁ともに約20cmで、床面には段差がなく、両住居跡の前後関係は定かでない。

柱穴はP1~P3までは13号住居跡に、P4~P6までは14号住居跡に帰属すると思われる。両住居跡とも柱穴の深さは浅いもので20cm、深いもので60cmとなっている。また、14号住居跡のカマド前にはやや浅めのピットP7・P8があり、P7の規模は1.0m×0.9mで深さは10cmで、覆土は単層のみで粒子の細かい軟質の黒褐色土層に白色粘土粒・焼土細粒を含んでいる。P8の規模は0.5m×0.4m、深さは20cmで、覆土は粒子の細かい軟質の黒褐色土層に焼土粒を含んでいる。13号住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は耕作土。2層は粒子の粗い軟質の黒褐色土層。3層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、炭化物・焼土粒を含む。また、14号住居跡の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、炭化物・焼土粒を含む。また、14号住居跡の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、炭化物・焼土粒・炭化物を含んでいる。2層は粒子の細かい軟質の暗黒褐色土層で、粒子の細かい焼土・炭化粒を多量に含んでいる。3層は粒子の細かい軟質の黒褐色土層で、細かい焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。4層はロームを主体とする黄暗褐色土層で、暗褐色の硬質土ブロックを多く含む。

13号住居跡のカマドは東壁のやや北寄りのところに1基検出されたが、天井部及び袖部は流出しており

# 13号·14号住居跡 (SI013·014) - • E' 13号住居跡 - • B' (P8) В•-14号住居跡 Ρ7 D • ~ 14号住居跡 0 . E - 51.8m <u>.</u> Ĺ 13号住居跡 A • — 52.3m --- • A' 2 Κ 13号住居跡 В•\_ 51.8m C • --- 51.8m 粒子の細かい軟質土層で、焼土粒・炭化 物を多量に含む(煙道部)。 山砂及び黄白色粘土を主体として、焼土 粒を多量に含む。 (ハードローム) 13号住居跡カマド 1 黒褐色土 2 赤褐色土 3 黄色ローム 1 耕作士 2 黒褐色土 2 村田の根い軟質の黒褐色土層。 3 暗茶褐色土 粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層。炭化物・焼土粒を含む (SI014の覆土)。 13号住居跡 14号住居跡 14号住居跡 D • — 52.0m —• D' | 14号住居跡 | 1 | 暗茶褐色土 | 粒子の粗い軟質土層で、大粒のローム粒・焼土粒・炭化物を含む。 | 2 | 暗黒褐色土 | 粒子の細かい軟質土層で、粒子の細かい焼土・炭化粒を多量に含む。 | 3 | 黒褐色土 | 粒子の細かい軟質土層で、細かい焼土粒・炭化粒を多量に含む。 | 粒子の細かい軟質土層で、細かい焼土粒・炭化粒を多量に含む。 | ロームを主体として、暗褐色の硬質土ブロック (中) を多く含む。 -51.8m a • --- 51.8m (1/80)4m 黒褐色土 粒子の細かい軟質上層で、白色粘土粒・焼土細粒を含む。 灰白色粘土 カマドの補部。 暗灰色粘土 カマドの天井部、焼土の細粒を含む。 14号住居跡カマド 1 2 3 0 (1/40)2mΡ7 \_\_ • a' a • — 51.6m Ρ7 P7 1 黒褐色土 粒子の細かい軟質土層で、炭化物(小)・ロームブロック(小)・焼土粒を含む。 P8 1 黒褐色土 粒子の細かい軟質土層で、焼土粒(中)を含む。 Р8 b • — 51.6m - • b' 2m(1/40)

第25図 13号·14号住居跡



第27図 15号住居跡・出土遺物

検出できなかった。煙道部の焚き口付近には天井部の崩落土と思われる山砂及び黄白色粘土の堆積がみられる。

14号住居跡のカマドは北東の角に近い部分に1基検出されたが、天井部は流出しており、左右の袖部は 基底部のみ僅かに痕跡を残していたが大半を流出していた。カマド内には煙道部の一部が住居の覆土に押 しつぶされる状況で僅かに痕跡を留めていた。

出土遺物は実測可能なものは3点であるが、1・2は13号住居跡のものか14号住居跡のものかその帰属は明瞭でない。1は14号住居跡のカマド付近と両住居跡の重複地点の床面直上から出土した須恵器杯で、底部には『×』の線刻がある。調整は体部内外面ロクロナデ、底部周辺は手持ちヘラケズリ、底部は手持ちヘラケズリである。2は両住居跡の重複部分の床面直上出土の丸底の土師器杯で、調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面はナデ、外面はヘラケズリである。3は13号住居跡の床面付近の覆土出土の土師器の鉢で口縁部付近を欠損しており、調整は内面はヘラナデ、外面はヘラケズリである。

## 15号住居跡 (SI015) (第27図, 図版7·23·33, 第1·2表)

本住居跡は、遺跡中央の平坦部8 C 50グリッド付近に位置する。形状は主軸の方位がN - 21° - E にある方形で、規模は3.6m×4.4mで、床面は平坦で、壁高は北壁付近で40cm、南壁付近で30cmとなっている。柱穴は4本検出されており、間隔は東西方向で2.6m~3 m、南北方向で1.4m~1.8mとなっている。深さは浅いもので10cm、深いもので40cmとなっている。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1 層は粒子の細かい軟質の暗褐色土層で、多量の炭化物を含んでいる。2 層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、小粒のロームブロック・山砂・黄白色粘土塊を多量に含んでいる。

カマドは北壁中央に1基検出された。片側の袖は流出して原形をとどめていない。全体に押しつぶされており、山砂及び黄白色粘土粒を多量に含む天井部の下には炭化物・焼土粒を含む煙道部がみられる。

出土遺物はいずれも住居跡壁面近くで出土している。1は床面付近の覆土から出土した土師器杯で、調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面は底部から口縁部にかけて放射状のミガキ、外面はヘラケズリである。2も床面付近の覆土出土の須恵器蓋の宝珠部分である。3は床面直上出土の須恵器の高台付杯で、調整は体部内外面ロクロナデである。4は床面直上出土の土師器甕で胴下半部のみの遺存である。調整は胴部内面は器面の剥離が著しく、顔面は丁寧な縦位の丁寧なミガキで常総型の甕である。5は床面直上出土の土師器甕で、底部付近のみの遺存である。調整は胴部内面へラナデ、外面は縦位のミガキである。

6~8は覆土中から出土した鉄釘である。

### 16号住居跡 (SI016) (第28回, 図版7·23, 第2表)

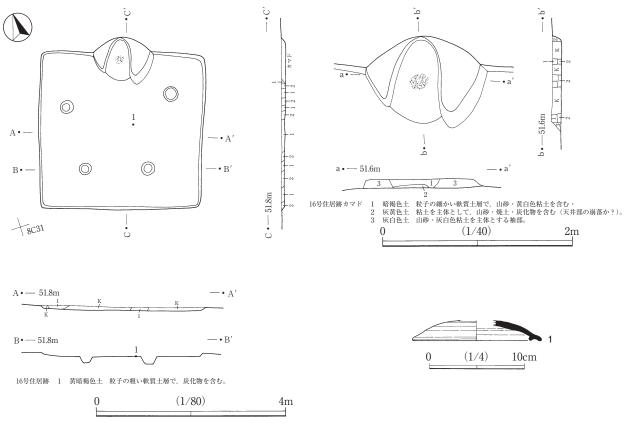
本住居跡は、遺跡中央8 C21グリッド付近に位置している。形状は $N-18^{\circ}-E$ 方向に主軸のある方形で、規模は $3.2m \times 3.4m$ である。 壁高はきわめて浅く、北壁付近で20cm、南壁付近で10cmとなっている。

柱穴はカマドに近い側と遠い側で間隔が異なり、東西方向で1.4m~2.2m、南北方向で1.4m~1.6mで、深さはいずれも浅く10cm~20cm程度である。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の粗い軟質の黄暗褐色土層で、炭化物を含んでおり、トレンチャーによる攪乱が著しい。

カマドは北壁の中央に1基検出された。山砂・黄白色粘土を主体とする天井部はカマド内に崩落しているが、袖部の遺存状態は良好である。カマドのほぼ中央には焼成のため固く焼きしめられた炉焼部の痕跡がみられる。

出土遺物は1点のみで、1は床面直上出土の須恵器蓋である。





第28図 16号住居跡・出土遺物

## 17号住居跡 (SI017) (第29図, 図版7 · 8 · 23 · 34, 第2 · 3 表)

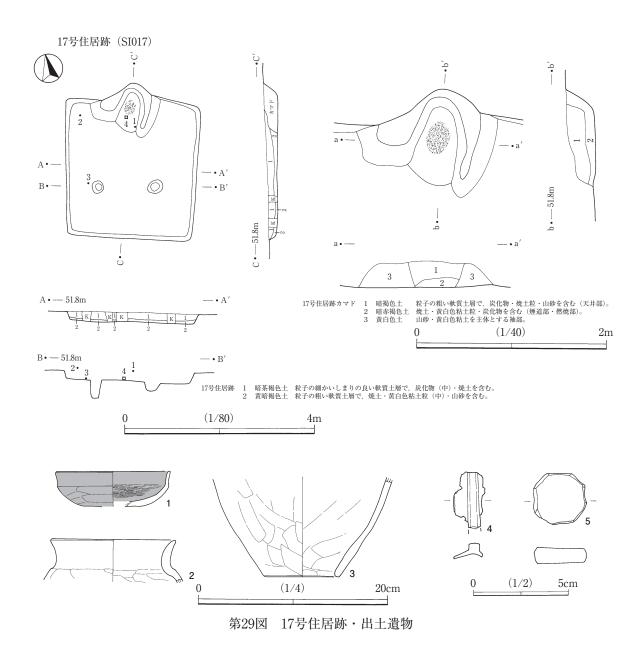
本住居跡は、遺跡中央8 C13グリッド付近に位置している。形状は $N-17^\circ-E$ 方向に主軸のある方形で、規模は $3.0m \times 2.8m$ となっている。床面はほぼ平坦で、壁高は北壁付近で30cm、南壁付近で20cmである。柱穴は2本のみ検出され、間隔は1.2m、深さは浅いもので20cm、深いもので40cmとなっている。

住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗茶褐色土層で、 炭化物・焼土を含んでいる。 2層は粒子の粗い軟質の黄暗褐色土層で、焼土・黄白色粘土・山砂を含んでいる。

カマドは北壁の中央に1基検出された。山砂を主体とする天井部は厚みがあり遺存状態は良好で、袖部の遺存状態も良好である。焼土・黄白色粘土粒・炭化物を含む煙道部はカマド奥壁にそって立ち上がるが、 煙出し部分は明瞭でなく確認できなかった。

出土遺物は1はカマド内出土した土師器杯で,真っ直ぐに立ち上がる口縁部と体部の境に稜が見られる。調整は口縁部なお外面ヨコナデ,体部内面は黒色処理,外面はヘラケズリ及び黒色処理である。2は覆土中からの出土の土師器甕で、口縁部付近のみの遺存である。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ヘラナデ、外面ヘラケズリである。3は床面直上出土の土師器甕で、胴上半部を欠損する。調整は胴部内面ヘラナデ、外面はヘラケズリである。

4はカマド内から出土の鉄製品であるが、詳細は不明である。5は覆土中から出土の円盤状土製品であ

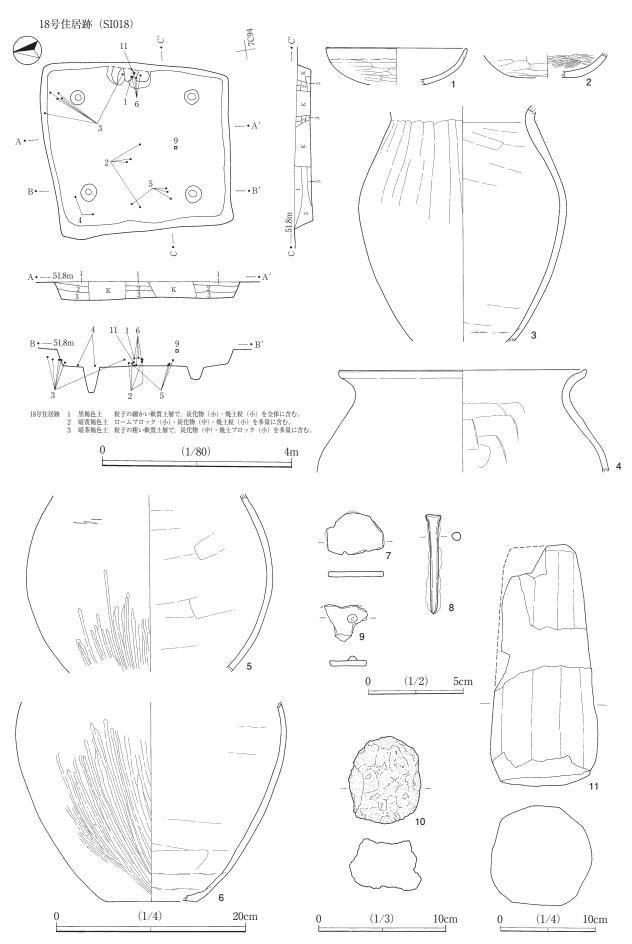


る。

## 18号住居跡 (SI018) (第30図, 図版8・23・24・34・37, 第2・3表)

本住居跡は、遺跡中央平坦部の7 C63グリッド付近に位置している。形状はS-79°-E方向に主軸があり、北壁と対面する南壁の長さが大きく異なる歪な方形となっている。規模は3.6m×4.0m、床面はほぼ平坦で、壁高は北壁付近で40cm、南壁付近で30cmである。柱穴は4本検出されており、間隔は東西方向で2 m、南北方向で2.2m~2.4mとなっている。深さは浅いもので30cm、深いもので60cmである。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1 層は粒子の細かい軟質の黒褐色土層で、炭化物・焼土粒を全体に包含している。2 層は暗黄褐色土層で、ロームブロック・炭化物・焼土粒を多量に含んでいる。3 層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、炭化物・焼土ブロックを多量に含んでいる。

カマドは東壁の中央に1基検出されたが、遺存状態が悪く天井部・袖部とも大部分が流出しており詳細な観察はできなかった。



第30図 18号住居跡·出土遺物

出土遺物は1はカマド内出土の土師器杯で、調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面はナデ、外面はヘラケズリである。2は床面直上出土の土師器杯で、調整は体部内面は丁寧なミガキ、外面はヘラケズリである。3はカマド内及び北壁付近の床面直上出土の土師器甕で、口縁部付近と底部付近を欠損する。調整は胴部内面はヘラナデ、外面はヘラケズリである。4は床面直上出土の土師器甕で、胴下半部を欠損する。口縁部は胴部から大きく『く』字状に外反する。調整は胴部内面はヘラナデ、外面はヘラケズリ後のナデである。5は床面直上出土の土師器甕で、口縁部付近及び底部付近を欠損する。調整は胴部内面はヘラナデ、外面はヘラケズリ後のナデ及び胴下半部は縦位のミガキである。6はカマド内出土の土師器甕で、胴上半部を欠損する。調整は胴部内面はヘラナデ、外面は縦位の丁寧なミガキで常総型の甕である。

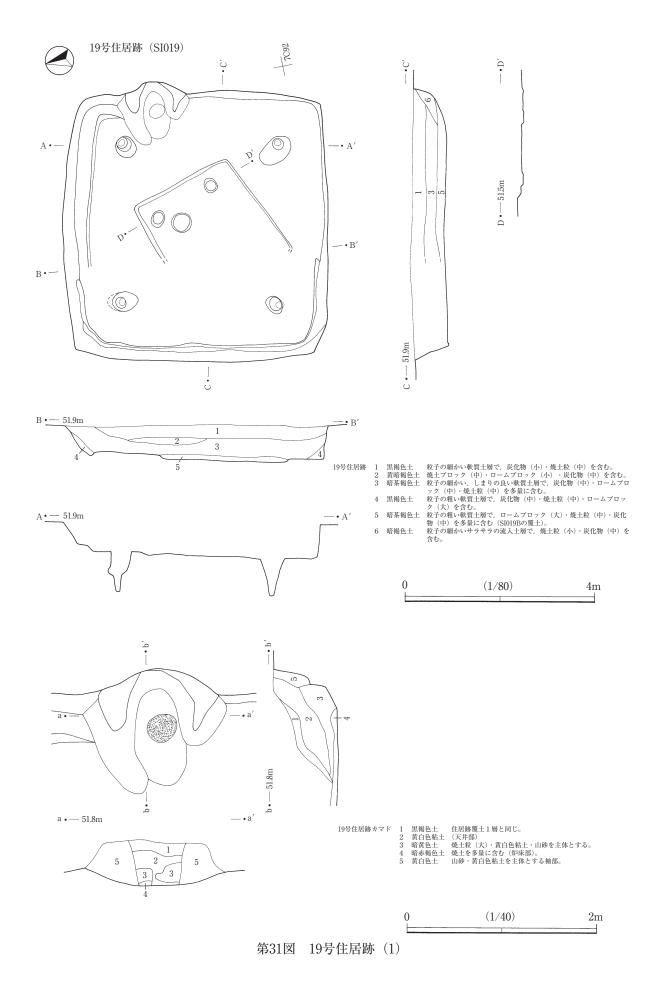
 $7 \sim 10$ は覆土中から出土した金属製品である。 $7 \cdot 9$ は扁平の薄い鉄片,8は鉄釘,10は鉄滓である。11はカマド内に据えられていた土製支脚で,表面をヘラ状工具で丁寧に面取りされている。

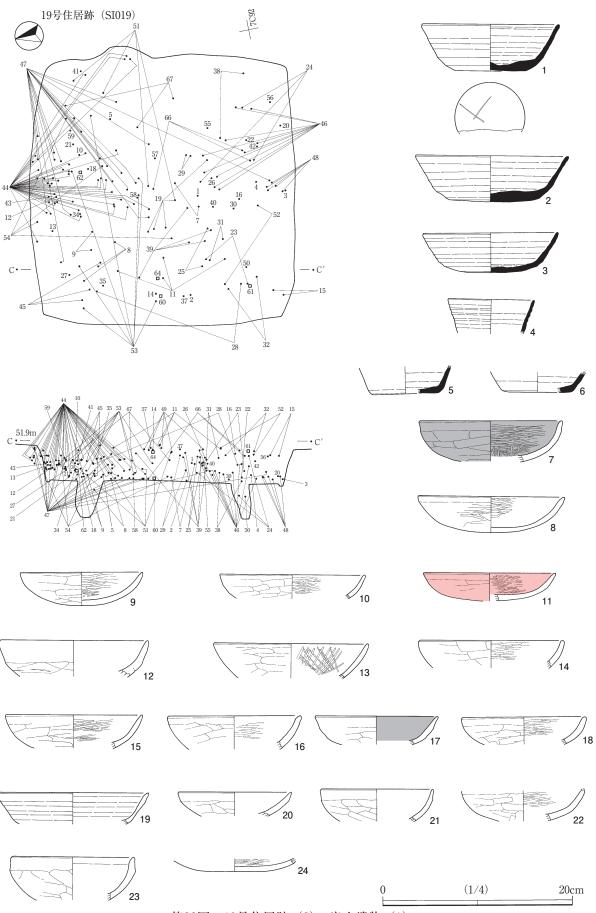
## 19号住居跡 (SI019) (第31~34図, 図版8·24·25·34·37, 第2·3表)

本住居跡は、遺跡中央平坦部の7 C81グリッド付近に位置している。形状はS-75°-E方向に主軸のある方形で、規模は5.8m×5.5m、床面は平坦で、壁高は東壁で80cm、西壁で70cmを計り非常に深い掘り込みとなっている。東壁を中心に全周の1/3ほどに壁溝が検出されたが、前年の調査部分である西側では壁溝は検出されていない。他の住居跡に比べて随所に企画性の見られる構造となっている。なお、床面精査時に1.1m×1.2mの方形の浅い遺構を検出したが、本住居跡と関わるものというよりも本住居跡構築以前に存在した遺構である可能性が高い。柱穴は4本検出され、間隔はいずれも3.3m、深さはいずれも80cm前後と非常に深い造りとなっている。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の細かい軟質の黒褐色土層で、炭化物・焼土粒を含んでいる。2層は黄暗褐色土層で、焼土ブロック・ロームブロック・炭化物を含んでいる。3層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗茶褐色土層で、炭化物・ロームブロック・焼土粒を多量に含んでいる。4層は粒子の粗い軟質の黒褐色土層で、炭化物・焼土粒・大粒のロームブロックを含んでいる。5層は床面精査時に検出された19号B遺構の覆土で、粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層。大粒のロームブロック・焼土粒・炭化物を含している。6層は粒子の細かいサラサラの暗褐色流入土層で、焼土粒・炭化物を含んでいる。6層は粒子の細かいサラサラの暗褐色流入土層で、焼土粒・炭化物を含んでいる。

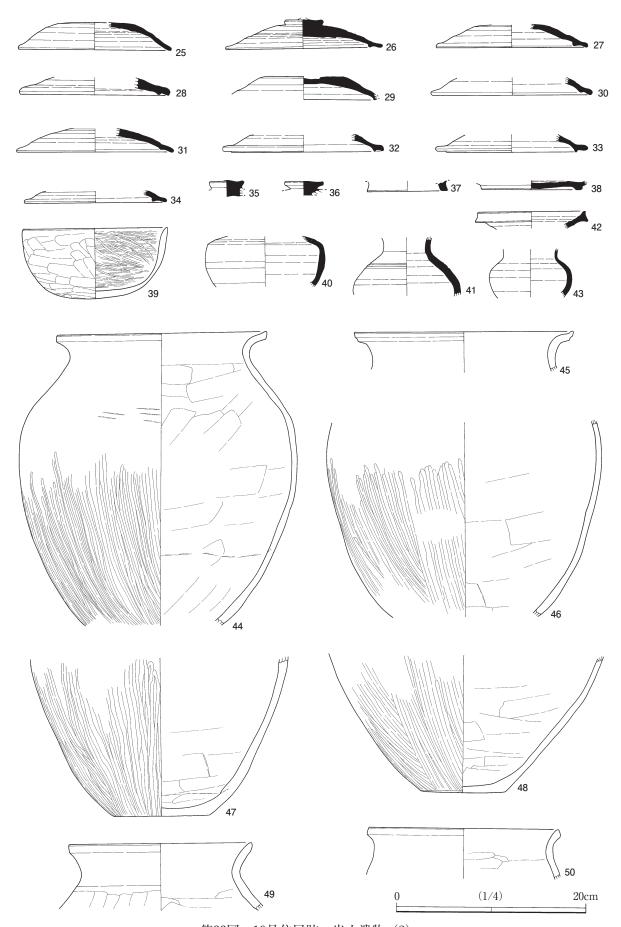
カマドは東壁の北東角に近い部分に1基検出された。住居の壁高が深いため、カマドの天井部は焚き口に向けて急な傾斜角となっている。山砂及び黄白色粘土を主体とする天井部はカマド内にやや押し込まれたようにずれ落ちているが遺存状態は良好である。また、袖部の片側に流出部分がみられるが、遺存状態は良好である。煙道部はカマド最深部付近で奥壁に沿って立ち上がる。炉床部は焼成により焼き固められ、多量の焼土が検出された。

本住居跡の出土遺物は非常に多く、今郡カチ内遺跡の中でも異彩を放っている。1は覆土中から出土した須恵器杯で、底部に線刻がある。調整は体部内外面ロクロナデ、底部は外方向のヘラケズリである。2は床面直上出土の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデ、底部は回転ヘラケズリである。3は南壁際の床面直上出土の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデ、底部は回転ヘラケズリである。4は床面付近の覆土出土の須恵器甕または瓶類の口縁部。調整は口縁部内外面ロクロナデである。5は床面付近の覆土中出土の箱形の須恵器杯で、体部内面ロクロナデ、底部は回転ヘラケズリ、外面は器面剥離が著しい。6は覆土中から出土した須恵器杯で、調整は体部なお外面ロクロナデ、底部は回転ヘラケズリである。7は床面直上出土の丸底の土師器杯で、調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面黒色処理及びミガキ、外面は

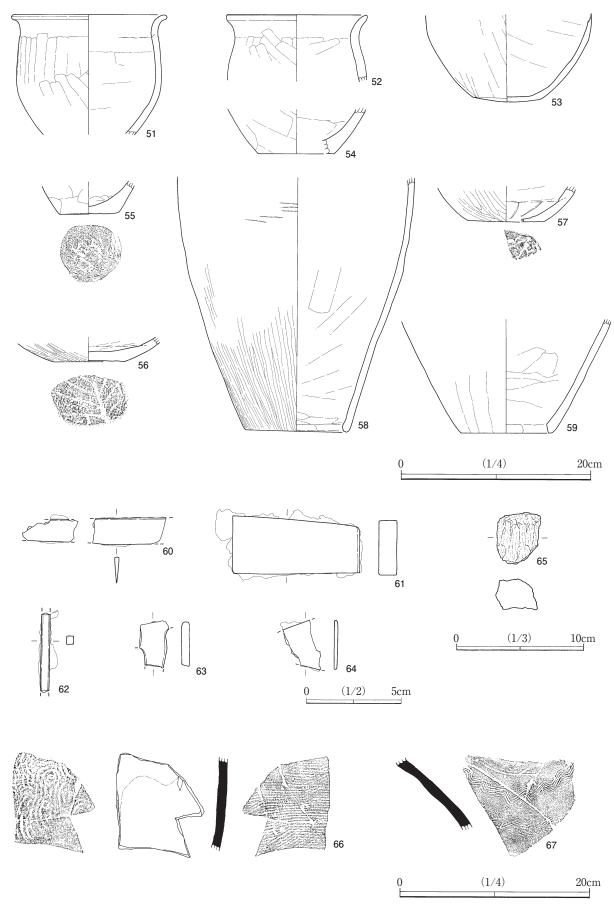




第32図 19号住居跡 (2)・出土遺物 (1)



第33図 19号住居跡・出土遺物 (2)



第34図 19号住居跡・出土遺物 (3)

黒色処理及びヘラケズリである。8は床面直上出土の丸底の土師器杯で,調整は口縁部外面ヨコナデ,体 部内面は丁寧なミガキ,外面はヘラケズリ後のミガキである。9は床面直上出土の丸底の土師器杯で,体 部内面はミガキ,外面はヘラケズリである。10は床面付近の覆土中出土の底部付近を欠損する土師器杯で, 調整は体部内面はミガキ,外面はヘラケズリである。11は覆土の上層部出土の丸底の土師器杯で,調整は 体部内外面は赤彩を施し、内面はミガキ、外面はヘラケズリである。12は北壁付近の覆土中出土の底部付 近を欠損する土師器杯で、調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面ナデ、外面はヘラケズリである。13も北 壁付近の覆土中出土の底部付近を欠損する土師器杯で、調整は体部内面は格子状暗文、外面はヘラケズリ である。今郡地区でこの類の暗文土器は前例が無かった。14は覆土中からの出土した底部付近を欠損する 土師器杯で、調整は体部内面はミガキ、外面はヘラケズリとなっている。15は南壁付近の覆土出土の底部 付近を欠損する土師器杯で,調整は体部内面はミガキ,外面はヘラケズリである。16は覆土中から出土し た底部付近を欠損する土師器杯で、調整は体部内面はミガキ、外面はヘラケズリである。17は覆土中から 出土した底部付近を欠損する土師器杯で、調整は口縁部外面ナデ、体部内面は黒色処理及びナデ、外面は ヘラケズリである。18は床面付近の覆土中出土の底部付近を欠損する土師器杯で、調整は体部内面はミガ キ,外面はヘラケズリである。19は覆土中から出土した底部付近を欠損する土師器杯で,調整は体部内外 面ロクロナデである。20は南壁際の床面付近出土の底部付近を欠損する土師器杯で、調整は口縁部外面ヨ コナデ、体部内外面黒色処理、内面ナデ、外面はヘラケズリである。21は床面直上出土の底部付近を欠損 する土師器杯で、口縁部外面ヨコナデ、体部内面ナデ、外面ヘラケズリである。22は床面直上出土の口縁 部付近及び底部付近を欠損する土師器杯で、調整は体部内面はミガキ、外面はヘラケズリである。23は覆 土中から出土した底部付近を欠損する土師器杯で、調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内外面黒色処理で、 内面はナデ、外面はヘラケズリである。24は覆土及び柱穴内から出土した底部のみ土師器杯で、調整は体 部内面ミガキ.外面はヘラケズリ後のミガキである。25は覆土出土の須恵器蓋で.宝珠付近を欠損する。 調整は体部内外面ロクロナデである。26は覆土出土の須恵器蓋で,調整は蓋部内外面ロクロナデ,宝珠付 近回転へラケズリである。27~29は覆土中から出土した須恵器蓋で、宝珠付近を欠損する。調整は蓋部内 外面ロクロナデ、宝珠付近は回転ヘラケズリである。30は床面付近の覆土中から出土した須恵器蓋で、宝 珠付近を欠損する。調整は蓋部内外面ロクロナデである。31は覆土出土の須恵器蓋で、宝珠付近を欠損す る。調整は蓋部内外面ロクロナデ、宝珠付近は回転ヘラケズリである。32は覆土中から出土した須恵器蓋 で、宝珠付近を欠損する。調整は蓋部内外面ロクロナデである。33は覆土中からから出土の須恵器蓋で、 宝珠付近を欠損する。調整は蓋部内外面ロクロナデである。34は覆土出土の須恵器蓋で、宝珠付近を欠損 する。調整は蓋部内外面ロクロナデである。35・36は覆土中から出土したの須恵器蓋の宝珠部分である。 37は覆土出土の須恵器の高台である。38は床面直上及び床面付近の覆土出土の須恵器の高台付盤で、底部 及び高台部分のみの遺存である。39は覆土中から出土した土師器椀で、調整は体部内面は繊細なミガキ、 外面はヘラケズリである。40は覆土出土の須恵器壺で,口縁部付近及び底部付近を欠損する。胴部内外面 ロクロナデ及び回転ヘラケズリである。なお、4の須恵器口縁部と同一個体の可能性もある。41は床面直 上出土の須恵器壺で、口縁部上半及び胴下半部を欠損する。調整は胴部内外面ロクロナデ、外面に自然釉 の付着が見られる。42は覆土中から出土した須恵器壺の口唇部付近である。43は覆土出土の須恵器壺で、 調整は胴部内外面ロクロナデである。44は北壁付近の覆土を中心に小破片となって散乱した状態で出土し た土師器甕。底部付近を欠損する長胴の甕である。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面へラナデ、外

面頸部ナデ、胴部外面ヘラケズリ及び胴下半部は縦位のミガキで常総型の甕である。45は床面付近の覆土 及び覆土中から出土の土師器甕の口縁部である。46は床面付近の覆土中出土の土師器甕で、胴上半部及び 底部付近を欠損する。調整は胴部内面はヘラナデ、外面は縦位の丁寧なミガキである。47は床面直上及び 床面付近の覆土出土の土師器甕で、胴上半部を欠損する。調整は胴部内面はヘラナデ、外面は縦位の丁寧 なミガキである。48は南壁際の床面付近の覆土出土の土師器甕で,胴上半部を欠損する。調整は胴部内面 はヘラナデ、外面は縦位の丁寧なミガキである。49は覆土中から出土した土師器甕で、口縁部付近のみの 遺存である。50は柱穴内から出土した土師器甕で、口縁部付近のみの遺存である。51は床面付近の覆土か ら出土した土師器小型甕で、調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ナデ、外面ヘラケズリである。52は 覆土出土の土師器小型甕で,胴下半部を欠損する。調整は口縁部内外面ヨコナデ,胴部内面ナデ,外面へ ラケズリである。53は床面付近の覆土から出土した土師器甕で,胴上半部を欠損する。調整は胴部内面は ヘラナデ、外面はナデである。54は床面直上及び覆土中から出土の土師器甕で、底部付近のみの遺存であ る。55は覆土中から出土の土師器小型甕の底部付近である。56は覆土出土の土師器小型甕の底部付近であ る。底部には木葉痕が見られ、調整は胴部外面の底部付近まで繊細な縦位のミガキが見られる。57は覆土 中から出土した土師器小型甕の底部付近である。58は床面直上出土の土師器の甑で, 胴上半部を欠損する。 調整は胴部内面はヘラナデ、外面はナデ及び底部付近に縦位の丁寧なミガキが見られる。59は覆土出土の 土師器の甑で,胴下半部1/3程部分の遺存である。調整は胴部内面ヘラナデ,外面はナデである。

60は床面直上出土の鉄製の刀子である。61は覆土上層から出土した厚みのある鉄製品で、用途等は不明である。62は床面付近の覆土出土の鉄釘である。63は覆土出土の扁平で薄い鉄片で、用途等は不明である。64は覆土出土の鉄製刀子である。65は覆土出土の軽石状遺物である。66は床面直上から出土の転用砥石で、須恵器甕の破片を再利用したものである。67も床面付近の覆土中から出土した転用砥石で、須恵器甕の破片を再利用したものである。

## **20号住居跡(SI020**)(第 9 図,図版35 · 25 · 37,第 2 表)

本住居跡は、遺跡中央平坦部の7 C32グリッド付近に位置している。形状はN-20°-E方向に主軸のある方形で、規模は5.0m×3.8mである。床面はほぼ平坦で、壁高は西壁付近で60cm、東壁付近で50cmとなっており、規模の割には深い掘り込みとなっている。柱穴は4本検出されており、間隔は東西方向で1.8m、南北方向で2.2mである。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1 層は粒子の細かいしまりの良い暗茶褐色土層で、炭化物を含んでいる。2 層は粒子の粗い軟質の黒褐色土層で、多量の炭化物を含んでいる。3 層は粒子の細かいしまりの良い暗褐色土層で、焼土・炭化物を多量に含んでいる。4 層は粒子の粗い軟質の茶褐色土層で、中粒のロームブロック・焼土・炭化物・黄白色粘土を含んでいる。5 層は粒子の粗い軟質の可褐色土層で、ローム粒・焼土を含んでいる。6 層は黒褐色土層で、後世に掘り込まれた土坑状の柵列跡の堆積土層。

カマドは北壁中央に1基検出された。山砂・黄白色粘土を主体とする天井部はややカマド内に押し込まれた状況であるが、袖部とともに遺存状態は良好である。煙道部内の内壁には付着した炭化物がみられ、カマドのほぼ中央には強い焼成を受けた焼土の堆積層があり炉床部と思われる。

出土遺物は住居跡の掘り込みの深さに比べて非常に少ない。1は覆土出土の丸底の土師器杯で、調整は体部内面は丁寧なミガキ、外面はヘラケズリである。2はカマド内出土の土師器杯で、底部付近を欠損する。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面は丁寧なミガキ、外面はヘラケズリである。3は覆土から出土

した土師器杯で、底部付近を欠損する。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面ミガキ、外面ヘラケズリである。4は床面付近の覆土出土の土師器甕の破片である。5・6はいずれも覆土中から出土の土師器甕の底部付近である。7はカマド内出土の土製支脚である。表面はヘラ状工具で面取りされた痕跡が見られる。21号住居跡(SI021)(第36図、図版9・26・34・36、第2・3・5表)

本住居跡は、遺跡中央平坦部の7 C15グリッド付近に位置している。形状はN-25°-E方向に主軸のある方形で、規模は3.3m×2.7mとなっている。床面はほぼ平坦で、壁高は西壁付近で100cm、東壁付近で90cmとなっている。柱穴は2本のみ検出された。間隔は1.2mで、深さは浅いもので15cm、深いもので50cmとなっている。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1 層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗褐色土層で、小粒のロームブロック・炭化物を多量に含んでいる。2 層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗褐色土層で、焼土粒・炭化物・黄白色粘土ブロックを多量に含んでいる。3 層は暗褐色土層で、大粒のロームブロックを含んでいる。4 層はソフトロームと暗褐色土を主体とする黄暗褐色土層。5 層は黒褐色土層で、後世に掘り込まれた土坑状の縦穴堆積土。

カマドは北壁中央に1基検出された。山砂・黄白色粘土を含むカマド天井部及び袖部はいずれも遺存状況は良好である。煙道部の内壁上面は燃焼により灰黒色化し、焼土粒・炭化物の付着がみられる。煙道部は炭化物・焼土粒を多量に含み、カマド奥壁付近で立ち上がるが、天井部の煙出し部分は確認できなかった。

出土遺物はいずれも小破片である。1はカマド付近から出土の須恵器蓋の宝珠部分である。2は覆土出土の須恵器蓋の上半部であるが、宝珠付近を欠損する。3はカマド付近から出土した土師器甕で、胴下半部を欠損する。調整は胴部内面へラナデ、外面ナデである。4はカマド付近出土の土師器甕で、口縁部付近のみ遺存する。調整は口縁部内外面ヨコナデである。5は床面直上出土の土師器甕で、胴下半部を欠損する。調整は胴部内面へラナデ、外面はナデである。6は覆土出土の土師器甕の口縁部小破片である。

7・8はカマド付近から出土し、7は鉄釘、8は砥石である。

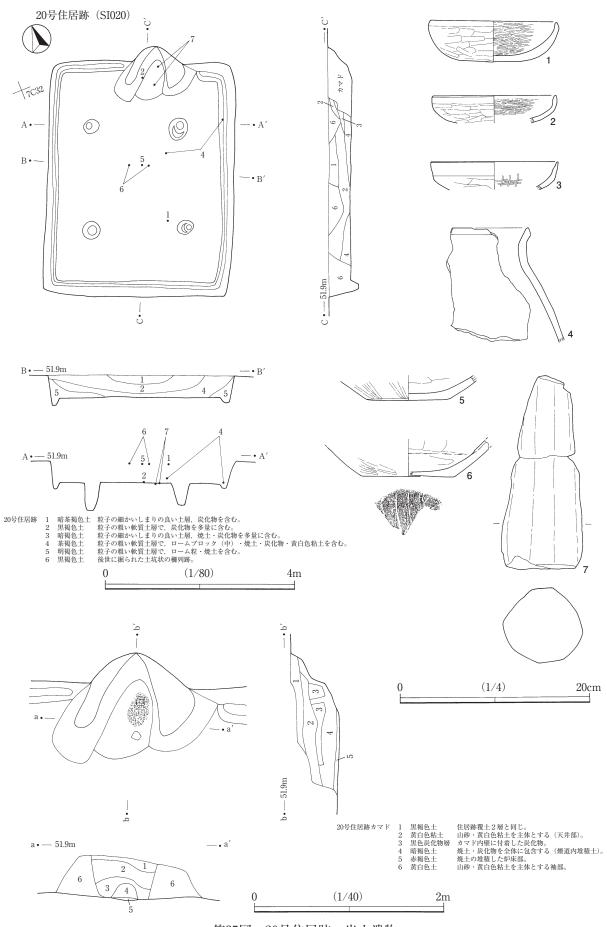
### **22号住居跡(SI022**)(第37図、図版 9、第 5 表)

本住居跡は、遺跡中央平坦部の6 C97付近に位置している。形状はN-10°-E方向に主軸のある方形で、規模は2.7m×3.3mとなっている。床面はほぼ平坦で、壁高は西壁付近で30cm、東壁付近で10cmである。柱穴は4本検出されており、間隔は東西方向で1.2m~1.4m、南北方向で1 mとなっている。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1 層は粒子の細かい軟質の暗褐色土層で、焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。2 層は粒子の細かい軟質の黄暗褐色土層で、焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。

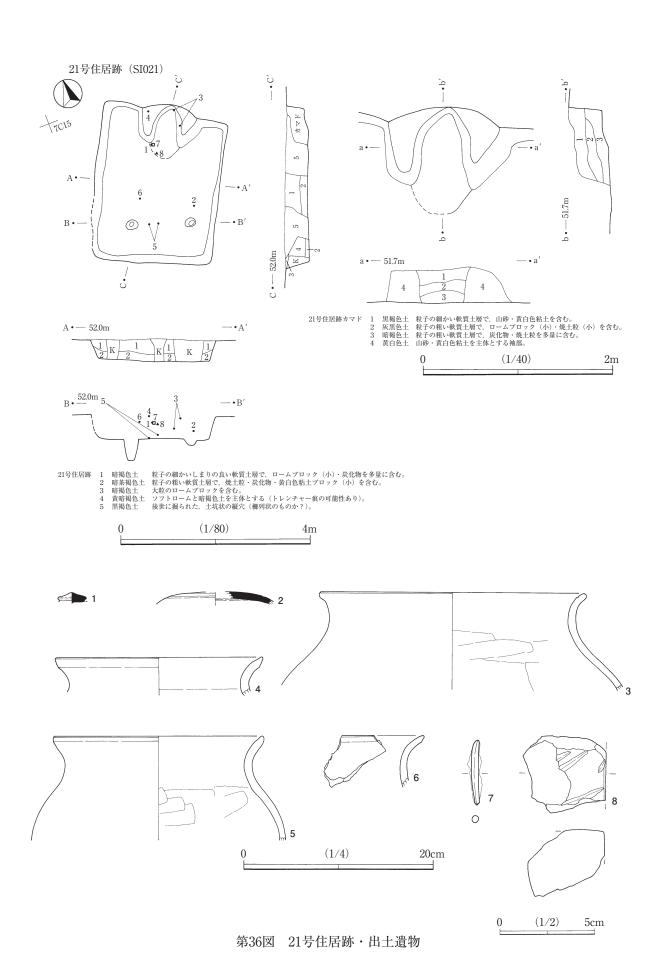
カマドは北壁のやや東寄りの部分に1基検出されたが、カマドの中央をトレンチャーにより攪乱を受けているため、天井部は半分ほどが遺存している。煙道部も半分ほどの遺存であるが、山砂・焼土粒を多量に含んでいる。黄白色粘土を主体とする袖部は上半部を流失しているが、基底部の遺存状態は良好である。出土遺物は、2点とも覆土中から出土した磨石で、使用により表面が扁平になっている。

## **23号住居跡(SI023**) (第38·39図, 図版 9·26·34, 第2·3表)

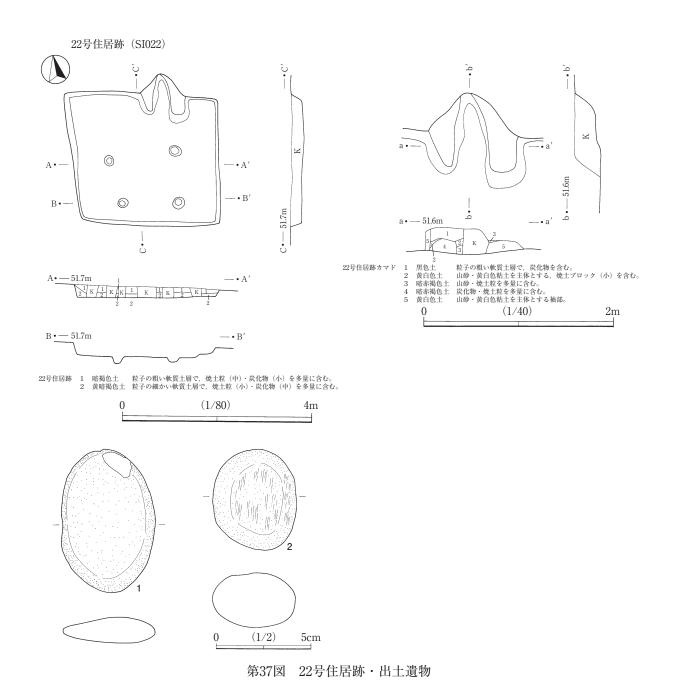
本住居跡は、遺跡中央平坦部6 C75付近に位置している。形状はN-15°-E方向に主軸のある方形で、規模は3.6m×3.6mとなっている。床面はほぼ平坦で、壁高は西壁付近で70cm、東壁付近では60cmである。南壁の一部が未検出であったがほぼ全周する壁溝が見られる。柱穴は4本検出され、間隔は東西方向で1.2m~1.4m、南北方向で1.6m~1.8mである。深さは50cm~60cmでいずれも深い掘り込みとなっている。



第35図 20号住居跡・出土遺物



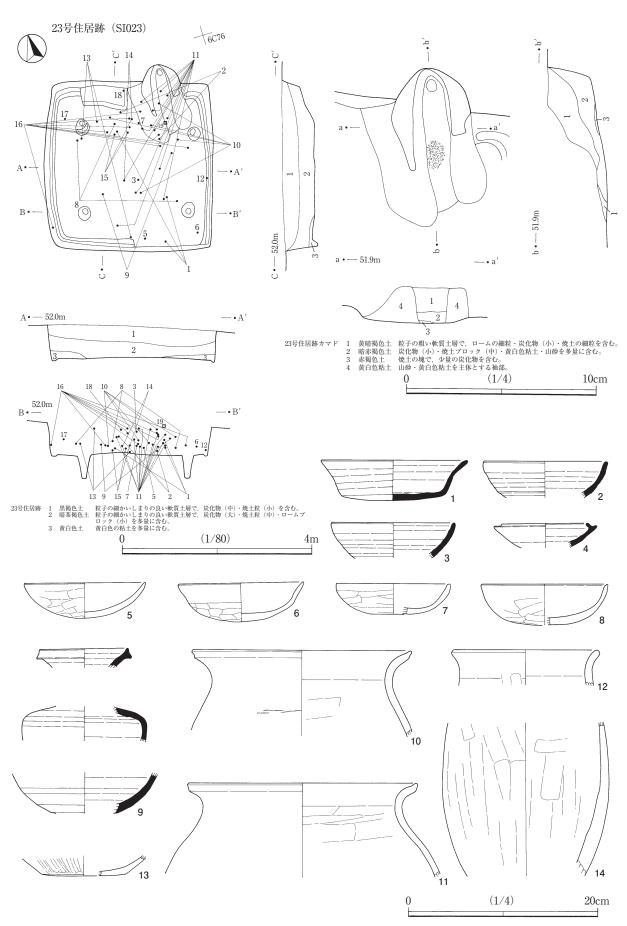
— 48 —



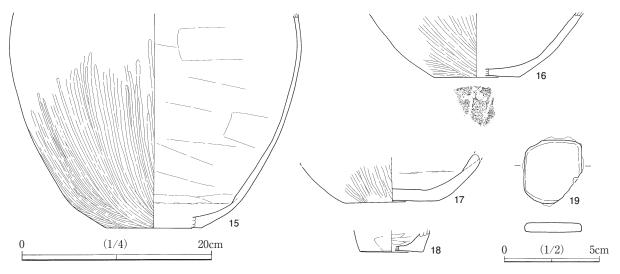
住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の細かいしまりの良い軟質の黒褐色土層で、炭化物・焼土粒を含んでいる。2層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗茶褐色土層で、大粒の炭化物・焼土粒・小粒のロームブロックを含んでいる。3層は黄白色の粘土を主体とする黄白色粘土層。

カマドは北壁のやや東寄りの部分に1基検出された。長軸方向にやや長い形状で、天井部・袖部ともに 遺存状態は良好である。煙道部は炭化物・焼土ブロック・黄白色粘土・山砂を多量に含んでいる。炉床部 は焼成のため堅く焼きしめられているが、これよりやや奥壁寄りの部分に焼土塊及び少量の炭化物が検出 された。

出土遺物はいずれも覆土の床面に近い所から検出された。1は須恵器杯で、底部は若干丸みをおびている。調整は体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラケズリである。2はカマド付近から出土した須恵器杯で、体部は椀状の立ち上がりで底部付近を欠損する。調整は体部内外面ロクロナデ、外部口縁部付近回転ヘラ



第38図 23号住居跡・出土遺物 (1)



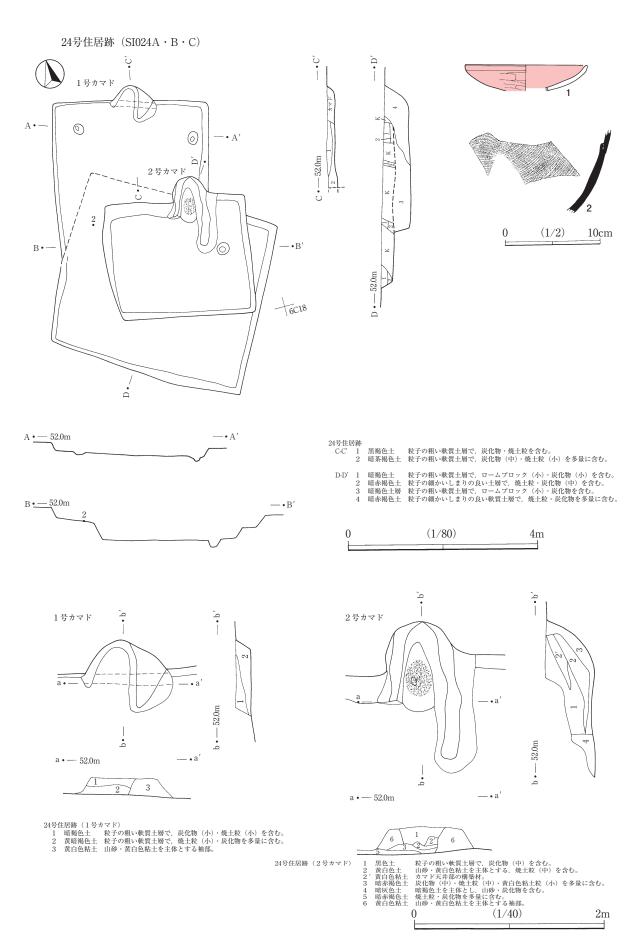
第39図 23号住居跡・出土遺物 (2)

ケズリである。3は須恵器杯で、底部付近を欠損する。調整は体部内外面ロクロナデ、外部口縁部付近回 転ヘラケズリである。4は須恵器杯で、口唇部内側に受部のカエリが有るタイプである。調整は体部内外 面ロクロナデである。5は丸底の土師器杯で、調整は体部内面ナデ、外面ヘラケズリである。6は東壁付 近出土の丸底の土師器杯で、比較的幅の広い口縁部をもつ。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面ナデ、 外面ヘラケズリである。7はカマド付近出土の丸底の土師器杯で,調整は口縁部外面ヨコナデ,体部内面 ナデ、外面へラケズリである。8は丸底の土師器杯で、調整は体部内面ナデ、外面へラケズリである。9 は須恵器壺で、口縁部の一部、体部の一部、底部付近をそれぞれ欠損する。調整は体部内外面ロクロナデ で、外面には自然釉の付着が見られる。10はカマド付近出土の土師器甕で、胴下半部を欠損する。調整は 口縁部内面ヨコナデ、胴部内外面ナデである。11はカマド及び炉の付近を中心に拡散する土師器甕で、胴 部下半部を欠損する。調整は口縁部内面ヨコナデ、胴部内外面ナデである。12は東壁際の床面直上から出 土した土師器甕で、口縁部付近のみの遺存である。調整は口縁部内外面ヨコナデ、頸部外面ヘラケズリで ある。13は土師器甕の底部付近である。14はカマド脇から出土した長胴の土師器甕で、口縁部分及び底部 付近を欠損する。調整は胴部内面は器面剥離が著しく、外面は粗いミガキである。15はカマド脇の床面直 上から出土した土師器甕で、胴上半部を欠損する。調整は胴部内面へラナデ、外面は丁寧な縦位のミガキ である。16はカマド周辺を中心に拡散する土師器甕の底部付近で、調整は胴部内面は器面剥離が著しく、 外面は丁寧なミガキである。17は西壁付近出土の土師器甕で,底部付近のみの遺存である。調整は胴部内 面へラナデ、外面は丁寧な縦位のミガキである。18は土師器小型甕で、底部付近のみの遺存である。

19はカマド袖部付近から出土した扁平な鉄板状のもので、用途等は不明である。

### **24号住居跡(SI024**)(第40図,図版10·28,第2表)

本住居跡は、遺跡中央平坦部6 C07グリッド付近に位置している。3軒の住居跡が重複している。24号 A住居跡は最初に構築された住居跡と思われる。形状はN-14°-E方向に主軸のある方形で、規模は3.2 m×3.4mとなっている。床面はほぼ平坦で、壁高は西壁付近・東壁付近ともに20cmほどである。柱穴は2本検出されており、間隔は2.3m、深さは10cm~15cmときわめて浅い。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の粗い軟質の黒褐色土層で、炭化物・焼土粒を含んでいる。2層は粒子の粗い



第40図 24号住居跡・出土遺物

軟質の暗茶褐色土層で、炭化物・焼土粒を多量に含んでいる。

1号カマドは小規模で、天井部及び片側の袖部は流失しており、トレンチャーによる攪乱もあるが残存部分の状況は観察可能であった。煙道部は炭化物・焼土粒を含み。煙道部は焚き口付近が押しつぶされた状況で、焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。

24号 B 住居跡は24号 A 住居跡の南東角を切り込む状況で構築されている。形状は24号 A 住居跡の主軸と平行するN-14°-E 方向に主軸のある方形で、規模は2.4m×3.0mとなっている。床面はほぼ平坦で、壁高は西壁付近・東壁付近ともに60cmほどである。柱穴は1本のみ検出されており、深さは20cmときわめて浅い。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。4層は粒子の粗い軟質の暗褐色土層で、ロームブロック・炭化物を含んでいる。5層は粒子の細かいしまりの良い暗赤褐色土層で、焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。

2号カマドは片側の袖部は流出しており、天井部分も大きく陥没している。煙道部は炭化物・焼土粒・ 黄白色粘土粒を多量に含み、カマド奥壁に沿って立ち上がる。煙出し部分は天井部構築材の流入のため色 調の変化に乏しく確認できなかった。炉床部は堅く焼きしめられており、上部に多量の焼土粒・炭化物の 堆積がみられた。

24号 C 住居跡は24号 B 住居跡廃絶後に構築された最も新しい住居跡と思われる。形状は3.5×4.2mとなっている。壁高は西壁付近で25cm, 東壁付近で30cmとなっている。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の粗い軟質の暗褐色土層で、ロームブロック・炭化物を含んでいる。2層は粒子の細かいしまりの良い暗赤褐色土層で、炭化物を含んでいる。3層はトレンチャーによる攪乱。

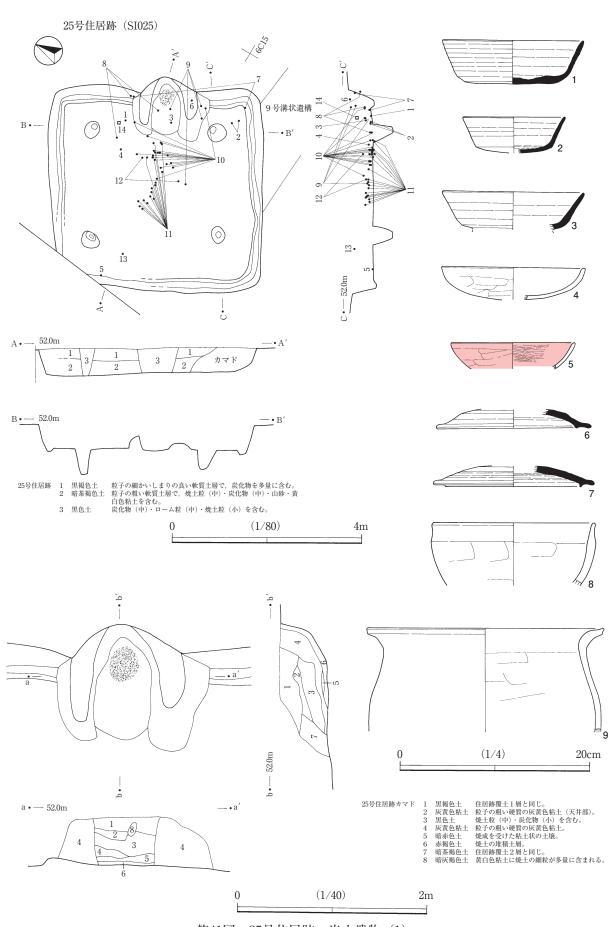
出土遺物は2点のみで、覆土中から出土した。住居跡が複雑な重複しており、いずれの住居跡に帰属するものかは不明である。1は土師器杯で、体部内外面に赤彩が施され、底部付近を欠損する。調整は口縁部外面ヨコナデ、外面ヘラケズリである。2は須恵器甕の小破片である。

# **25号住居跡(SI025**)(第41·42図, 図版10·26·27·34, 第2·3表)

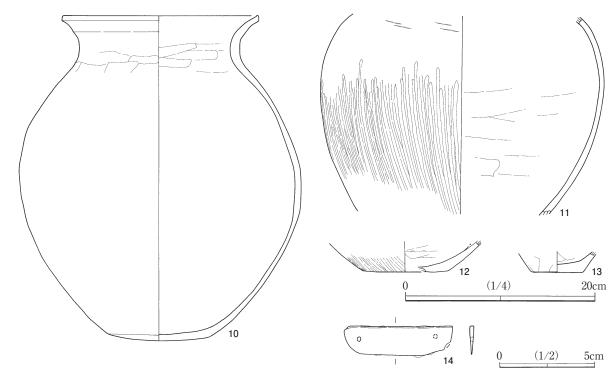
本住居跡は、遺跡中央平坦部6C14グリッド付近に位置している。形状はN-60°-E方向に主軸のある方形で、規模は4.2m×4.6mとなっている。床面はほぼ平坦で、壁高は北西壁付近で50cm、南東壁付近で60cmである。壁溝が住居跡床面をほぼ全周する。柱穴は4本検出され、間隔は東西方向で2.6m~2.7m、南北方向で2.2m~2.3mで、深さは浅いもので40cm、深いもので60cmとなっている。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の細かいしまりの良い軟質の黒褐色土層で、多量の炭化物を含んでいる。2層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、焼土粒・炭化物・山砂・黄白色粘土を含んでいる。3層は黒色土層で、炭化物・ローム粒・焼土粒を含んでいる。

カマドは北東壁のやや中央に1基検出された。天井部は押しつぶされてカマド内に落ち込んでおり、一部は流出している。袖部の遺存状態は良好であるが、カマド内壁に崩落か所もみられる。煙道部は焼土粒・炭化物を含み、カマド奥壁付近で立ち上がるが、天井部の崩落により全体に圧縮されている。炉床部はカマド奥壁近くにあり、堅く焼きしめられブロック状の焼土の堆積がみられた。

出土遺物はいずれも床面直上及び床面付近の覆土から出土した。1 はカマド脇出土の箱形の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデ、底部は手持ちヘラケズリである。2 は東角付近から出土した丸底の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデである。3 はカマド内出土の須恵器の高台付杯で、底部付近を一部欠損する。調整は体部内外面ロクロナデである。4 はカマド付近出土の丸底の土師器杯で、調整は体部内面



第41図 25号住居跡・出土遺物 (1)



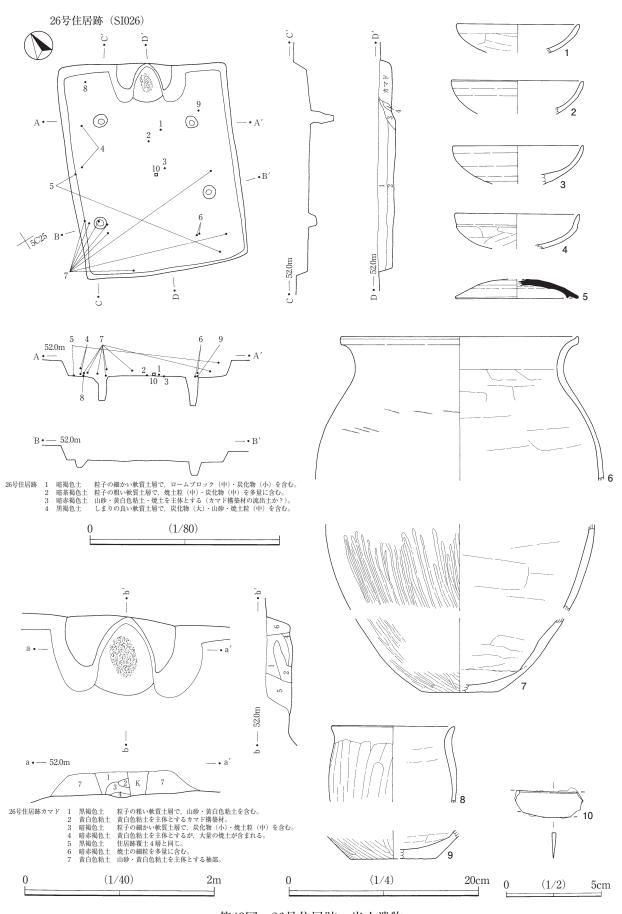
第42図 25号住居跡・出土遺物 (2)

ナデ、外面はヘラケズリである。5は西壁際から出土の土師器杯で、底部付近を欠損するが丸底である。調整は体部内外面に赤彩が施されており、体部内面は丁寧なミガキ、外面はヘラケズリである。6はカマド付近出土の須恵器蓋で、蓋上半部を欠損する。調整は二部内外面ロクロナデである。7は東角際出土の須恵器蓋で、蓋上半部を欠損する。調整は二部内外面ロクロナデ、欠損部に近い部分では回転ヘラケズリである。8はカマド内及びカマド周辺から出土の土師器の鉢で、底部付近を欠損する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ、外面ヘラケズリである。9はカマド付近から出土の土師器甕で、胴下半部を欠損する。調整は胴部内面ヘラナデ、外面ナデである。10はカマド前面から出土の土師器甕で、調整は口縁部内外面ヨコナデ、外面ヘラケズリ後のナデである。11は住居跡のほぼ中央から出土の土師器甕で、口縁部付近及び底部付近を欠損する。調整は胴部内面ヘラナデ、外面は縦位のミガキである。12は住居跡のほぼ中央から出土の土師器甕で、底部付近のみの遺存である。13は覆土出土の土師器甕の底部付近である。

14はカマド脇から出土の鉄製の穂苅具である。

## **26号住居跡(SI026**) (第43図. 図版10・27・34. 第2・3表)

本住居跡は、遺跡中央平北部5 C25グリッド付近に位置している。形状はN-25°- E方向に主軸のある方形で、規模は4.6m×3.6mとなっている。床面はほぼ平坦で、壁高は西壁付近で30cm、東壁付近で25cmである。柱穴は4本検出され、間隔は東西方向で2.0m~2.4m、南北方向で1.5m~2.2mで、深さは浅いもので20cm、深いもので60cmとなっている。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の細かい軟質の暗褐色土層で、中粒のロームブロック・炭化物を含んでいる。2層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。3層は山砂・黄白色粘土・焼土を主体とする暗赤褐色



第43図 26号住居跡・出土遺物

土層。4層はしまりの良い軟質の黒褐色土層で、大粒の炭化物・山砂・焼土粒を含んでいる。

カマドは北壁の中央に1基検出されているが、壁面を掘り込むことなく構築されている。カマド中央をトレンチャーによる攪乱を受け、山砂・黄白色粘土を主体とする天井部は半分ほどの遺存である。煙道部は全体に焼土で充填されているが、カマドの奥壁付近では焼土粒を多量に含んだ黒色土の流入がみられる。

出土遺物はいずれも床面直上または床面付近の覆土中からの出土である。1は丸底の土師器杯で、底部付近を欠損する。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面ナデ、外面ヘラケズリである。2はカマドの焚き口付近から出土した土師器杯で、底部付近を欠損するが丸底である。調整は体部内面ナデ、外面はロクロナデである。3は丸底の土師器杯で、底部付近を欠損する。調整は体部内面ナデ、外面はロクロナデである。4は丸底の土師器杯で、口縁部と体部の境に稜をもつタイプの杯である。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面ナデであるが器面剥離が著しく、外面はヘラケズリである。5は須恵器蓋で、宝珠付近を欠損する。調整は二部内外面ロクロナデである。6は土師器甕で、胴下半部を欠損する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面はナデ及びヘラケズリである。7は覆土出土の土師器甕で、胴上半部を欠損する。調整は胴部内面ヘラナデ、外面は縦位の粗いミガキである。8は土師器の小型甕で、胴下半部を欠損する。調整は口縁部外面ヨコナデ、胴部内面ヘラナデ、外面へラケズリである。9は土師器甕の底部付近である。

10は鉄製刀子の刃部である。

#### **27号住居跡(SI027**)(第44図、図版10·27、第2表)

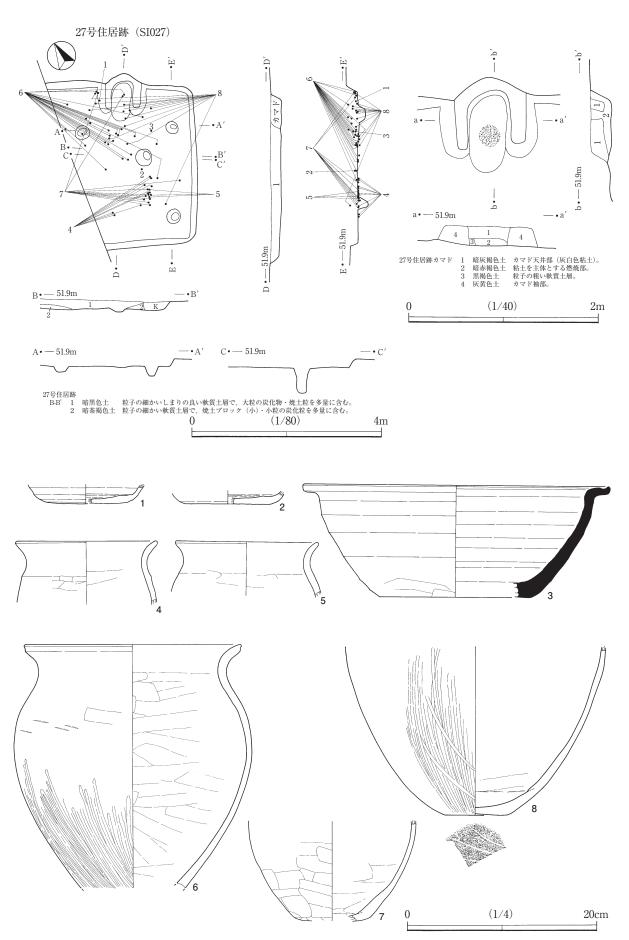
本住居跡は、遺跡中央北部7C30グリッド付近に位置する。住居跡の北西角から南西壁中央にかけて袈裟懸け状に境界が走り、西側は調査区外のため未調査である。形状はN-28°- E方向に主軸のある方形で、規模は3.2m×3.0mとなっている。床面はほぼ平坦で、壁高は北壁付近で25cm、南壁付近で20cmである。柱穴は主柱穴3本と補助的なもの1本が検出された。間隔は東西方向で2m、南北方向で1.8mである。深さは浅いもので20cm、深いもので50cmである。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗黒色土層で、大粒の炭化物・焼土粒を多量に含んでいる。2層は粒子の細かい軟質の暗茶褐色土層で、焼土ブロック・炭化粒を多量に含んでいる。

カマドは北東壁の中央に1基検出された。灰白色粘土を主体とする天井部及び袖部の遺存状態は良好である。煙道部はカマド奥壁に沿って立ち上がり、掛け口の痕跡も確認された。

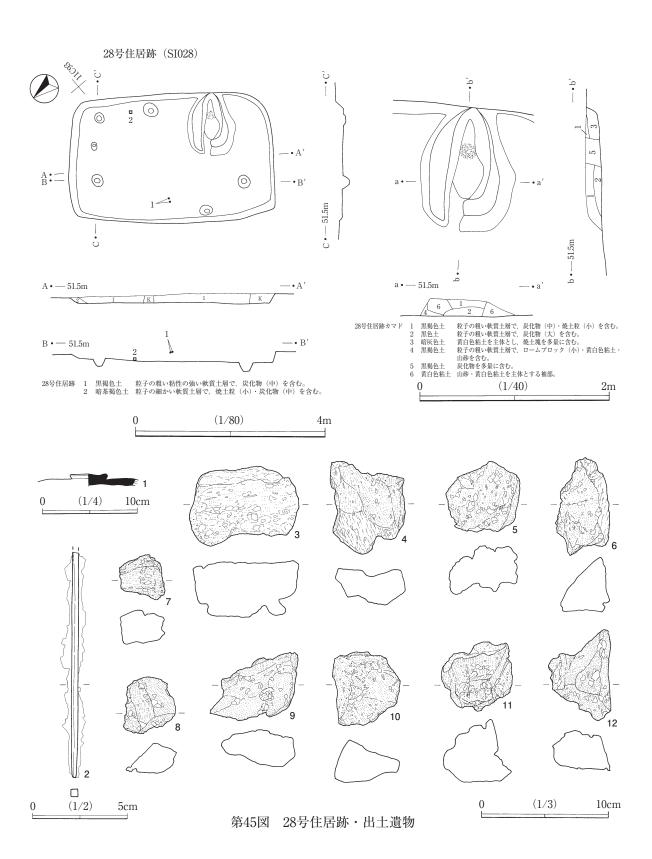
出土遺物はいずれも床面直上または床面付近の覆土中からの出土である。1は土師器杯で、口縁部付近を欠損する。調整は体部内外面ロクロナデで内面は黒色処理されており、底部回転ヘラケズリである。2は土師器杯の底部である。3はカマドの焚き口付近から出土した須恵器鉢で、体部に続く口唇部は大きく外に開いている。調整は体部内外面ロクロナデ、底部付近はヘラケズリである。4は土師器小型甕で、胴下半部を欠損する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリである。5は土師器小型甕で、胴下半部を欠損する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリである。6はカマド周辺から出土した土師器甕で、底部付近を欠損する。7はカマド内出土の土師器甕で、胴上半部を欠損する。調整は胴部内面ヘラナデ、外面へラケズリである。8はカマド内出土の土師器甕で、胴上半部を欠損する。底部には木葉痕が見られ、調整は胴部内面ヘラナデ、外面は縦位のミガキである。

### **28号住居跡(SI028**)(第45図,図版11·27·37·38,第2·3表)

本住居跡は、遺跡中央11 C 92 グリッド付近に位置している。形状はN-38°-E 方向に主軸のある方形で、規模は2.8m×4.4mできわめて横長の遺構となっている。床面はほぼ平坦で、壁高は比較的浅く北東壁付



第44図 27号住居跡・出土遺物



近で20cm, 南西壁付近で10cmである。主柱穴は5本検出されており, さらに北西壁沿いには小規模の補助的な柱穴が1本検出されている。それぞれの柱穴は変則的な位置取りであり, 規格性を感じられない。深さはそれぞれ20cmほどである。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の粗い粘性の強い軟質の黒褐色土層で, 炭化物を含んでいる。2層は粒子の粗い軟質の黄暗褐色流入土層。

カマドは北東壁の北東角に近いところに1基検出された。遺構の規模に比して大きなカマドである。カマドの焚き口付近は天井部が崩落しており、煙道部は最深部の奥壁付近のみ遺存している。堅く焼きしめられた炉床部の上部には掛け口からの流入土がみられた。また、カマド周辺の覆土から軽石状遺物が多数出土している。本遺構の掘り込みが浅いため、検出された軽石状遺物は限られたものと考えられるが、鍛冶工房で使用される小規模な溶解炉の構築材であると考えられる。

本遺構の出土遺物の特徴は、鉄製釘及び軽石状遺物が検出されたことである。 1 は覆土中から出土した 須恵器蓋で、扁平な宝珠付近のみの遺存である。調整は蓋部内外面ロクロナデ、宝珠付近は回転ヘラケズ リである。 2 は床面直上から出土したやや長さのある鉄製釘で、上部を欠損している。  $3\sim12$ は覆土中から検出された軽石状遺物である。第453図  $3\cdot11\cdot12$ は外面が平坦面であり、第43図  $4\sim6\cdot9\cdot10$ は外面が緩やかな曲線を描き、第45図  $7\cdot8$  は外面に鋭い角を有している。

## **29号住居跡(SI029)**(第11図, 図版27·34·37, 第2·3表)

本住居跡は、遺跡中央の平坦部8 C53グリッド付近に位置している。形状は北東壁がやや湾曲気味の方形で、規模は3.0m×2.6mである。床面はほぼ平坦で、壁高は非常に浅く15cmほどである。柱穴は4本検出されており、間隔は東西方向で1.8m、南北方向で1.2m~1.5mである。深さはそれぞれ10cm~15cmである。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1 層は粒子の粗い軟質の暗褐色土層で、炭化物・焼土を含んでいる。2 層はトレンチャーによる攪乱。

本住居跡にはカマドは無く、床面には白色粘土帯で囲まれた炉跡が存在する。白色粘土帯は一部が流出しているが、同心円状に炉を囲んでいたと推定され、炉内にはブロック状の粘土が多数崩落していた。炉の内部には焼土ブロック・黄白色粘土ブロック・炭化物を含む層、黄白色粘土による炉の構築材の残存部分、焼土粒を多量に含む層が堆積している。炉床部は強い焼成を受け焼土ブロック化した粘土がみられた。これらの状況から本炉跡は鍛冶炉であると考えられる。

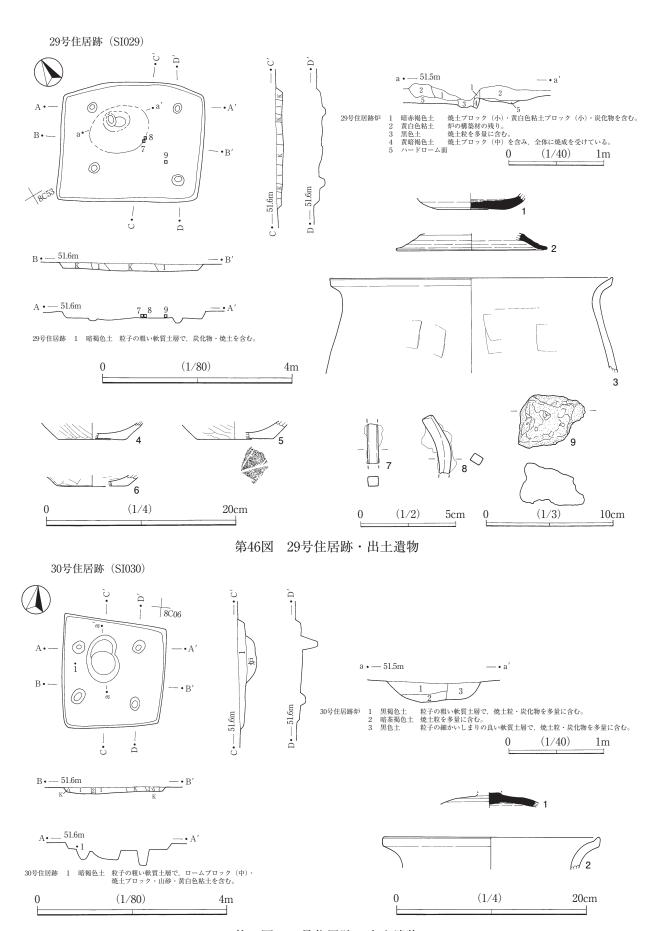
出土遺物は小破片の土器と金属製品で、いずれも覆土からの出土である。1は須恵器杯の底部付近で、調整は体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラケズリである。2は須恵器蓋で、蓋上半部を欠損する。調整は蓋部内外面ロクロナデ、外面欠損部付近回転ヘラケズリである。3は土師器甕で、胴下半部を欠損する。調整は胴部内面ヘラナデ、外面ナデである。4~6は土師器甕の底部付近である。

7・8は炉を囲む白色粘土帯の脇から出土した鉄製釘である。9は床面直上出土の鉄滓である。

## **30号住居跡(SI030**)(第47図, 図版11·27, 第1表)

本住居跡は、遺跡中央平坦部の8 C05グリッド付近に位置している。形状は方形で、規模は2.4m×2.2 mで小型の遺構である。床面はほぼ平坦で、壁高はきわめて浅く、北壁付近で20cm、南壁付近で5 cmほどである。柱穴は4本検出され、間隔は東西方向で2.2m、南北方向で2 mとなっている。深さは浅いもので10cm、深いもので40cmである。

床面には柱穴に囲まれるように小規模な炉跡が検出された。29号住居跡で検出された炉と比べると粘土 状の構築材は少量で、炉内には焼土粒・炭化物を多量に含む層、多量の焼土粒を含む層、焼土粒・炭化物



第47図 30号住居跡・出土遺物

を多量に含む層が堆積している。また、炉床部は焼成により硬化した粘土であることから、本炉跡も鍛冶炉であると考えられる。

出土遺物はいずれも小破片の土器のみである。1は床面直上出土の須恵器蓋で、宝珠部分と蓋下半部を 欠損する。調整は蓋内面ロクロナデ、外面は回転ヘラケズリである。2は覆土中から出土した土師器甕で、 口縁部のみの遺存である。

## **31号住居跡(SIO31)**(第48図, 図版12 · 28 · 34, 第 2 · 3 表)

本住居跡は、遺跡北部4 C86グリッド付近に位置している。形状はN-13°- E方向に主軸のある方形で、規模は2.8m×2.8mで小型の住居跡である。床面はほぼ平坦で、壁高いずれの壁付近でも30cmほどである。柱穴は4本検出されており、間隔は東西方向で1.7m、南北方向で1 mで、深さは比較的浅く、10cm~20 cmとなっている。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1 層は粒子の細かいしまりの良い軟質の黒色土層で、炭化物を含んでいる。2 層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、中粒のロームブロック・焼土粒・炭化粒を多量に含んでいる。

カマドは、北壁中央に1基検出されたが、カマドの主要部分は押しつぶされた状態となっている。天井 部は攪乱のため一部が流出しているが、袖部とともに遺存状態は良好である。煙道部は焚き口付近では遺 損するが、天井部の崩落により後半部分は確認できない。炉床部は強い焼成を受け焼土の堆積がみられる。

出土遺物はいずれも小破片のみで床面直上及び床面付近の覆土からの出土である。1は土師器甕で、口縁部及び胴部の一部の遺存である。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面へラナデ、外面はナデ及び縦位の丁寧なミガキである。

2は鉄製品で、遺損する部分は楕円形の薄板である。用途等は不明である。

### **32号住居跡(SI032**)(第49図,図版12・37)

本住居跡は、遺跡中央平坦部4 C76グリッド付近に位置している。調査区境界により、住居跡の角付近の4.2m×0.8mほどが僅かに検出されたのみで大半は東側の民有地内に所在するため詳細な規模は不明である。住居跡の覆土の堆積状況は南北に走るトレンチャーによる攪乱で観察不可能であった。

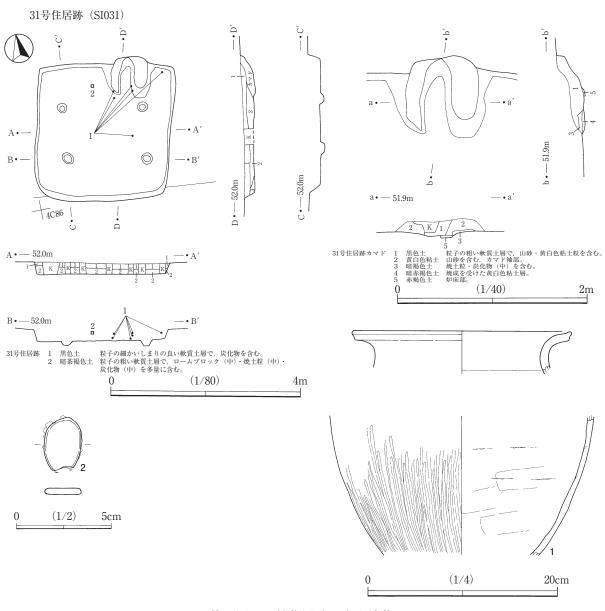
## 33号住居跡 (SI033) · 34号住居跡 (SI034) (第50~52図, 図版12 · 34 · 36~39, 第3 · 5表)

本住居跡は、遺跡南部12 C 20 グリッド付近に位置している。遺構検出当初は一つの遺構と考えられたが、精査の結果ほぼ中央を南北に走る溝状遺構(SD011)によって分断されていることが判明した。また、西側と東側の遺構では南北方向の遺構幅が異なることから別の遺構であると判断した。なお、両遺構の間を通る溝状遺構は、島根県栗目 I 遺跡で検出された製鉄炉遺構の鉄滓や炉壁の流し場と見るならば、両遺構は関連する製鉄工房である可能性もある。

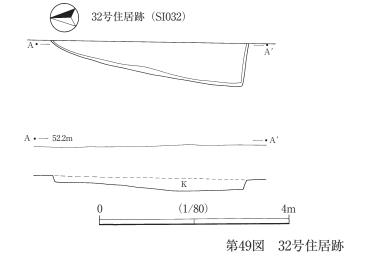
33号住居跡は、3.0m×2.2mの規模が確認でき、壁高は東壁付近で30cmである。柱穴は3本が検出され、間隔は東西方向で1.4m、南北方向で1 mで、深さは浅いもので10cm、深いもので20cmである。北壁と溝状遺構が交差する付近の床面には楕円形と思われる土坑が1 基検出されている。

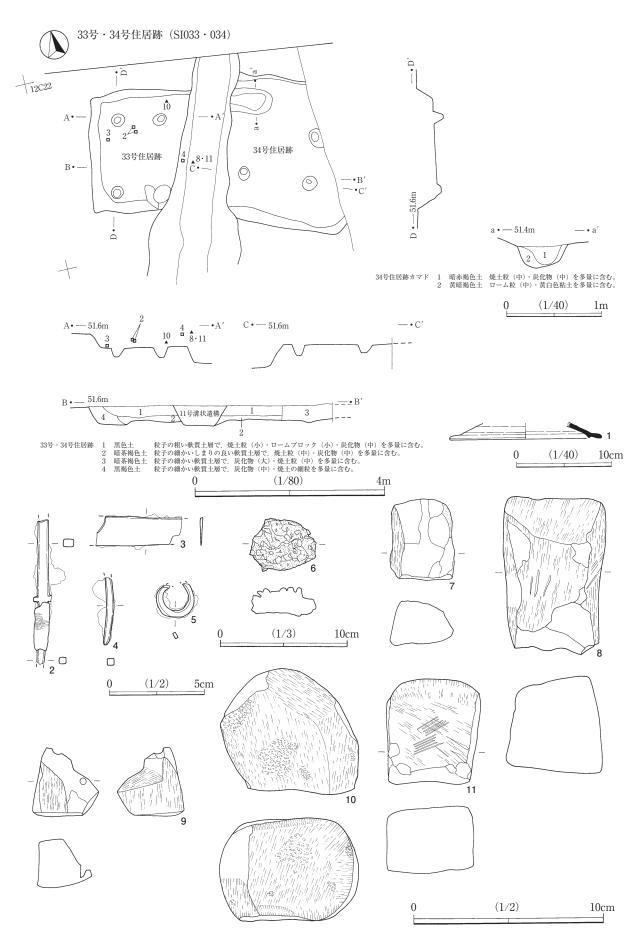
34号住居跡は、2.6m×2.2mの規模が確認でき、壁高は北壁付近で40cm、南壁付近で50cmである。柱穴は3本が検出され、間隔は東西方向で0.9m、南北方向で1.5mで、深さは浅いもので10cm、深いもので20cmである。南壁には溝状遺構と交差する部分にカマドの痕跡が確認されたが、大半の部分は流失しており詳細は不明である。

33号・34号住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の粗い軟質の黒色土層で、焼土粒・

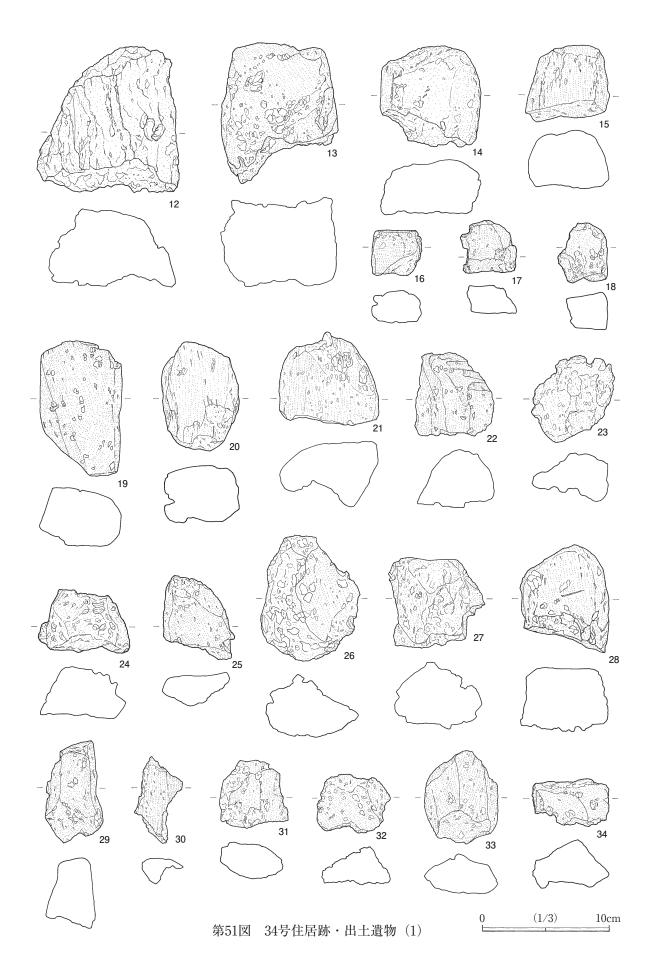


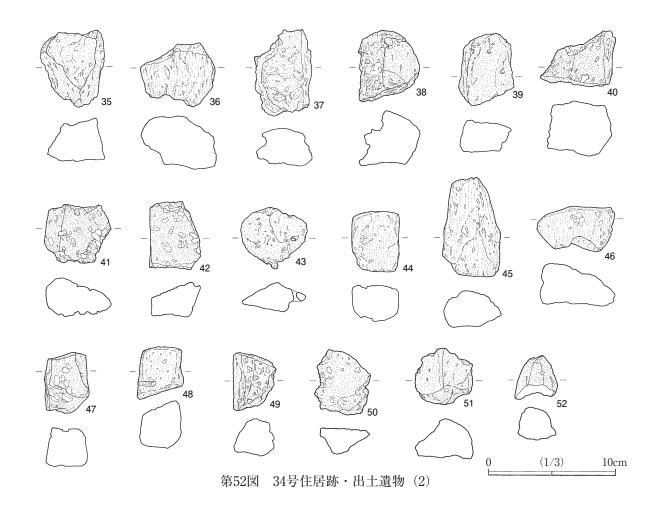
第48図 31号住居跡・出土遺物





第50図 33号・34号住居跡・33号住居跡・出土遺物



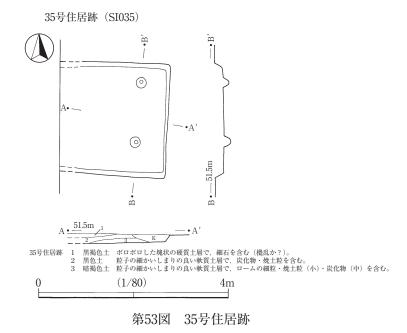


炭化物・小粒のロームブロックを多量に含んでいる。2層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗茶褐色土層で、焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。3層は粒子の細かい軟質の暗茶褐色土層で、炭化物・焼土粒を多量に含んでいる。4層は粒子の細かい軟質の黒褐色土層で、炭化物・焼土の細粒を多量に含んでいる。両遺構の覆土は近似し、出土遺物からも作業場としての性格が想起され、ほぼ同じ時期に使用されたものと考えられる。

第50図1~11は33号住居跡出土の土器・鉄製品・砥石,第51図12~52は軽石状遺物である。

1 は覆土出土の須恵器蓋で、蓋部上半を欠損する。調整は蓋部内外面ロクロナデである。 2 は小さい方形の断面をもつ部分が木質部分に装着されており、やや太めの方形断面をもつ部分に連なっている。何らかの工具である可能性が考えられるが詳細は不明である。 3 は床面直上出土の鉄製刀子である。 4 は覆土中から出土の鉄製釘である。 5 は覆土中から出土した環状の鉄製品で用途等は不明である。 6 は鉄滓である。 7~11砥石である。

12~52は軽石状遺物である。図版に掲示した軽石状遺物は高熱により有機物が燃えたような気泡による 多孔性の破断面を有し、軽石状遺物には平坦な表面のもの(第48図13・17・28、第49図40・44・50)、緩 やかな曲線を描く表面のもの(第48図12・14~16・19・21・26・30・31、第49図36・37・41・43・45・ 46・49)、角を有するもの(第48図18・20・22~25、27・29・32~34、第49図35・38~40・42・47・48・ 52)が見られる。



34号住居跡における大量の軽石状遺物の存在は他の住居跡と比べても異質な物である。特にフラットな面を有する軽石状遺物はたたら製鉄炉の炉壁片の可能性がある。

# **35号住居跡(SI035**) (第53図, 図版12)

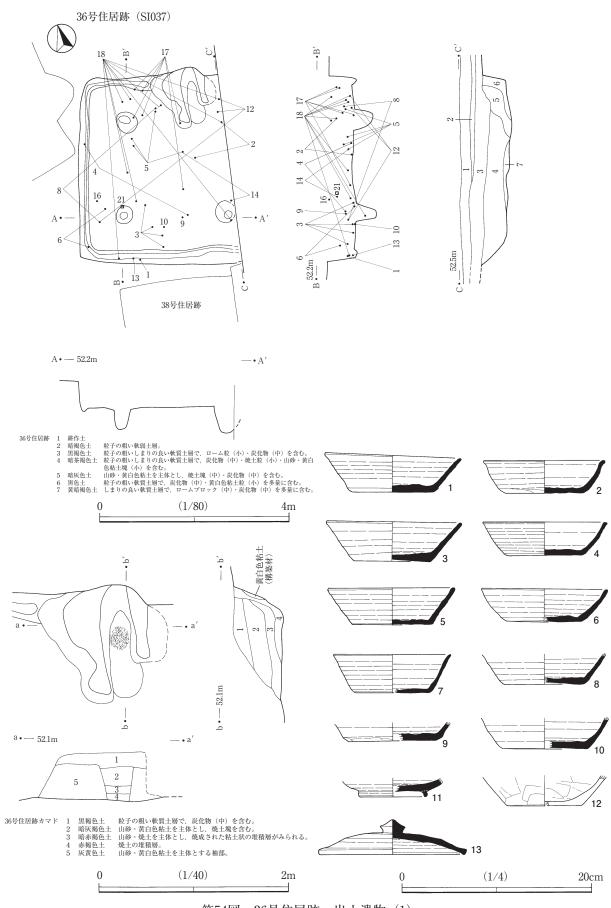
本住居跡は、遺跡南部12C80グリッド付近に位置している。本住居跡の西壁付近は遺跡境界の沿いの県道工事の際に削平されており、詳細は不明である。形状は方形で、確認できた規模は2.4m×2.3mである。 床面はほぼ平坦で、壁高いずれの壁付近においても20cmほどである。柱穴は2本のみ検出され、間隔は1.3mで、深さは15cm~20cmである。

住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層はボロボロした硬質で塊状の黒褐色土層で、細石を含んでおり攪乱層の可能性もある。2層は粒子の細かいしまりの良い軟質の黒色土層で、炭化物・焼土粒を含んでいる。3層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗褐色土層で、ローム細粒・焼土粒・炭化物を含んでいる。

## **36号住居跡(SI037**)(第54·55図,図版28·34,第2·3表)

本住居跡は、遺跡南部14 C 62グリッド付近に位置している。形状はN-17°-E 方向に主軸のある方形で、確認可能な規模は3.8m×3.4mである。床面には壁溝が確認され、床面はほぼ平坦で、壁高は北壁付近で60cm、東壁付近で70cm、南壁付近で60cmとなっている。柱穴は3本検出され、間隔は東西・南北両方向とも2.1mで、深さは50cm~60cmである。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は耕作土。2層は粒子の粗い軟質の暗褐色土層。3層は粒子の粗いしまりの良い軟質の黒褐色土層で、ローム粒・炭化物を含んでいる。4層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、炭化物・焼土粒・山砂・黄白色粘土塊を含んでいる。5層は山砂・黄白色粘土を主体とする暗灰色土層で、焼土塊・炭化物を含んでいる。6層は粒子の粗い軟質の黒色土層で、炭化物・黄白色粘土を主体とする暗灰色土層で、焼土塊・炭化物を含んでいる。6層は粒子の粗い軟質の黒色土層で、炭化物・黄白色粘土粒を多量に含んでいる。7層はしまりの良い軟質の黄暗褐色土層で、中粒のロームブロック・炭化物を多量に含んでいる。8層はハードローム層。

カマドは北壁に1基検出された。南側の袖部の一部は流出しているが, 天井部の遺存状態は良好である。



第54図 36号住居跡・出土遺物 (1)

煙道部は焼土塊を含み、最深部付近でカマド奥壁に沿って立ち上がる。炉床部は焼成により堅く焼きしめられ、焼土の堆積が見られた。

出土遺物は、1は南壁際の床面壁溝内から出土した平底の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデ、 底部は多方向のヘラケズリである。2は床面直上及び覆土中から出土した平底の須恵器杯で、調整は体部 内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリ、底部は回転ヘラオコシ後のナデである。3・4は床面直上及び 床面付近の覆土出土の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデである。5はカマド前面の床面直上出土 の平底の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデ、底部ヘラケズリである。6は床面直上及び床面付近 の覆土出土の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデである。7は覆土出土の平底の須恵器杯で、調整 は体部内外面ロクロナデである。8は床面付近の覆土出土の須恵器杯で、口縁部付近を欠損する。調整は 体部内外面ロクロナデ.底部ヘラケズリである。 9 は覆土から出土した平底の須恵器杯で.底部付近のみ の遺存である。調整は体部内外面ロクロナデ、底部ヘラケズリである。10は床面直上出土の平底の須恵器 杯で、口縁部付近を欠損する。調整は体部内外面ロクロナデ、底部ヘラケズリである。11は覆土から出土 した須恵器の高台付杯で、高台付近のみの遺存である。12は床面直上出土の土師器甕の底部付近である。 13は南壁際の壁溝内出土の須恵器蓋で、調整は二部内外面ロクロナデ、宝珠付近回転ヘラケズリである。 14は床面直上出土の須恵器甕の口縁部で、調整は口縁部外面ロクロナデである。15は覆土出土の須恵器甕 の口唇部付近である。16は覆土出土の須恵器甕の底部付近で、調整は胴部内面へラナデで当て具痕が見ら れ、外面平行タタキメで底部付近ヘラケズリである。17はカマド周辺から出土の土師器甕で、胴下半部を 欠損する。調整は口縁部内外面ヨコナデ,胴部内面ヘラナデ,外面ナデである。18はカマド周辺及び床面 全体に拡散する土師器甕で、口縁部付近及び底部付近を欠損する。調整は胴部内面ヘラナデ、外面縦位の 丁寧なミガキである。19は覆土出土の土師器甕の底部付近である。17~19は同一個体の可能性もあるが, 直接の接合関係は見られない。

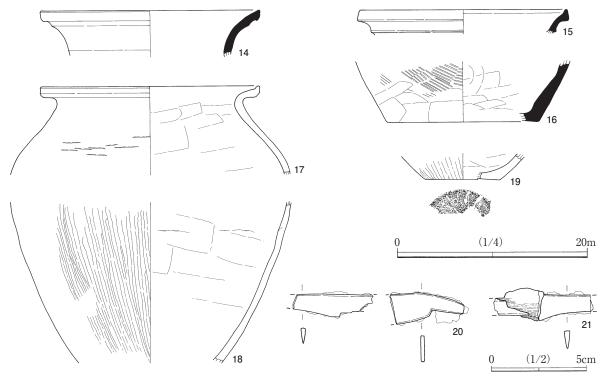
20・21覆土出土の鉄製刀子で、21は茎の木部が一部遺存している。

## **37号住居跡(SI038**)(第56·57図,図版13·28,第2表)

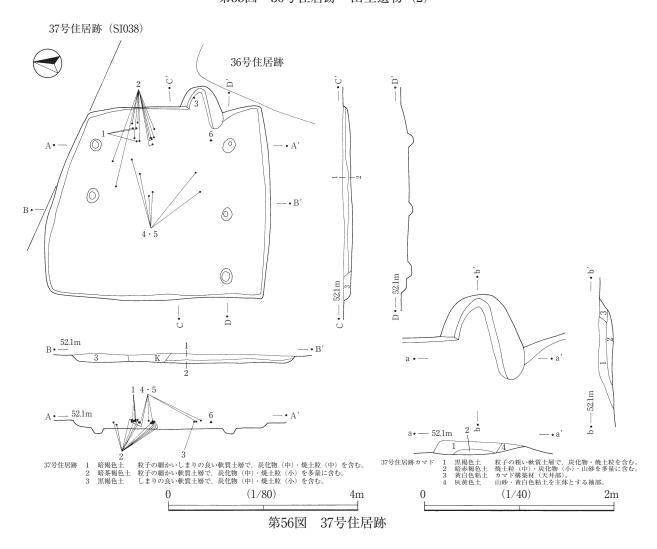
本住居跡は、遺跡南部14C52グリッド付近に位置している。北西壁角付近は太平洋戦争時の本土決戦用に掘り込まれた対戦車壕によって削平されている。形状はN-88°-E方向に主軸のある方形で、規模は4.0m×4.8mとなっている。床面はほぼ平坦で、壁高は非常に浅く、東壁付近で5cm、西壁付近で15cmほどである。柱穴は5本検出され、間隔は東西方向で1.1m~1.2m、南北方向で3.8mで、深さはそれぞれ約10cmほどである。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗褐色土層で、炭化物・焼土粒を含んでいる。2層は粒子の細かい軟質の暗茶褐色土層で、炭化物・焼土粒を多量に含んでいる。3層はしまりの良い軟質の黒褐色土層で、炭化物・焼土粒を含んでいる。

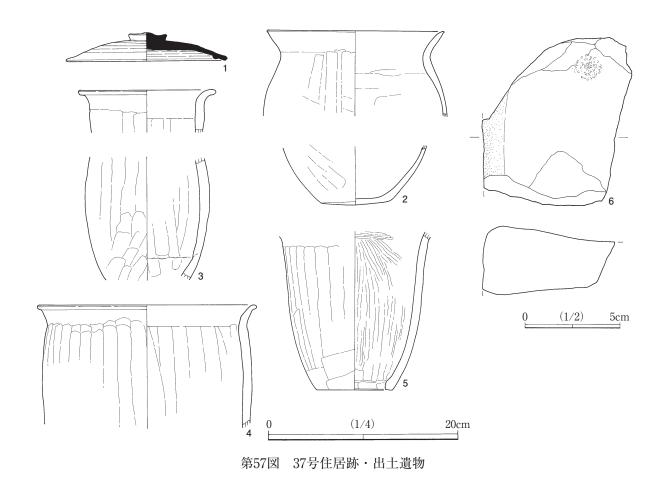
カマドは東壁のやや南よりに1基検出された。カマド天井部の上部及び北側の袖部は流出している。焚き口付近は天井部により押しつぶされているが、燃焼部から奥壁までの痕跡は確認することができた。また、天井部の山砂及び黄白色粘土粒の流入により煙出し部分は充填されている。

出土遺物は、1は覆土出土の須恵器蓋で、扁平な宝珠をもつ。調整は蓋部内外面ロクロナデ、宝珠付近は回転ヘラケズリである。2は床面付近の覆土出土の土師器甕で、胴部の一部を欠損する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ヘラナデ、外面ヘラケズリである。3は覆土出土の土師器甕で、底部付近を欠損する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ヘラナデ、外面ヘラケズリである。4は床面付近の覆土



第55図 36号住居跡·出土遺物 (2)





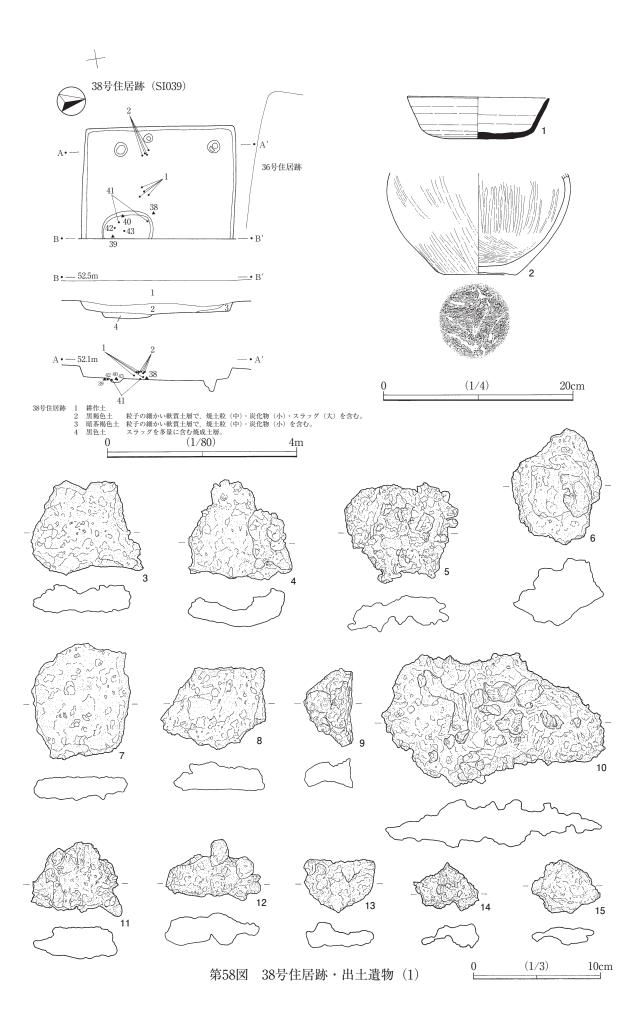
出土の土師器甕で、胴下半部を欠損する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面へラナデ、外面へラケズリである。5は床面付近の覆土出土の土師器甑で、口縁部付近を欠損する。調整は胴部内面へラナデ、外面へラケズリ及びヘラミガキである。

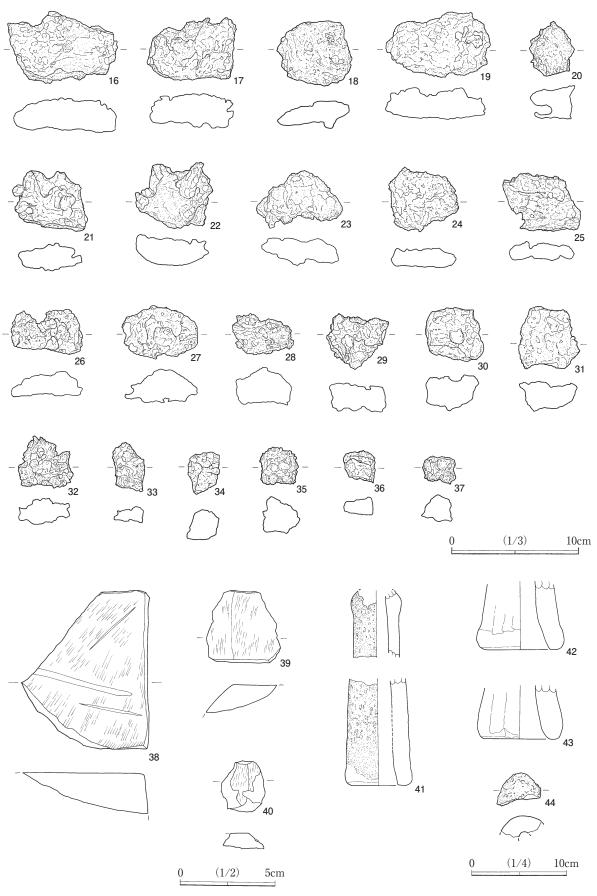
6は覆土中から出土した石皿で敲き痕が見られる。

## **38号住居跡(SI039**) (第58·59図, 図版13·29·36~38, 第2·5表)

本住居跡は、遺跡南部14C82に位置している。本住居跡の東壁付近は調査区境界によって未調査となっている。形状は方形で、確認可能な規模は3.2m×2.4mである。床面はほぼ平坦で、壁高は北壁付近で15cm、南壁付近で20cmである。主柱穴が2本と西壁付近に補助的な柱穴が1本検出され、主柱穴の間隔は2mで、深さは浅いもので10cm、深いもので25cmである。床面の調査区境界付近には浅い土坑が検出された。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。土坑は床面のロームを掘り込んでいるが、29号住居跡及び30号住居跡の炉跡でみられた粘土状の壁面はないが、土坑の底部には焼成により硬化した粘土面があり、土坑内には多量の鉄滓とともに鞴の羽口が検出されている。このことから本土坑も鍛冶炉である可能性が考えられる。

出土遺物は大量の鞴の羽口や鉄滓が検出された。1は床面直上出土の須恵器坏で、調整は体部内外面ロクロナデ、底部は回転ヘラケズリである。2は床面付近の覆土中出土の土師器甕で、胴上半部を欠損し、胴部中位が大きく膨らんだ形状である。調整は胴部内外面ともミガキである。3~37は覆土中から出土の鉄滓である。38~40は砥石である。41~44は鞴の羽口である。また、羽口片が本住居跡の小規模なピット





第59図 38号住居跡・出土遺物 (2)

状の掘り込みに部分から集中して検出されており、この付近に鍛冶に関わる炉のあった可能性が考えられる。

## **39号住居跡(SI040**)(第60~62図,図版13·29·30·39,第2表)

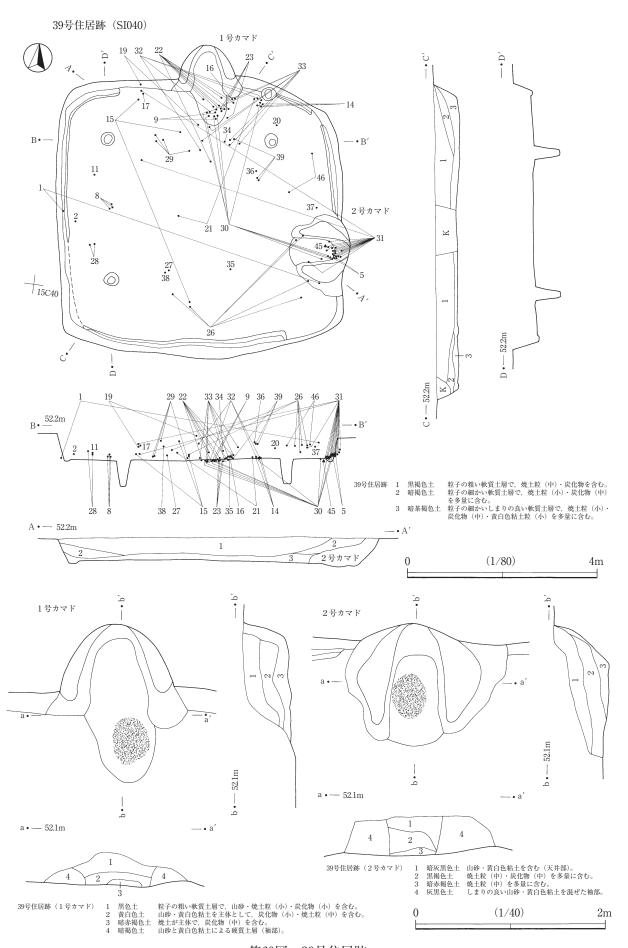
本住居跡は、遺跡南部15 C 30 グリッド付近に位置している。形状は方形で、規模は6.2m×5.8mである。 床面はほぼ平坦で、壁高北壁付近で40cm、南壁付近で60cmとなっている。柱穴は3本が検出され、間隔は 東西方向で3.5m、南北方向で3 mで、深さはいずれも60cmほどである。住居跡の覆土堆積状況は次のと おりである。1 層は粒子の粗い軟質の黒褐色土層で、焼土粒・炭化物を含んでいる。2 層は粒子の細かい 軟質の暗褐色土層で、焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。3 層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗茶 褐色土層で、焼土粒・炭化物・黄白色粘土粒を多量に含んでいる。

カマドは北壁中央に1基(1号カマド)と東壁のやや南寄りに1基(2号カマド)が検出された。

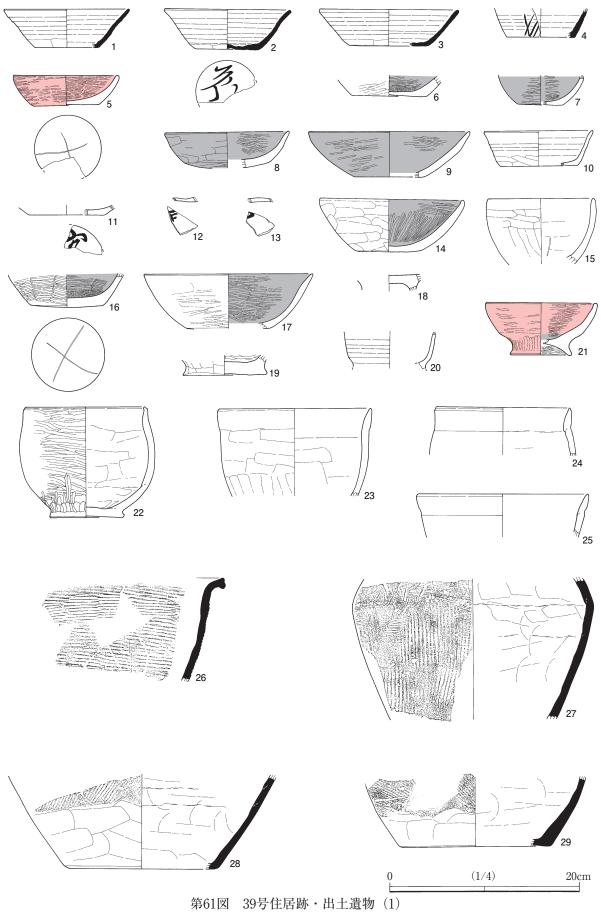
1号カマドは住居の壁面を大きく掘り込んで構築されている。袖部は壁面の掘り込み部分に僅かに残っている。天井部は前半部が流出し、炉床部は住居の床面に露呈している。煙道部は炭化物・焼土粒を含み、カマド奥壁に沿って立ち上がり、煙出し部分は住居跡外部からの流入土で充填されいた。炉床部は焼成により硬化した状態で検出され、多量の焼土の堆積が見られた。

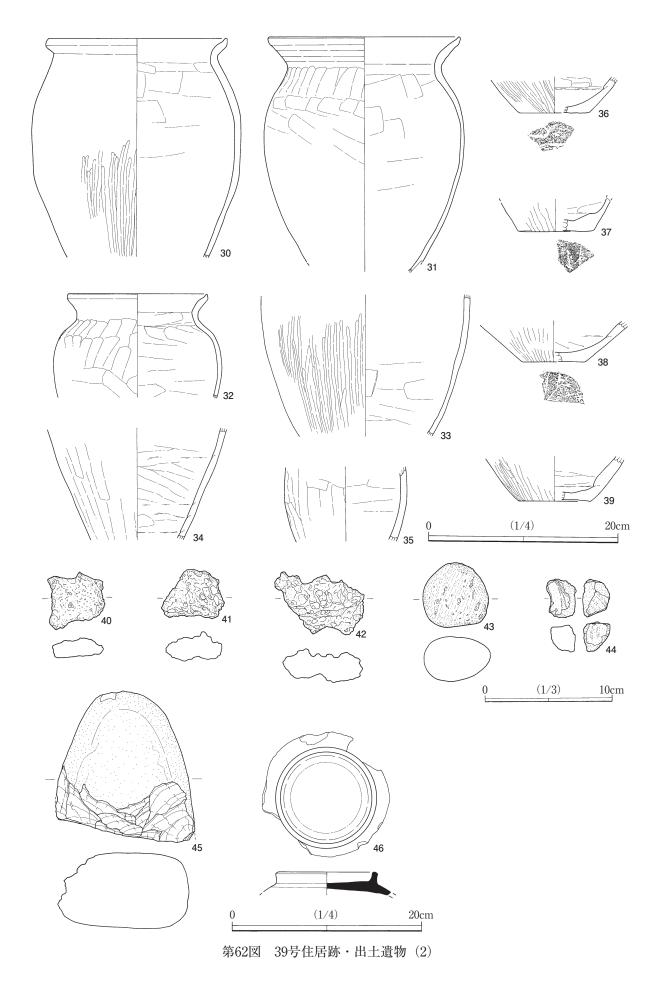
2号カマドは1号カマドよりもやや小振りであるが、住居の壁面への掘り込みは1号カマドと比べて少ない。山砂・黄白色粘土を含む天井部は袖部とともに遺存状態は良好である。煙道部はカマド前半部が天井部に押しつぶされているが後半部は明瞭に検出され、カマド奥壁に沿って立ち上がる。また、煙出し部分は天井部により一部が圧迫されている。炉床部は焼成により堅く焼きしめられ、多量の焼土粒・炭化物の堆積が見られた。

出土遺物は、19号住居跡に次いで豊富で、鉄滓・軽石状遺物の検出も特徴の一つである。1は西壁際の 床面直上及び覆土出土の平底の須恵器杯で,調整は体部内外面ロクロナデである。2は床面付近の覆土出 土の須恵器杯で、平底で底部に『ネ』または『衣』の墨書が見られる。調整は体部内外面ロクロナデ、底 部付近ヘラケズリである。3は覆土出土の平底の須恵器杯で、調整は体部内外面ロクロナデ、底部付近へ ラケズリである。 4 は覆土出土の平底の須恵器杯で,箱形で口縁部付近及び底部を欠損する。調整は体部 内外面ロクロナデである。5は2号カマド内出土の丸底の土師器杯で、底部の『十』の線刻が見られる。 調整は体部内外面黒色処理のうえ赤彩が施されており,さらに丁寧なミガキが見られる。6は覆土出土の 土師器杯の底部である。 7 は覆土出土の土師器杯で,口縁部付近を欠損する。体部内外面黒色処理のうえ ミガキが見られる。8は床面直上出土の土師器杯で、調整は体部内外面黒色処理のうえ内面にミガキ、外 面はヘラケズリとなっている。9は覆土出土の土師器杯で、底部を欠損する。調整は体部内外面黒色処理 のうえ内外面にミガキが見られる。10は覆土出土の平底の土師器杯で、底部を欠損する。調整は体部内外 面ロクロナデ、外部底部付近ヘラケズリである。11は床面付近の覆土出土の土師器杯で、底部付近のみ遺 損する。底部には『官』の墨書が見られる。12・13は覆土出土の土師器杯の小破片であるが,墨書の痕跡 が見られる。14は1号カマド脇の床面直上出土の土師器椀で、調整は体部内面黒色処理のうえミガキ、外 面はヘラケズリ、底部は多方向のヘラケズリである。15は床面直上及び覆土出土の土師器椀で、底部付近 を欠損する。調整は口縁部外面ヨコナデ,体部内面ヘラナデ,外面ヘラケズリである。16は1号カマド付 近から出土の土師器椀で、体部上半を欠損する。調整は体部内面黒色処理のうえミガキ、外面はミガキで ある。底部には『十』の線刻が見られる。17は北壁際の覆土中から出土の土師器椀で、底部を欠損する。



第60図 39号住居跡



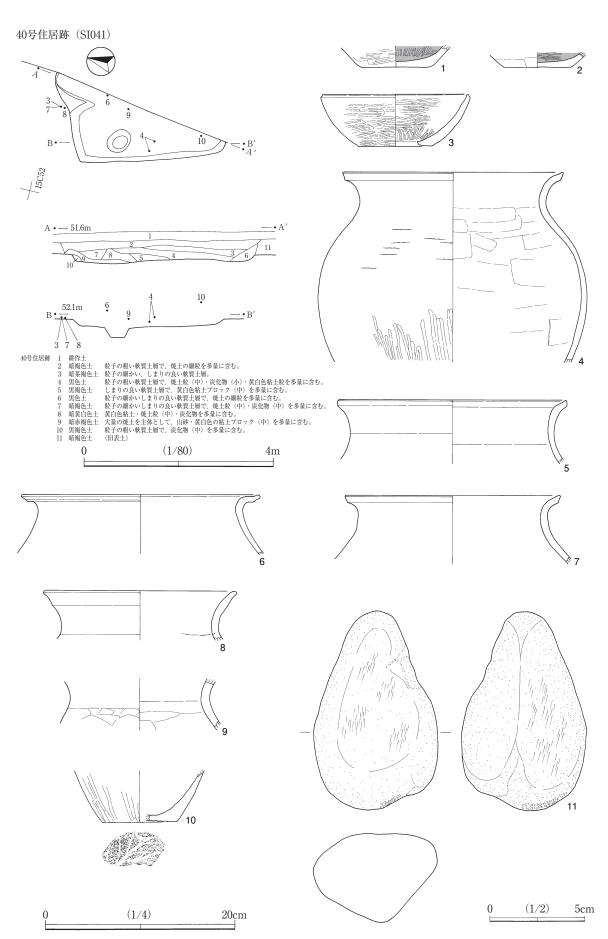


— 77 —

調整は体部内面は黒色処理及びミガキ、外面はヘラケズリ後のミガキである。18は覆土出土の土師器高坏 である。19は覆土出土の土師器鉢の底部付近である。20は覆土出土の土師器の高台付杯で,口縁部付近及 び底部を欠損する。調整は体部内面は器面剥離が著しく、外面はロクロナデである。21は床面直上及び床 面付近の覆土中出土の土師器の高台付杯で、調整は体部内面は黒色処理のうえ内外面に赤彩が施されてお り、外面はミガキが見られる。22は床面直上出土の土師器鉢で、調整は体部内面へラナデ、外面ミガキで ある。23はカマド前面の床面直上出土の土師器鉢で、体部下半を欠損する。調整は口縁部外面ヨコナデ、 体部内面へラナデ、外面へラケズリである。24は覆土出土の土師器鉢で、体部下半を欠損する。調整は口 縁部内外面ヨコナデ,体部内面ヘラナデ,外面ヘラケズリである。25は覆土出土の土師器鉢で,体部下半 を欠損する。調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面は剥離が著しく、外面はヘラケズリである。26は2号 カマド付近の覆土を中心に出土した須恵器甕である。27は床面付近の覆土出土の須恵器壺で、口縁部付近 及び底部付近を欠損する。調整は胴部内面に当て具痕が見られ、外面は平行タタキメである。28は床面付 近の覆土中出土の須恵器甕で、底部付近のみの遺存である。調整は胴部内面に当て具痕が見られ、外面は ヘラケズリ及び平行タタキメである。29は1号カマド付近の床面直上及び覆土出土の須恵器甕で、底部付 近のみの遺存である。調整は胴部内面に当て具痕が見られ、外面はヘラケズリ及び平行タタキメである。 30は1号及び2号カマド付近から分散して出土した土師器甕で、口縁部は短く、底部付近を欠損する。調 整は胴部内面へラナデ、外面ナデで胴下半部に縦位の丁寧なミガキがみられ常総型の甕である。31は2号 カマドを中心に出土した土師器甕で、底部付近を欠損する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ヘラ ナデ、外面はヘラケズリ後のナデである。32は床面直上及び覆土から出土の土師器甕で、胴下半部を欠損 する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ヘラナデ、外面はヘラケズリである。33は床面直上及び覆 土中から出土した土師器甕で、口縁部付近及び底部付近を欠損する。調整は胴部内面ヘラナデ、外面はナ デ及びミガキである。34は床面付近の覆土出土の土師器甕で,胴上半部及び底部付近を欠損する。調整は 同部内面へラナデ、外面はヘラケズリである。35は床面直上出土の土師器甕で、胴上半部及び底部付近を 欠損する。調整は胴部内面ナデ、外面はヘラケズリである。36~39はいずれも覆土から出土した土師器甕 の底部付近である。40~42はいずれも覆土出土の鉄滓である。43・44は覆土出土の軽石状遺物である。45 はカマド内から出土の石製の支脚である。46は床面付近の覆土出土の須恵器高台付盤で、底部の裏面を再 利用した転用硯である。高台内側の底部には同心円状の擦り跡がみられる。

#### **40号住居跡(SI041**)(第63図、図版13・30、第2表)

本住居跡は、遺跡南部15C52付近に位置している。北壁のカマドの中央から南西角にかけて調査区境界が走っており、東側は未調査となっている。形状はN-20°-W方向に主軸のある方形で、確認可能な規模は3.2m×2.2mとなっている。床面はほぼ平坦で、壁高は比較的浅く、北壁付近・南壁付近ともに20cmほどである。柱穴は1本のみ検出され、深さは30cmである。住居跡の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層耕作土。2層は粒子の粗い軟質の暗褐色土層で、焼土の細粒を多量に含んでいる。3層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗茶褐色土層。4層は粒子の粗い軟質の黒色土層で、焼土粒・炭化物・黄白色粘土粒を多量に含んでいる。5層はしまりの良い軟質の黒褐色土層で、黄白色粘土ブロックを多量に含んでいる。6層は粒子の細かいしまりの良い軟質の黒色土層で、焼土の細粒を多量に含んでいる。7層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗褐色土層で、焼土の細粒を多量に含んでいる。8層は暗黄白色土層で、黄白色粘土・焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。9層は暗赤褐色土層で、大量の焼土を主体として、山黄白色粘土・焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。9層は暗赤褐色土層で、大量の焼土を主体として、山



第63図 40号住居跡・出土遺物

砂・黄白色粘土ブロックを多量に含んでいる。10層は粒子の粗い軟質の黒褐色土層で、炭化物を多量に含んでいる。11層は旧表土。

出土遺物は土師器のみである。1は覆土出土の杯で、底部付近のみの遺存である。調整は体部内面黒色処理のうえミガキ、外面はヘラケズリ後のミガキである。2は覆土出土の杯で、底部付近のみの遺存である。調整は体部内面黒色処理のうえミガキ、外面はヘラケズリである。3はカマド脇から出土した杯で、底部を欠損する。調整は体部内面丁寧なミガキ、外面ヘラケズリ後のミガキである。4は床面付近の覆土出土の甕で、胴下半部を欠損する。調整は口縁部内面ヨコナデ、胴部内面ヘラナデ、外面はナデ及びミガキである。5・6は覆土出土の甕の口縁部である。7・8はカマド脇から出土した甕の口縁部である。9は覆土出土の甕の頸部である。口縁部及び胴部の大半を欠損する。10は覆土出土の甕の底部付近で、底部には木葉痕が見られる。調整は胴部内面は器面剥離が著しく、外面はミガキが見られる。

11は覆土出土の自然礫を利用した砥石である。

# 3 竪穴遺構 (SX001) (第64·65図, 図版30·35·37·38, 第2·3表)

本遺構は20A27付近に位置し、西側は調査区境界で断ち切られている。全体の規模は不明であるが、南北方向の幅は7.2m、深さは40cmほどであり、壁面に沿うようにピット状の掘り込みが検出された。一般的な竪穴遺構と異なり竪穴の壁面に沿って多数のピットが掘り込まれており、鉄滓やノロ受けの甕が出土している。炉の痕跡や軽石状遺物は検出されていないが鍛冶に関連する作業場の可能性も考えられる。

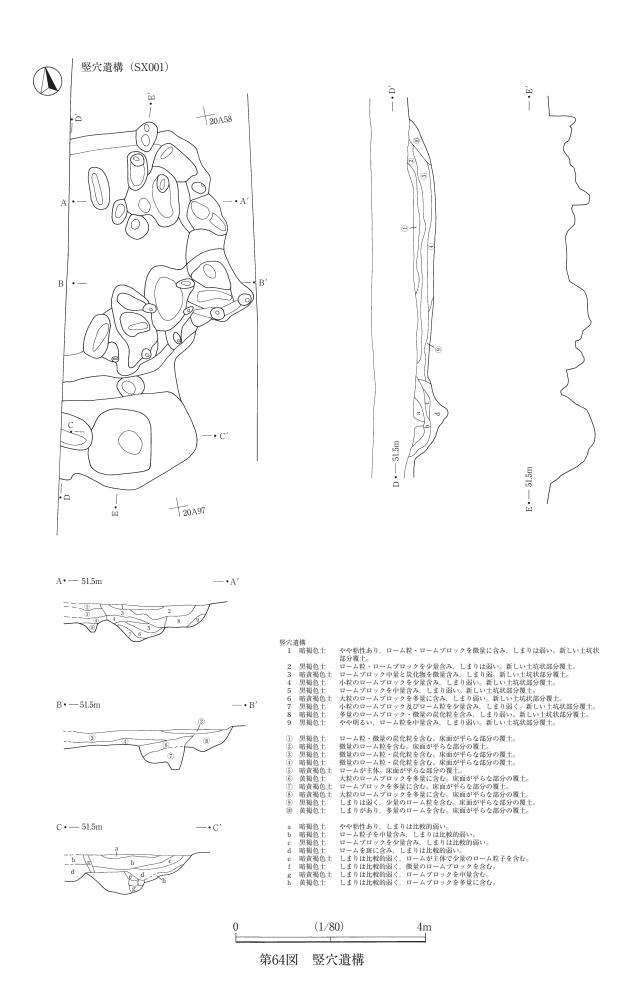
出土遺物では1は土師器甕の底部で、内側に鉄滓が張り付いている。これは踏鞴製鉄炉で排出されたノロ受けの甕であることが推測される。2は陶磁器の皿で、底部付近を欠損する。調整は体部内外面ロクロナデ、外面底部付近は回転ヘラケズリで灰釉が見られる。3は常滑の甕で胴下半部を欠損する。調整は口縁部外面ヨコナデ、胴部内面ナデ、外面刷毛によるナデである。4・5は陶磁器の甕で、底部付近のみ遺存する。6は覆土中から出土の鉄製鎌である。7は覆土中から出土の鉄製品で、用途等は不明である。8~14は覆土中から出土の鉄滓である。15は覆土中から出土の石製品で、台石である。16は覆土中から出土の敲石である。側面には敲きの痕跡が多数見られる。

# 4 その他の遺構

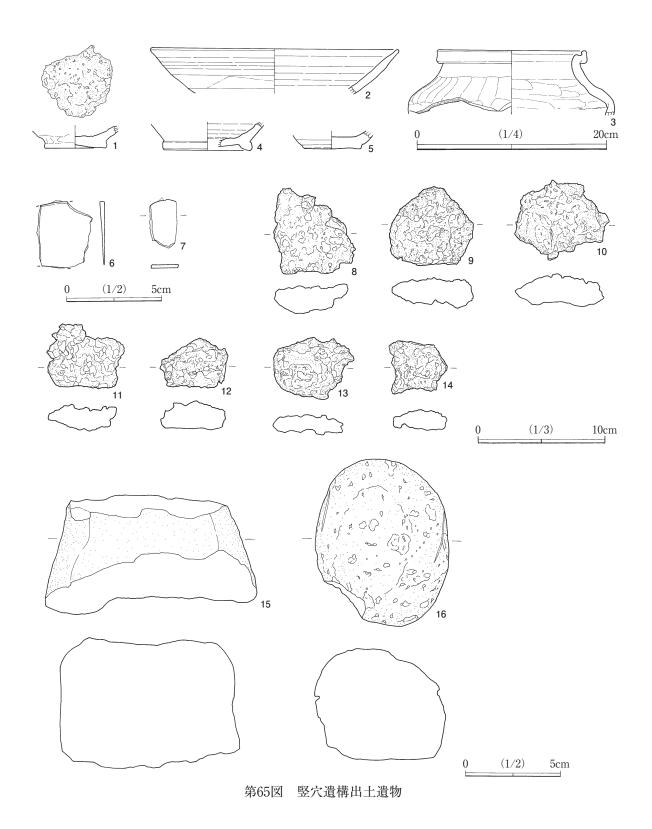
#### 方形周溝状遺構 (SM003) (第66図, 図版17)

本遺構は遺跡北部の5 D00グリッド付近に位置する。東側の周溝部分は調査区境界に未調査となっている。遺構全体は検出時点で上部を削平されており、周溝部の掘り込みも浅い。周溝内の堆積土壌は浅いため、調査区境界面においても周溝の堆積状況を観察した。1 層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗褐色土層である。2 層は粒子の細かい軟質の黄褐色土層で、ローム粒を多量に含んでいる。

本遺構に伴う遺物は検出されておらず、時期の特定はできないが、遺跡北端の古墳群に近く、古墳時代から奈良・平安時代の時期のものと考えられる。

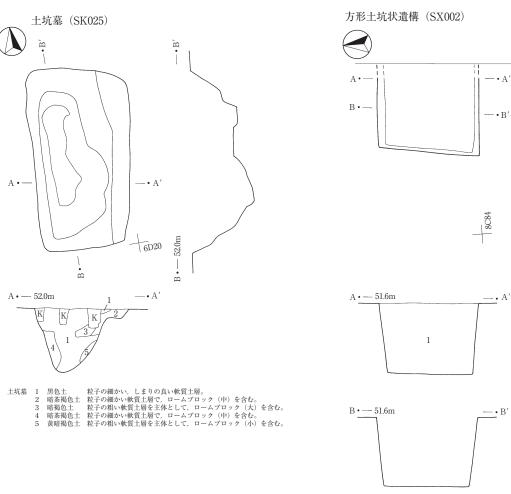


-81 -

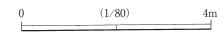


— 82 —

# 



方形土坑状遺構 1 黒褐色土 粒子の粗い軟質土層。ロームブロック(小)を全体に含む、壁面は小型の工具で丁寧に掘られている。



第66図 方形周溝状遺構・土抗墓・方形土坑状遺構

#### 土坑墓 (SK025) (第66図. 図版17)

本遺構は遺跡中央の6 C19付近に位置し、隣接する調査区東側付近は行人塚と呼ばれている。また明和五年(西暦1768年)銘の石碑が付近で確認されたが、碑面の摩滅が著しく主要部分は判読できなかった。この石碑と直接関係する証左は見つかっていないが、本遺構が行人塚と関わりのある可能性も考えられる。形状は開口部では長方形である。南北方向を主軸とし、規模は開口部で長辺3.8m、短辺2.2m、深さ1.4mである。覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の細かいしまりの良い軟質の黒色土層である。2層は粒子の細かい軟質の暗茶褐色土層で、中粒のロームブロックを含んでいる。3層は粒子の粗い軟質の暗褐色土層で、大粒のロームブロックを含んでいる。4層は粒子の細かい軟質の暗茶褐色土層で、中粒のロームブロックを含んでいる。5層は粒子の粗い軟質の黄暗褐色土層で、小粒のロームブロックを含んでいる。

本遺構に伴う遺物は検出されなかった。

## 方形土坑状遺構 (SX002) (第66図. 図版17)

本遺構は遺跡中央の8 C83グリッド付近に位置し、形状は壁面の切り立った立方形である。一部を調査 区境界で断ち切られている。壁面は確認された3面はほぼ垂直で、壁面には細かい工具痕が残っていた。 深さは1.4mほどあり、きわめて深い。底面は平坦で、覆土は単層で一気に埋め戻された様子が窺える。 1層は粒子の粗い軟質の黒褐色土層で、小粒のロームブロックを全体に含んでいる。

本遺構に伴う遺物は検出されておらず、時期の特定はできない。

#### 土坑

今郡カチ内遺跡では24基の土坑が検出された。本項では遺物を出土した土坑について記述し、他の土坑については第1表土坑一覧表を参照されたい。

## 16号土坑 (SK026) (第69図, 図版31·39, 第1·2·5表)

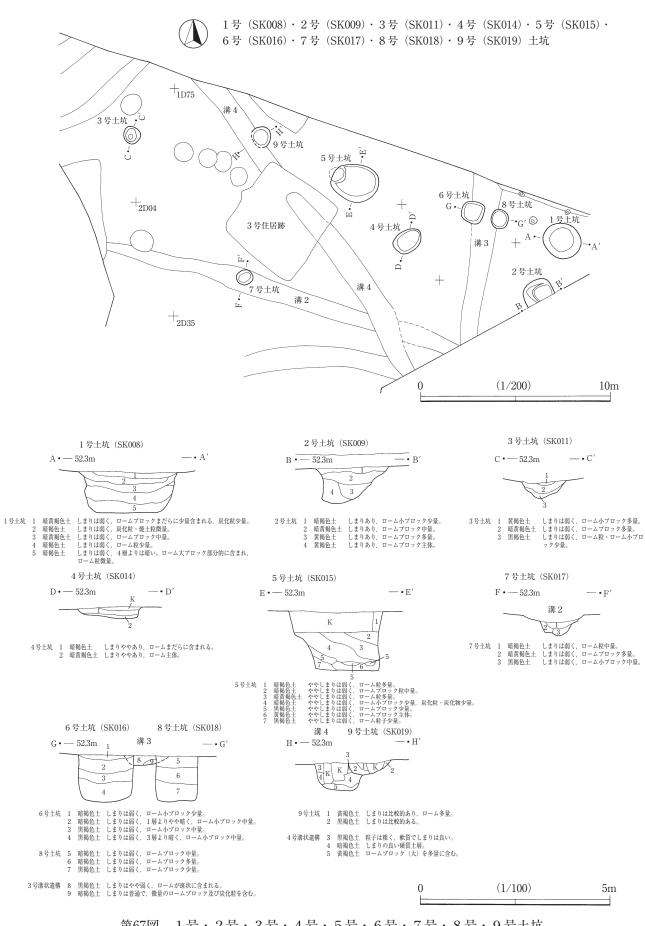
本土坑は遺跡中央の12C54付近に位置し、東半分を調査区境界で切断されている。確認できる規模は 1.8m×1.0m, 深さは20cmほどである。土坑の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は隣接する現在の畑の耕作土である。2層は粒子の細かい軟質の暗褐色土層で、小粒のロームブロック・焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。3層は粒子の粗い軟質の黄暗褐色土層で、焼土粒・炭化物を多量に含んでいる。

比較的浅い土坑であるが遺物を出土している。1は土師器杯で、須恵器蓋の模倣系の杯である。調整は体部内面は黒色処理のうえミガキ、外面はヘラケズリである。2は土師器杯で、体部上半部を欠損する。調整は体部内面黒色処理のうえミガキ、外面はヘラケズリである。3は土師器の小型甕で、口縁部付近のみの遺存である。調整は小縁部内外面ヨコナデである。4は手捏ね土器で、口縁部はやや窄まる形状である。5・6は軽石状遺物である。

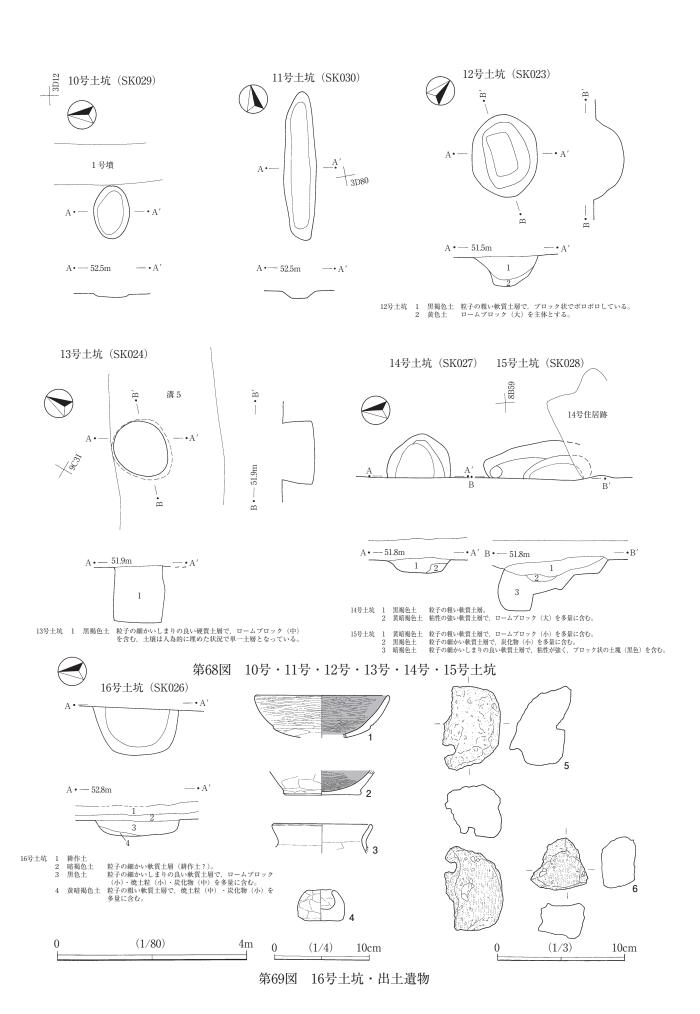
## 17号土坑 (SK003) (第70図. 図版31. 第1 · 2表)

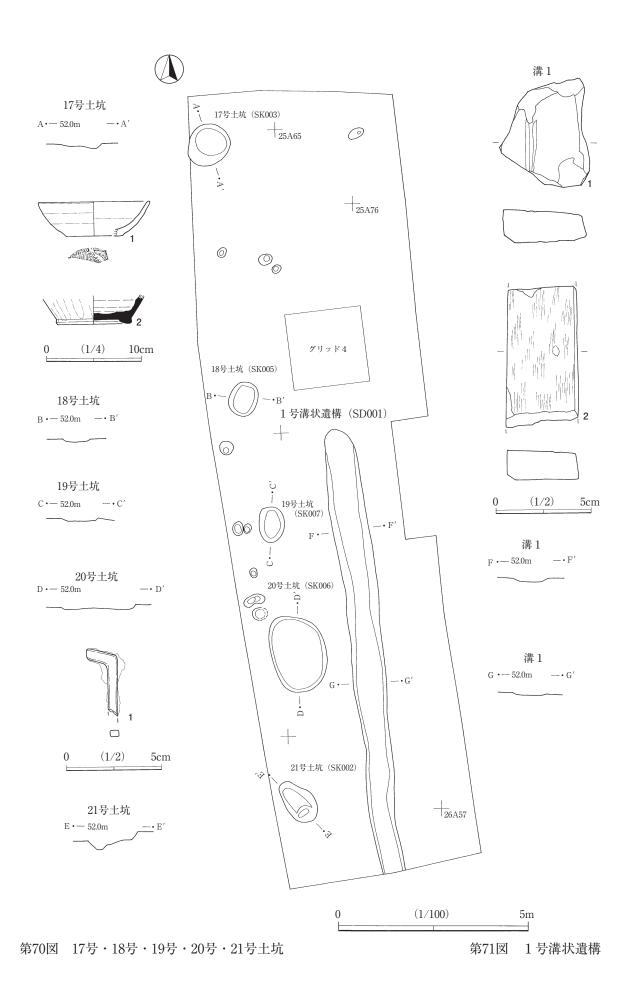
本土坑は遺跡最南部の25A64グリッド付近に位置する。規模は長軸1.2m, 短軸1.0m, 深さ20cmで浅く, 形状はほぼ円形である。

出土遺物は土器が2点出土している。1は土師器杯で、調整は体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切りである。2は須恵器壺の底部付近で、調整は内面ロクロナデで灰釉がみられる。外面は回転ヘラケズリで自然釉の付着がみられる。



第67図 1号・2号・3号・4号・5号・6号・7号・8号・9号土坑





— 87 —

# **20号土坑(SK006)** (第15図, 図版70, 第1·3表)

本土坑は遺跡最南部の26A35グリッド付近に位置する。規模は長軸2.0m, 短軸1.4m, 深さ10cmで, 形状は楕円形である。

出土遺物1は鉄釘である。

第1表 土坑一覧表

	3-4					
土坑名	グリッド	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	備考
1 号土坑	2E05	円形	2.0	1.8	82	
2号土坑	2E24	不明	<1.5>	<1.0>	30	全容未検出
3号土坑	1D74	円形	1.0	0.9	30	
4 号土坑	2E01	楕円形	1.6	1.0	30	
5 号土坑	1D98	楕円形	2.7	2.0	120	
6 号土坑	2E03	隅丸方形	1.3	1.1	100	
7号土坑	2D27	楕円形	1.0	0.7	40	
8号土坑	2E03	楕円形	1.0	0.8	100	
9 号土坑	1D87	円形	1.2	1.0	60	
10 号土坑	3D11	楕円形	1.2	0.7	20	
11 号土坑	3D80	長楕円形	3.2	0.8	10	
12 号土坑	11C72	円形	1.8	1.5	60	底部長方形
13 号土坑	9C31	円形	1.2	1.0	120	断面フラスコ状
14 号土坑	8B46	不明	<1.3>	<1.0>	30	全容未検出
15 号土坑	8B46	不明	2.0	0.8	100	全容未検出
16 号土坑	12C54	不明	<1.8>	<1.0>	20	全容未検出
17 号土坑	25A64	円形	1.2	1.0	20	
18 号土坑	25A94	楕円形	0.9	0.7	10	
19 号土坑	2E05	円形	2.0	1.8	82	
20 号土坑	26A35	楕円形	2.0	1.4	10	
21 号土坑	26A55	楕円形	1.3	0.8	40	
22 号土坑	32C20	楕円形	1.0	0.8	10	
23 号土坑	32C21	楕円形	0.6	0.3	20	
24 号土坑	32C21	楕円形	1.6	0.8	50	

< > は現存計測値

# 溝状遺構

今郡カチ内遺跡からは溝状遺構が検出されている。

# **1 号溝状遺構(SD001)**(第71図, 第 5 表)

本遺構は $26\,A\,05$ グリッド付近から南に $12\,m$ ほど延びており、幅 $0.9\,m$ 、深さは $10\,cm$ ほどである。出土遺物は砥石が $2\,点$ 出土している。

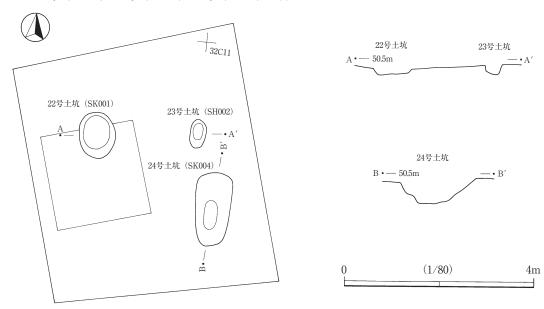
# **2号溝状遺構(SD002**)(第73·74図, 第3表)

本遺構は遺跡北端の $2\,D05$ グリッド付近から東に20mほど延びており、幅 $1\,m$ 、深さは20cmほどである。本遺構の西端は $1\,$ 号住居跡によって切り取られており、奈良・平安時代以前の時期の溝状遺構であることが考えられる。出土遺物は鉄滓が $1\,$ 点検出されている。

## 3号溝状遺構 (SD003) (第73図)

本遺構は遺跡北端の  $2 \times 106$  グリッド付近から南に  $8 \times 100$  暦  $1.5 \times 100$  明  $1.5 \times 100$   $1.5 \times 100$  明  $1.5 \times 100$   $1.5 \times 100$  1.5

22号 (SK001) · 23号 (SH002) · 24号 (SK004) 土坑



第72図 22号·23号·24号土坑

## 4号溝状遺構 (SD004) (第73·74図, 図版16·31, 第1·2表)

本遺構は遺跡北端の1D75グリッド付近から南西に19mほど延びており、幅1.5m、深さは40cmほどである。2号溝状遺構を切り取り3号住居跡によって切り取られている。出土遺物1は須恵器の高台付杯で、調整は体部内外面ロクロナデである。

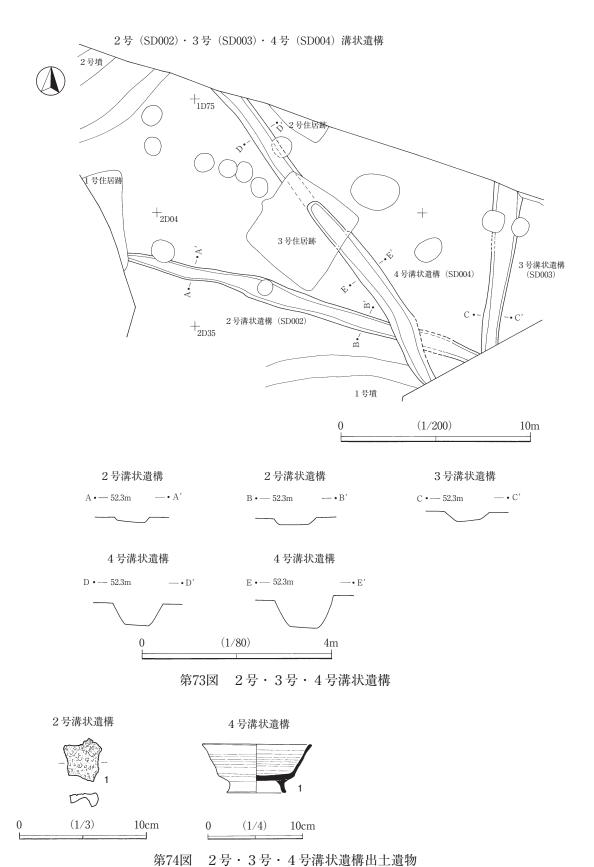
## **5号溝状遺構(SD005**)(第75~77図、図版16·31·36·37、第1·2·3·5表)

本遺構は遺跡中央の9 C 24グリッド付近から南西に12mほど延びており、幅2m、深さ50cmほである。東側の調査区境界付近で6号溝状遺構を切り取っている。出土遺物1は平底の土師器杯で、調整は体部内外面ロクロナデ、底部付近ヘラケズリである。また、体部外面には『…子吉大…』と底部外面に『庄』の墨書がある。2 は須恵器甕の口縁部付近の破片である。3 は須恵器甕の胴部片である。4 は長胴の土師器甕で、底部に木葉痕がみられる。調整は胴部内面ヘラナデ、外面はナデ及び胴下半部に縦位の丁寧なミガキで常総型の甕である。5 土師器甕の底部付近である。6 は鉄滓である。7 は砥石である。

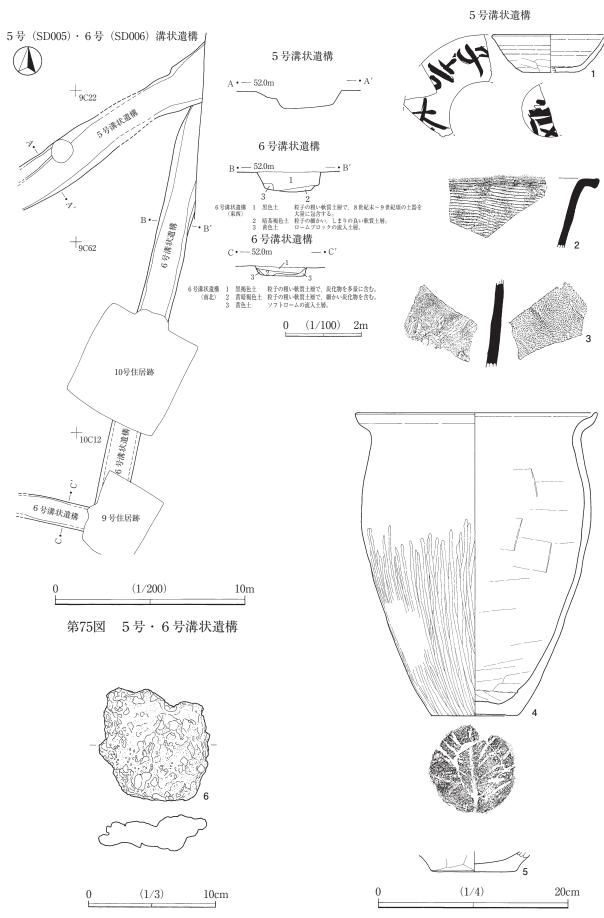
## 6号溝状遺構 (SD006) (第75·78図, 図版16·31·40, 第2·3表)

本遺構は遺跡中央の9 C 24グリッド付近から南22mほど延びて9 号住居跡に切り取られるあたりで直角に西に折れ曲がるものと思われる。幅1.5m,深さは浅いところで30cm,深いところで50cmほである。9 号・10号両住居跡に切り取られており奈良・平安時代以前の溝状遺構である。深い部分の覆土の状況は1 層は粒子の粗い軟質の黒色土層で、8世紀末~9世紀頃の土器を多数包含していた。2 層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗茶褐色土層である。3 層は黄色土層で、ロームブロックの流入土層である。

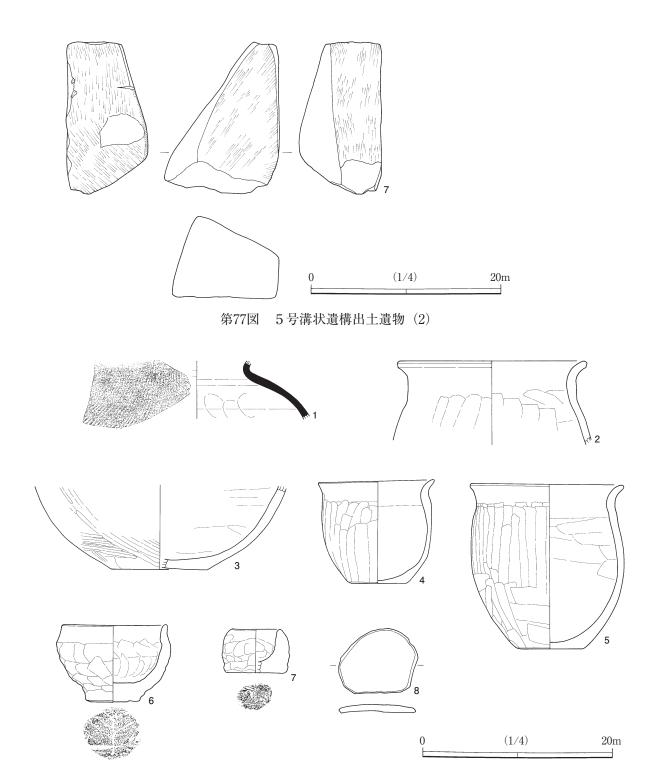
出土遺物1は須恵器壺の胴部片で、内面は当て具の痕跡をヘラナデしており、外面は平行タタキメが見られる。2は土師器甕の胴部上半部で、調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ後のナデである。3は土師器甕の胴下半部で、調整は胴部内面ヘラナデ、外面縦位のミガキである。4は土師器の小型甕で、調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリである。5は土師器甕で、調整は口縁部内外面



和14四 27 37 47件仍退悟四上退物



第76図 5号溝状遺構出土遺物 (1)



第78図 6号溝状遺構出土遺物

ヨコナデ、胴部外面へラケズリである。6 は輪積みの痕跡を残す土師器の鉢で、調整は体部内面へラナデ、外面はヘラケズリである。7 は手捏ね土器で、体部内面はヘラナデ、外面は粗いヘラケズリである。8 は用途不明の板状鉄製品である。6 号溝状遺構では上記の遺物のほか、大量の貝殻(アサリ)が投棄されているのが確認された。

## **7号溝状遺構(SD007**) (第79図, 図版16・35, 第2・3表)

本遺構は北部の5 D05付近から西に18mほど延びており、幅2m、深さ50cmほどである。本遺構の一部は西端の調査区境界付近で31号住居跡により切り取られている。覆土の堆積状況は1層は粘性の強い軟質の黒色土層である。2層は粒子の粗い軟質の黒褐色土層で、ロームの細粒を含み、本遺構出土の遺物はこの層から出土している。3層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、中粒のロームブロックを含んでいる。

出土遺物1は須恵器杯で、底部付近を欠損する。調整は体部内外面ロクロナデである。2は土師器杯で、調整は体部内面ナデ、外面はロクロナデで、底部は回転糸切り後の端部手持ちヘラケズリである。3は須恵器蓋で、調整は二部内外面ロクロナデである。4は用途不明の「U」字状鉄製品である。

## 8号溝状遺構 (SD008) (第80·81図, 図版31·32·35, 第2·3表)

本遺構は遺跡北部の4C37グリッド付近から東に19mほど延びており、幅1.5m、深さ25cmほどである。 本遺構は比較的浅いが検出された遺物は豊富である。1・2は須恵器杯で、底部の一部を欠損する。調整 は体部内外面ロクロナデ、外面底部付近回転ヘラケズリ、底部は回転ヘラケズリである。3は器高の低い 土師器杯で、調整は口縁部外面ヨコナデ、体部内面に放射状の暗文があり、外面はヘラケズリ後のナデで ある。4は丸底の土師器杯で、調整は体部内面ナデ、外面はヘラケズリである。5・6は土師器杯で、底 部付近を欠損する。調整は口縁部外面ヨコナデ,体部内面ナデ,外面はヘラケズリである。 7 は土師器杯 で、底部付近を欠損する。調整は体部内面ナデ、外面はヘラケズリである。8は丸底の土師器杯で、口縁 部付近及び底部付近を欠損する。9は須恵器蓋の宝珠である。10は須恵器の高台付盤の底部である。11は 土師器甕で、調整は胴部内面ヘラナデ、外面はナデ及び胴下半部は丁寧な縦位のミガキであり、常総型の 甕である。12は土師器甕で,胴部内外面は器面剥離が著しい。13は土師器の小型甕で,胴下半部を欠損す る。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリである。14は土師器の小型甕の口縁部である。15 は土師器の小型甕で,調整は口縁部外面ヨコナデ,胴部内面ヘラナデ,外面はヘラケズリである。16は土 師器の小型甕で、口縁部付近を欠損する。調整は胴部内面ヘラナデ、外面は頸部ヨコナデ、胴部はヘラケ ズリであるが輪積み痕が明瞭に残る。17は土師器甕で,口唇部付近を欠損する。調整は胴部内面は器面剥 離が著しく,外面はヘラケズリである。18~29は手捏ね土器で,18~28の底部には木葉痕が見られる。30 は鉄鏃である。31は用途等不明の板状鉄製品である。32は小さい段が見られ、鉄鏃の柄部の可能性がある。

# 9号溝状遺構 (SD009) (第82図, 図版16)

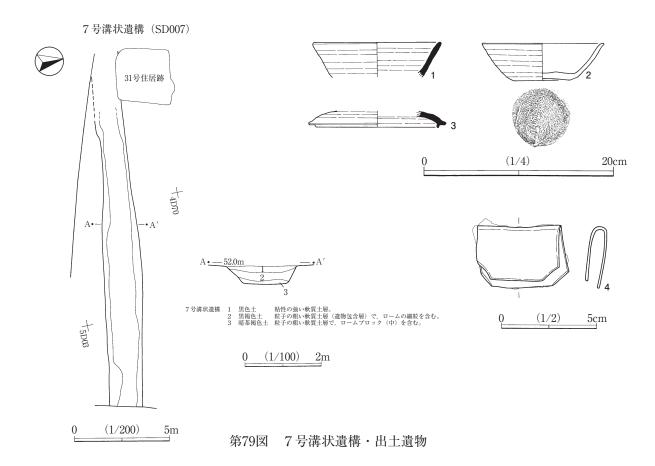
本遺構は遺跡中央北部の6D30グリッド付近から西へ17mほど延びており、幅1.3m、深さは30cmほどである。25号土坑、24号住居跡、25号住居跡の各遺構によって切り取られている。本遺構から遺物は検出されなかった。

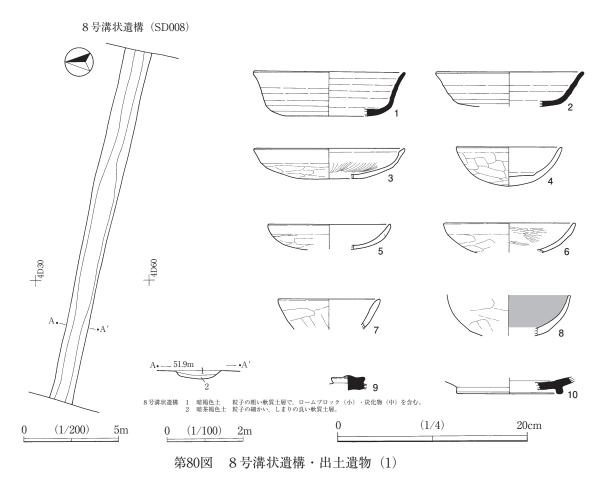
## **10号溝状遺構(SD010)**(第82図, 図版16)

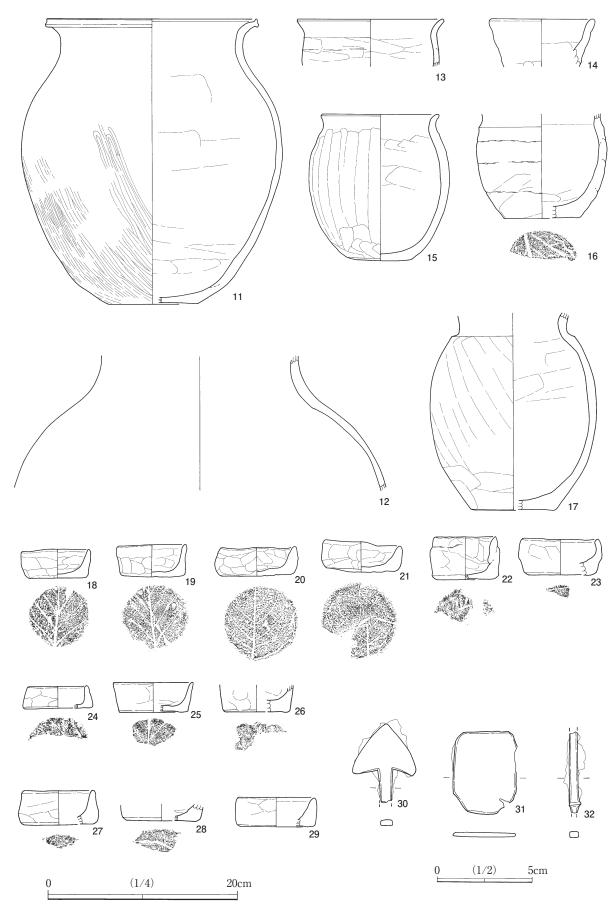
本遺構は9号溝状遺構と約5mの間隔で平行して東西方向に延びている。長さ17m,幅1.3m,深さは20cmほどである。西側の調査区境界付近で10号土坑により一部が切り取られている。本遺構から遺物は検出されなかった。

## 11号溝状遺構 (SD011) (第82·83図, 図版17·32·36·37·40, 第2·3·5表)

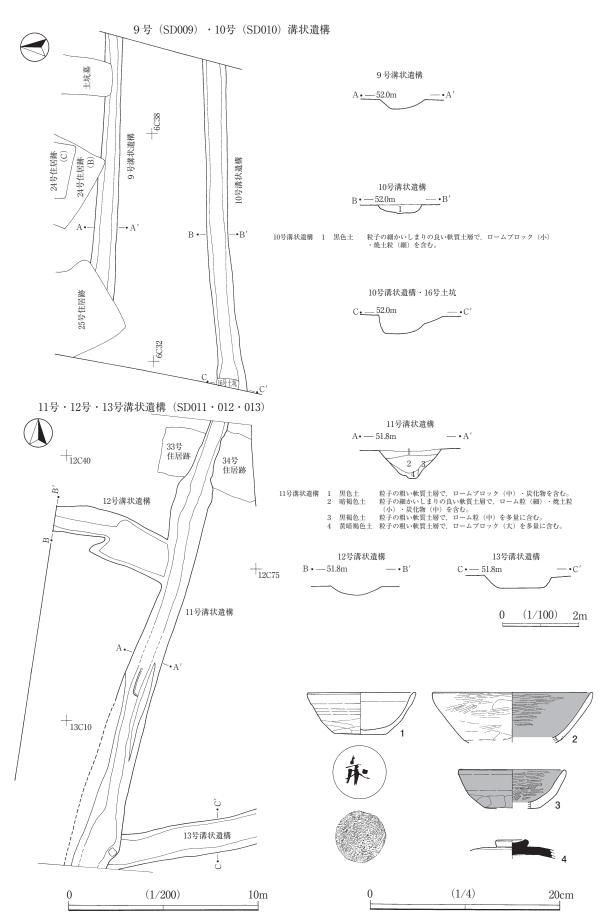
本遺構は遺跡南部の12C33グリッド付近から南西に25mほど延びており、幅2m、深さは80cmである。また、本遺構は33号住居跡と34号住居跡の間を掘り込んでおり、島根県粟田 I 遺跡にみられた炉壁や鉄滓の流し場に相当する位置関係にある。



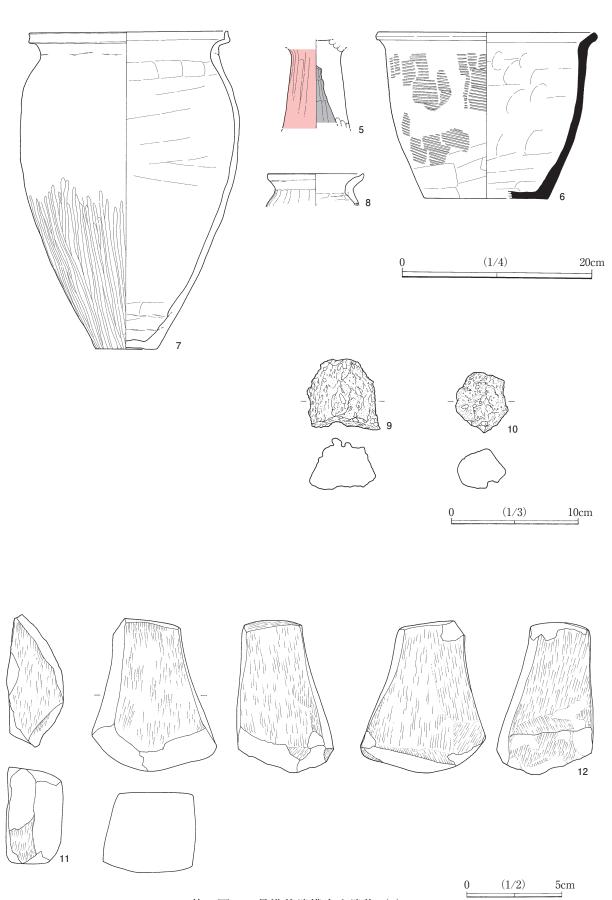




第81図 8号溝状遺構・出土遺物 (2)



第82図 9号・10号・11号・12号・13号溝状遺構・11号溝状遺構出土遺物(1)



第83図 11号溝状遺構出土遺物 (2)

溝状遺構の覆土の状況は次のとおりである1層は粒子の粗い軟質の黒色土層で、中粒のロームブロックや炭化物を含んでいる。2層は粒子の細かいしまりの良い軟質の暗褐色土層で、ローム粒・焼土粒・炭化物を含んでいる。3層は粒子の粗い軟質の黄暗褐色土層で、大粒のロームブロックを多量に含んでいる。

出土遺物1は土師器杯で、調整は体部内外面ロクロナデ、底部付近へラケズリで、底部は回転糸切りとなっている。また底部には「床」の墨書が見られる。2は土師器杯で、底部付近を欠損する。調整は体部内面黒色処理のうえミガキ、外面はヘラケズリ後のミガキとなっている。3は土師器杯で、底部の一部を欠損する。調整は体部内外面ロクロナデ後の黒色処理で、内面はミガキ、外面はヘラケズリである。4は須恵器蓋で、蓋下半部を欠損する。5は土師器の高坏で、杯部及び脚裾部を欠損する。僅かに遺損する杯部内面には黒色処理の痕跡が見られ、外面にはヘラケズリのうえ赤彩が施されている。6は須恵器甕で、調整は口縁部内外面ロクロナデ、胴部内面ヘラナデ、外面は平行タタキメで底部付近はヘラケズリである。7は長胴の土師器甕で、調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ヘラナデ、外面ナデ及び胴下半部に縦位の丁寧なミガキとなっており、常総型の甕である。8は土師器の小型甕で、口縁部付近のみの遺存である。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリである。9・10は鉄滓である。11・12は砥石である。いずれも断面を含む各面は丁寧な細かい擦痕がみられ、鉄製鍛造品のバリを削ぎ落とす際に使用する砥石である可能性が高い。

## 12号溝状遺構 (SD012) (第82·84図, 図版17·36·38·40, 第5表)

本遺構は遺跡南部の11 B 59グリッド付近の西側調査区境界付近から東に延びて11 号溝状遺構に接続している。合流地点付近では幅が広くなり、平坦な床面を造り出している。規模は長さ6 m、幅2.2m、深さ20cmほどと浅い。本遺構からは砥石が2点(第80図 1・2)が出土している。いずれも小さなサイコロ状の立方体状で、いずれも断面を含む各面は丁寧な細かい擦痕がみられ、鉄製鍛造品のバリを削ぎ落とす際に使用する砥石であると考えられる。島根県粟田 I 遺跡の製鉄炉遺構周辺の鍛冶工房で出土した砥石と形状・使用痕の状況が似ており、細かな細工のための砥石であると考えられる。

本遺構は、11号溝状遺構と合流する付近がやや浅く広い平坦面となっており、33号住居跡及び34号住居跡と近接することから、一連の鍛冶遺構に伴うものであると考えられる。

## **13号溝状遺構(SD013)**(第82図, 図版17)

本遺構は遺跡南部の13C34グリッド付近の東側調査区境界付近から西に延びて13C40グリッド付近で11 号溝状遺構と合流する。長さ7m,幅1.8m,深さ25cmと浅い。本遺構から遺物は検出されなかった。

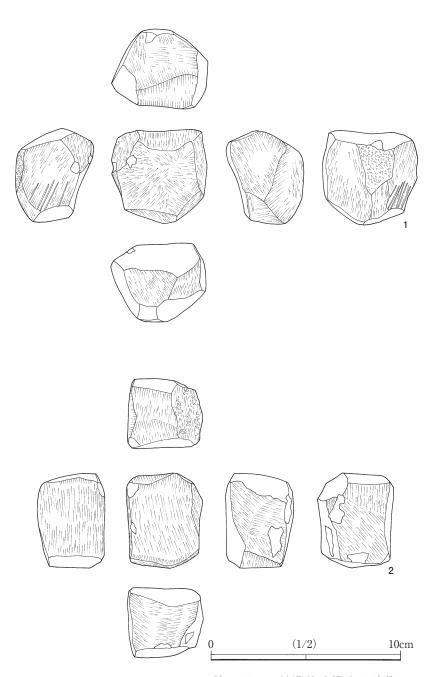
## **14号溝状遺構(SD014**) (第85図、図版17・32・35・37・40、第2・3表)

本遺構は遺跡南部の15C12グリッド付近に位置し、規模は長さ7m、幅2.7m、深さ50cmである。溝状遺構の覆土の状況は次のとおりである。1層は粒子の細かいしまりの良い軟質の黒色土層。2層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、ローム粒を多量に含んでいる。3層は粒子の粗い軟質の黒褐色土層で、焼土粒を含んでいる。4層は黄色土層で、ソフトロームの流入土層である。

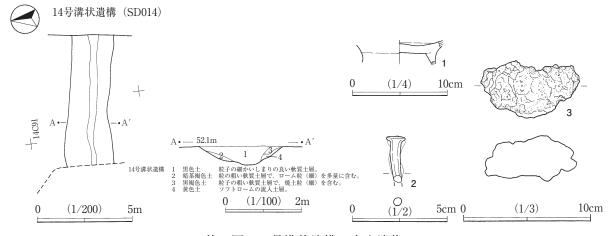
出土遺物1は土師器の高台付椀で、底部付近のみの遺存である。2は鉄釘である。3は鉄滓である。

## 5 遺構外出土遺物

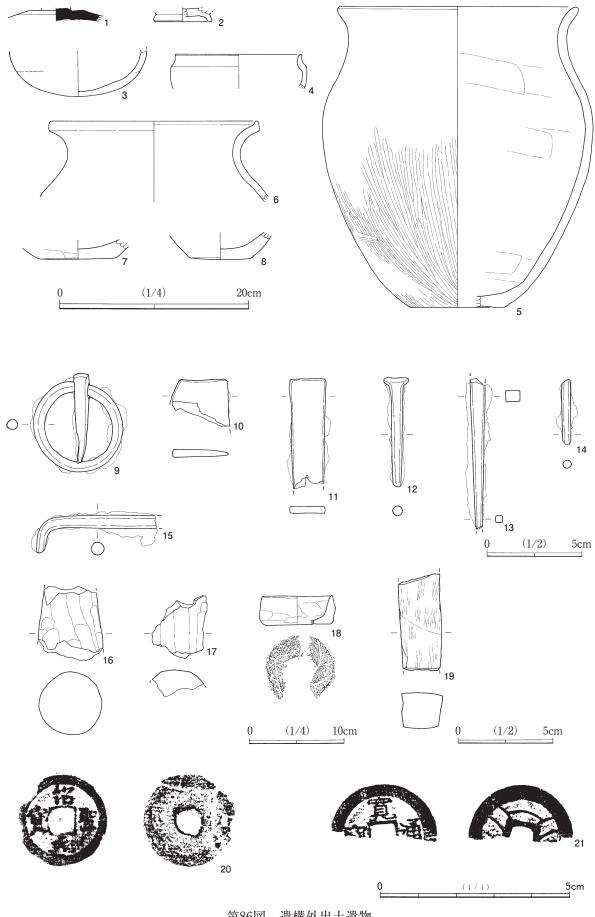
第64図は遺構外遺物である。詳細は土器・金属器・銭貨の諸表を参照されたい。なお、遺構内出土であっても明らかに混入したと判明している遺物についても本図内で扱っている。



第84図 12号溝状遺構出土遺物



第85図 14号溝状遺構・出土遺物



第86図 遺構外出土遺物

今郡カチ内遺跡出土土器諸元表

建制	華図	90.40	遺存度	口縁部径	超	底部径	胴部最大径	1	41.74	色調	la de	田 足	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	† H	報
No.	No.	- 64年 64万	%	cm	CB	сш	cm		79C/IX	内面	外面	医即处理	世紀国公田	(m (H	
1号墳	1	須恵器 杯	体~底部25%	I	<2.6>	(8.4)	I	砂粒	車	暗灰黄 (2.5Y5/2)	同内	手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	h	外面体部ロクロナデ
	2	須恵器 杯	35%	(10.5)	<2.9>	九底	I	砂粒	型	黄灰 (2.5Y6/1)	同内				
	3	須恵器 杯	45%	(14.2)	3.8	(8.7)	I	砂粒	阜	灰黄 (2.5Y6/2)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ
	4	上師器 杯	杯部30%	ı	<3.3>	九底	ı	砂粒	武	にぶい褐 (7.5YR5/4)	同内		ニガキ	4	外面ヨコナデ・ヘラケズリ
	2	須恵器 蓋	45%	I	2.9	(16.8)	ı	砂粒・雲母	型	灰黄 (2.5Y6/2)	同内		ロクロナデ	h	外面ロクロナデ, 回転ヘラケズリ
	9	須恵器 蓋	破片	(15.4)	<1.7>	ı	1	砂粒・雲母	良	灰 (5Y5/1)	灰黄 (2.5Y7/2)		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ
	7	須恵器 蓋	摘み~天井部50%	ı	<5.5>	I	1	砂粒(細)	山	橙 (7.5YR7/6)	同内		ロクロナデ	Ą	外面回転ヘラケズリ・ロクロナデ
	∞	須恵器 蓋	破片	(15.7)	4.1	I	1	砂粒	型	橙 (7.5YR6/6)	同内		ロクロナデ	Ą	外面回転ヘラケズリ・ロクロナデ
	6	須恵器 蓋	歯み	2.25 (摘径)	<2.2>	ı	1	砂粒(細)	型	にぶい褐 (7.5YR6/3)	国内				
	10	+	指み	2.6 (摘径)	<2.1>	I	1	砂粒 (無)	+	T	同内				
	Ξ	+	破片	(21.6)	<2.4>	ı	1	砂粒 (細)	+	1_	国内		4	4	外面ロクロナデ
	12	上師器 高杯 (盤)	5) 杯部~底部70%	I	<0.6>	14.4	ı	砂粒		橙 (5YR6/8)	同内			₹ 1×	杯部内面螺旋状暗文+放射状暗文 b 拋網狀暗文 b 脚部直線狀暗文
	13	須恵器 高台付杯	5 成部40%	I	<1.6>	(7.8)	ı	砂粒	型	灰黄 (2.5Y6/2)	回		ロクロナデ	150	外面ロクロナデ
	14	須恵器 高台	破片	I	<2:0>	(10.0)	1	砂粒	$\top$	浅黄 (2.5Y7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)				
	15	_	底部20%	I	<8.1>	(9.6)		砂粒(細)	-						
	16	上師器 高台	破片	I	<1.8>	(10.4)	1	砂粒(細)	良	にぶい橙 (7.5YR7/4)	同内		ロクロナデ		
	17	須恵器 鉢	口~胴下半25%	(9.6)	<5.8>	ı	1	砂粒	旦	灰黄 (2.5Y6/2)	黄灰 (2.5Y6/1)		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
	18	須恵器 壺or箋	底部80%	I	<3.5>	九底	ı	砂粒	型	展 (10Y6/1)	灰 (10Y5/1)		ヘラナデ	4	外面体部ヘラケズリ
	19	須恵器 甕	破片	(22.4)	<7.2>	I		砂粒	山	灰 (5Y5/1)	用内				
	20	須恵器 魙		I	ı	ı	1	砂粒	旦	灰 (7.5Y4/1)	用内				
	21	須恵器 甕		I	ı	I	1	砂粒	山	灰オリーブ (5Y6/2)	灰 (5Y6/1)				
	22	上師器 小型灣	破片	(11.2)	<6.5>	I	ı	砂粒	型	黒 (5YR1,7/1)	用内		ョコナデ・粗いヘラナデ	Ą	外面ヨコナデ・ヘラケズリ
	23	上師器 小型甕	口~胴部25%	(0.6)	<6.3>	I	I	砂粒	良	黒 (5YR1.7/1)	同内		ヘラナデ	Ą	外面ヨコナデ・ヘラケズリ
2号墳	31	上師器 灣	胴~底部25%	I	<11.4>	(0.6)		砂粒	点	にぶい褐 (7.5YR6/3)	橙 (5YR6/6)	木葉痕	ヘラナデ	φ	外面胴部器面剥落
3号住居跡	跡 1	須恵器 杯	口~体部15%	(13.2)	<4.1>	I	ı	白色砂礫	山	展 (10Y6/1)	同内				
	2	須恵器 杯	体~底部30%	I	<2.3>	(9.8)	ı	砂粒	型	灰白 (7.5Y7/1)	同内		ロクロナデ	Ą	外面体部ロクロナデ
	3	須恵器 杯	体~底部35%	ı	<2.3>	(8.4)	I	砂礫	型	灰白 (10Y7/1)	同内		ロクロナデ	4	外面ヘラケズリ
	4	須惠器 杯	体~底部20%	_	<2.8>	(7.2)		白色砂礫	良	灰 (5Y5/1)	同内	ヘラケズリ	ロクロナデ	14	外面ロクロナデ・ヘラケズリ
	2	須恵器 杯		_			ı	砂粒	型	灰 (5Y4/1)	同内	_	器面剥落	4	外面器面剥落
	9	上師器 杯	25%	(13.4)	3.4	(8.4)		砂粒	自	赤 (10R4/6)	同内	ヘラケズリ	赤彩・ミガキ	14	外面ヘラケズリ・赤彩
	7	須恵器 蓋	摘み80%	3.45 (摘径)	<1.5>	I	I	砂粒	型	灰 (10Y6/1)	灰白 (7.5Y7/2)				
	∞	須惠器 高台付皿		(19.0)	2.8	(13.0)	1	砂粒	型	灰 (7.5 Y 6/1)	同内		ロクロナデ	h	外面ロクロナデ
	6	須恵器 高台	高台部30%	I	<1.3>	(14.0)	ı	砂粒	型	灰白 (7.5.Y7/2)	同内				
	10	須恵器 高杯	杯~脚上部70%	ı	<3.9>	ı	ı	白色砂礫	型	灰白 (10Y7/1)	用内		内面摩耗	2 *	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ 杯部に線刻?
	=	上師器 灣	□~胴部25%	25.0	<+9.7>	I	ı	砂礫	型	橙 (7.5YR6/6)	同内		ヘラナデ	h	外面口縁部ナデ・胴部ミガキ
	12	上節器 選	□~胴部25%	(15.0)	<8:0>	I	I	砂粒		にぶい褐 (7.5YR5/4)	同内		ヘラナデ	Ą	外面口縁部ヨコナデ・ヘラケズリ
	13	上簡器 灣	口~胴上半20%	(15.2)	<3.4>	I	ı	砂礫	型	にぶい赤褐 (5YR5/4)	にぶい赤褐 (2.5YR4/3)		口縁部ヨコナデ	Ą	外面口縁部ヨコナデ
	14	上節器	胴下半~底部40%	I	<2.4>	(2.7)	I	砂粒	旦	明褐 (7.5YR5/6)	暗褐 (7.5YR3/4)		ヘラナボ	4	外面ヘラケズリ
7号住居跡	0 1	上簡器	25%	(122)	4.1	(8.0)	ı	砂粒	型	橙 (5YR6/6)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ
	2	上師器 杯	破片	(13.0)	<3.3>	I	I	砂粒		橙 (5YR6/6)	同内		ロクロナデ	Ą	外面ロクロナデ
	က	須恵器 甕	破片		ı	ı	ı	砂粒・雲母粒		にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR6/2)				
	4	須恵器 灩	口縁部片	(34.0)	<1.8>	I	ı	砂粒・雲母粒	山	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR6/2)				
	ı	and order to the							İ						

連構	華図	95 88	ZE MI	遺存度	口縁部径	器量	底部径	胴部最大径			色調	The state of the	E 57 12 1-1	† H	并
No. No.	No.	型 一	命形	%	cm	cm	cm	cm	加工	内面	外面	広部処理	· 人国処理	細網	言る
82 13·14号 住居跡	23	上節器 杯	*	20%	(13.8)	<4.1>	九底	I	砂粒(細)	にぶい橙 (7.5YR5/4)	同内		ナデ	<u>\$</u> X	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケ ズリ
83	es	上 語器 鉢	14	破片	I	<7.1>	(8.6)	I	砂粒良	明赤褐 (5YR5/6)	同内		ヘラナデ	*	外面ヘラケズリ
84 15号住居跡	1	上師器 杯	F.	破片	(13.0)	<3.5>	丸底	ı	砂粒良	にぶい黄橙 (10YR6/3)	同内		ニガキ	*	外面ヘラケズリ
85	2	須恵器 蓋	類目		4.4 (摘径)	<1.65>	Ι	ı	砂粒良	灰オリーブ (7.5Y6/2)	灰 (7.5Y5/1)				
98	3	須惠器 高	高台付杯	35%	(17.0)	4.65	(2.6)	I	砂粒良	灰白 (5Y7/2)	同内		ロクロナデ	14	外面ロクロナデ
28	4	上節器	美	胴下半~底部30%	I	<9.6>	(0.6)	I	砂粒良	にぶい褐 (7.5YR5/4)	赤褐 (7.5YR5/6)		器面剥落	4	外面ミガキ
88	2	上師器 꽲	海山	破片	I	<5.7>	(14.0)	I	砂粒・雲母粒 良	橙 (5YR6/6)	にぶい褐 (7.5YR5/3)		ヘラナデ	*	外面ミガキ
89 16号住居跡		須恵器 蓋	र्गल	破片	(13.5)	<2:0>	ı	ı	砂粒良	灰黄 (2.5Y6/2)	同内		ロクロナデ	交	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
90 17号住居跡	-	十一等略本	T.	25%	(12.0)	<3.7>	九底	I	砂粒良	灰黄褐 (10YR4/2)	同内		黒色処理・口縁部ヨコナ デ・体部ミガキ	文条	外面黒色処理・口縁部ヨコナデ・ 体部ヘラケズリ
16	2	上師器	小型凳	口~胴上半15%	(13.0)	<4.4>	ı	I	砂粒良	褐灰 (5YR4/1)	にぶい赤褐 (5YR5/4)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	外ズ	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
92	က	上師器 甑	摇	胴~底部20%	I	<10.5>	(9.7)	ı	砂粒良	にぶい橙 (7.5YR6/4)	同内		ヘラナデ	4	外面ヘラケズリ
93 18号住居跡	-	上	4	15%	(148)	<3.8>	九底	I	砂粒良	橙 (5YR6/6)	同内		ナデ	外ズ	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケ ズリ
26	2	上師器 杯	¥	体部65%		<2.4>	丸底	ı	砂粒良	橙 (5YR6/6)	同内		ボガキ	卒	外面ヘラケズリ
95		上 節器 灣	海山	頸~胴下半20%	I	<24.9>	I	I	砂粒良	にぶい褐 (7.5YR5/4)	灰褐 (7.5YR4/2)		ヘラナデ	4/	外面ヘラケズリ
96	4	上師器 魙	*3	口~胴上半20%	(26.0)	<10.7>	Ι	I	砂粒・雲母 (徽) 良	黄褐 (10YR5/8)	同内		ヘラナデ	<i>₩</i>	外面ナデ
26	ı.	上師器 選	湖		I	<9.81>	I	ı	砂粒・雲母良	明赤褐 (5YR5/8)	にぶい褐 (7.5YR5/4)		ヘラナデ	<i>₩</i>	外面ナデ・ミガキ
86	9	上師器 꽲	湖		I	<21.0>	(6.5)	I	砂粒良	にぶい黄褐 (10YR5/3)	灰黄褐 (10YR4/2)		ヘラナデ	4	外面ミガキ
99 19号住居跡	-	須恵器 杯	¥	20%	14.4	4.9	7.4	I	可	灰白 (5Y7/2)	同内	線刻・外方向のヘ ラケズリ	ロクロナデ	<u>*</u>	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
100	2	須恵器 杯	The state of the s	%09	16.0	4.9	8.7	I	砂粒良	灰白 (5Y7/1)	同内	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	*	外面ロクロナデ
101	8	須恵器 杯	4	40%	(14.1)	4.2	(10.0)	I	砂粒良	灰 (5Y5/1)	同内	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	14	外面ロクロナデ
102	4		甕or瓶	破片	(0.0)	<3.6>	Ι	ı	砂粒良	灰白 (5Y7/1)	同内		ロクロナデ	<i>₩</i>	外面ロクロナデ
103	ω		¥.	体~底部25%	I	<2.9>	(2.0)	I	(暴)	灰 (5Y6/1)	同内	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	外	外面器面剥落
104	9	$\rightarrow$	*	体~底部15%	ı	<2.1>	(2.5)	ı	砂粒良	灰 (5Y5/1)	灰 (5Y6/1)	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	₩ ₩	外面ロクロナデ
105	7	上節器 杯	¥	口~体部30%	(15.0)	<4.3>	I	I	自	黒褐 (7.5YR3/1)	にぶい橙 (7.5YR6/4)		黒色処理・ミガキ	女本	外面黒色処理・口縁部ヨコナデ・ 体部ヘラケズリ
106	∞	上師器	不	破片	(15.3)	3.8	为成	I	良	橙 (5YR6/6)	同内		ミガキ	<b>文</b> 火	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケ ズリ後ミガキ
107	6	上師器 杯	<b>ب</b>	15%	12.9			I	户	橙 (7.5YR6/6)	同内		ミガキ	*	外面ヘラケズリ
108	10	上師器 杯	4	破片	(15.2)	<2.5>	Ι	ı	百	橙 (7.5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR6/4)		ミガキ	₩	外面ヘラケズリ
109	11	上師器 杯	4	25%	(13.9)	<2.9>	丸底	I	良	赤褐 (2.5YR4/8)	同内		赤彩・ミガキ	4	外面赤彩・ヘラケズリ
110	12	十	¥	破片	(15.6)	<3.8>	I	I	<b>型</b>	にぶい橙 (7.5YR6/4)	同内		ナデ	<u> </u>	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケ ズリ
111	13	土師器 杯	4	破片	(16.2)	<9.6>		I	良	にぶい黄橙 (10YR6/3)	同内		ミガキ (格子状暗文)	₩ ₩	外面ヘラケズリ
112	14	上節器 杯	4	破片	(15.0)	<2.9>	丸底	I	百	橙 (7.5YR6/6)	同内		ミガキ	女	外面ヘラケズリ
113	$\neg$	-	¥	破片	(14.4)	<3.5>	九底	ı	百	橙 (5YR6/6)	同内		ミガキ	外	外面ヘラケズリ
114			<b>4</b>	破片	(14.0)	<3.5>	1	I	臣	灰黄褐 (10YR5/2)	同内		ミガキ	外	外面ヘラケズリ
115	17	$\rightarrow$	¥	破片	(12.9)	<3.0>	ı	ı	臣	黒 (7.5YR1.7/1)	にぶい橙 (7.5YR6/4)		黒色処理・ナデ	₩ ₩	外面口縁部ナデ・体部ヘラケズリ
116	18		4	破片	(12.4)	<2.9>	丸底	I	良	橙 (5YR6/6)	明赤褐 (5YR5/6)		ミガキ	女	外面ヘラケズリ
117	19	上師器 杯	*	破片	(15.8)	<3.3>	I	ı	百	にぶい褐 (7.5YR5/4)	同内		ロクロナデ	交	外面ロクロナデ
118	20	十 智器 本	¥	破片	(11.8)	<2.5>	I	I	<b>型</b>	黒褐 (5YR2/1)	同内		黒色処理・ナデ	<u>2</u>	外面黒色処理・口縁部ヨコナデ・ 体部ヘラケズリ
119	21	上節器	4	口~体部20%	(11.8)	<3.4>	I	I	户	橙 (5YR6/6)	にぶい赤褐 (5YR5/4)		ナデ	<u> </u>	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケ ズリ
120	22	上師器	₹	破片	1	<3.2>	丸底	ı	良	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)		ミガキ	4/	外面ヘラケズリ

No.	報酬	4	%	cm	cm	cm	cm	型	光成	内面	外面	底部処理	内面処理	御	編
П	上師器 杯	<u></u>	口~体部20%	(12.8)	<4.5>	I	ı		型	黒褐 (7.5YR3/2)	黒 (7.5YR1.7/1)		黒色処理・ナデ	84	外面黒色処理・口縁部ヨコナデ・ 体部ヘラケズリ
T	上師器 杯	14	体~底部70%	I	<1.4>	ı	I		良	橙 (7.5YR6/6)	同内		ミガキ	4	外面ヘラケズリ後ミガキ
144	須恵器 蓋	764	20%	(16.0)	2.9	(6.4)	ı	砂粒・雲母		灰 (5Y5/1)	灰オリーブ (5Y6/2)		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ
777	須恵器 蓋	104	45%	16.4	<3.1>	_	I	砂粒	卓	<b>灰黄</b> (2.5Y7/2)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
177	須恵器 蓋	1/61	15%	(15.8)	<2.4>	1		砂粒	户	灰白 (5Y7/2)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
444	須恵器 蓋	164	15%	(15.8)	<1.8>	-	I	砂粒	点	にぶい黄橙 (10YR6/3)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
1777	須恵器 蓋	264	体部25%	ı	<2.4>	ı	ı	砂礫	旦	にぶい黄橙 (10YR6/3)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
~	須恵器 蓋	164	破片	(16.6)	<1.9>	I	ı	砂粒	虫	灰オリーブ (5Y5/2)	灰オリーブ (5Y6/2)		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ
1	須恵器 蓋	1/64	25%	(16.3)	<2.45>	ı	ı	砂粒	型	灰白 (5Y7/2)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
177	須恵器 蓋	264	破片	(16.6)	<1.85>	ı	ı	砂粒	点	黄灰 (2.5Y5/1)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ
177	須恵器 蓋	264	破片	(16.0)	<1.9>	ı	ı	砂粒(細)	旦	灰 (5Y5/1)	灰 (5Y7/1)		ロクロナデ	Ą	外面ロクロナデ
177	須恵器 蓋	164	破片	(16.6)	<1.2>	ı	ı	砂粒	点	灰 (5Y6/1)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ
177	須恵器 蓋	First First	摘部80%	3.6 (摘径)	<1.7>	I	I	砂粒	虫	灰オリーブ (5Y6/2)	同内				
1777	須恵器 蓋	264	摘部50%	4.1 (摘径)	<1.5>	ı	ı	砂粒	具	灰黄 (2.5Y6/2)	灰 (5Y5/1)				
444	須恵器 高	明	高台部25%	ı	<1.1>	(8.4)	ı	砂粒・雲母	山	灰黄褐 (10YR5/2)					
1777	須恵器 高	高台付盤	底部45%	ı	<6.0>	(10.4)	ı	砂粒(細)	型	灰 (5Y5/1)	灰 (5Y4/1)		ロクロナデ		
П	土師器 杯	¥	75%	15.2	7.5	九底	ı		型	灰黄褐 (10YR5/2)	同内		ミガキ	4	外面ヘラケズリ
1777	須恵器 壺	Med.	破片	ı	<5.3>	ı	ı	砂粒	具	灰褐 (10YR6/1)	灰 (5Y6/1)		ロクロナデ	Ą	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
77	須恵器 壺	ntel	頭部~胴部30%	I	<62>	ı	ı	砂粒	山	灰 (5Y4/1)	灰オリーブ (5Y6/2)		ロクロナデ	4	外面自然釉付着・ロクロナデ
177	須恵器 壺	165	口縁部20%	(11.3)	<1.8>	Ι	1	砂粒	自	灰白 (5Y7/2)	灰 (5Y6/1)		ロクロナデ	14	外面ロクロナデ
77	須恵器 壺	ntel	破片	I	<5.1>	ı	ı	砂粒	型	灰 (7.5Y5/1)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ
П	上師器	CNC	口~胴下半75%	22.0	<30.8>	I	I		型	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	か	外面口縁部ヨコナデ・頸部ナデ・ 胴部ヘラケズリ及びミガキ
Ħ	上節器 瀏	963	口~頸部	(23.0)	<4.3>	ı	ı		型	にぶい橙 (7.5YR6/4)	用内		ヨコナデ	Ą	外面ヨコナデ
╨	上師器	בוע	胴部25%	ı	<20.5>	ı	ı		旦	にぶい褐 (7.5YR5/4)	暗褐 (7.5YR3/3)		ヘラナデ	4	外面ミガキ
Ħ	上師器 魙	963	胴~底部30%	-	<16.7>	10.0	ı		山	R5/4)			ヘラナデ	b	外面ミガキ
T	上師器	242	胴~底部60%	ı	<14.5>	9.0	I		具	黒 (7.5YR2/1)	黒褐 (7.5YR3/1)	ヘラケズリ	ヘラナデ	h	外面ミガキ・スス付着
Π.	上 器 端	岩	口~胴上半30%	(19.2)	<7.1>	I	I		具	灰褐 (5YR4/2)	周内		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	* '\	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
П	出端	363 266	破片	(20.0)	<5.3>	I	I		型	灰褐 (5YR4/2)	にぶい赤褐 (5YR5/3)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	4	外面ナデ
51 ±	上等器	sa:		(16.4)	<12.7>	I	I		型	明赤褐 (5YR3/2)	橙 (5YR6/6)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	* '\	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
52 ±	十	<b>323</b>	口~胴上半20%	(14.6)	<7.0>	I	I		具	にぶい赤褐 (5YR5/4)	周内		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	* '\	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
53 ±	上師器 꽲	242	胴~底部35%	ı	<9.2>	(2.0)	ı		具	明赤褐 (2.5YR5/6)	同内		ヘラナデ	h	外面ナデ
54 ±	上節器 瀏	963	胴下半~底部30%	ı	<4.7>	(8.0)	ı		型	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい赤褐 (5YR4/3)		ヘラナデ	h	外面ヘラケズリ
T	上師器	SKI	底部80%	I	<3.4>	6.3	I		型	明赤褐(5YR5/6)	同内	木葉痕・端部ヘラ ケズリ	ヘラナデ	4	外面ヘラケズリ
₹ 99	上師器 꽲	כזע	底部60%	ı	<5.6>	9.7	I		虫	にぶい橙 (5YR6/3)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	木葉痕	ヘラナデ	φ	外面ミガキ
Ħ	上師器 灣	242	胴下半~底部15%	ı	<3.8>	(8.0)	I		旦	橙 (7.5YR6/6)	褐 (7.5YR4/3)	木葉痕	ヘラナデ	Ą	外面ミガキ
╨	上師器 甑	¥.	胴~底部40%	ı	<26.8>	11.0	1		型	黒褐 (7.5YR3/2)	灰黄褐 (10YR5/2)		ヘラナデ	Ą	外面ナデ・ミガキ
Ħ	上師器 甑	¥	破片	1	<12.0>	9.6	Ι		百	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)		ヘラナデ	4	外面ナデ
Ħ	$\rightarrow$	ے	35%	(13.4)	<4.3>	丸底	I	砂粒	旦		同内		ミガキ	φ	外面ヘラケズリ
T	上師器 杯	¥	20%	(12.9)	<2.9>	丸底	I		百	にぶい橙 (7.5YR6/4)	同内		ミガキ	4	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケ ズリ
Ħ	十簡器 杯	L	8年	(134)	< 5.0>	1	ı	砂約	Œ	1. 次い場 (7 5VP5/4)	明赤褐 (5VR5/6)		4 4 //	-	外面口縁 新ココナデ・体 新ヘラケ

cm   pem   wav   pim   pim   pem   pem   pim   cm   pem   pim   caso green   pim   ca	cm – (10.0)		₩ I I
一   砂線・銀母   良	<del> </del>		111 6
	(9.0)	~ I	3.9>
	(0.6	Į.	
等	_	6	<5.6> (9.
・ 課母 良 良	-		<1.0>
・雲母 良		1	<1.4>
自		1	<10.2>
		1	<4.0>
一   砂粒・雲母   良 にぶい黄橙 (10YR6/4)		1	<10.9>
一  砂粒・雲母   良   にぶい褐 (7.5YR5/4)			
—————————————————————————————————————		11.0	4.3 11.0
一 砂粒 良 灰白 (7.5.Y7/1)			<3.8>
一  砂粒   良   灰 (5Y5/1)		1	<3.7>
10.9   度   灰白 (5Y8/1)	$\vdash$	丸底	<2.5> 丸底
一   砂粒   良   橙 (7.5YR6/6)	_	丸底	3.7 丸底
一		丸底	4.1 九底
一 砂粒     良 明赤褐 (5YR5/6)		九底	3.2 丸底
一  砂粒   良 にぶい褐 (7.5YR6/4)	_	九底	<4.3> 丸底
一 砂粒 良   灰黄 (2.5Y7/2)		(0.7)	(7.0)
— 砂粒 良 橙 (7.5YR6/6)		ı	<9.1>
<ul><li>一 砂粒・雲母 良 橙 (7.5YR6/6)</li></ul>		I	- <6.6>
一     砂粒     良     にぶい赤褐 (5YR5/4)		1	<3.7>
一     砂粒     良     にぶい黄橙 (10YR7/3)		(0.0)	<2.1> (9.0)
良		1	
・雲母 良		(10.0)	
臣		(0.6)	<6.7> (9.0)
一     砂礫     良     にぶい褐 (7.5YR5/3)	_	(10.0)	<4.7> (10.0)
一   砂粒   良   にぶい赤褐 (5YR5/4)		(8.9)	<2.3> (6.8)
— 砂粒 良 明赤褐 (2.5YR5/6)		丸底	<2.7> 丸底
— 砂粒 良	$\dashv$	1	
—		10.0	4.6 10.0
—	$\dashv$	(8.0)	<3.8> (8.0)
一   良   灰黄 (2.5Y6/2)	-	1	<4.0>
一   良   明赤褐 (5YR5/6)	$\vdash$	丸底	<3.4> 丸底
良   明赤褐 (2.5YR5/6)		九底	<2.75> 丸底
	1	ı	<2:0>
		ı	<2.1>
		I	<9:9>
中   良   にぶい橙 (7.5YR6/4)	$\vdash$		<10.9>
D   D   D   D   D   D   D   D   D   D		11.0	11.0
-   良 黒褐 (10YR3/1)	+		<20.9>

戦邦	_	L		清存度	口縁部径	超器	库部径	脂部最大径			<b>在</b>	100				
	No.	器種	器形	%	cm	cm	-	cm	品十	焼成	内面	外面	底部処理	内面処理	##	備考
201 25号往居跡	12	上師器 魙	,	胴下半~底部30%	I	<3.2>	(0.6)	I			明褐 (7.5YR5/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	ヘラケズリ	ヘラナデ	外面	外面ミガキ
202	13	上師器			I	<2.25>	5.5	ı		型	にぶい橙 (7.5YR6/4)	同内		ヘラナデ	外通	外面ヘラケズリ
203 26号住居跡	1	上師器 杯		破片	(12.8)	<3.0>	九底	I	砂粒	型	にぶい褐 (7.5YR5/4)	同内		<b>十</b> 元	外面メディア	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケ ズリ
204	2	上師器 杯		破片	(13.8)	<3.5>	丸底	I	砂粒	与	にぶい黄褐 (10YR5/3)	同内		ナナ	外面	外面ロクロナデ
205	3	上師器 高杯		杯部15%	(13.8)	<4.1>	ı	ı	砂粒		にぶい黄褐 (10YR4/3)	にぶい褐 (7.5YR5/4)		ナデ	外頂	外面ロクロナデ
206	4	上師器 杯						I	砂粒	良	にぶい赤褐 (5YR5/4)	同内		ナデ・器面剥落	外面   ズリ	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケ ズリ
207	5	須恵器 蓋		天井~口縁部15%	(12.6)	<2:0>	ı	ı	砂粒	良	展 (7.5Y6/1)	同内		ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ
208	9	上票報	-	口~胴上半20%	(24.8)	<15.1>	I	ı	砂粒・雲母	型	にぶい黄橙 (10YR6/4)	同内		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	外面	外面ナデ・ヘラケズリ有
209	7	上師器			I		(8.0)	I	砂礫・雲母		にぶい褐 (7.5YR6/3)	黒褐 (10YR3/1)	ミガキ	ヘラナデ	外面	外面ミガキ
210	∞	上節器 小型纜		□~胴部25%	(13.0)	<8.0>	I	I	砂粒	型	にぶい褐 (7.5YR5/4)	橙 (7.5YR6/6)		ヘラナデ・器面剥落	4人グ	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
211	6	上師器 魙	ĭ	底部25%	I	<3.0>	(0.6)	I	砂礫・雲母		にぶい褐 (7.5YR5/3)	灰黄褐 (10YR4/2)	木葉痕	ヘラナデ	外面	外面ミガキ
212 27号住居跡	1	上師器 杯		体~底部20%	1	<2.1>	(8.8)	ı			黒 (7.5YR1.7/1)	にぶい褐 (7.5YR5/4)		黒色処理・ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
213	2	上師器 杯		体~底部30%	ı	<1.4>	(0.0)	ı		山山	にぶい褐 (7.5YR5/4)	同内		ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ
214	3 %	須恵器 鉢		25%	(32.0)	11.8	(16.0)	1		良	灰 (5Y5/1)	同内		ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ・ヘラケズリ
215	4	上師器 小型選		破片	(14.9)	<2.9>	I	I		4	にぶい赤褐 (5YR4/4)	同内		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	4人	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
216	5	上師器 小型	小型甕	破片	(15.1)	<2:2>	ı	I		良	にぶい赤褐 (5YR4/4)	黒褐 (5YR2/1)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	外面ズブ	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
217	9	上節器	-	口~胴下半70%	22.9	<25.7>	ı	I		山	灰黄褐(10YR4/2)	黒褐 (10YR3/1)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	外圖	外面ミガキ・ナデ
218	7	上師器 灣	- C	胴~底部40%	I	<9.01>	(8.0)	I		山田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい赤褐 (5YR5/4)		ヘラナデ	外面	外面ヘラケズリ
219	~	上節器 選		破片	I	<17.8>	(9.9)	I			R6/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	木葉痕	ヘラナデ	外面	外面ミガキ
220 28号住居跡	1			摘~天上部片	3.6 (摘径)	<1.3>	I	ı	砂粒・雲母		2)	同内		ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
221 29号住居跡	1 2	須恵器 杯		破片	ı	<1.7>	(2.0)	I		良	灰 (10Y4/1)	同内	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ
222	2	須恵器 蓋		破片	(16.0)	<1.8>	ı	I		$\neg$		同内		ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
223	3	上師器 雞	-	口~胴上半15%	(29.8)	<10.0>	I	ı		山	にぶい褐 (7.5YR5/4)	同内		ヘラナデ	外面	外面ナデ
224		$\rightarrow$	-	破片	I	<1.8>	(2.0)	I			(2)	にぶい褐 (7.5YR5/3)		ヘラナデ	外通	外面ミガキ
225			-	破片	ı	<1.9>	(8.0)	ı			$\neg$	灰黄褐 (10YR4/2)	木葉痕	ヘラナデ	外面	外面ミガキ
226	9			破片	I	<1.2>	(9.7)	ı		百	(7	灰褐 (7.5YR4/2)		ヘラナデ	外面	外面ヘラケズリ
227 30号住居跡				天井部25%	I	<1.6>	I	ı			'R5/4)	同内		ロクロナデ	外面	外面回転ヘラケズリ
	2		-	破片	(22.8)	<3.3>	I	I			橙 (7.5YR6/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)				
229 31号住居跡	1	上票器		破片	(23.0)		I	I	砂粒・雲母	可	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/4)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	外面ボル	外面口縁部ヨコナデ・胴部ナデ・ ミガキ
230 33号住居跡	1   3	須恵器 蓋	ļ	破片	(16.0)	<1.7>	1			良	灰黄褐 (10YR5/2)	同内		ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ
231 36号住居跡	1	須恵器 杯		%08	14.4	3.9	8.7	I	砂粒(細)	型	灰黄褐 (10YR6/2)	同内	多方向のヘラケズ リ	ロクロナデ	- 外國	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
232	2	須恵器 杯		%09	12.7	3.5	8.3	I	砂粒	良	灰白 (5Y7/2)	同内	回転ヘラオコシ後 手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	外區	外面ロクロナデ・ヘラケズリ
233	3 %	須恵器 杯		75%	14.2	4.15	8.1	I	砂粒	良	灰 (7.5Y5/1)	同内	回転ヘラオコシ	ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ
234	4	須恵器 杯		%02	13.0	3.5	8.0	ı	砂粒	良	灰白 (5Y7/1)	同内	ヘラケズリ	ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ
235	5			20%	13.3	3.9	8.4	I	砂粒			灰白 (5Y7/1)	ヘラケズリ	ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ
236				25%	(13.3)	3.5	(6.7)	I		$\neg$	(5Y5/1)	同内	ヘラケズリ	ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ
237				20%	(12.4)	4.1	(9.7)	I	砂粒 (細)			灰 (5Y6/1)		ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ
238	$\neg$	須恵器 杯		体~底部60%		<3.2>			砂粒	$\rightarrow$		同内	ヘラケズリ	ロクロナデ	外值	外面ロクロナデ
239	6	須恵器 杯		体~底部20%	I	<1.95>	(6.3)	1	砂粒(細)	世	浅黄 (5Y7/3)	灰白 (5Y7/1)	ヘラケズリ	ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ

遺構	権図			遺存度	口縁部径	器	底部径	胴部最大径		-	色調				-	2
No. No.	No.	類型	糖 表	%	cm	cm	-	cm	11	選 送	内面	外面	底部処理	内面処理	細	雷光
240 36号住居跡	10	須恵器 杯		体~底部25%	ı	<3.3>	(0.0)	ı	砂粒		にぶい黄褐 (10YR4/3) [	にぶい黄橙 (10YR6/3)	ヘラケズリ	ロクロナデ	16	外面ロクロナデ
241	11	須恵器 高台付杯		体~底部20%	I	<1.9>	(2.0)	I	砂粒 (細)・ 雲母		にぶい褐 (7.5YR5/3)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ
242	12	上師器 杯		胴下半~底部50%	ı	<3.2>	8.2	ı	砂粒	良明	明赤褐 (5YR5/6)	にぶい赤褐 (5YR5/4)		ヘラナデ	14	外面ヘラケズリ
243	13	須恵器 蓋		100%完形	(15.4)	3.7	ı	ı	砂粒		展 (7.5 Y 5/1)	同内		ロクロナデ	14	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
244	14 3	須恵器 甕		破片	(23.1)	<4.9>	_	Ι	砂礫	良灰	灰オリーブ (5Y6/2)	灰オリーブ (5Y5/2)			14	外面ロクロナデ
245	15 %	須恵器 魙		破片	(21.7)	<2.5>	ı	ı	砂粒	良灰	灰オリーブ (5Y6/2)	同内			14	外面ロクロナデ
246	16	須恵器 魙		胴下半~底部15%	ı	<6.4>	(16.1)	ı	砂礫・雲母	真に	にぶい黄 (2.5Y6/3)	黄灰 (2.5Y6/1)		ヘラナデ・アテ具痕	4	外面平行タタキ・ヘラケズリ
247	17	十 電 器		□~順上半	(23.0)	<9.4>	I	I	砂粒・雲母	政	灰褐 (7.5YR4/2)	にぶい褐 (7.5YR5/4)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	15/	外面ナデ
248	18	上節器		胴部	I	<16.9>	ı	ı	砂粒・雲母	良い	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい赤褐 (5YR5/4)		ヘラナデ	外	外面ミガキ
249	19	上師器		底部25%	ı	<2.8>	(8.0)	ı	砂礫		にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	木業痕	ヘラナデ	*	外面ミガキ
250 37号住居跡	_	須恵器 蓋		%08	16.7	3.0	I	ı	砂粒	良灰	灰黄 (2.5Y7/2)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
251	2	上師器 小雪	小型凳	底部100%	(187)		7.4	I	砂粒	良灰	灰褐 (7.5YR4/2)	黒褐 (7.5YR3/2)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ・器面剥落	ダメ	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
252	e0	上師器 小型灣		□~順部15%	(14.0)		I	I	砂粒 (細)	単い	にぶい褐 (7.5YR5/4)	同内		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	ダメ	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
253	4	上師器		□~順部20%	(23.0)	<13.0>	I	I	砂粒	良田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	明赤褐 (5YR5/8)	同内		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	ダス	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
254	2	上師器 甑		胴上半~底部30%	I	<16.7>	(8.0)	I	砂粒	良明	明赤褐 (5YR5/6)	同内		ミガキ・ヘラナデ	24	外面頸部ヨコナデ・胴部ヘラミガ キ・ヘラケズリ
255 38号住居跡	1	須恵器 杯		20%	(14.9)	4.4		I	砂粒	良馬	黒褐 (2.5Y3/1)	浅黄 (2.5Y7/3)   [1	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	44	外面ロクロナデ
	2	-		胴~底部50%	-	<10.7>	8.0	1		良に	(5YR5/4)	(9)	木葉痕後ミガキ	ミガキ	4	外面ミガキ
257 39号住居跡	1			40%	(13.2)	4.05	(8.8)	I	砂粒・雲母	良	展 (7.5 Y 5/1) 月	灰 (7.5 Y 6/1)		ロクロナデ	<i>₹</i>	外面ロクロナデ・ヘラケズリ
258	2			30%	(13.2)	4.2	(9.6)	I	砂礫	良灰	(5Y5/1)	同内		ロクロナデ	有外	外面ロクロナデ・ヘラケズリ
259	8	$\rightarrow$		破片	(14.6)	3.9	(8.4)	ı	砂粒・雲母		(5Y6/1)	同内		ロクロナデ	4	外面ロクロナデ・ヘラケズリ
260	4	須恵器 杯		破片	I	<3.0>	(7.2)	I		中		同内		ロクロナデ	春 秋 火	外面ロクロナデ・体~底部にかけ 火棒か
261	ro	上 節器 杯		%02	11.1	3.15	6.9	I	砂粒	百	(7.5YR1.7/1)	黒褐 (7.5YR3/1)	線刻・ヘラケズリ 後ミガキ	黒色処理・赤彩・ミガキ	₹	外面黒色処理・赤彩・ミガキ
262		上師器 杯		体~底部25%	ı	<2.2>	(8.0)	ı	砂粒(細)		(10YR2/1)	にぶい黄褐 (10YR6/4)		黒色処理・ミガキ	4	外面ミガキ
263				破片	I	<3.1>	(4.4)	ı	砂粒 (細)		(10YR1.7/1)	黒褐 (10YR3/1)		黒色処理・ミガキ	₹	・ニガキ
264	$\dashv$			破片	(13.0)	<3.7>	I	ı			(10YR2/1)			.	₹ <u></u>	外面黒色処理・ヘラケズリ
265	$\dashv$			破片	(17.0)	4.75	(7.4)	ı	(暴)	$\rightarrow$	反 (10YR5/1)	灰黄褐 (10YR5/2)		黒色処理・ミガキ	₹.	外面黒色処理・ミガキ
266	$\dashv$			20%	(11.5)	3.65	(8.2)	ı		$\neg$	(5YR6/6)			ロクロナデ	$\neg$	外面ロクロナデ・ヘラケズリ
267	$\neg$	-		破片		<1.1>	(8.0)	ı		$\neg$	序褐 (5YR5/6)		底部墨書	ナデ	$^{+}$	外面ヘラケズリ
268	$^{+}$			破片	I	ı	I	ı		$\rightarrow$	(5YR6/6)		医部墨普		伸 .	
569	$^{+}$	$\rightarrow$		<b>優</b> 片			1			$\rightarrow$	(5YR6/6)		医部墨青		F :	
270	14	上 電 器		75%	15.0	5.5	7.0	I	砂粒	直	(7.5YR2/1)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	多方向のヘラケズ リ	黒色処理・ミガキ	\$	外面ヘラケズリ
271	15	上節器 施		口~体部30%	(11.2)	<6.9>	I	I	砂粒	位	(7.5YR6/6)	同内		ヘラナデ	4. K	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケ ズリ
272		-		杯部~底部70%	ı	<3.5>	9.7	I			(10YR2/1)		線刻	黒色処理・ミガキ	4	外面ミガキ
273	17	上師器 炮		20%	(17.8)	<5.8>	(8.8)	ı			(10YR1.7/1)	にぶい黄褐 (10YR5/4)		黒色処理・ミガキ	4	外面ヘラケズリ後ミガキ
274			₩	杯部~脚部40%	ı	<17.0>	I	I			(5YR6/6)	霉 (2.5YR5/6)				
275	$\rightarrow$			底部100%	1	<2.1>	8.8	1		$\neg$	<b>ぷい黄橙 (10YR6/4)</b>		ヘラケズリ	ヘラナデ	+	
276	$\neg$	上節器 高行	-	体~高台部15%		<3.9>			砂粒	$\neg$	(7.5YR6/6)	同内		器面剥落	25	外面ロクロナデ
277		上簡器 高台	9.64杯	30%	(11.6)	5.5	(6.3)			$\neg$	(7.5YR2/1)	にぶい褐 (7.5YR5/4)		黒色処理・赤彩・ミガキ	<u>K</u> :	外面赤彩・ミガキ
278	22	十 世 報		40%・底部100%	(12.6)	11.6	9.2			良に	にぶい黄橙 (10YR6/3)   い	にぶい橙 (7.5YR6/4)		ヘラナデ	<u>K</u>	外面ミガキ

	報報	排例		神女康		6 ※海魯山	お山		<b>新品上</b> 孫			中	4 個				
No.	No.	No.	器種	器形 ペポーン ペポーン ペポーン ペポーン ペポーン ペポーン ペポーン ペート パー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー		+	-	2	CE	服十	焼成	内面	外面	底部処理	内面処理	部	備考
279	39号住居跡	23	上師器	□~胴部25%		(16.0)	<9.2>	I		砂粒(細)	型	にぶい褐 (7.5YR6/3)	同为		ヘッナボ	至火	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
280		24	本 世 出 **	破片	(14	(14.0)	<2.0>	I		砂粒(細)	車	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい貴褐 (10YR5/4)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	至火	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
281		25	* 出	破片	(1)	(18.0)	<4.5>	I	1	砂粒	山	褐灰 (10YR5/1)	褐灰(10YR4/1)		器面剥落	至火	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケズリ
282		56	須恵器 斃	破片				1	1	砂粒・雲母	良	<b>灰</b> 台 (5Y7/2)	同内				
283		27	須恵器 壺	胴部20%		<del> </del>	<14.8>	-	-	砂粒	山田	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄 (2.5Y6/2)		ヘラナデ・アテ具痕	4	外面平行タタキ
284		28	須恵器 甕	胴下半~底部15%	- 場12% -	-	<10.01>	(16.4)	1	砂粒	良	灰黄 (2.5Y6/2)	黒褐 (2.5 Y 3/1)		ヘラナデ・アテ具痕	4	外面平行タタキ・ヘラケズリ
285		53	須恵器 薨	順下半~底部20%	部20%	· ·	<7.3>	(16.1)	2	胴下半~底部 20%	型	<b>灰</b> 白(5Y7/1)	灰 (5Y6/1)		ヘラナデ・アテ具痕	\$	外面平行タタキ・ヘラケズリ
286		30	上師器 灣	口~順上半50%		18.8 <2	<23.1>			砂粒·雲母		にぶい黄橙 (10YR7/4)	同内		ヘラナデ	4	外面ナデ・ミガキ
287		31	上師器	口~胴下半40%		(20.0) <2	<24.8>	I	1	砂粒	型	にぶい赤褐 (5YR4/4)	暗赤褐 (5YR3/4)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	₹ K	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ後ナデ
288		32	十一等器	□~胴號30%		(14.6) <1	<10.9>	I	1	砂粒	山山	灰褐 (7.5YR4/2)	同内		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	至火	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
289		33	上師器 灣	破片		▽	<15.0>	1		砂粒・雲母	山山	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)		ヘラナデ	4	外面ナデ・ミガキ
290		34	上師器 選	破片		-	<11.8>	-	1	砂粒	良	橙 (7.5YR6/6)	同内		ヘラナデ	4	外面ヘラケズリ
291		35	上師器 鉢	破片	ı	- <1	<11.9>	1	-	砂粒 (細)	良	橙 (7.5YR6/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)		ナデ	14	外面ヘラケズリ
292		36	上師器 꽲	胴下半~底部15%		7	<3.8>	(7.4)	-	砂粒	山	にぶい橙 (7.5YR6/4)	黒褐 (7.5YR3/1)	木葉痕	ヘラナデ	*	外面ミガキ
293		37	上師器 灣	破片	1	V 	<3.4>	(8.0)		砂礫	良	灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	木葉痕	ヘラナデ	*	外面ミガキ
294		38	上師器 꽲		1		4.3	(6.7)		砂礫	山	にぶい橙 (7.5YR6/4)	黒褐 (7.5YR3/1)	木葉痕	ヘラナデ	₩	外面ミガキ
295		39	土師器 魙	破片	_	·	<4.8>	(9.7)	<u>+</u>	砂礫	良	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR5/3)		ヘラナデ	W	外面ミガキ
296	40号住居跡	-	上師器 杯	体~底部35%	- %	V .	<2.3>	(7.2)		砂粒	山	黒褐 (7.5YR3/1)	明褐 (7.5YR5/6)		黒色処理・ミガキ	₩ ₩	外面ヘラケズリ後ミガキ
297		2	上師器 杯	体~底部15%	%	\   	<1.6>	(0.7)	-4	砂粒	山山	黒 (10YR1.7/1)	灰黄褐 (10YR4/2)		黒色処理・ミガキ	*	外面ヘラケズリ
298		33	上師器 杯	15%	(15	(15.4)	5.5	(8.0)		砂粒	山	橙 (7.5YR6/6)	同内	ミガキ	ミガキ	*	外面ヘラケズリ後ミガキ
299		4	上師器 選	口~胴部20%		(23.0) <2	<20.1>	I	-	砂粒・雲母	以	明褐 (7.5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	至	外面ナデ・ミガキ
300		rc	上	破片	(2%	(24.0) <	<6.7>	1	1	砂粒・雲母	<b>型</b>	にぶい褐 (7.5YR5/4)	同内		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	*	外面口縁部ヨコナデ・胴部ナデ
301		9	上師器 꽲	破片	(25		<62>	1		砂粒	山	にぶい赤褐 (5YR4/4)	同内		ナチ	*	外面ナデ
302		7	上師器 灣	破片	(22)		<7.2>	1		砂礫		にぶい橙 (7.5YR6/4)	同内		ナデ	*	外面ナデ
303		∞	上町器端	口縁部25%		(20.1)	<5.2>	ı	-	砂粒	中	明赤褐 (5YR5/6)	赤褐 (5YR4/6)		ヨコナデ	4	外面ヨコナデ
304		6	十 二 二 三 二	破片			<5.4>	I		砂粒	型	明赤褐 (5YR5/6)	暗赤褐 (5YR3/2)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	至火	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
305		10	上師器 魙	胴下半~底部30%	- %08%	>	<5.4>	(8.0)	1	砂礫	良	橙 (7.5YR6/6)	黒褐 (7.5YR3/2)	木葉痕	器面剥落	4	外面ミガキ
306	4号溝状遺構	1	須恵器 高	高台付杯 65%	(11.4)		5.15	6.2	-	砂粒	良	展 (10Y4/1)	同内		ロクロナデ	1/4	外面ロクロナデ
307	5号溝状遺構	-	上師器 杯	30%	(15	(12.3)	4.0	(0.0)		砂粒	山	にぶい黄橙 (10YR6/4)	同内	墨書・ヘラケズリ	ロクロナデ	有外	外面ロクロナデ・ヘラケズリ
308		2		破片	-			I		砂粒	山	黒 (7.5Y2/1)	黒 (10Y2/1)				
309		က	須恵器 斃	破片	'		1	1	-	砂粒	良	灰黄 (2.5Y6/2)	黄灰 (2.5 Y5/1)		アテ具痕	4	外面青海波・タタキメ
310		4	上師器 甕	%09	(25	(25.4)	3.2	9.6	-	砂粒・雲母	良	にぶい黄橙 (10YR6/4)	同内	木葉痕	ヘラナデ	1/4	外面ナデ・ミガキ
311		2	上師器 灣	破片	'	V		(0.0)		砂粒	山	黒 (10YR1.7/1)	明赤褐 (5YR5/6)	ヘラケズリ	器面剥落	4	外面ヘラケズリ
	6号溝状遺構	1	須恵器 壺	破片	_	V .	<6.1>		1		中	暗灰黄 (2.5Y5/2)	同内		アテ具痕後ヘラナデ	4	外面平行タタキ後ヘラナデ
313		73	計	口~胴部15%		(19.6)	<b>\%</b> . <b>%</b>	ı	ı		<u>~</u>	にぶい赤褐 (5YR5/4)	にぶい赤褐 (5YR4/3)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	至火	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ後ナデ
314		3	上師器 選	破片	ı	>	<8.9>	(10.0)	ı		良	にぶい赤褐 (5YR5/4)	明赤褐 (2.5YR5/6)	ミガキ	ヘラナデ	4	外面ミガキ
315		4	上師器 小型凳	型差 65%	12	12.2	10.8	6.4	ı		型	にぶい赤褐 (5YR4/3)	同内		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	至火	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
		1		-		-	-	-	-		1					-	

	请横	華図		遺存度	口縁部径	超	底部径	胴部最大径	L		色 翻					
No	No.	No.	器種	器形 % %	CB	CIII		CB	品十	焼成	内面	外面	底部処理		細細	赤
316	6号溝状遺構	ιΩ	上商器	%06	16.0	17.3	7.0	ı		型	橙 (5YR6/6)	用内		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	外面口減ズリ	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
317		9	上師器 鉢	-44-	10.9	8.1	5.7			型	赤褐 (2.5YR4/6)	国内	木葉痕	ヘラナデ	外面へ	外面ヘラケズリ
318		7	中間おお	30%	(5.1)	4.6	(0.0)	ı			赤褐 (5YR4/6)	黒褐 (5YR2/1)	木業痕	ヘラナデ	外面粗	外面粗いヘラナデ
319	7号溝状遺構	-	須恵器 杯	不破片	(13.4)	<3.6>	I	I	砂粒・雲母	型	にぶい褐 (7.5YR6/3)	同内		ロクロナデ	外面口。	外面ロクロナデ
320		23	十一等器本	F 60%	12.8	3.9	6.0	I	砂粒		にぶい橙 (5YR6/4)	同为	回転糸切り後端部 手持ちヘラケズリ	<b>↓</b> ↓	外面口。	外面ロクロナデ
321		33	須恵器 蓋	藍 破片	(14.6)	<1.7>	ı		砂粒	山山	<b>灰黄</b> (2.5Y6/2)	同内		ロクロナデ	外面口	外面ロクロナデ
	8号溝状遺構	-	須恵器 杯	۴ 15%	(15.9)	4.7	(0.6)	I		山山	灰 (5Y5/1)	同内	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	外面口	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
323		2	須恵器 杯	f 20%	(15.4)	<3.65>	ı	ı		卓	灰 (5Y8/2)	同内	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	外面口;	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
324		က	上	۴ 15%	(15.9)	3.2	九底	I		旦	橙 (5YR6/6)	周内		放射線状の暗文	外面口点 ズリ後:	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケ ズリ後ナデ
325		4	上師器 杯	4 90%	11.2	4.1	九底	I		山	橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (10KR6/4)		ナデ	外面へ	外面ヘラケズリ
326		ഥ	十二二二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	杯一一一一一	(12.9)	<2.6>	九底	I		山	橙 (5YR6/6)	用为		ナナ	外面口点ズリ	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケ ズリ
327		9	上	不 破片	(13.8)	<3.1>	九底	I		良	橙 (5YR6/6)	同内		ミガキ	外面口点ズリ	外面口縁部ヨコナデ・体部ヘラケズリ
328		7	上師器 杯	不 体部20%	(10.8)	<3.2>	ı	ı		車	<b>灰褐</b> (5YR5/2)	同内		ナデ	外面へ	外面ヘラケズリ
329		8	上師器 和	杯 体部20%		<4.3>	丸底	I		单	黒 (5YR1.7/1)	にぶい赤褐 (5YR4/4)		黒色処理・ナデ	外面へ	外面ヘラケズリ
330		6	須恵器 蓋	100	3.5 (摘径)	<1.6>	Ι	I		良	灰白 (5Y7/2)	同内				
331		10	-	高台付盤 破片	I	<1.7>	(11.0)	I		具	浅黄 (2.5Y7/3)	灰 (5Y5/1)				
332		11	-	発	(22.0)	<30.0>	(6.4)	Ι			にぶい褐 (7.5YR6/3)	同内		ヘラナデ	外面大	外面ナデ・ミガキ
333		12	上師器	幾		<14.2>	I	Ι		型	にぶい黄橙 (10YR7/4)	同内		器面剥落	外面器面剥落	面剥落
334		13	上節器	小型甕 破片	(15.4)	<2.0>	I	I		型	黒褐(2.5Y3/1)	にぶい褐 (7.5YR5/3)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラケズリ	外面口流ズリ	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
335		14	上師器 月	小型甕 口~30%	(10.7)	<2.0>	Ι	I		自	明赤褐 (5YR5/6)	同内		ヘラナデ	外面へ	外面ヘラケズリ
336		15	下師器 小	小型甕	12.2	15.5	9.9	I		型	にぶい褐 (7.5YR6/3)	同内		ヘラナデ	外面口。ズリズリ	外面口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ ズリ
337		16	上節器	小型甕 胴上半~底部25%	%	<11.0>	(8.0)	ı		良	黒 (7.5YR1.7/1)	灰褐 (7.5YR4/2)	木葉痕	ヘラナデ	外面類: リ・輪科	外面頸部ヨコナデ・胴部ヘラケズ リ・輪積痕
338		17	上部器	影	I		(0.0)	I		型	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR6/6)		器面剥落	外面へ	外面ヘラケズリ
339		18	手捏ね 上器	85%	7.1	3.0	6.2			型	にぶい赤褐 (5YR5/4)	同内	木葉痕	ヘラナデ	外面粗	外面粗いヘラケズリ
340		19	手捏ね 土器	%08	7.2	3.4	6.4	I		型	にぶい赤褐 (5YR4/3)	同内	木葉痕	ヘラナデ	外面粗	外面粗いヘラケズリ
341		20	手握ね 上器	100%	7.8	3.0	7.2	I		型	明赤褐 (5YR5/6)	同内	木葉痕	ヘラナボ	外面粗(	外面粗いヘラケズリ
342		21	手握ね 上器	75%	8.0	3.3	7.4	I		型	にぶい赤褐 (5YR5/4)	用为	木葉痕	ヘラナボ	外面粗(	外面粗いヘラケズリ
343		22	手握ね 上器	30%	(6.4)	4.5	(6.4)	I		型	にぶい赤褐 (5YR4/3)	用内	木葉痕	ヘラナボ	外面粗	外面粗いヘラケズリ
344		23	手捏ね 上器	一 破片	(8.0)	3.3	(6.5)	I		型	灰褐 (7.5YR4/2)	同内	木葉痕	ナチ	外面粗	外面粗いヘラケズリ
345		24	手捏ね 上器	30%	(6.2)	2.3	(7.1)	ı		型	にぶい赤褐 (5YR4/3)	同内	木葉痕	ナデ	外面粗	外面粗いヘラケズリ
346		25	手捏ね 上器	20%	(8.3)	3.1	(7.2)	I		百	にぶい赤褐 (5YR4/3)	同内	木葉痕	ヘラナデ	外面粗	外面粗いヘラケズリ
347		26	手捏ね 上器	一一一一一	l	2.85	9.9	ı		型	にぶい赤褐 (5YR4/3)	同内	木葉痕	ヘラナデ	外面粗	外面粗いヘラケズリ

No. 8, 8, 8, 8, 8, 8, 9, 9, 9, 9, 9, 9, 9, 9, 9, 9, 9, 9, 9,	Ñ	単句	14 N	別編 別形	1			-			17. TAY			The William All The		The same	
5 (	TWO.	No.				cm	cm	cm	cm	7 111	Name.	内面	外面	EX III) XEVE			用や
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		8号溝状遺構	27	手捏ね 七器	破片	(7.4)	3.6	(7.4)	I					木葉痕	<b>十</b> 头	外面	粗いヘラケズリ
19	349			手捏ね 上器	破片	I	<1.8>	(7.4)	I			にぶい赤褐 (5YR4/3)	同内	木葉痕	ヘッナポ	外面	和いヘラケズリ
1982	350			手捏ね 上器	破片	(8.2)	3.1	(7.5)				<b>灰褐</b> (7.5YR4/2)	黒褐 (7.5YR3/1)		ナチ	外面	和いヘラケズリ
(1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2		11号溝状遺構			20%	11.4	4.4	5.4	1	砂粒		镫 (7.5YR7/6)		墨書・回転糸切り 後端部手持ちヘラ ケズリ			ロクロナデ・ヘラケズリ
(4)	352			_	破片	(16.8)	<5.3>	I	I	砂粒		黒 (7.5YR1.7/1)	にぶい褐 (7.5YR5/4)		" 'Y	外面	「ヘラケズリ後ミガキ
( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	353				20%	(11.2)	<4.1>	(5.7)				黒 (10YR1.7/1)	にぶい黄橙 (10YR6/4)		黒色処理・ミガキ	外面へ	!黒色処理・体部ロクロナデ ・ケズリ
(4)	354			_	摘部~天井部60%	3.5 (摘径)	<2.0>	I	ı	砂粒		<b>灭黄</b> (2.5Y6/2)	同内		ロクロナデ	外面	外面ロクロナデ・回転ヘラケズリ
1 日本	355			_	胴部30%	ı	<6.3>	ı	1	砂粒		黒 (5YR1.7/1)	暗赤褐 (5YR3/6)		黒色処理・ヘラケズリ	外面	赤彩・ヘラケズリ
(1 上前	356				30%	(22.8)	17.5	(13.0)	I			暗灰黄(2.5Y5/2)	黄灰(2.5Y5/1)		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ・指頭圧痕	外面タキタ	「口縁部ヨコナデ・胴部平行タ・・ヘラケズリ
1 日	357			_	%08	20.8	33.3	6.5	ı	砂粒		橙 (7.5YR6/6)	同内		ヘラナデ	外面	iナデ・ミガキ
1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	358			上節器 小型凳		10.0	<3.5>	I	I	砂粒		にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	同内		口縁部ヨコナデ・胴部へ ラナデ	外面メンプ	<b>「口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケ</b>
1	_	14号溝状遺構	-1			ı	<2.6>	I	ı	砂粒			同内		ロクロナデ	外面	[ロクロナデ
2 上輪響 所         (4-麻藤路56)         (2.2)	362	16号土坑			45%	(14.0)	<4.4>	丸底	ı			黒 (7.5YR2/1)				外面	・ヘラケ
1	363			_	体~底部45%	ı	<2.6>	(8.2)	ı			黒 (7.5YR1.7/1)	灰褐 (7.5YR4/2)	ミガキ	黒色処理・ミガキ	外面	[ヘラケズリ
17分上が         1 手続き         70%         (23)         3.3         66         一一         日本の本書         1700年が	364					(10.3)	<3.1>	ı	I				にぶい褐 (7.5YR5/4)		ヨコナデ・ヘラナデ	外面	[ヨコナデ
(1) 1 上面路 体         (4) 2 (30 m)         (40 m)	365			手捏ね 上器	%02	(2.3)	3.3	3.6	I			にぶい赤褐 (5YR5/4)	にぶい橙 (5YR6/4)		ナデ	外面	ナデ
股大造橋         は 保護         金本         (7.6)         一         1         民業 (2576人2)         成形 (2576人3)         財産 (2576人3)<	360	17号土坑	1	-	20%	(11.8)	3.6	(0.0)	I			橙 (7.5YR6/6)	同内	回転糸切り	ロクロナデ	外面	jロクロナデ
吸交流機         1         上面縮器         所         成能60%         一         24         6.4         一         自         一         24         6.4         一         日         1         上面縮         所         成能60%         一         2.4         一         一         日 </td <td>361</td> <td></td> <td></td> <td>_</td> <td>胴下半~底部30%</td> <td>ı</td> <td>&lt;3.0&gt;</td> <td>(9.7)</td> <td>ı</td> <td></td> <td></td> <td><b>灭黄</b> (2.5Y6/2)</td> <td>黄灰 (2.5Y6/1)</td> <td></td> <td>ロクロナデ・灰釉</td> <td>外面</td> <td> 回転ヘラケズリ・自然釉</td>	361			_	胴下半~底部30%	ı	<3.0>	(9.7)	ı			<b>灭黄</b> (2.5Y6/2)	黄灰 (2.5Y6/1)		ロクロナデ・灰釉	外面	回転ヘラケズリ・自然釉
2         解磁器         皿         □ 一体節10%         25.8         <4.7         一         一         单         中一子数(5Y6/3)         灰 (5Y6/1)         四/中子、於爾         四/中子、新爾         四/中子、斯爾         四/中子         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾         四/中子         四/中子         四/中子         四/中子         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾         四/中子         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾         四/中子、斯爾 <t< td=""><td>366</td><td>竪穴遺構</td><td>1</td><td>-</td><td>底部60%</td><td>ı</td><td>&lt;2.4&gt;</td><td>6.4</td><td>ı</td><td></td><td>型</td><td></td><td>暗赤褐 (5YR3/3)</td><td>回転糸切り</td><td>鉄滓付着</td><td> 外面</td><td>[ヘラケズリ</td></t<>	366	竪穴遺構	1	-	底部60%	ı	<2.4>	6.4	ı		型		暗赤褐 (5YR3/3)	回転糸切り	鉄滓付着	外面	[ヘラケズリ
3 常衛         鑑売         10一脚部35%         (15.4)         (6.7)         一         一         中	367				□~体部10%	25.8	<4.7>	I	Ι				灰 (5Y6/1)		ロクロナデ・灰釉	外面 灰釉	ロクロナデ・回転ヘラケズリ 
4	368		က		□~胴 部25%	(15.4)	<2.9>	I	I			にぶい赤褐 (5YR4/3)	同内		ナギ	外面毛が	外面口縁部ヨコナデ・胴部ナデ (刷 毛か)
トレンチ13         2         麻碗器         連         成約75%         一         (4.9)         (6.0)         一         具         減費(57/3)         減費(2577/3)         無色処理           トレンチ13         1         須売器         煮売付杯         成約25%         一         (6.0)         一         具         損(557R2/1)         にぶい橙(757R6/4)         無色処理         万           トレンチ13         1         須売器         茶         大一線50%         一         (6.0)         一         自         度         (57872/1)         同内         ロフロナデ         万         レンナデ         アンナデ         日         (7.5)	369			-	胴下半~底部20%	1	<3.0>	(0.6)	ı			灰オリーブ (5Y6/2)	灰 (5Y6/1)		ロクロナデ・灰釉		
トレンチ13         2         生師器         高合付体         成第25%         一         4         は、5.5 とし         一         4         は、5.5 とし         一         日本の         日本のの         日本のの         日本のの         日本のの	370			-	成部75%	Ι	<1.9>	(0.0)	I			浅黄 (5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)			外面	回転ヘラケズリ
トレンチ18         1         須恵器         並         (4.7)         丸成         一         一         日         (5.75.5/1)         目内         日内         日内         日かります         日かまます         日かままます         日かまます         日かままます         日かまます         日かまます         日かまます         日かまます         日かまます         日かまます         日かまます         日かままます         日かままます         日かまます         日かままます         日かままます         日かまままます         日かまままます         日かままままます         日かまままままままます         日かまままままままままままままままままままままままままままままままままままま		トレンチ11	2	-		I	<1.5>	(0.0)	ı			黒 (7.5YR2/1)	にぶい橙 (7.5YR6/4)		黒色処理		
トレンチ18         3         土師器 株         体 へ底部30%         一 (4.7)         丸成         一         食 (57R4/2)         使 (57R6/6)         力子         分析部部割           4         土師器 株         二 一体部30%         (13.2)         (3.6)         一         一         自 (5.5)・赤褐 (57R4/3)         にぶい赤褐 (57R5/4)         カナチ         分チチ         外面部面割           5         土師器 鑑         10 一脚上半15%         (2.18)         (8.5)         一         一         自 (5.5)・水褐 (757R6/4)         たぶい橋 (107R6/4)         カナチ         外面子           7         土師器 鑑         (6.20)         1.3         (10.0)         一         自 (5.5)・水褐 (757R6/4)         内内         ヘラナデ         外面子           7         土師器 鑑         (6.20)         1.2         2.0         8.0         一         自 (5.5)・水褐 (57R6/4)         同内         ヘラナデ         外面子           8         土師器 鑑         (6.6)         -         -         2.0         8.0         -         自 (5.5)・水褐 (57R6/4)         同内         ヘラナデ         外面子           トレンチ2         1.8         -         -         -         -         -         -         -         -         -         -         -         -         -         -         -         -         -		トレンチ13	_	$\overline{}$	天上部50%	I	<1.5>	ı	ı			黄灰 (2.5Y5/1)	同内		ロクロナデ		
4         上師器 算         C 一个体部20%         (13.2)         <3.6>         一         一         自         にふい赤褐(57R4/3)         にぶい赤褐(57R5/4)         ナデー         外面部面別           5         土師器 選         25%         (25.0)         31.7         (10.0)         一         自         にふい赤褐(57R6/4)         にふい・横径(107R6/4)         トラナデー         外面ナデー           6         土師器 強         成総100%         一         22.0         80         一         自         にぶい赤褐(57R6/4)         同内         トラナデー         外面ナデー           8         土師器 強         成総60%         一         22.9         64         一         自         にぶい赤褐(57R6/4)         同内         小海・水銀(57R6/4)         所の         小海・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大		トレンチ18	3	-	体~底部30%	1	<4.7>	丸底	1		_	<b>灰褐</b> (5YR4/2)	橙 (5YR6/6)		ナデ	外面	[器面剥落
5         上部器         第         25%         (250)         31.7         (100)         一         良         によい機 (75YR6/4)         におい機 (10YR6/4)         におい機 (10YR6/4)         におい機 (10YR6/4)         外面ナデーター         外面ナデーター           7         土崎器         第         ロ〜胴上半15%         (21.8)         <8.5>         一         一         食         におい機 (10YR6/4)         におい機 (75YR6/4)         一         クラナデー         外面ナデー         外面ナデー         外面ナデー         外面ナデー         外面ナデー         大	374			-	口~体部20%	(13.2)	<3.6>	Ι	I		_	にぶい赤褐 (5YR4/3)	にぶい赤褐 (5YR5/4)		ナデ	外面	[器面剥落
6         土師器         第         口~闌上半15%         (218)         <8.5>         一         一         良         にぶい義稿 (10YR5/3)         にぶい爺 (7.5YR6/4)         (2.5YR6/4)         (2.	375				25%	(25.0)	31.7	(10.0)	ı			にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)		ヘラナデ	外面	·
7         土崎器         窓         成部60%         一         全20>         80         一         良         にぶい赤褐(5YR5/4)         同内         同内         同内         同内         同内         内         上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上	376			$\rightarrow$	口~胴上半15%	(21.8)	<8.5>	I	ı			にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)		ヘラナデ	外面	[ナデ
8     上師器     整     成部60%     一     <2.9>     64     一     良     にぶい赤褐 (5YR4/3)       トレンチ23     18     手柱ね     60%     7.4     3.0     7.0     一     良     様 (2.5 YR6/6)     同内	377		$\neg$	$\overline{}$	底部100%	I	<2.0>	8.0	ı			にぶい赤褐 (5YR5/4)	同内			外面	<b> ヘラケズリ</b>
トレンチ28 18 手捏ね 60% 7.4 3.0 7.0 一 良 機(2.5YR6/6) 同内 上器 上器	378			_	底部60%	Ι	<2.9>	6.4	I			にぶい赤褐 (5YR5/4)	にぶい赤褐 (5YR4/3)				
		トレンチ23	18	手捏ね上器	%09	7.4	3.0	2.0	I			橙 (2.5YR6/6)	同内	木葉痕			

第3表 今郡カチ内遺跡出土金属製品・鉄滓計測表

重な	50	73.05	50.04	65.23	71.22	91.99	23.36	21.84	24.40	24.10	15.67	13.87	30.62	44.64	45.14	13.14	263.36	34.77	22.32	98.9	13.41	2.60	172.45	92.11	1.49	121.57	3.33	7.84	2.13	60'96	137.55	124.51	06.30	48.42	09.69	39.35	2.59	12.93	11.59	26.76	14.97	8.76	8.03	内は推定値
呼べ	cm	5.6	2.2	2.2	2.7	2.3	2.0	1.1	2.4	2.7	1.4	2.1	1.4	2.1	2.2	1.0	2.7	0.7	0.1	0.3	0.2	0.3	3.8	3.0	0.4	3.6	0.3	0.2	0.2	2.1	2.3	2.2	1.8	2.1	1.5	1.5	0.4	0.7	9.0	0.5	0.3	0.5	0.4	) 内は
聖	cm	5.9	4.5	4.6	4.3	4.8	4.3	2.4	2.4	2.8	2.4	2.5	4.2	4.7	6.2	3.0	8.5	6.5	4.7	3.3	3.4	0.5	5.3	4.1	6.0	7.7	0.5	<2.8>	1.4	5.8	6.4	7.2	6.1	5.2	6.3	4.2	0.5	<6.2>	0.8	4.7	1.9	1.3	3.0	値.
以	cm	4.2	3.1	4.1	4.1	4.6	3.9	3.5	3.1	2.9	2.3	2.0	4.2	3.7	4.2	3.3	8.7	8.1	3.3	<4.2>	4.4	<4.3>	5.3	4.8	<2.4>	4.2	<3.6>	3.5	2.6	8.9	6.1	6.3	4.9	3.9	4.8	4.1	3.5	0.7	<8.0>	5.2	<5.8>	5.7	<2.4>	内は遺存値.
林雪	(	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄	鉄	鉄製品	鉄	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄製品	~ ~ 内						
名款	2	鉄焼	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄塔	鉄滓	鉄滓	鉄塔	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	不明	不明	不明	鉄鏃	不明	鉄鏃	鉄滓	鉄滓	釘	鉄滓	釘	鎌	不明	鉄滓	鉄塔	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	剣	不明	剣	絞具	不明		鎌	)うち
押図	No.	27	88	53	30	31	32	33	34	33	38	37	40	41	42	-	9	∞	4	30	31	32	6	10	2	3	1	9	7	8	6	10	11	12	13	14	14	15	13	6	11	12	10	計測値のう
遊構	No.												39号住居跡			2号溝状遺構	5号溝状遺構	6号溝状遺構	7号溝状遺構	8号溝状遺構			11号溝状遺構		14号溝状遺構		20号土坑	竪穴遺構									トレンチ13	トレンチ15	トレンチ17	トレンチ22	4Cグリッド	5Cグリッド		1/112
N	7	87	88	68	06	16	35	93	94	92	96	26	86	66	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	
₩ XU	ъв	3.10	3.44	110.29	1.43	18.73	5.37	3.12	11.26	1.87	4.51	98.63	4.51	8.53	3.85	2.67	2.22	51.33	19.57	10.32	166.68	154.12	204.44	297.45	175.86	144.30	60.64	446.53	109.68	54.85	40.70	12.41	32.50	170.29	115.34	58.24	115.21	34.71	55.17	81.77	56.35	61.30	71.60	46.28
回り	cm	0.4	0.4	1.0	0.4	0.5	0.2	0.2	0.4	0.5	0.4	3.2	0.3	0.4	0.1	0.3	0.2	2.3	0.2	0.3	2.2	2.3	2.3	4.7	1.8	2.1	2.2	3.6	2.5	2.4	1.9	1.9	1.3	2.5	5.6	2.1	2.4	2.6	2.1	2.1	1.9	1.5	1.2	1.9
聖	cm	0.5	1.4	6.7	0.4	3.0	5.6	<3.5>	0.3	0.5	0.7	5.1	1.9	9.0	<4.3>	0.4	2.0	4.9	(0.6)	<5.2>	8.4	8.0	8.9	7.0	7.7	8.2	3.8	17.2	6.9	7.4	5.6	4.5	5.3	8.4	8.9	5.6	8.2	3.5	5.4	5.7	6.7	5.3	5.1	5.4
東	cm	<4.1>	<2.4>	3.0	3.4	<3.3>	1.5	1.3	<11.9>	<2.1>	<3.2>	4.0	<2.6>	<7.7>	1.6	<3.5>	<1.7>	4.0	1.5	1.3	7.5	9.7	9.7	0.6	6.8	6.5	6.1	10.1	5.5	4.4	4.0	3.3	4.2	9.6	4.9	5.1	4.8	4.2	4.5	5.0	3.7	4.9	4.5	3.5
林 雪	(	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄	鉄製品	鉄製品	緓	緓	緓	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	袋	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄
公務		<u>10</u>	不明	不明	剣	不明	穂苅具 4	刀子	<u>\$1</u>	剣	<u>10</u>	鉄淬	不明	不明	刀子	<u>\$1</u>	不明	鉄滓	刀子	刀子	鉄淬	鉄滓	鉄滓	鉄漆	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄苺	鉄滓	鉄滓	鉄滓
華図	No.	62	63	61	7	19	14	10	2	7	8	6	2	2	3	4	5	9	20	21	3	4	5	9	7	8	6	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	56
遺構	No.				21号住居跡	23号住居跡	25号住居跡	26号住居跡	28号住居跡	29号住居跡			31号住居跡	33号住居跡					36号住居跡		38号住居跡																							
2	2	44	45	46	47	48	49	20	51	52	53	54	22	26	57	28	59	09	19	62	63	64	65	99	29	89	69	70	71	72	73	74	75	92	77	78	79	80	81	82	83	84	85	98
₩ XU	50	16.44	5.52	4.56	1.01	9.41	100.38	17.66	31.93	6.55	2.07	1.06	2.87	3.82	86.40	78.07	37.20	56.70	71.77	69.52	23.50	29.47	5.12	1.05	133.84	9.27	3.37	31.73	3.28	3.45	98.93	212.49	3.06	66.9	1.02	1.14	1.52	4.99	8.06	4.00	3.23	265.62	3.92	1.74
画な	cm	1.3	0.4	0.5	0.2	0.5	3.3	0.4	0.4	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3	2.1	2.1	2.0	2.0	3.1	2.2	1.3	1.3	0.7	0.3	2.5	9.0	0.4	1.3	9.0	8.0	3.6		9.0	0.5	0.3	0.3	0.3	9.0	0.3	0.5	0.5		0.2	0.2
	cm	1.3	2.8	0.7	0.2	2.5	5.1	(12.6)	<9.7>	8.0	0.7	0.5	9.0	1.3	6.7	6.3	3.6	6.7	3.5	6.5	3.9	3.7	3.3	0.4	7.0	1.3	<4.3>	4.4	<1.8>	<2.3>	5.5	8.0	9.0	1.2	0.3	0.3	0.5	1.4	<3.0>	8.0	2.1	5.8	(7.4)	2.6
長な	cm	<8.1>	2.5	<3.35>	<3.1>	2.3	3.8	1.5		(6.9)	<3.3>	<2.5>	<4.4>	<3.6>	4.2	5.1	2.9	4.5	3.7	5.9	2.5	3.2	<4.0>	(3.5)	8.9	<3.9>	1.1	-	2.3	<2.2>	6.2	5.5	3.2	<3.3>	<2.2>	<3.0>	5.6	<3.0>	<2.3>	5.3	<1.8>	6.9	1.4	<1.3>
林雪	ζ.	鉄製品	鉄製品	鉄製品 <	鉄製品	銅製品	鉄	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄製品	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	鉄	緓	鉄	鉄製品	鉄製品	鉄	鉄製品	鉄製品	鉄	銅製品	鉄製品	鉄	鉄		-	鉄製品	鉄製品 ~	鉄製品		鉄製品	鉄製品	鉄製品 ~	鉄		鉄製品
名款		不明	不明	釘象	不明	耳環	鉄滓	刀子	鎌				釘象		鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄滓	鉄焼	鉄滓	鉄滓	鉄滓	不明	剣	鉄滓	不明	刀子	Н	銃尾 翁	不明 第	鉄滓	鉄滓	釘象	<b>新</b>	釘象	釘象	不明	不明 第	不明 第	釘象	不明		刀子	刀子
華図	No.	24	22	56	27	82	53	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	22	26	27	28	59	1	2	3	10	11	12	13	14	15	16	9	7	9	7	∞	4	7	8	6	10	09	64
連構	No.	1号墳						3号住居跡			•									•			6号住居跡			7号住居跡			10号住居跡				12号住居跡		15号住居跡			17号住居跡	18号住居跡				19号住居跡	
	2	1	2	3	4	5	9	7 3	∞	6	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22 6	23	24	25 7	26	27		29	30	-		33	34 13	35	36		38 13	39	40		42 19	43

第4表 今郡カチ内遺跡出土銭貨計測表

排標	権図	2.群	排料	暴外径	緑内径   郭外径   郭内径	郭外径	郭内径		縁厚 肌厚 重量	重重	標条
祖田	No.	44	田城	шш	mm	шш	шш		mm	ъ	を 単
7 里外民時	20	紹元通宝	銅銭	23.9	16.9	6.7	5.4	1.4	1.2	1.5	流入遺物
1 9 正压助	21	寛永通宝	銅銭	28.0	20.5	7.7	4.5	1.4	6.0	2.2	流入遺物

第5表 今郡カチ内遺跡出土石製品・軽石状遺物状遺物・土製品計測表

石製品	CEI S	88	3.50 1.70	24.91 24.91 364.09	59 34	No. 34号住居跡	No. 24 軽石状遺物 25 軽石状遺物	大 大 大 大 大 大 大 大	cm 4.70 5.40	cm 0 7.10	0 3.80	g 44.93	
	1 4.		+	30.99	6 09		+	造物	06.6		$\perp$	Ш	
$\top$		4.50	2.30 2.70	36.86	63		27 軽石状遺物 98 軽石栄造物	Salah Salah Salah	7.60	00 200	06.4	76.10	
黎品	1		+	21.98	63		29 軽石状遺物	います	7.40		+	1	
石製品			$\vdash$	207.90	64		$\Box$	(遺物	00.9		$\vdash$	Ш	
1	7		_	1,799.03	65		$\neg$	造物	5.30		$\rightarrow$		
大瀬田			-	24.87	99		32 軽石状遺物	學	420		$\rightarrow$	_	
	100	1	+	4.17	29		+	(4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)	7.4		+	1	
		5.30	00.2	1.51 07.73	ορ Ο Ο Ο Ο		34 軽白小週物 95 軽左守導権	当を	0.00	0.90	3.40	20.32	
		1	4	00.10	60		$^{+}$	2011年	0.00		+	1	
	.	1	1.	6704	2 5		$^{+}$	OB 40	1.0		+	1	
		10.10	11.90	76'660	7 0		3/ 幣白小週物	に直接	0.40	0 4.70	+	92.11	
		1	4	32.89	77 8		$^{+}$	通物	2.0		+	4	
		4.00	+	COTI	2 1		$\top$	温沙	0.20		+	4	
	- '	1	4	12.57	7.4		$\top$	(画型	4.3		$\rightarrow$	4	
			4	264.96	75		$\dashv$	道海	4.50		_	4	
	<u>-</u>		_	130.96	9/		$\neg$	· 通物	5.30		$\rightarrow$	- 7	
			-	236.53	77		$\dashv$	に直接	5.20		_		
			$\dashv$	5.42	28		44 軽石状遺物	道物	4.70				
七十十十十十十二十二十十十十十十十十十十二十十十十十十十十十十十十十十十十十十		2.70 2	2.80 0.90	8.19	79		$\neg$	道物	7.80				
			_		8			道物	3.40				
					81		$\neg$	道物	4.70		_		
上製品	_	_	$\dashv$	須恵器の甕・内面青海波の	82		$\neg$	(遺物	3.70		_		
上級品	$\overline{\lor}$	₹	$\dashv$	140.38 須恵器の甕・内面アテ具痕・外面櫛描波状文	æ		$\dashv$	通物	4.50		_		
2	- 4		4	709.32	Z :	_		過過	480		_		
日級日			_	57.19	£ 8		51 幣石状遺物 22 成七年連幅	(周初	440		3.00	19:06	
		0 1007	0.00 0AA	27.77	00 00	27年4年四年	T	通物	3.00	0.220	+	6	
	, 14		+	7108	+	38号件压胜	38 中型 38 日	万惠	石製品 8.40		+	$\perp$	
			+	3053	_		$\top$	T P			+	$\perp$	
		5.40 5	5.80 3.30	34.76	66		$\top$	石製品	獎品 2.70	0 2.40	0 1.30		
			-	36.95	16			上製品	1		_	89	
		3,30	3.40 2.50	10.45	36			+1	╀		$\vdash$	╄	
	4,	L	_	1044	83		-	上製品	╄		_		
	a,		5.80 2.70	30.50	56			十	上製品 3.50	0 4.60	0 2.30		
		5.70 5	5.10 3.30	30.91	$\vdash$	39号住居跡	43 軽石状遺物	İ.			-	15.73	
			⊢	28.72	96		44 軽石状遺物		00.9	0 420	0 4.70		
			$\vdash$	29.03	26	-	$\vdash$		石製品 16.00		⊢	2,400.00	
石製品			-	50.66	86	-	$\vdash$				-	-	
石製品			┡	320.32		40号住居跡	11 砥石	石製品		09'9 0'	0 4.70	L	
100		3.70 3	⊢	30.15	⊢	1号溝状潰構	Т	石事		L	$\vdash$	⊢	
懿		L		348.50	,		2 砥石	石製品			╙	L	
石製品		L	$\vdash$	167.06	$\vdash$	5号溝状遺構	Т	石事		00.9	⊢	19921	
		Ľ	╄	248.28	-	6号溝状遺構	Т			L	₩		
	=	L	⊬	176 78	-	11号谱状谱槽	T				⊬	ľ	
	<u> </u>	L	+	20 20	_		$^{\dagger}$	上海		L	╀	╄	
	<u> </u>	570	+	65.01	+	19号海朱滑槽	$^{+}$	九数品			+	$\perp$	
		L	+	13.40	_		2 斑石	工業		L	╀	╀	
	1	L	╄	15.33	╀	26号十坑	T	T		L	╀	╀	
	<u> </u>	L	+	23.50	_		$^{+}$	2.	410	L	+	_	
	=		╄	108.60	╙	<b>歐欠清權</b>	$^{+}$	T	万黎品 630	Ľ	╄	ш.	
	<u>'</u>		_	64.14	_		$\top$	が		1	+	$\perp$	
	1		$\perp$	40.56		トレンチル	$\top$	į			+	╀	
	1	02.7	610 450	43.30	112	十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	17 X TH	+	007 日陽十	00.30	+	$\perp$	
		1	_	00:70		次体	$\top$	4 1.99		1	+	1	
	_			49.07		回出が	_	# #			_		

## 第4章 羽計清水西遺跡

羽計清水西遺跡は、平成9年・12年に主要な遺構は調査されており、今回の調査範囲は南東沿いのきわめて狭長な部分である。

## 1 古墳の外周溝 (第87図, 図版18)

今回検出された溝状は0E29グリッド付近に位置し、平成9年・12年の調査の際検出された古墳(1号墳)外周溝の続き部分である。

周溝内の覆土の堆積状況は次のとおりである。規模は確認できた長さ1.6m,幅1.4m,深さ25cmである。 1層は粒子の粗い軟質の暗褐色土層で、大粒のロームブロックを含んでいる。2層は粒子の細かい軟質 のしまりの良い黒色土層である。3層は粒子の粗い軟質の暗茶褐色土層で、細かいローム粒を含んでいる。 4層は黄暗褐色土層で、ソフトロームの流入土層である。

出土遺物は検出されなかった。

### 2 土坑墓 (第87図. 図版18)

本遺構は、平成9年・12年の調査の際検出された古墳(1号墳)の内周溝と外周溝に挟まれた0F02グリッド付近に位置し、中央部分が一段深くなっていることが確認された。規模は確認できた長さ0.8m、幅 1.6m、深さは28cmのところで一端平坦面があり、中央部にはさらに32cm掘り込まれる有段式の土坑墓である。

土坑墓の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の細かいしまりの良い軟質の黒色土層である。 2層は黄褐色土層で、ソフトロームの流入土層である。3層は粒子の粗い軟質の暗褐色土層で、しまりは 良好で炭化物を多量に含む。4層は粒子の細かい軟質で粘性の強い暗茶褐色土層。茶褐色の土壌を含んで いる。

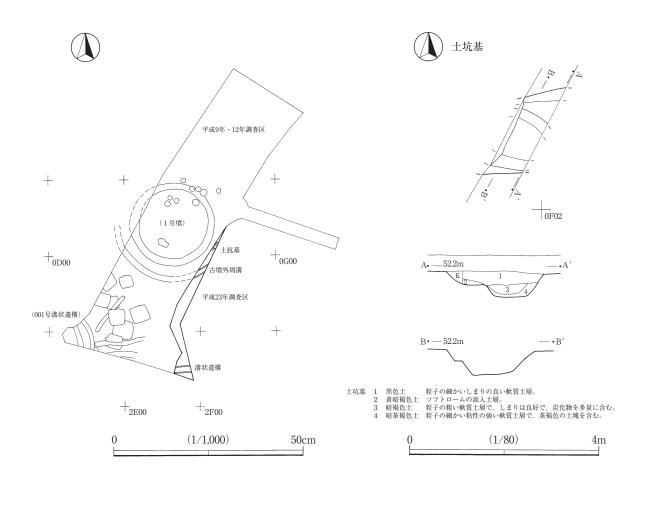
出土遺物は検出されなかった。

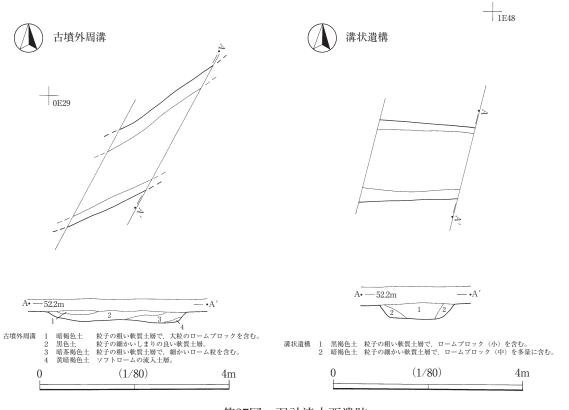
#### 3 溝状遺構 (第87図. 図版18)

本遺構は遺跡南端の市道沿いの1F48グリッド付近に位置し、調査区を東西に横切るものと思われる。 規模は長さ2.0m、幅1.0m、深さ38cmである。

溝状遺構の覆土の堆積状況は次のとおりである。1層は粒子の粗い軟質の黒褐色土層で、小粒のロームブロックを含んでいる。2層は粒子の細かい軟質の暗褐色土層で、中粒のロームブロックを多量に含んでいる。

出土遺物は検出されなかった。



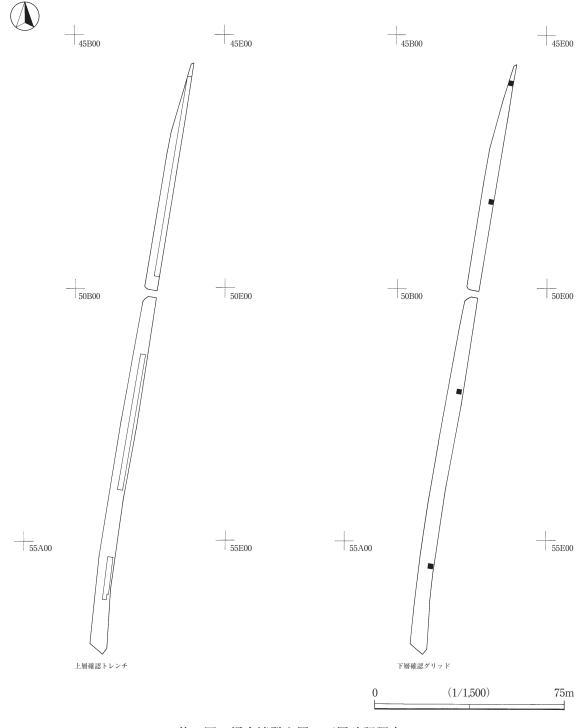


第87図 羽計清水西遺跡

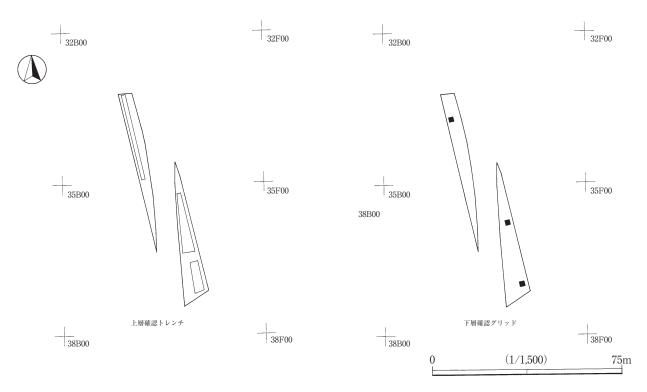
## 第5章 橘古墳群・松ヶ根東ノ内遺跡

## 第1節 橘古墳群 (第88図、図版19)・松ヶ根東ノ内遺跡 (第89図、図版19)

橘古墳群及び松ヶ根東ノ内遺跡の調査は上層及び下層の確認調査を実施したが、今回の調査範囲からはいずれも遺構及び実測可能な遺物の検出には至らなかった。



第88図 橘古墳群上層・下層確認調査



第89図 松ヶ根東ノ内遺跡上層・下層確認調査

## 第6章 まとめ

本章では、今郡カチ内遺跡の集落から出土した遺物の観察を通して得られた集落の年代と特徴について 述べることとしたい。

## 第1節 今郡カチ内遺跡の年代

今郡カチ内遺跡の集落は全体的に小規模な竪穴住居跡が多く、主となる竪穴住居跡の規模は2m~4m四方である。その中で19号住居跡と39号住居跡はきわめて大型の竪穴住居跡であることが判明した。両住居跡は多量の土器が出土しており、今郡カチ内遺跡の年代を考えるうえで重要な資料を提示している。

本節では、今郡カチ内遺跡出土の土器を須恵器蓋及び杯の形態変化から大きく3期に分けて観察する。 大凡の年代を考察するに当たり、西弘海氏の平城京出土土器の編年研究を参考に、東国における集落出土 土器構成の実態との差を考慮しつつ比較検討を行った。

I期 出土土器群の中で最も先行するものとしては、古墳時代末から引き継がれる形態の土師器及び須恵器である。この時期の須恵器蓋は頂部に宝珠のないものが主流であるが、当遺跡においては見られない。

口縁部の外側に僅かに突出したカエリをもつ須恵器杯(住23-4),古墳時代後期の土師器杯の系統のもの(住13-2),(住17-1),(住26-4)及び溝状遺構から出土した多数の手捏ね土器がある。

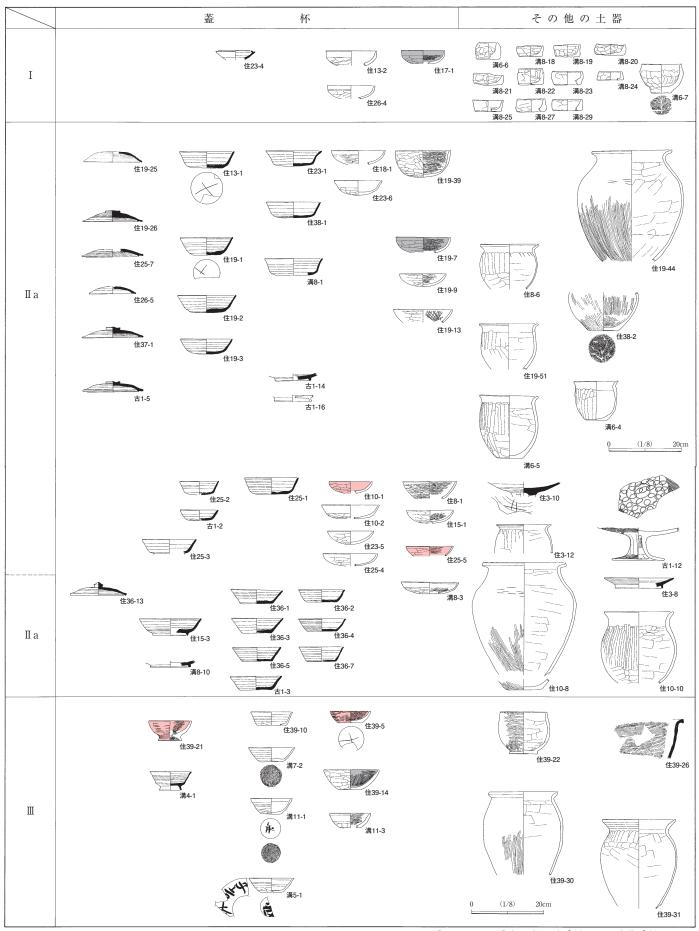
この時期の出土遺物は少量のため連続的な時間軸を提示できないが、概ね古墳時代末から8世紀前半(飛鳥V期~平城京I期並行期)と考えられる。

Ⅱ期 須恵器蓋のカエリは退化し、端が口縁より外側に直線上に伸びるタイプから先端が折り込まれるタイプに変化する時期である。

19号住居跡出土の土器には比較的コンパクトなA類の須恵器杯(住19-1・2・3)と共に、カエリが退化し、端が口縁より外側に直線上に伸びる須恵器蓋(住19-25・26)が出土している。また、C類の土師器杯は体部内面に丁寧なミガキ、外面はヘラケズリのもの(住19-7・9)が伴出し、同じC類と思われる土師器杯(住19-13)は体部内面に斜格子状の暗文が見られる。伴出する甕は長胴で、胴下半部に丁寧な縦位のヘラミガキのある常総型の甕(住19-44)である。千葉県内では印西市木下別所廃寺跡3号住居跡で19号住居跡出土の須恵器蓋(住19-25・26)と同タイプの須恵器蓋とともに杯部内面に螺旋暗文+放射暗文をもつ高杯が検出されている。今郡カチ内遺跡では1号墳の周溝から同じタイプの高盤(杯)(古1-12)が検出されている。また、3号住居跡は脚部に多角形のヘラケズリ面をもつ須恵器の高杯片が検出されており、1号墳の周溝出土の螺旋暗文+放射暗文をもつ高杯との関連が深いことが想起される。

千葉市大北遺跡で見られた多量の『畿内産土器』とは異なり、ほぼ単品出土の状況で検出され、当該地域においてはきわめて希有の出土例ということができる畿内系暗文土器であり、今回は狭長な路線の調査であり、周辺の畑地に遺存すると思われる大規模な集落跡の一部を調査したにすぎないことが考えられる。付近には古代海上郡の石田郷ではないかとされる石出の集落が利根川に面した要地に所在する。その搬入経路や経緯には興味深いものがある。

須恵器蓋の形態変化に注目すると,19号住居跡出土の須恵器蓋と同様のものは25号住居跡(住25-7),



○-△ ○印は住居跡番号 △は遺物番号

26号住居跡 (住26-5)、37号住居跡 (住37-1)、1号墳 (古1-5) からも出土している。なお、1号墳 (古1-5) 出土のものについては周溝からの出土であり、古墳との直接の関わりは無いものと思われる。

また、36号住居跡出土の須恵器蓋(住36-13)はカエリが消失し、先端が折り込みとなるタイプとなる。この須恵器蓋に伴出する平底の須恵器杯は径高指数の安定したA類(住 $36-1\cdot2\cdot3\cdot5\cdot7$ )である。また、C類の杯は器高の低いものが主流である。

須恵器蓋のカエリが外に伸びるタイプ及び伴出する土器群と先端が折り込まれるタイプ及び伴出する土器群は、Ⅱ期を前・後期に分ける目安でもある。

また、II期の高台付杯では、底部がタレ気味の高台付杯(古 $-14\cdot16$ )からフラットな底部(住15-3、25-3、溝8-10)への変化が見られる。

Ⅱ期は、須恵器蓋のカエリの退化と先端部分の変化に加え高台付杯の底部のフラット化が目安となる。 当該時期は前後二期に分けられそうであるが、それぞれに実年代を当てはめることは困難である。Ⅱ期全 体では8世紀前半から中葉(平城京Ⅲ期~Ⅲ期並行期)と考えられる。

Ⅲ期 須恵器の器種が衰退し、土師器が主流となる時期である。

39号住居跡は19号住居跡同様に他の遺構と比べて非常に規模の大きな竪穴住居跡であり、出土遺物も豊富である。杯類から須恵器が消失し、須恵器は甕(住39-26)にのみ残っていることも39号住居跡の特色である。土師器杯(住39-10)は比較的口径の小さい箱形のA類系の杯で、C類の杯は依然として内面にミガキが見られ、体部内外面とも黒色処理のうえ赤彩がみられるもの(住39-5)、体部内面のみ黒色処理の見られるもの(住39-14)がある。また、体部が椀状で、体部内面に黒色処理、内外面にミガキと赤彩が見られる高台付杯(住39-21)を伴出する。他の伴出土器には土師器の高台付杯(住39-22)、土師器甕(住39-30・31)がある。22は体部が椀状で小振りなものとなり、成田市郷部加定地遺跡出土土器群における詳細な検討からも10世紀後半以降に見られるB類タイプの高台付杯である。30は胴下半部に縦位のミガキのある常絵型の甕がある。

Ⅲ期は、須恵器の衰退と黒色処理および赤彩による体部の仕上げ仕様という特徴から8世紀後半から(平城京Ⅳ期並行期以降)11世紀頃に至るやや広い時間幅の時期として理解しておきたい。

#### 第2節 今郡カチ内遺跡の特徴

今郡カチ内遺跡から検出された多数の遺構のうち、数遺構において大量の鉄滓や鞴の羽口を出土した。 3号・6号・7号・10号・18号・29号・33-34号・38号・39号住居跡及び竪穴遺構において鉄滓が検出され、 3号・6号・9号・19号・28号・33-34号・39号住居跡及び16号土坑では軽石状遺物が検出されている。軽石状遺物は大別して二種に分けられる。一つには不定形の破断面に小さな気泡跡のある小破片、もう一つには何らかの構造物の断片のようなフラットな面及び直角に近い角を持つものである。いずれにも胎土中に金属質の小粒子を含んでいる。特に前者の場合には一見軽石状に見えると表現した方が良いのかもしれない。すなわち、これらの軽石状遺物は踏鞴製鉄炉の炉壁の一部の可能性も考えられる。

炉壁は粘土を主体とし、藁などの有機物を含有させて構築されるが炉内の高熱と溶解された鉄により内部は徐々に浸食され崩壊する。最終的には炉壁を破壊して鉧(ケラ)を取り出すことになるため、炉壁自体が遺存することはない。本来踏鞴製鉄の経過では、低融点で還元性の良い籠もり砂鉄と木炭で鉄滓(ノ

ロ)を生成する→炉内の温度を上げて銑鉄(ズク)を生成する→砂鉄の配合量を増加させて鉧(ケラ)を 生成する→さらに砂鉄の配合量を増加させて鉧(ケラ)を大きくする(この段階で炉壁内面は浸食され崩壊がはじまる)。

3号住居跡は鉄滓と小破片ではあるが羽口が検出されており、軽石状遺物も検出されている。鉄滓・軽石状遺物ともに少量であり、鍛冶工房的な性格の遺構と考えられる。

また、6号・33-34号・39号住居跡では羽口は検出されていないが、鉄滓および軽石状遺物をともに検出している。6号・39号住居跡は鉄滓・軽石状遺物ともに少量の出土であり小鍛冶工房と思われるが、33-34号住居跡は鉄滓・軽石状遺物の量が大量である。33号住居跡と34号住居跡の境には幅の広く深さのある溝(11号溝状遺構)があり、鉄滓や多量の軽石状遺物が検出されており、11号溝状遺構にほぼ直角に交わる12号溝状遺構からも多量の軽石状遺物が検出されている。島根県雲南市吉田町所在の栗目 I 遺跡では溝状遺構を挟んで両側に浅い掘り込みの遺構と軽石状の炉壁及び鉄滓が大量に検出され、蹈鞴製鉄跡であることが判明している。33号・34号住居跡の境の溝状遺構は蹈鞴製鉄の過程で出た鉄滓・炉壁破砕片を流すためのものと考えられ、両遺構に関連して踏鞴製鉄炉の存在が考えられる。

また,29号・30号住居跡は規模の小さな遺構で、中央に炉の痕跡が確認されている。覆土が浅いため残留遺物に乏しいが29号住居跡では数点の鉄滓、軽石状遺物が検出されており鍛冶作業のための小屋(鍛冶工房)であった可能性がある。

そのほか、38号住居跡では羽口とともに大量の鉄滓が検出されるも軽石状遺物の検出は無く、遺構内において大鍛冶場と呼ばれる鉄製品製作のための作業が行われた可能性が考えられる。

竪穴遺構においても多数の土坑群や鉄滓が検出されており、やはり製鉄に関わる遺構であると考えられるが、調査区の境で一部のみの調査であり全容は不明である。伴出する遺物からは他の今郡カチ内遺跡の遺構よりもやや後出の遺構であると思われる。

日本書紀には、『天羽鞴(あまのはぶき)』という鹿の皮で作った皮吹子の記述があるが、このタイプの 鞴は比較的炉内の火力を上げられない欠点があるとされ、10世紀前半に記述された倭名類聚抄では踏鞴と して『たたら』を挙げている。今郡カチ内遺跡の製鉄遺構ではおそらく後者の足で踏むタイプの鞴による 踏鞴製鉄が行われたものと考えられる。

以上の考察により、今郡カチ内遺跡は『カチ内』という名の示す通り鍛冶工房の存在が確認され、その起源が少なくとも8世紀前半から中葉(平城京Ⅱ期~Ⅲ期並行期)に遡って行われていたことが判明した。また、蹈鞴製鉄に関しては33-34号住居跡の時期を特定する資料に乏しいが、距離が近く、羽口や大量の鉄滓を出土し、Ⅱ期の須恵器杯を伴う38号住居跡の検証結果から同様に8世紀前半から中葉(平城京Ⅱ期~Ⅲ期並行期)まで遡る可能性があることを指摘しておきたい。

#### 参考文献

『羽計古墳群』1972 東庄町教育委員会

『木下別所廃寺跡第二次発掘調査外報』1979 木下別所廃寺跡調査会

『今郡東ノ台遺跡 宮本刑部遺跡』1982 東庄町教育委員会

『東総用水』1984 財団法人千葉県文化財センター

西 弘海 「土器様式の成立とその背景」・「平城京の土器」・「奈良時代の食器類の器名とその用途」 『土

器様式の成立とその背景』1986 有限会社真陽社

石戸啓夫 「東国における暗文を有する土師器について」『史友第18号』1986 青山学院大学史学会 寺内博之 「加定地遺跡」『シンポジウム資料 房総における奈良・平安時代の土器』1983 史館同人・ 市立市川考古博物館

石田広美 「下総における八世紀の搬入土器」『シンポジウム資料 房総における奈良·平安時代の土器』 1983 史館同人・市立市川考古博物館

『大北遺跡・谷津遺跡・瓜作遺跡・池田古墳群』1986 財団法人千葉県文化財センター

萩原恭一 「千葉市大北遺跡の検討 - 律令制下東国の一様相 - 」『研究紀要10 - 10周年記念論集 - 』1986 財団法人千葉県文化財センター

福田明美 「関東地方出土の畿内系土師器と湖西窯須恵器」『飛鳥・白鳳の瓦と土器 – 年代論 – 』1999 帝塚山大学考古学研究所歴史考古学研究会 古代の土器研究会共催シンポジウム

『羽計清水西遺跡』2001 財団法人千葉県文化財センター

小林信一 「下総地域の官衙関連遺物について」『研究紀要25』2006 財団法人千葉県文化財センター 大岩桂子 「房総における斜格子暗文杯の分布 – 斜格子状暗文杯の特殊性にについて」『研究連絡誌第73号』 2012 財団法人千葉県文化財センター

「栗目 I 遺跡・栗目 II 遺跡現地説明会資料」2011年9月3日 島根県埋蔵文化財センター 『日本書紀』巻一神代上(宝鏡開始)

天照大神の岩戸隠れの段の一書には以下の記述がある。「故即以石凝姥為冶工 採天香山之金以作日矛 又全剥真名鹿之皮以作天羽鞴用此奉造之神是即紀伊國所座日前神也」とあり、真名鹿の皮を剥いで、天羽 鞴(あめのはぶき(鹿の革で作ったふいご))に作ったとされている。

『日本書紀』 神代上 (宝剣出現)

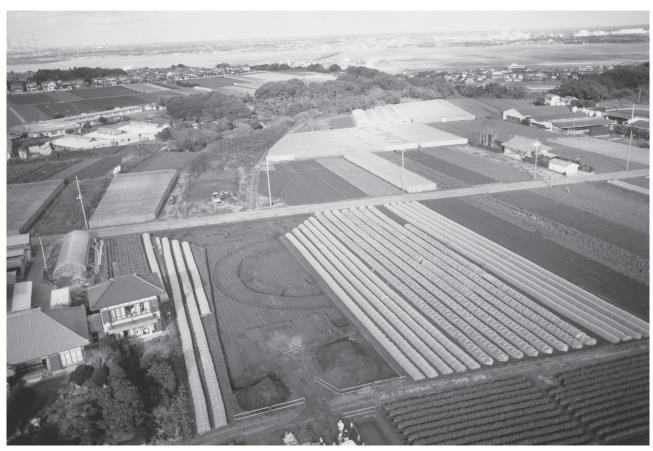
大國主神の國作りの段の一書に「又曰 事代主神化為八尋熊鰐通三嶋溝幟姫 或云玉櫛姫而生兒姫蹈鞴 五十鈴姫命 是為神日本磐余彦火火出見の天皇之后也」・「蹈鞴此云多多羅」とあり、宝剣と蹈鞴(多多羅) と火火出見というあたかも製鉄に因むと思われる逸話が記述されているのは興味深い。

『倭名類聚抄』(934年)

皮鞴を「ふきかわ」とし、これと区別するために踏鞴を「たたら」としている。踏鞴は『東大寺再興絵巻』で、大仏鋳造の際銅の溶解に使用されたことが記述されている。

# 写 真 図 版

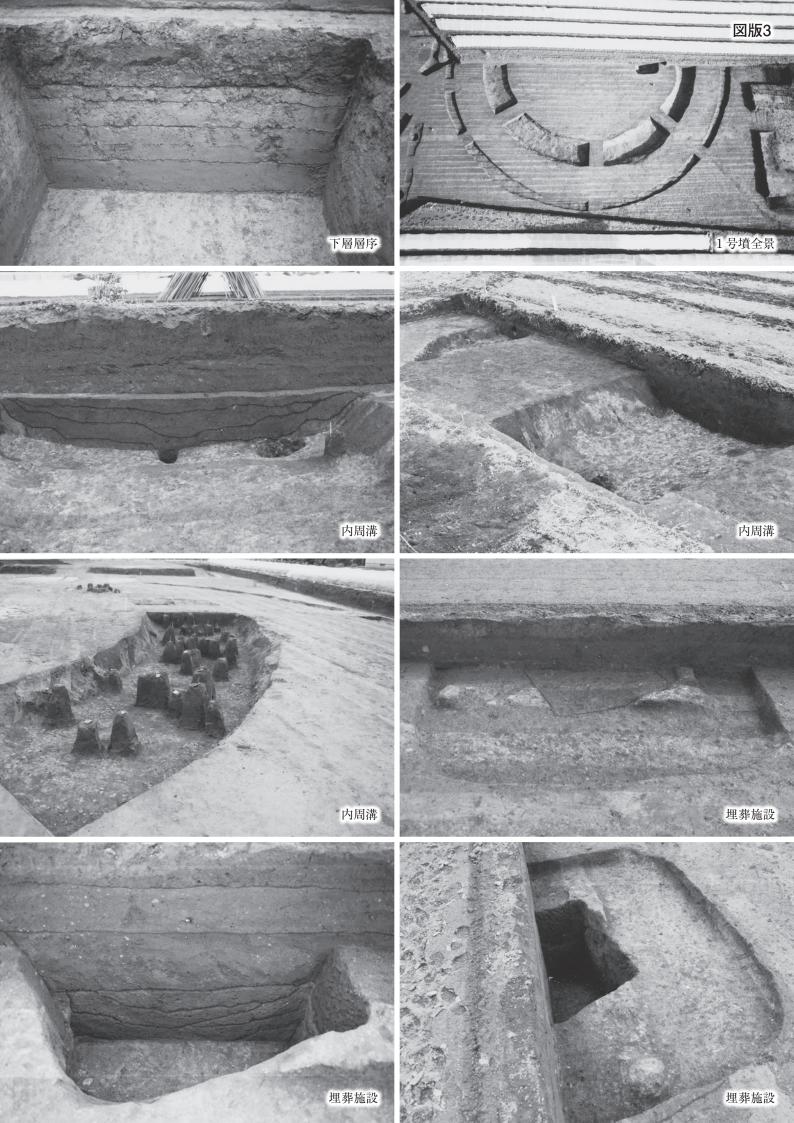


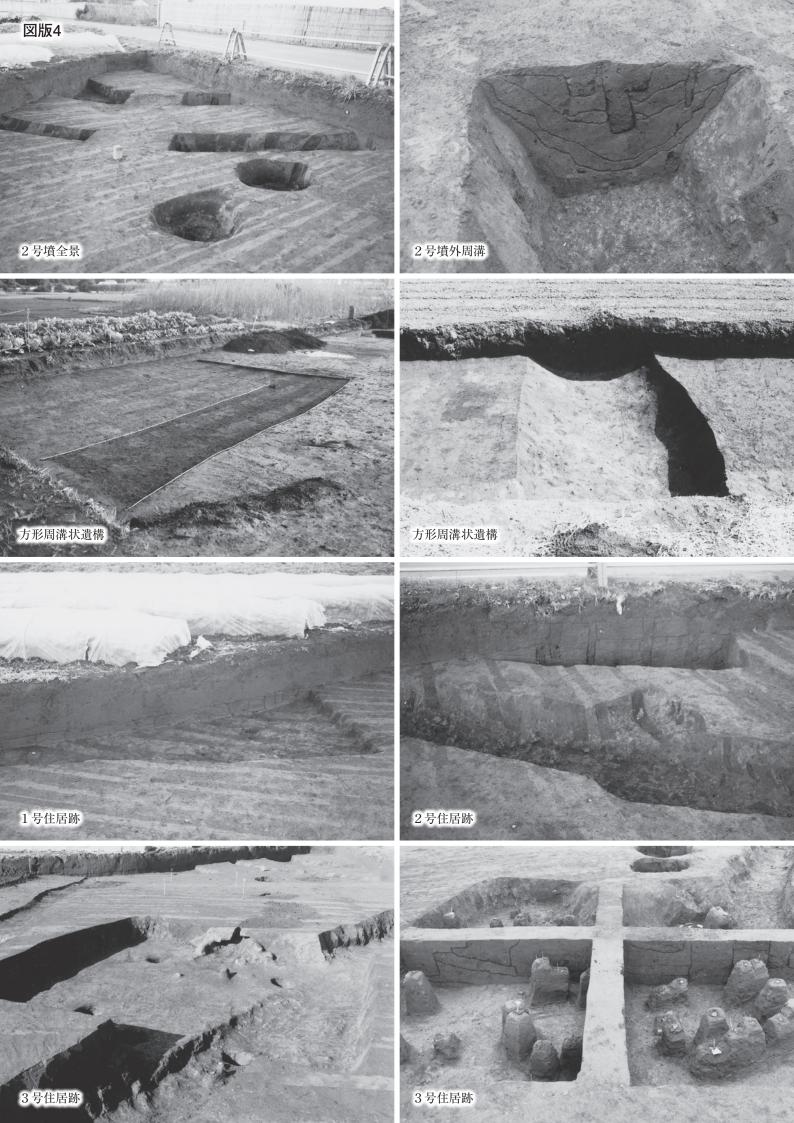


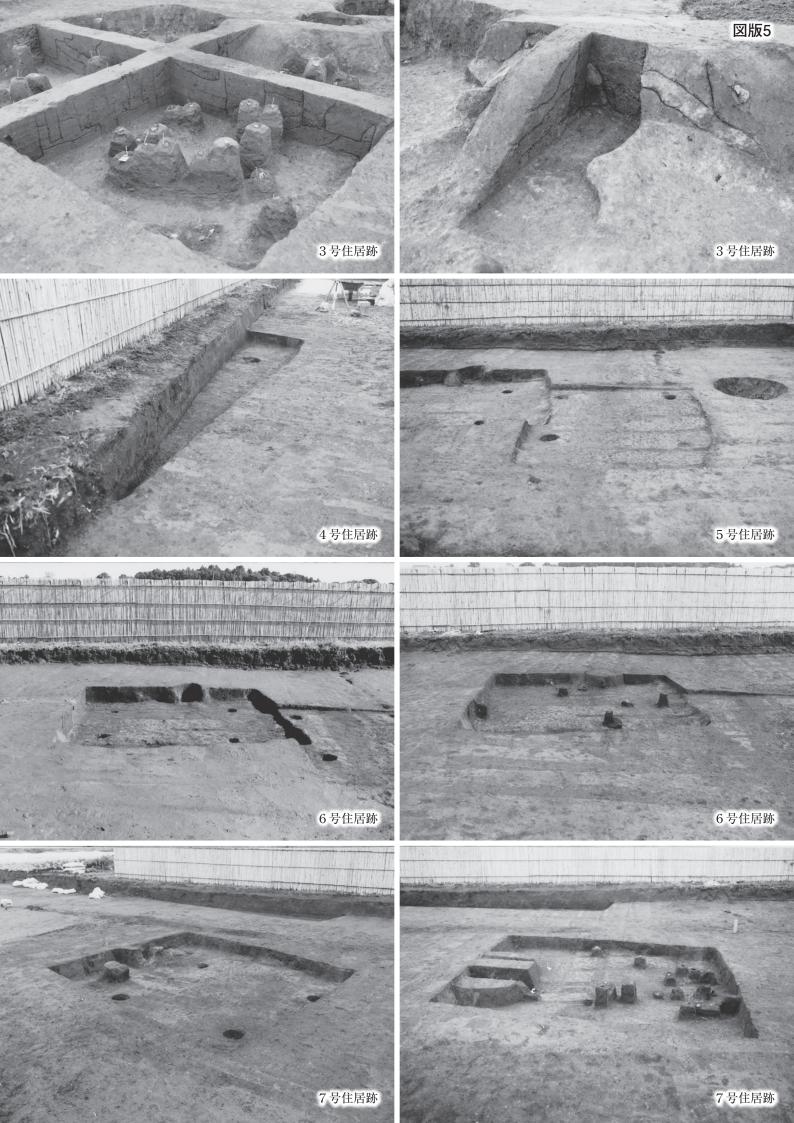
今郡カチ内遺跡(古墳)全景

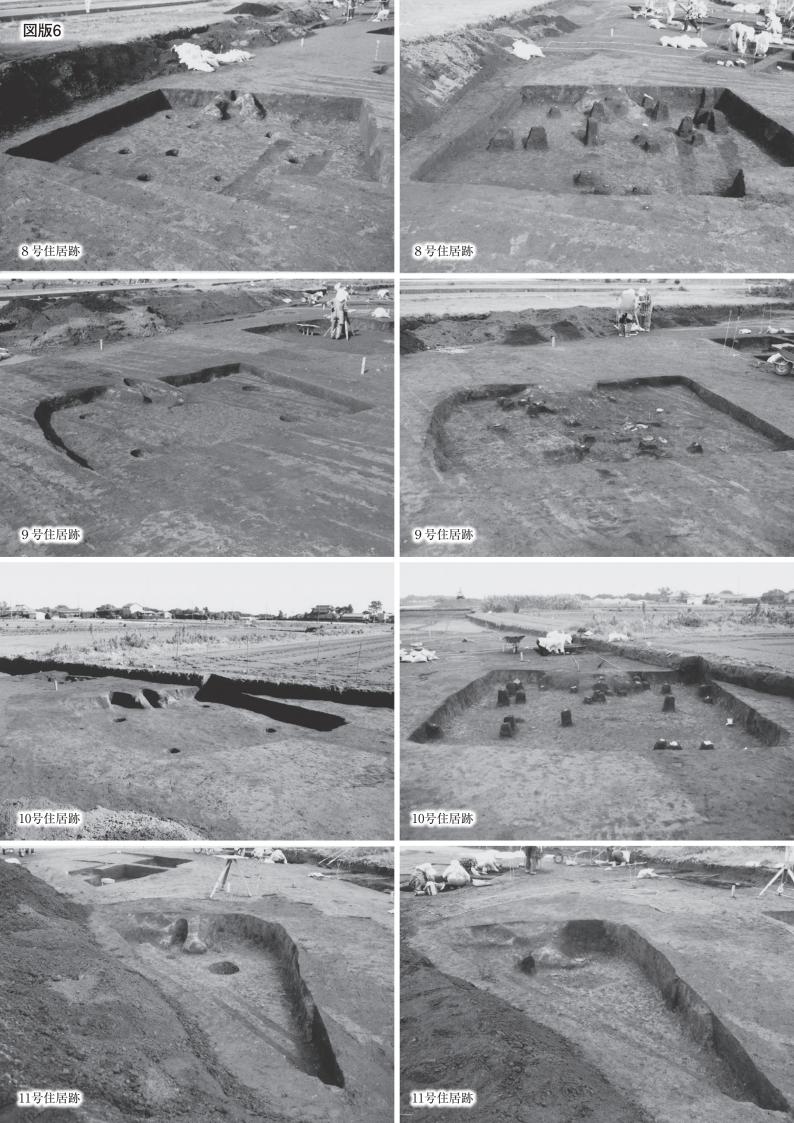


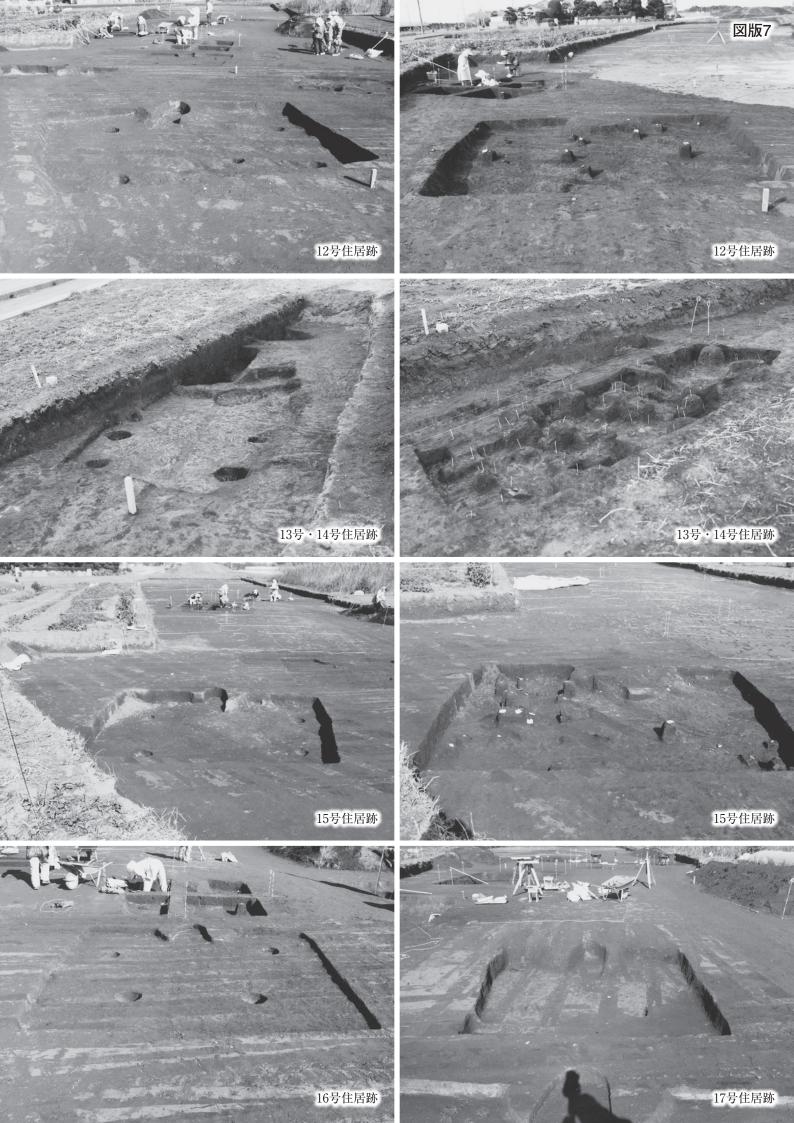
今郡カチ内遺跡 (集落) 全景

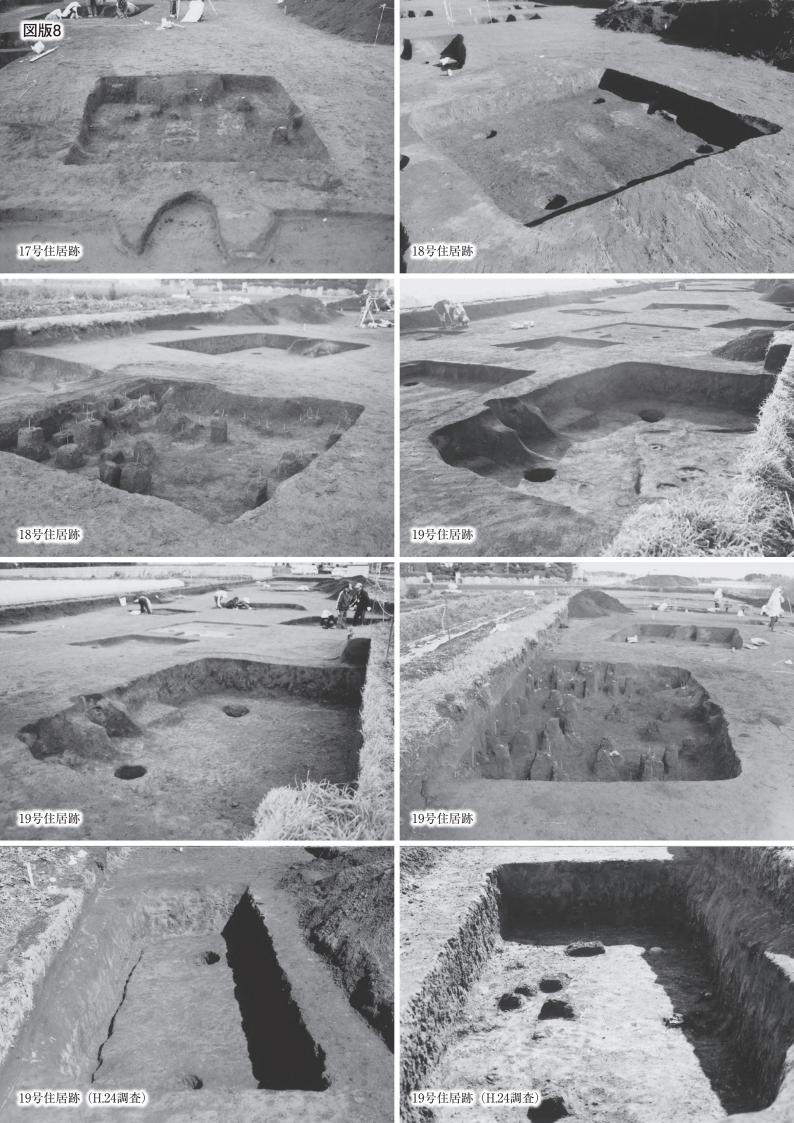


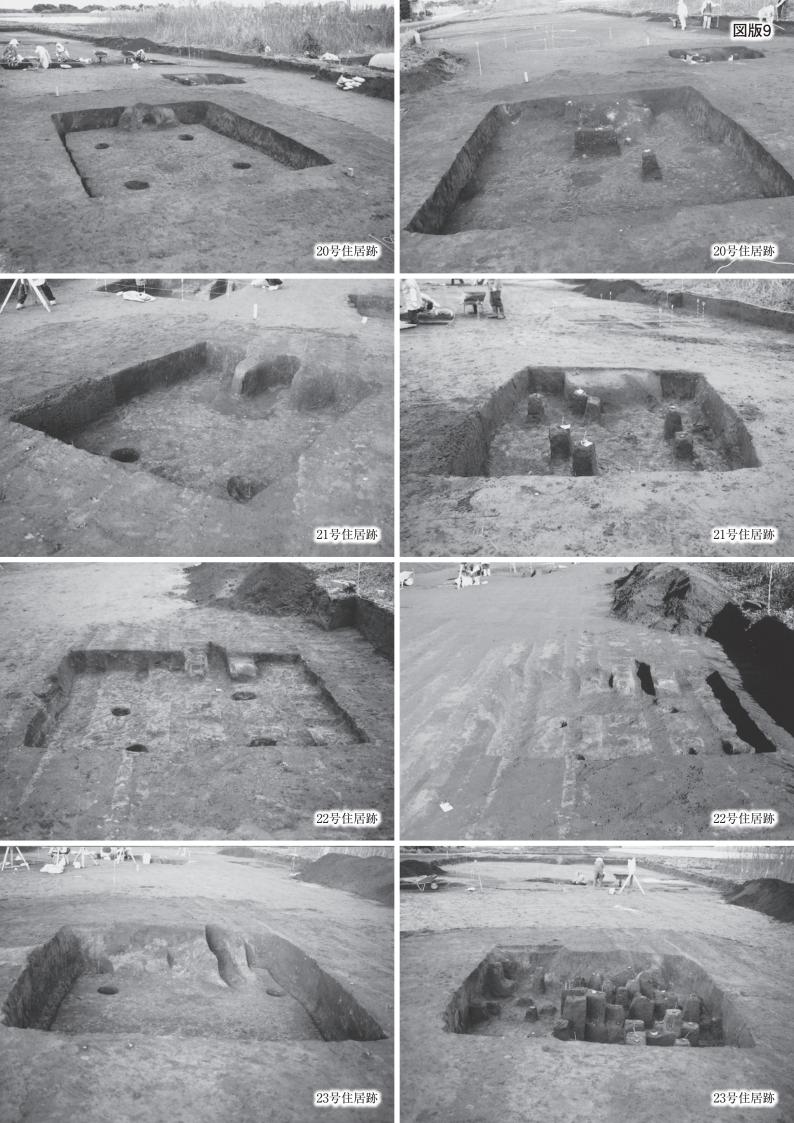


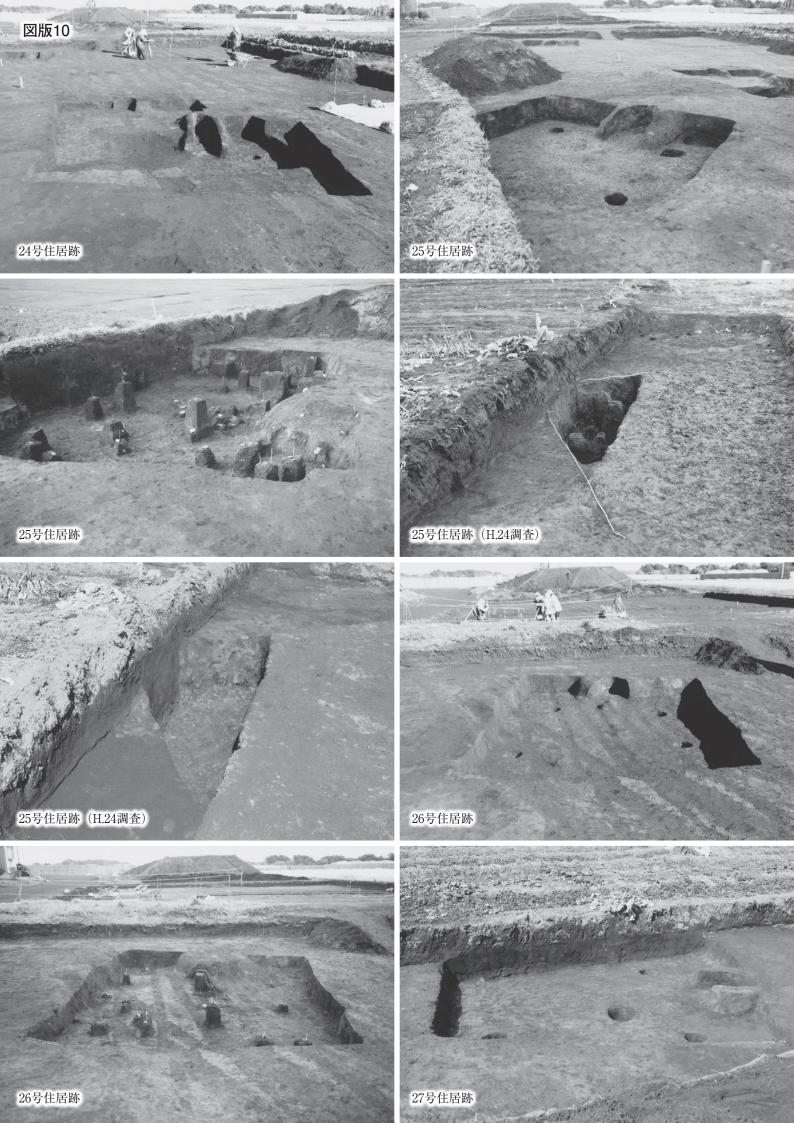


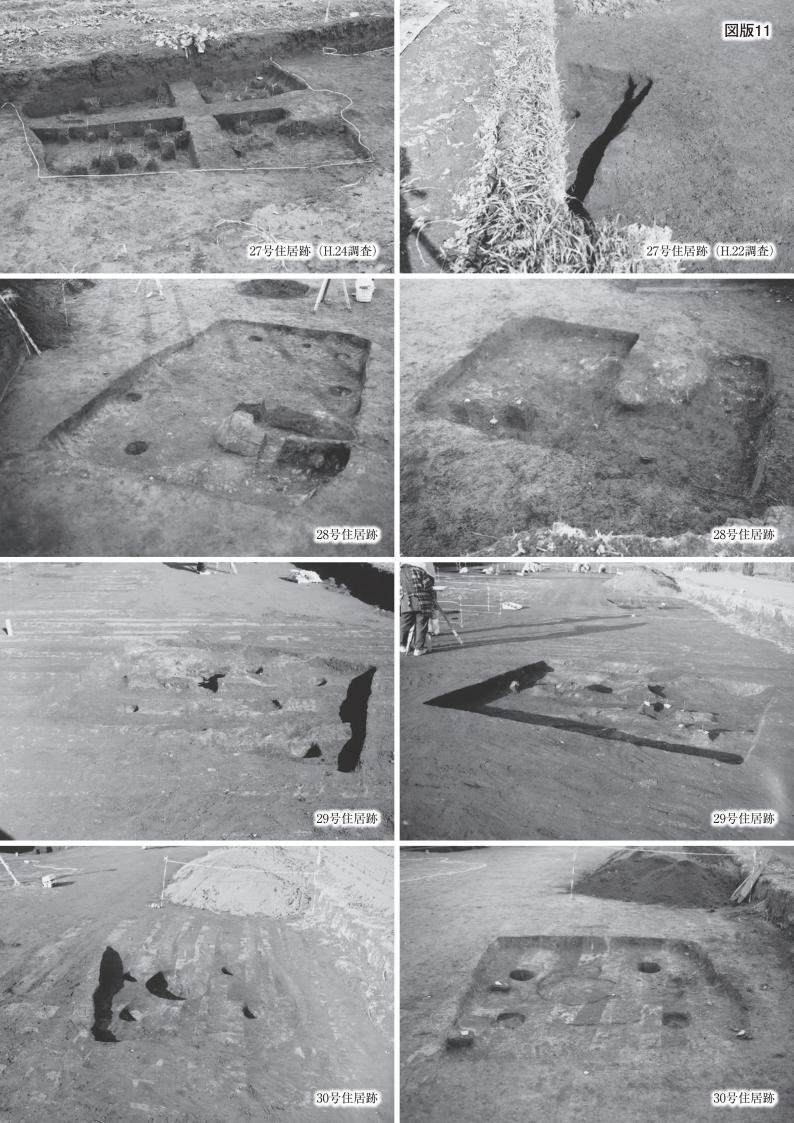


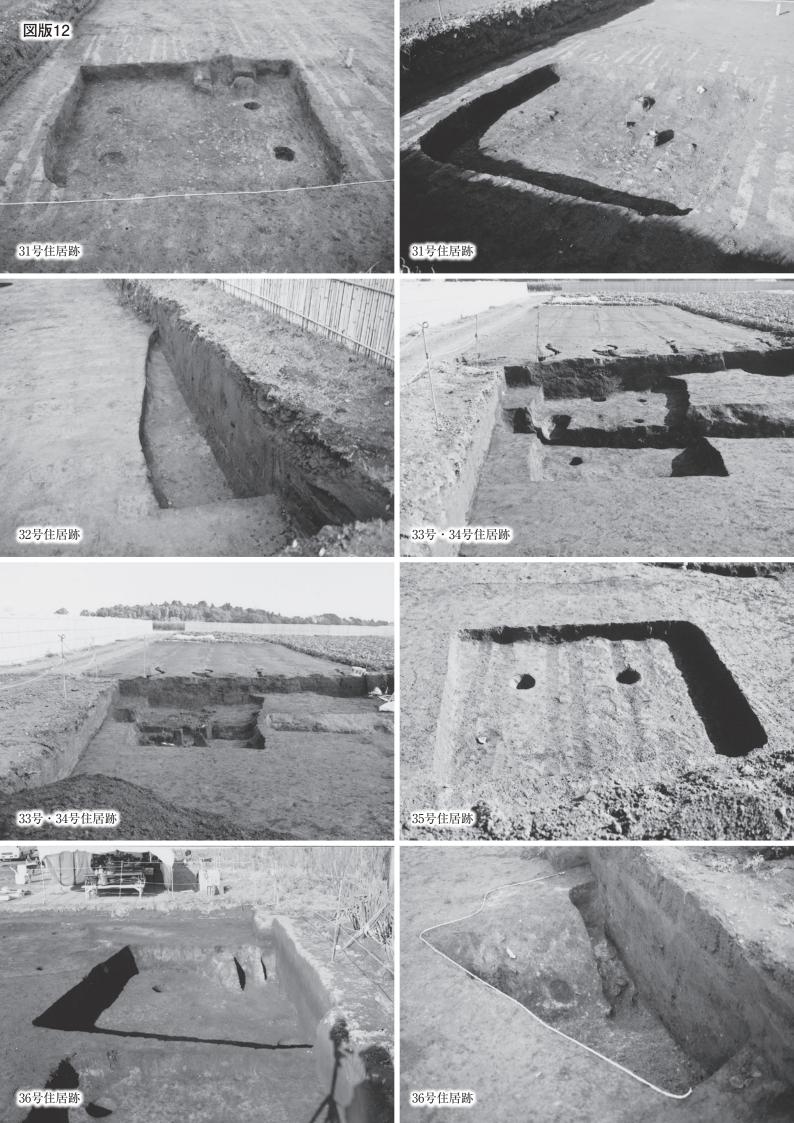


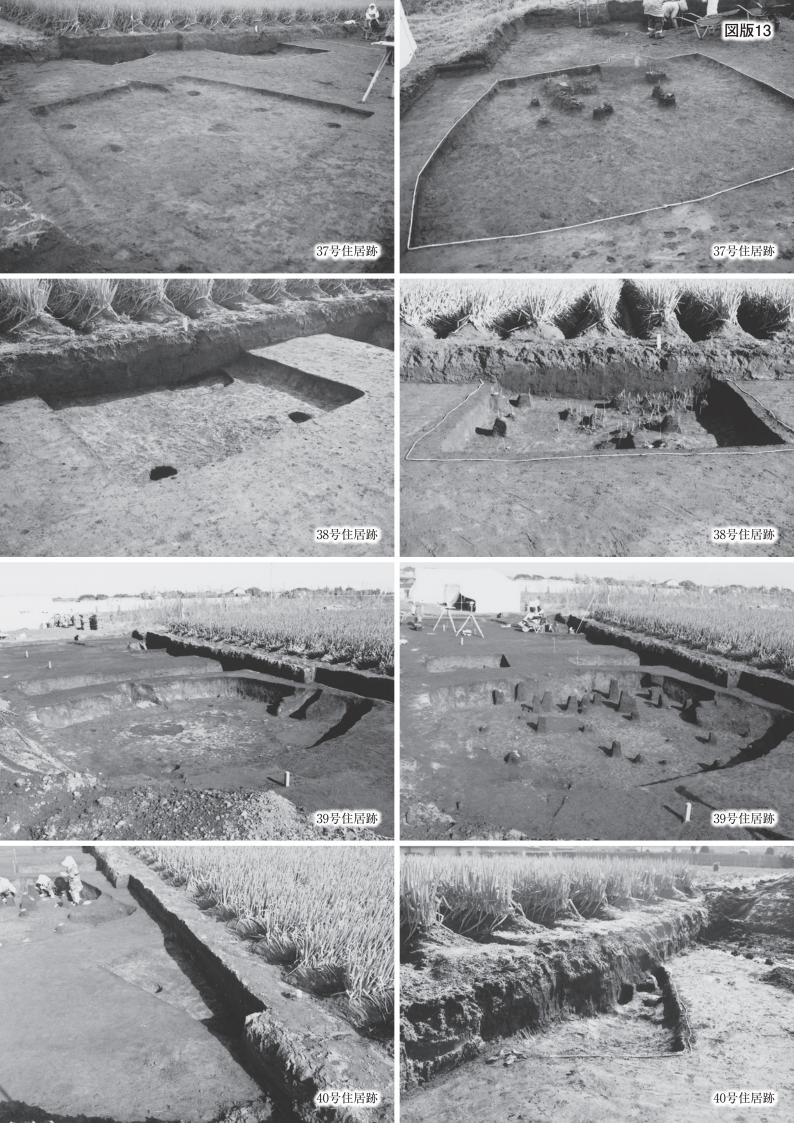


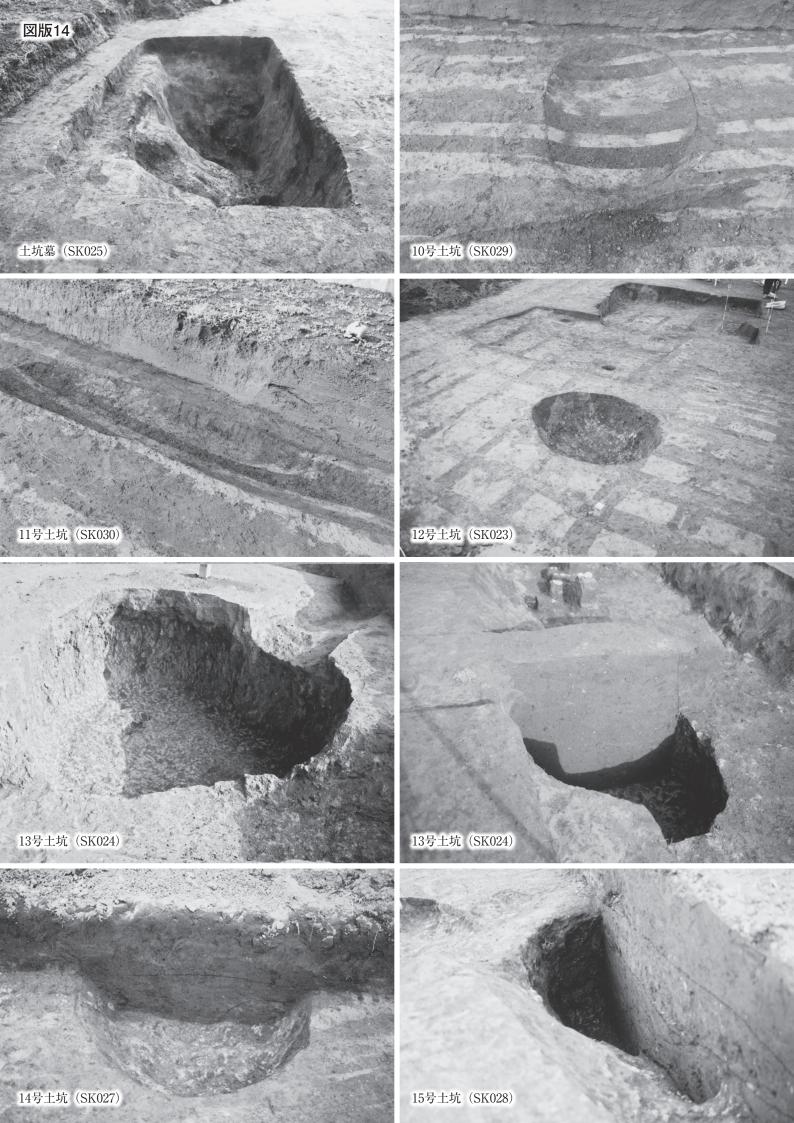


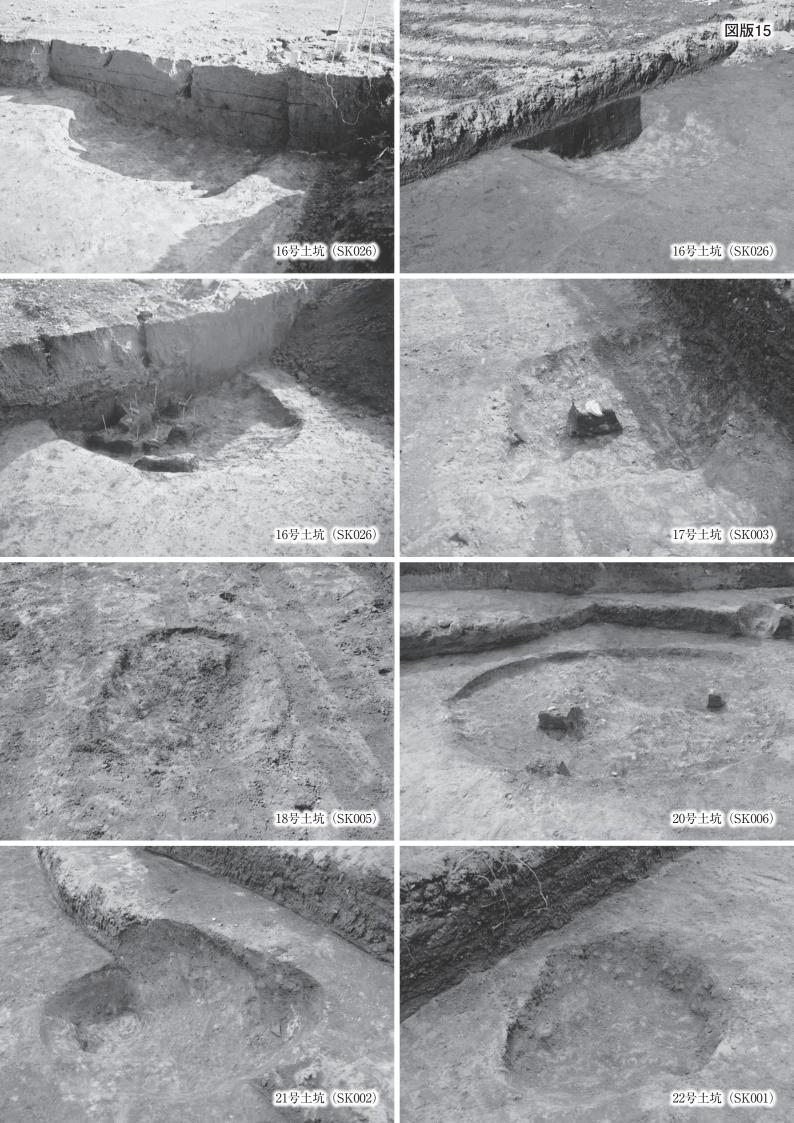






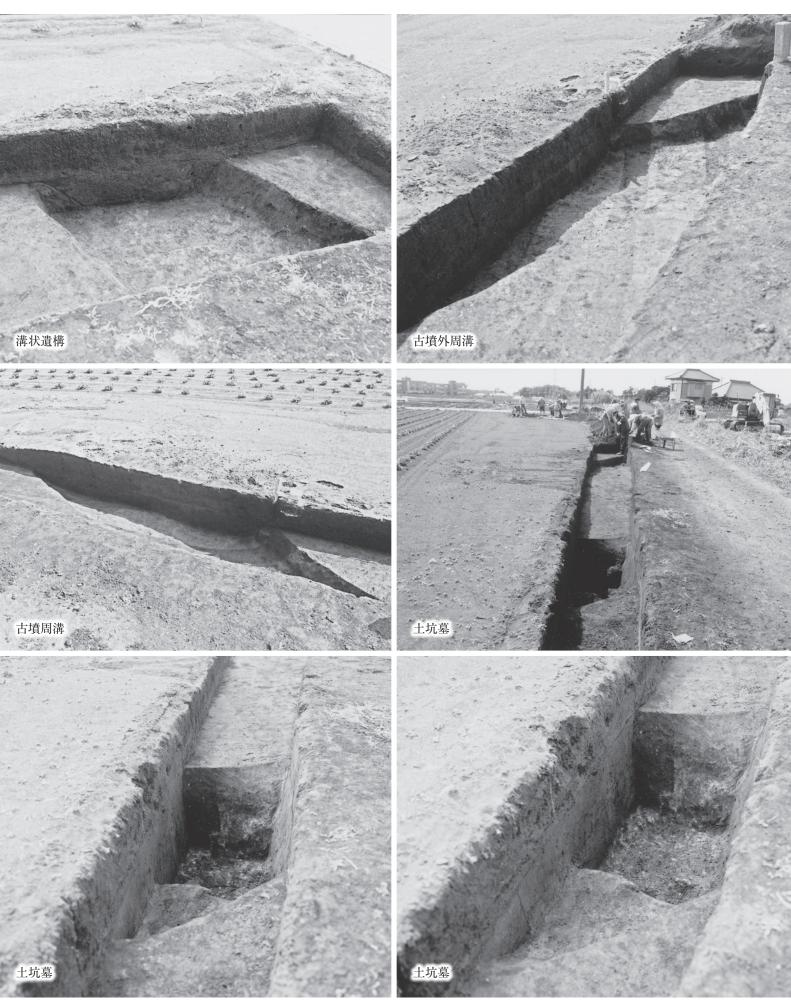












羽計清水西遺跡





橘古墳群 橘古墳群





橘古墳群

松ヶ根東ノ内遺跡



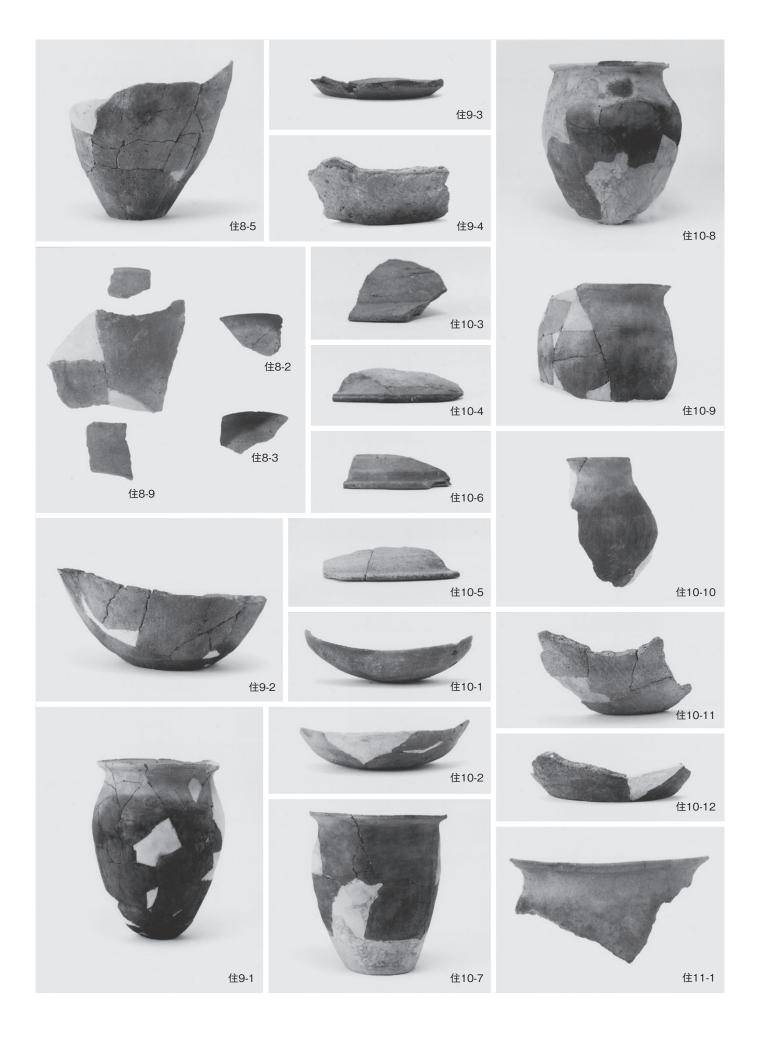


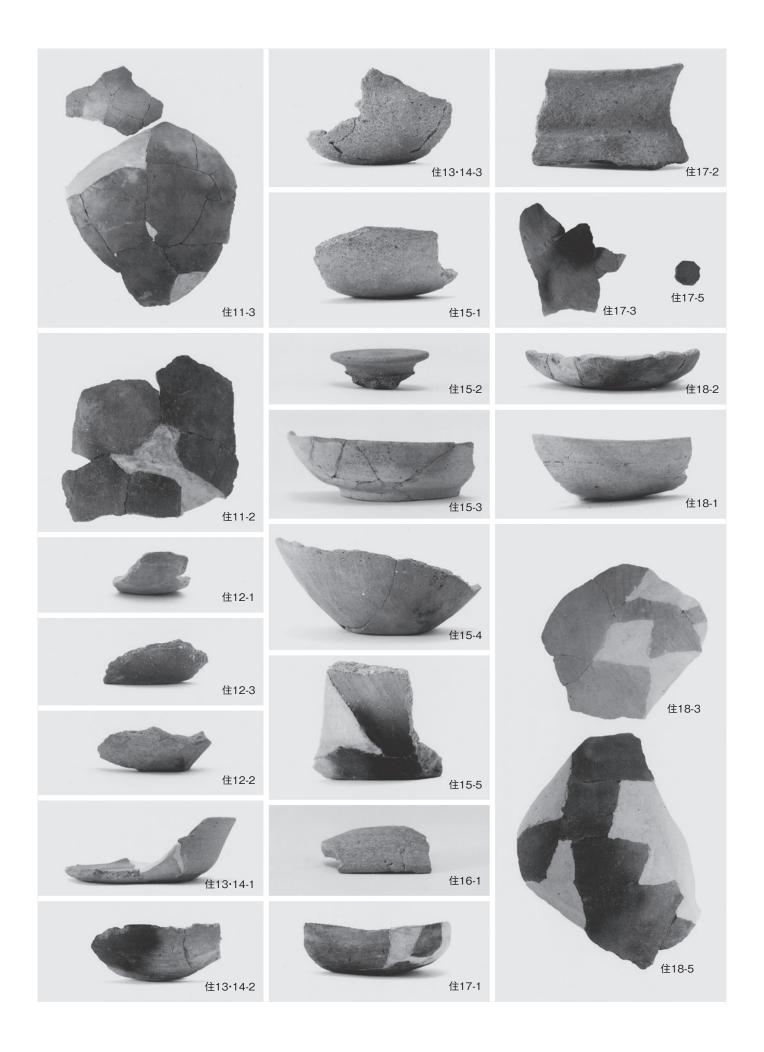
松ヶ根東ノ内遺跡

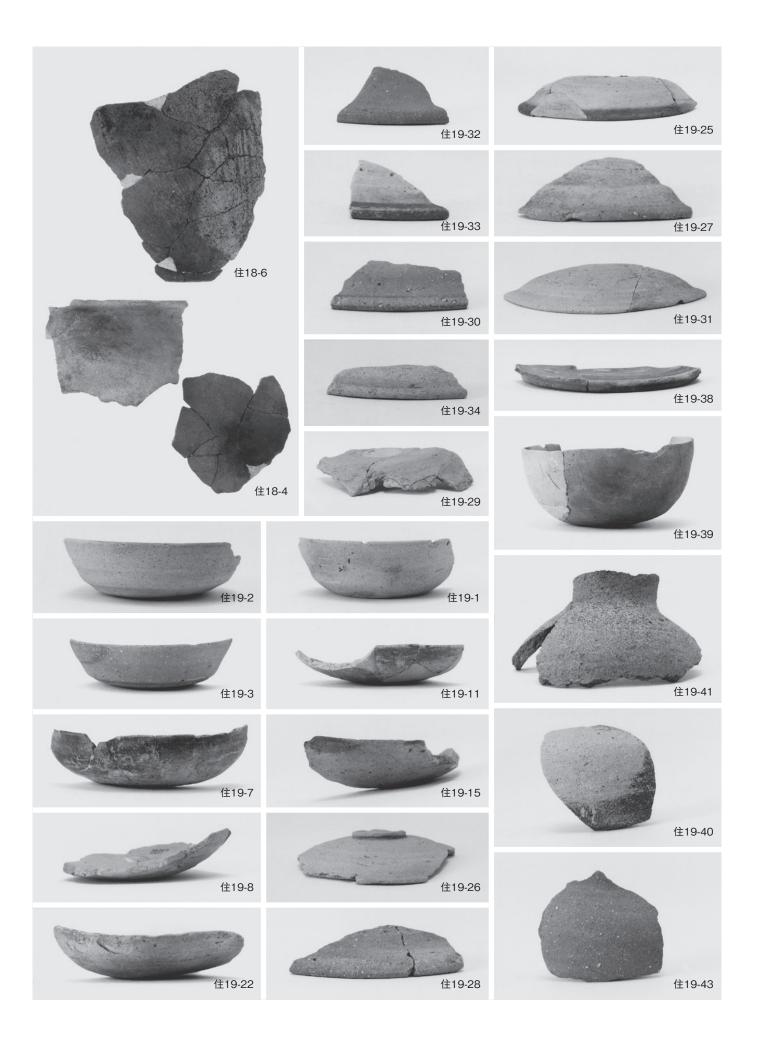
松ヶ根東ノ内遺跡



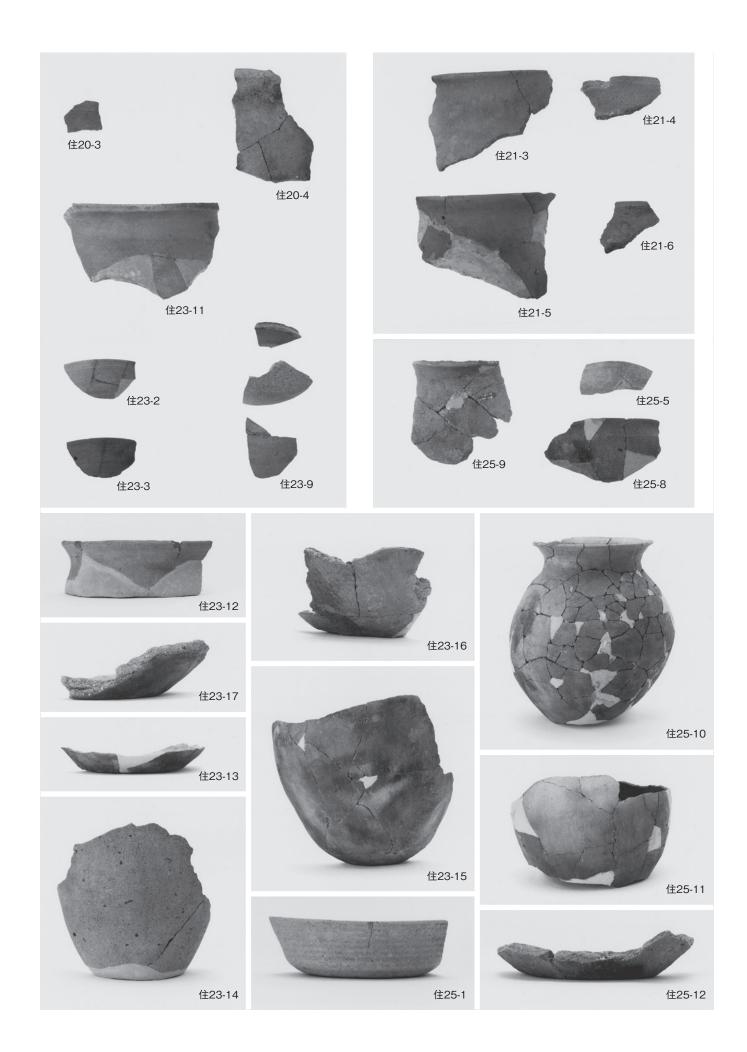


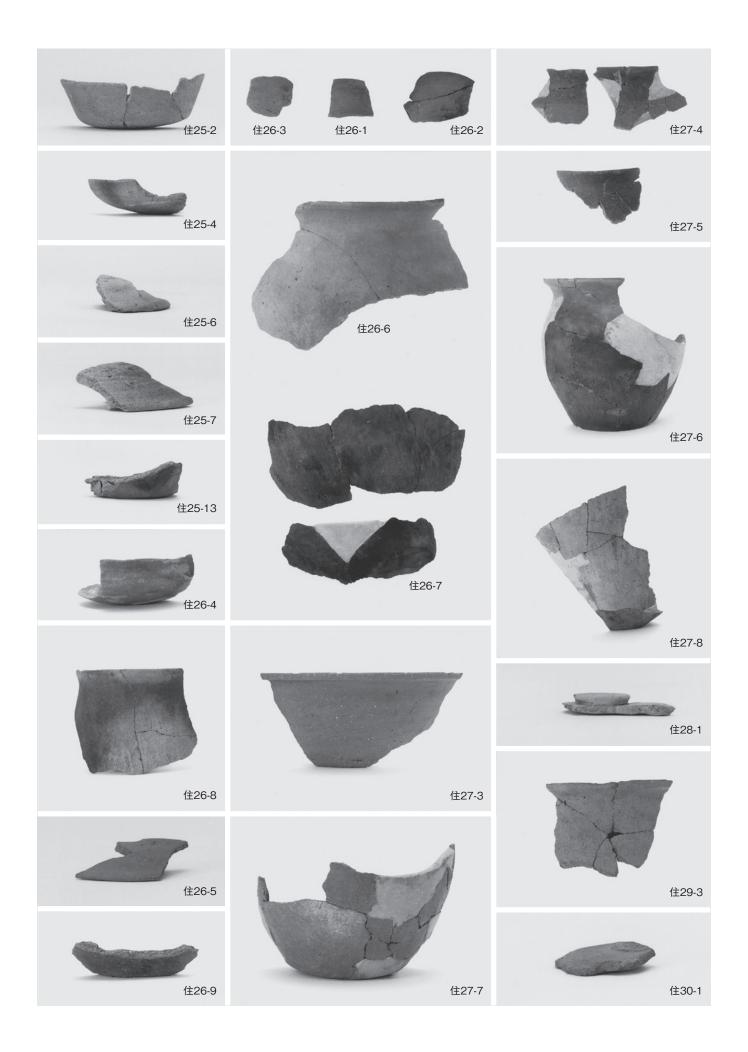


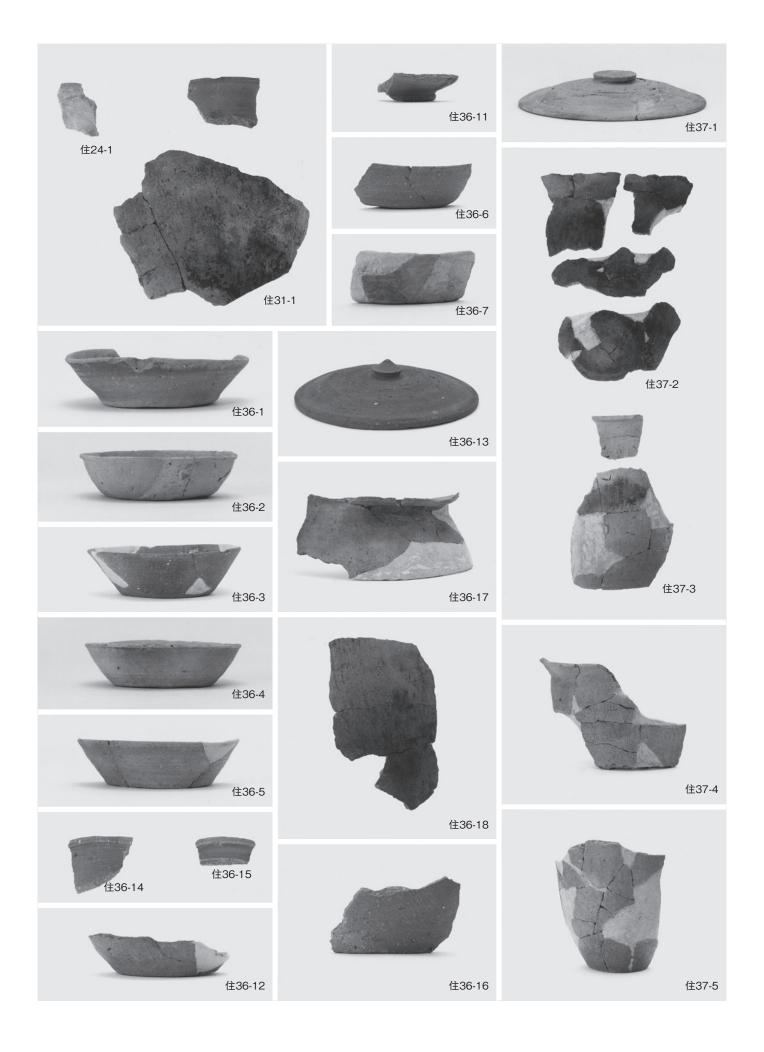


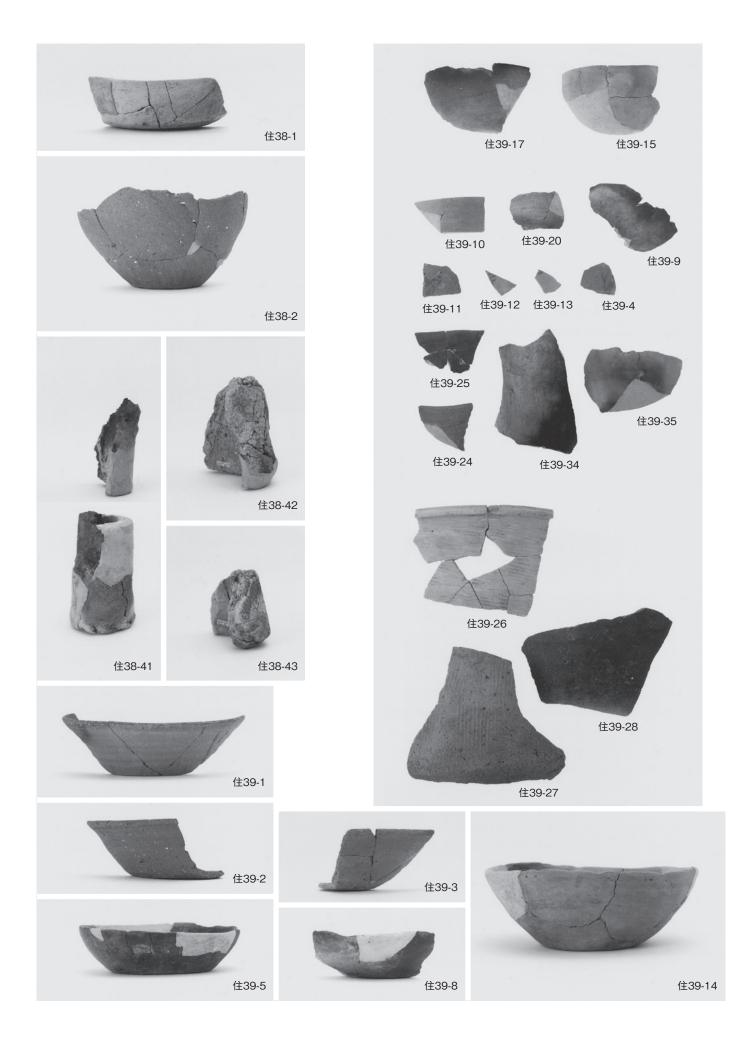


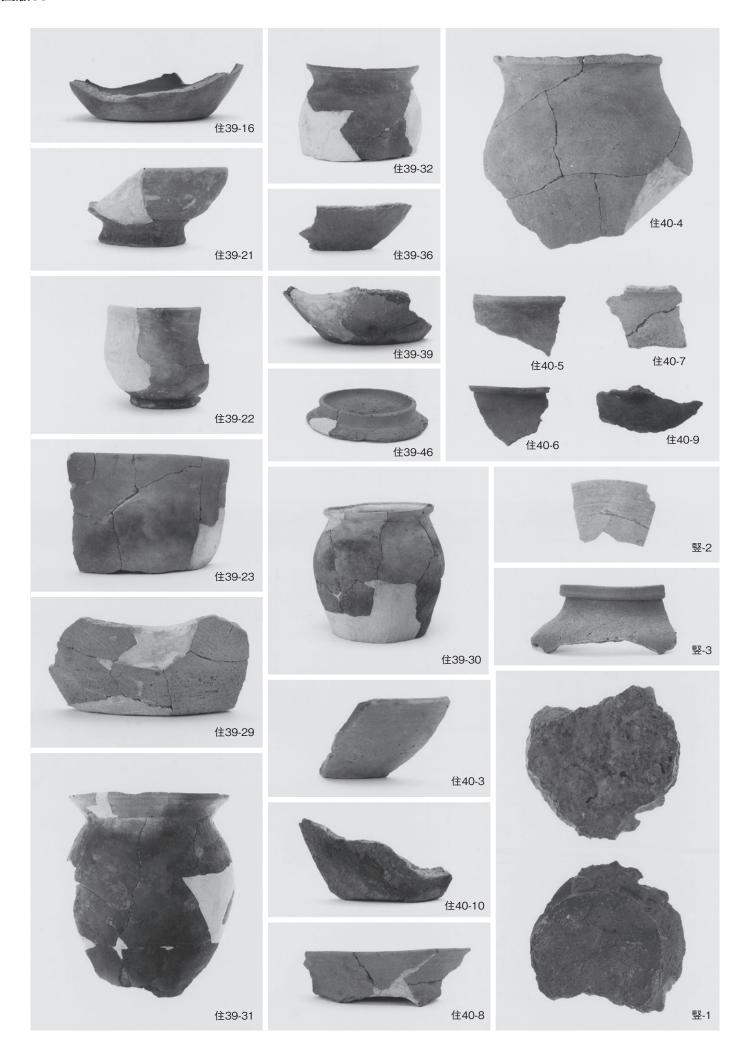


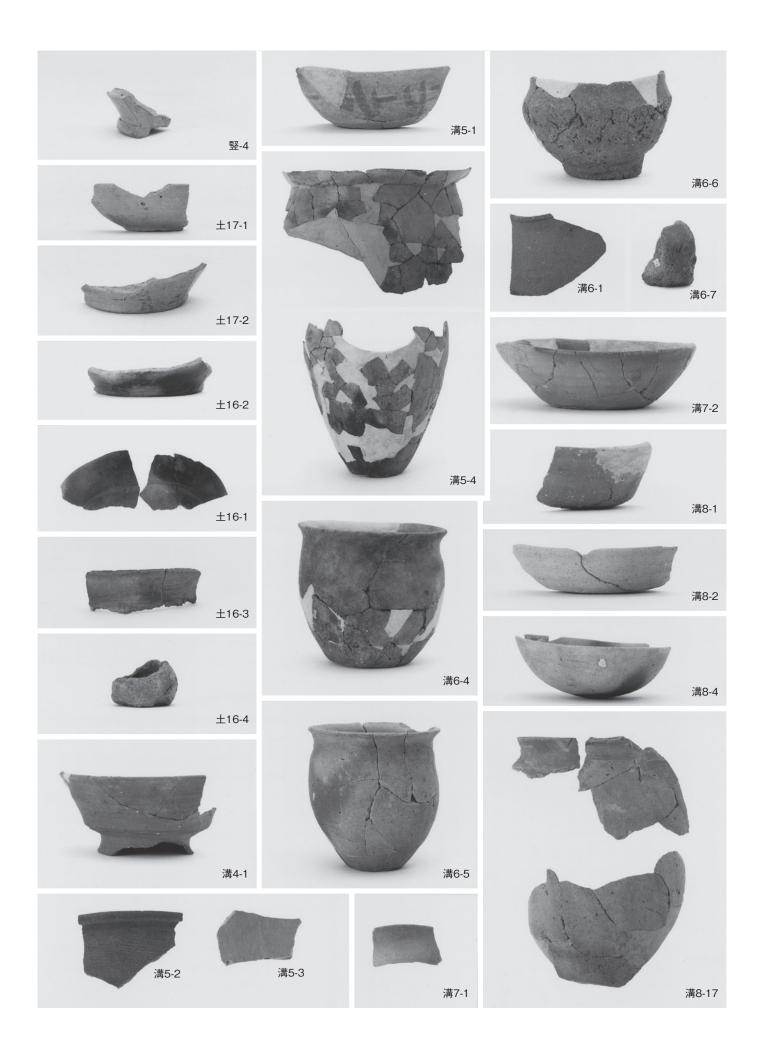


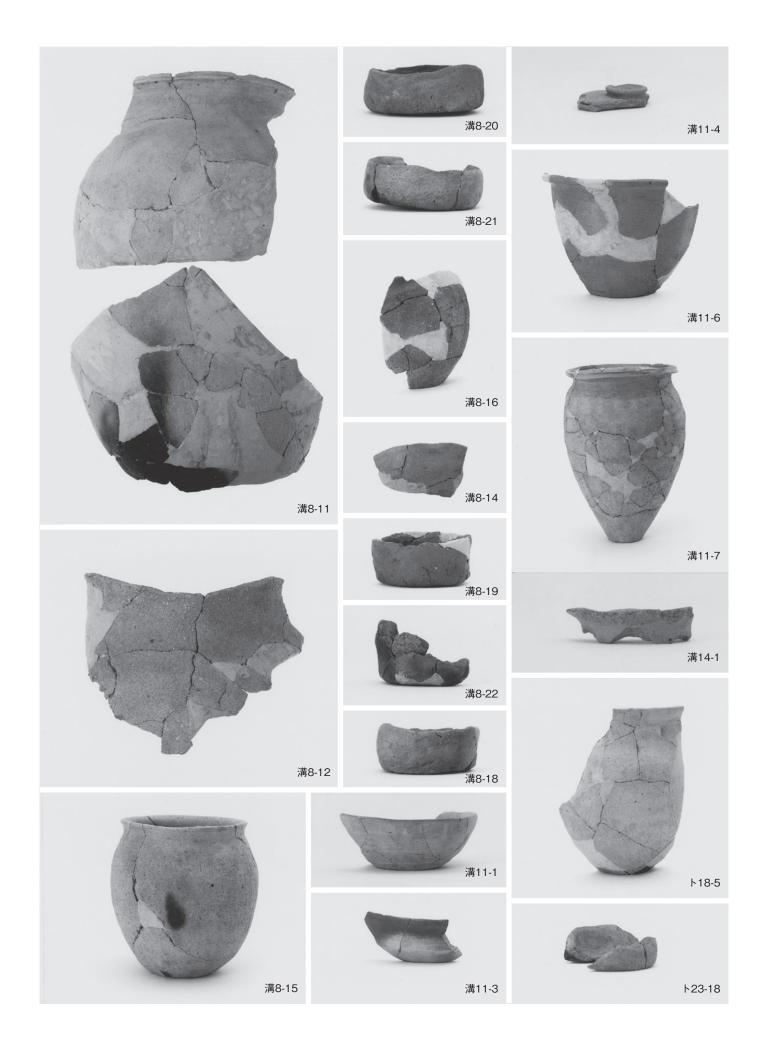


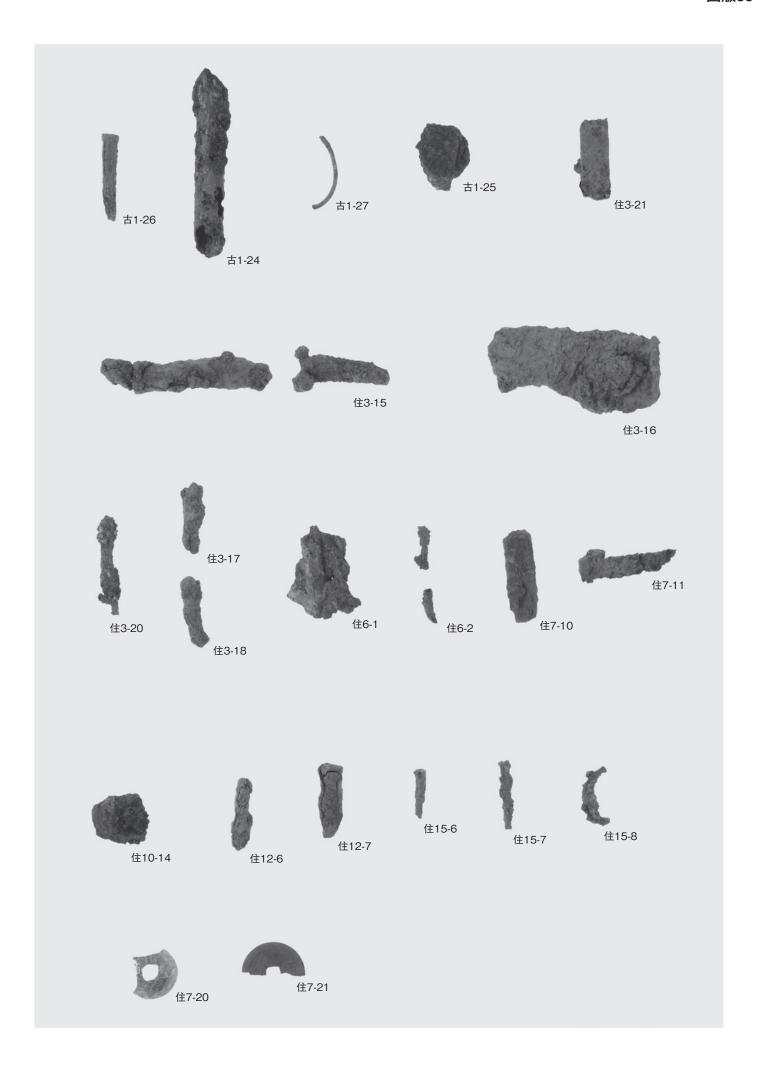


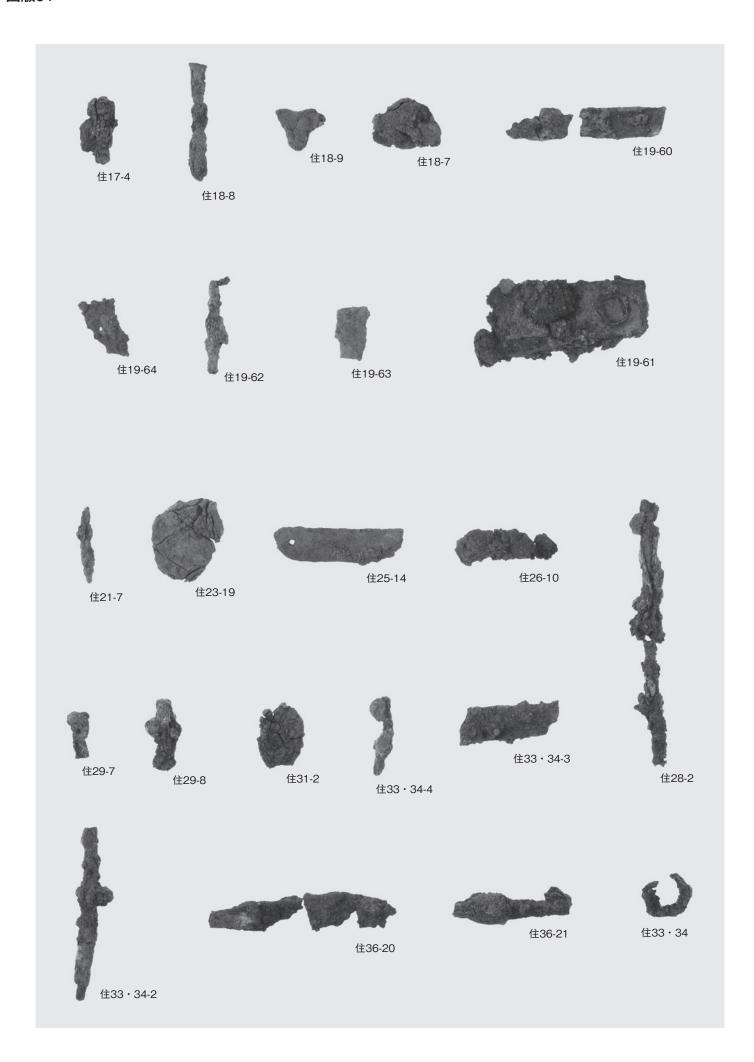


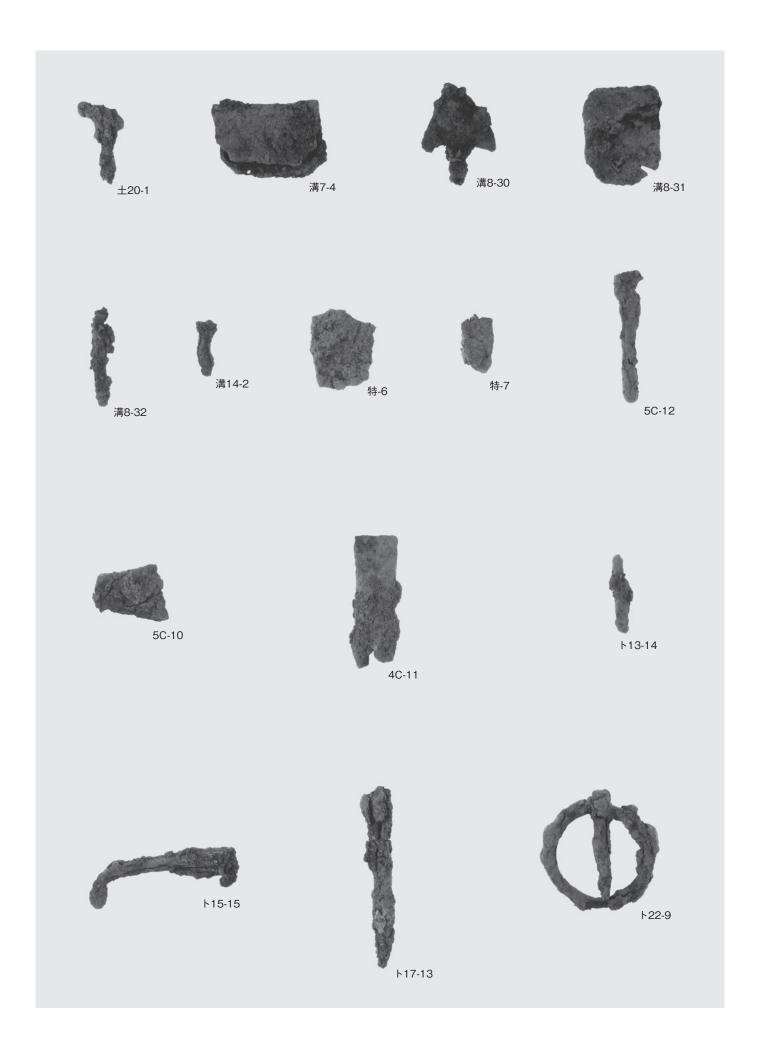


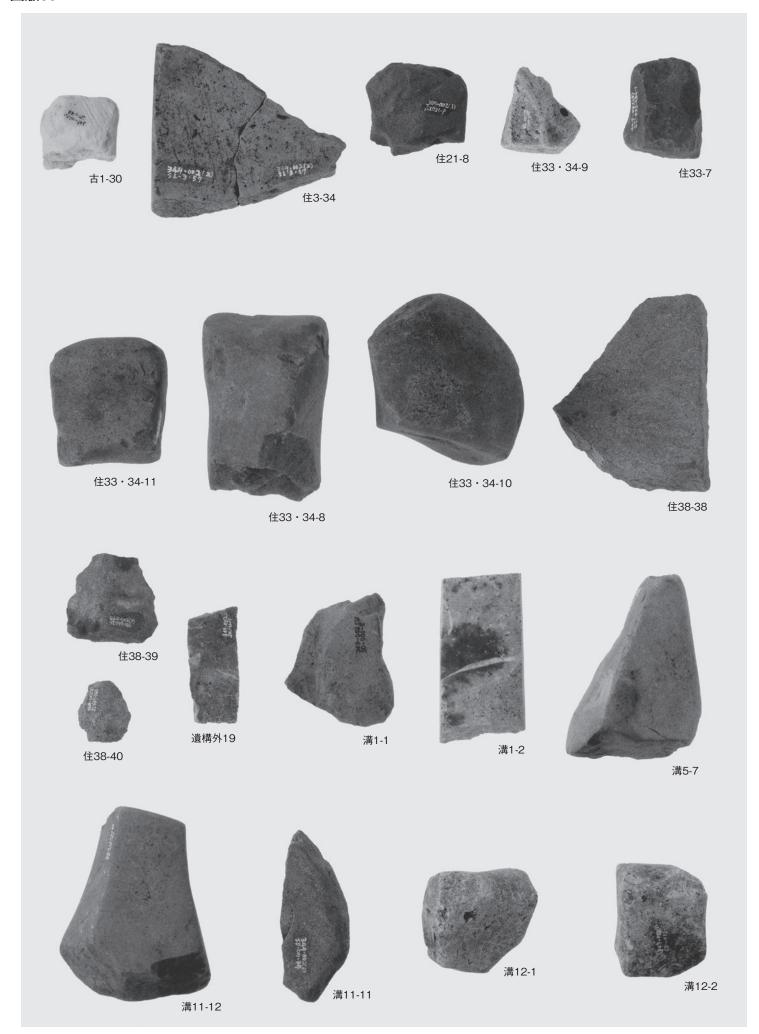


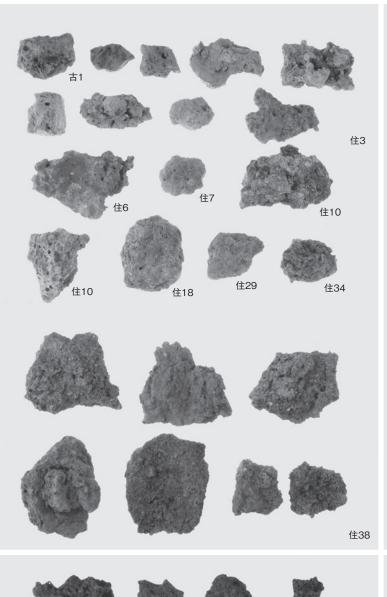




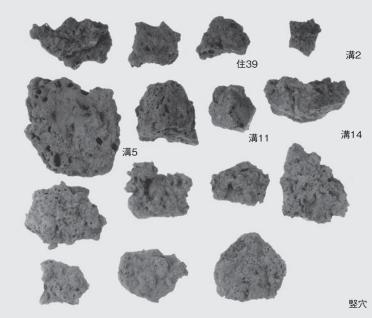


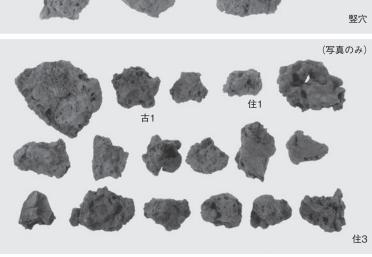


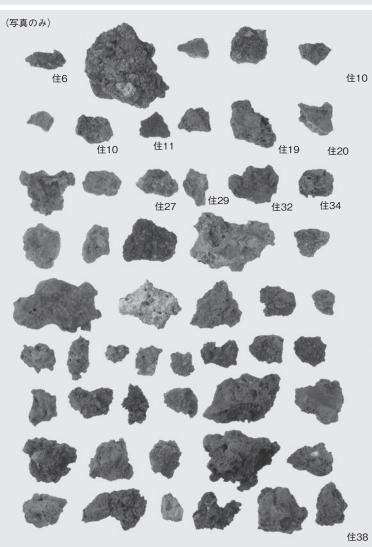


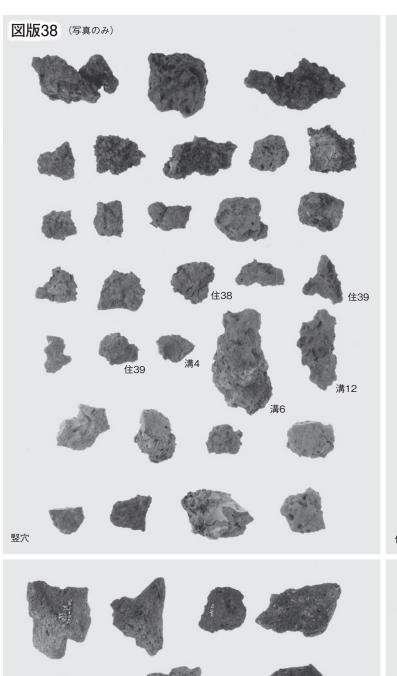


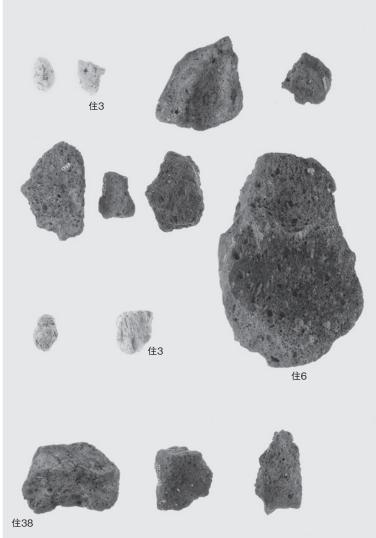




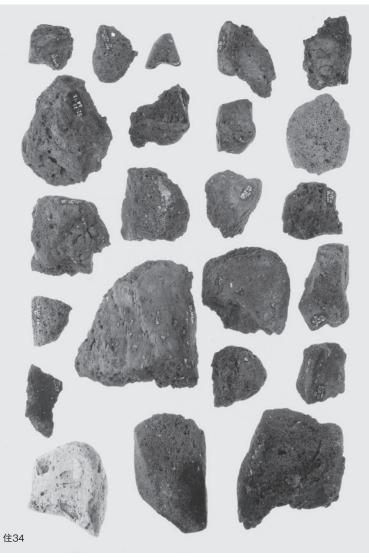


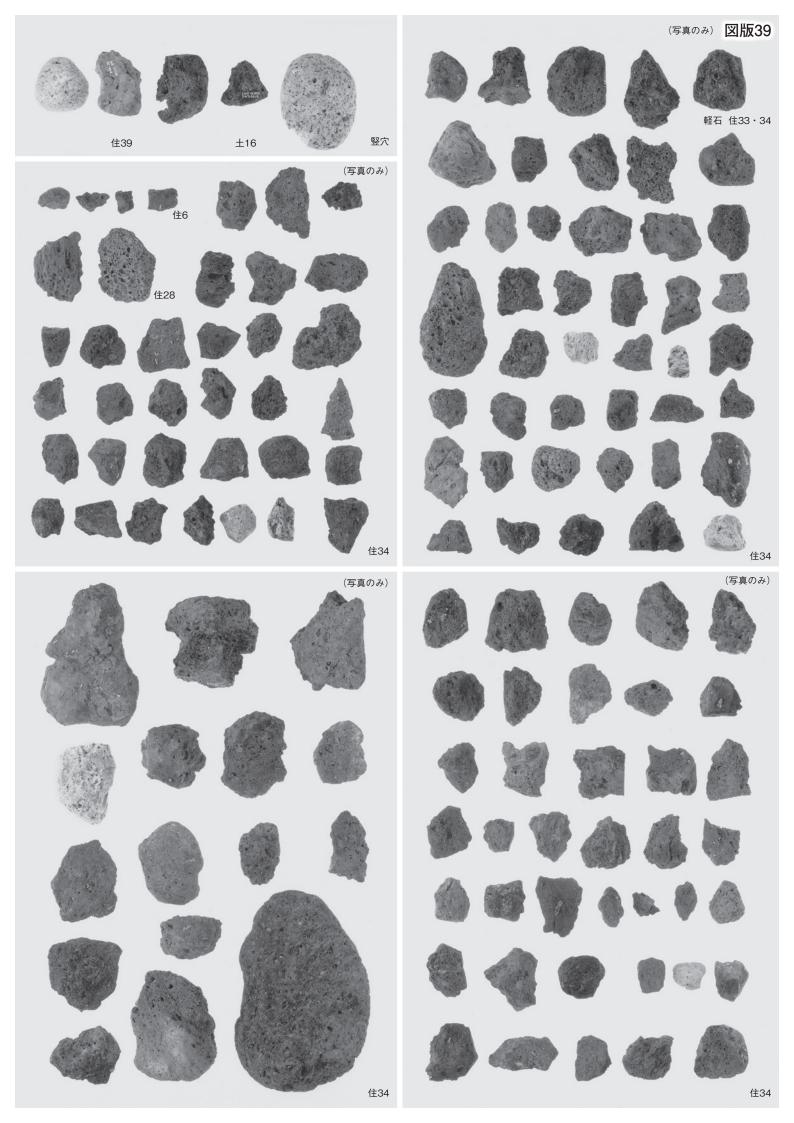


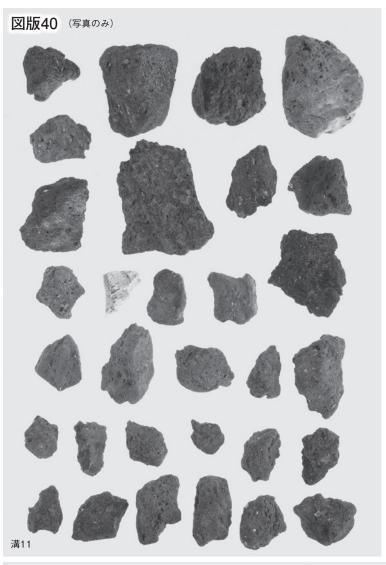


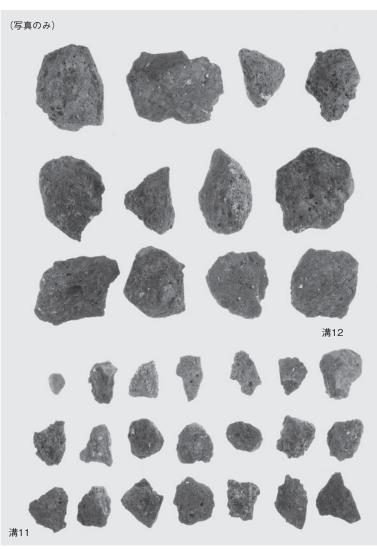


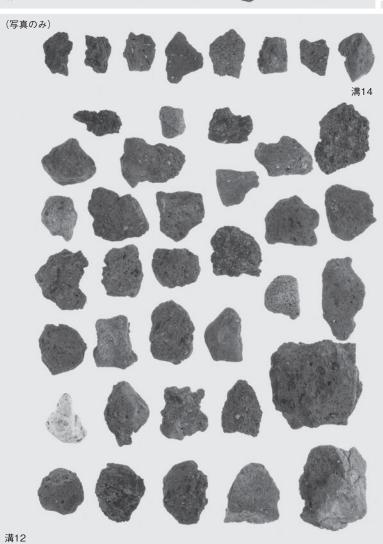














## 報告書抄録

ふりがな	ふさのく	にかんこうどう	ろいたく	まいぞう	ぶんカ	かざいちょう	さほうこくし	よ		
書 名	ふさのくに観光道路委託埋蔵文化財調査報告書									
副書名	東庄町今郡カチ内遺跡・羽計清水西遺跡・橘古墳群・松ヶ根東ノ内遺跡									
巻 次										
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告									
シリーズ番号	第700集									
編著者名	石倉亮治									
編集機関	公益財団法人千葉県教育振興財団文化財センター									
所 在 地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の 2 TEL 043 (424) 4848									
発行年月日	西暦2013	年 3 月25日								
** * * * * * * * * * * * * * * * * * *	デ 在 地 -		コード		小人	<b>声</b> 奴	調本期間	調査面	積	細木匠口
別以退跡石			市町村	遺跡番号	- 北緯	東経	調査期間	m²		調査原因
いまごおりかちうち 今郡カチ内遺跡			349	002	35度	41分	20090925~ 20091130 20101001~ 20101227	6,070	0 1	道路建設に伴う 事前調査
					495			0.00	事	
					74秒			3,260	0	
							20110210~	212	;	
							20110301			
羽計清水西遺跡	ちばけんかと 千葉県	きょうしょうまち 千葉県香取郡東庄町		006	35度	7	20120210~	50		
					49分 20秒	.	20120301			
たちばなこふんぐん 橘古墳群	ちばけんかとりぐんとうのしょうまち 千葉県香取郡東庄町		349	008	35度 48分 47秒	-	20090202~ 20090213	200	)	
<b>惱</b> 占頃群			010							
						少 22秒				
まっがねひがしのうち 松ケ根東ノ内遣	きばけんかとりぐんとうのしょうまち 千葉県香取郡東庄町		349	009	35度		20090901~	585	,	
跡					48分 58秒		20090924			
	遺跡名 種 別 主な時代		主な遺構				<u> </u>		特記事項	
今郡カチ内遺跡		古墳 奈良・平安	古墳		2基	土師器、須恵器				7,10 1/2
			竪穴住居跡 方形周溝状遺構 土坑墓 方形土坑状遺構 土坑		40軒	土師器, 須恵器 (8世紀か				
		中世			1基	ら11世紀), 鉄製品(刀子片, 釘, スラグ), 製鉄炉関連遺物, 軽石, 砥石				
					1 基 1 基			里道		
					26基					
			溝状遺	構	14条					
羽計清水西遺跡	包蔵地	古墳時代	古墳		1基	なし				
			土坑墓 溝状遺構		1基 1条					
橘古墳群	包蔵地	古墳時代	なし		1 不	 なし				
松ヶ根東ノ内遣				土師器						
跡						COP HH				
要		チ内遺跡では, 出され, 周溝が								
	数軒か	らはスラグ、軽	石状の炉	壁が多数検	食出され	1, 製鉄に関	目わる工房の存	在が確認	忍された	<del>ک</del> و

## 千葉県教育振興財団調査報告第700集

## ふさのくに観光道路委託埋蔵文化財調査報告書

東庄町今郡カチ内遺跡・羽計清水西遺跡 橘古墳群・松ヶ根東ノ内遺跡

平成25年3月25日発行

編 集 公益財団法人 千葉県教育振興財団 文 化 財 センター

> 公益財団法人 千葉県教育振興財団 四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 株式会社 弘 文 社 市川市市川南2-7-2